

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第15集

浦尻貝塚 4

2010年3月

福島県南相馬市教育委員会

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第15集

浦尻貝塚 4

序 文

文化財は、我国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の財産であり、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上・発展の基礎をなすものであります。とりわけ、地中に埋もれている埋蔵文化財は、文字資料だけでは知ることができなかった先人の生活の様子や文字がまだなかった時代の人々の生活や文化について、私たちに多くの情報を与えてくれます。

浦尻貝塚は、平成12年に旧小高町の町道工事計画に伴い試掘調査を行ったところ、良好な貝塚を確認し、遺跡としての重要性が裏付けられ、遺跡の将来にわたる保存を図る必要があることから、文化庁・福島県の協力を得て、浦尻貝塚調査指導委員会を設置し、平成13年度から平成16年度まで国指定史跡指定にむけての範囲内容確認調査を開始したものであります。

この調査成果により、浦尻貝塚は福島県を代表する縄文時代の大規模貝塚であることが明らかとなり、全国的に見ても大変重要な遺跡であると評価されたことから、平成18年1月26日、国指定史跡に指定されたところであります。

南相馬市では、この貴重な史跡を適切に保存し、広く活用を図るため、平成18年度から指定地内の全民有地の公有化をすすめ、平成19年度に完了したところであります。

平成20年度からは、文化庁・福島県の協力を得て、浦尻貝塚整備検討委員会を設置し、「浦尻貝塚史跡公園整備基本構想」・「浦尻貝塚史跡公園整備基本計画」を策定したところであります。

本書は、この国指定史跡に向けた範囲内容確認調査の成果の一部を報告するものであります。本書に掲げた調査成果が、地域における歴史の解明と地域文化の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の作成にあたり、多大なるご指導、ご協力をいただきました浦尻貝塚調査指導委員会ならびに浦尻貝塚整備検討委員会の先生方、文化庁記念物課、福島県教育庁文化財課等の関係機関の皆様、さらには調査にあたりご理解、ご協力をいただきました浦尻貝塚地権者会ならびに浦尻行政区の皆様には厚く御礼を申し上げます。

平成21年3月

南相馬市教育委員会

教育長 青木紀男

例 言

1. 本書は福島県南相馬市小高区大字浦尻字南台他に所在する浦尻貝塚の発掘調査報告書である。
2. 報告する調査は、平成12年度の旧小高町町道建設計画に伴う試掘調査及び平成13～16年度にかけて実施した保存目的範囲内容確認調査である。いずれの調査も国庫補助対象事業として旧小高町教育委員会が主体となって実施した。
3. 上記の調査のうち、これまでに調査内容の一部を掲載した調査報告書を刊行している。刊行した調査報告書は次のとおりである。

小高町文化財調査報告第2集「小高町内埋蔵文化財調査報告Ⅰ」2001 小高町教育委員会

小高町文化財調査報告第6集「浦尻貝塚1」2005 小高町教育委員会

南相馬市文化財調査報告書第1集「浦尻貝塚2」2006 南相馬市教育委員会

南相馬市文化財調査報告書第11集「浦尻貝塚3」2008 南相馬市教育委員会

本書は上記の調査のうち、南台台地南部ならびに小迫北・南地区の出土遺物（骨角製品を除く）について掲載したものである。

弥生時代以降の遺構・出土遺物、骨角製品については、今後整理調査を実施し、報告する予定である。なお、本報告に係る調査のうち遺構等の調査状況については、「浦尻貝塚1」に掲載している。

4. 整理調査は、浦尻貝塚調査指導委員会（平成13～19年度）、浦尻貝塚整備検討委員会（平成20年度～）、文化庁ならびに福島県教育庁文化財課の指導のもと、発掘調査時から平成21年度まで継続的に南相馬市教育委員会（旧小高町教育委員会）が実施している。平成21年度の調査体制は次のとおりである。

調査主体 南相馬市教育委員会

事務局 南相馬市教育委員会文化財課

教 育 長 青 木 紀 男

事 務 局 長 大 谷 和 夫

事 務 局 次 長 門 馬 清 一

文 化 財 課 長 烏 中 清

課 長 補 佐 堀 耕 平

主 査 二本松 文 雄

主任文化財主事 川 田 強

主任文化財主事 荒 淑 人

文 化 財 主 事 藤 木 海

文 化 財 主 事 佐 川 久

事 務 補 助 佐 藤 夏 姫

調 査 補 助 員 狭 川 麻 子

整 理 補 助 員 牛 渡 由 紀 子

松 本 経 子

渡 部 定 子

5. 遺物の実測、図面作成は各調査参加者が行った。
6. 出土遺物のうち剥片石器について、株式会社ラングに実測、トレース、石材同定を委託し、実施した。磨石・敲石等その他の石器の石材については、高木和夫氏に指導をいただいた。また、出土遺物の写真撮影は株式会社まっざき印刷に委託し、実施した。

7. 附編として掲載した自然科学分析（ポーリング調査・年代測定・テフラ分析・珪藻分析）については、株式会社パレオ・ラボに委託し、実施した。
8. 本書の編集は佐川久が行った。執筆は、第4章を高橋満（福島県教育庁文化財課）、それ以外を佐川久が担当した。
9. 平成13年度からの保存目的範囲内容確認調査を実施するにあたり、学識経験者からなる浦尻貝塚調査指導委員会（平成13～19年度）・浦尻貝塚整備検討委員会（平成20年度～）を組織し、指導をお願いした。両委員会には下記の方々に引き受けていただき、ご尽力を賜った。（敬称略）

【浦尻貝塚調査指導委員会】

（平成13～19年度）

藤沼邦彦（前弘前大学教授）
 玉川一郎（前福島県教育庁文化財課長）
 山田昌久（首都大学東京）
 樋泉岳二（早稲田大学）

【浦尻貝塚整備検討委員会】（平成20年度～）

田中哲雄（前東北芸術工科大学）
 岡村道雄（奈良文化財研究所名誉研究員）
 小林敬一（東北芸術工科大学）
 澤田正昭（国士舘大学）
 山田昌久（首都大学東京）

【指導機関】

文化庁記念物課・福島県教育庁文化財課

10. 報告書作成にあたり、下記の方々から多大なご協力をいただいた。記して感謝の意を示したい。（敬称略、五十音順）
 青山博樹、阿部健太郎、新井達哉、荒木隆、植月学、宇佐美雅夫、江川逸夫、大平好一、大平理恵、岡田康博、小川長導、大塚初重、奥山誠義、梶原圭介、梶原文子、木幡成雄、小林謙一、小林雄一、佐藤耕三、坂井秀弥、三瓶秀文、嶋村一志、宍戸広治、末永成清、菅原弘樹、鈴鹿良一、田中敏、長島雄一、中村真由美、禰宜田佳男、長谷川真、藤原姫敏、堀江格、本間宏、松本茂、村田六郎太、村本周三、森幸彦、山内幹夫、山崎京美、山崎充浩、吉田陽一
11. 報告書作成にあたり、次の方々から指導・助言を得た。記して感謝申し上げる。
 福島県立博物館・財団法人福島県文化振興事業団・福島県文化財センター白河館・財団法人いわき市教育文化振興事業団、南相馬市立博物館、南相馬市文化財保護審議会、浦尻行政区、浦尻貝塚地権者会
12. 調査で得られた資料は、南相馬市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 掲載した出土遺物の縮尺は各挿図に記している。規準は下記のとおりである。
 出土土器 復元実測 1/4 断面図 1/3 製塩土器 1/3
 その他の遺物 剥片石器 2/3 磨石等 1/4 石棒等 1/2 土製品等 1/2
2. 遺物実測図の表現は次のとおりである。
 繊維土器：断面内▲
3. 遺物写真の縮尺は不同である。
4. 各写真図版の写真番号は掲載した挿図番号に対応している。

目 次

序 文	i
例 言	iii
凡 例	iv
目 次	v
挿 図 目 次	vi
表 目 次	vi
図 版 目 次	vi
第 1 章 土器分類ならびに遺構種別、出土層位	
第 1 節 土器分類	1
第 2 節 遺構種別・出土層位	1
第 2 章 出土土器	
第 1 節 小迫地区遺構出土土器	3
第 2 節 小迫地区台地貝層・遺物包含層出土土器	19
第 3 節 小迫地区南谷・斜面部・低地部出土土器	75
第 3 章 石器・土製品	
第 1 節 石 器	83
第 2 節 土製品	84
第 4 章 製塩土器類	
第 1 節 はじめに	93
第 2 節 製塩土器類の観察と分類	93
第 3 節 製塩土器類の様相	94
第 4 節 まとめ	100
引用・参考文献	102
遺物観察表	103
写真図版	139
附 編	197

1 ~ 4 章插图目次

图 1	竖穴住居出土土器	4
图 2	掘立柱建物出土土器①	6
图 3	掘立柱建物出土土器②	7
图 4	土坑 I 類出土土器①	10
图 5	土坑 I 類出土土器②	12
图 6	土坑 I 類出土土器③	13
图 7	土坑 II 類出土土器	15
图 8	埋設土器	16
图 9	土坑 IV 類出土土器	18
图 10	IV 区出土土器①	20
图 11	IV 区出土土器②	22
图 12	IV 区出土土器③	23
图 13	IV 区出土土器④	24
图 14	IV 区出土土器⑤	26
图 15	IV 区出土土器⑥	27
图 16	IV 区出土土器⑦	28
图 17	IV 区出土土器⑧	30
图 18	IV 区出土土器⑨	31
图 19	IV 区出土土器⑩	32
图 20	IV 区出土土器⑪	33
图 21	IV 区出土土器⑫	34
图 22	IV 区出土土器⑬	36
图 23	IV 区出土土器⑭	38
图 24	IV 区出土土器⑮	40
图 25	IV 区出土土器⑯	41
图 26	IV 区出土土器⑰	42
图 27	IV 区出土土器⑱	43
图 28	IV 区出土土器⑲	45
图 29	IV 区出土土器⑳	46
图 30	IV 区出土土器㉑	47
图 31	IV 区出土土器㉒	48
图 32	IV 区出土土器㉓	49
图 33	IV 区出土土器㉔	50
图 34	IV 区出土土器㉕	51
图 35	IV 区出土土器㉖	52
图 36	IV 区出土土器㉗	53
图 37	72 T 出土土器①	55
图 38	72 T 出土土器②	57
图 39	72 T 出土土器③	58
图 40	72 T 出土土器④	59
图 41	72 T 出土土器⑤	60
图 42	72 T 出土土器⑥	61
图 43	1 G 出土土器①	63
图 44	1 G 出土土器②	64
图 45	3 G 出土土器	65
图 46	4 G 出土土器①	67
图 47	4 G 出土土器②	68
图 48	5 G 出土土器	69
图 49	6 G 出土土器	70
图 50	76 T 出土土器①	71
图 51	76 T 出土土器②	72
图 52	76 T 出土土器③	73
图 53	78 T 出土土器	76
图 54	81 T 出土土器①	77
图 55	81 T 出土土器②	78

图 56	81 T 出土土器③	79
图 57	73 T 出土土器①	80
图 58	73 T 出土土器②	81
图 59	石器①	84
图 60	石器②	85
图 61	石器③	86
图 62	石器④	87
图 63	石器⑤	88
图 64	石器⑥	89
图 65	土製品①	90
图 66	土製品②	91
图 67	製塩土器類①	96
图 68	製塩土器類②	97
图 69	製塩土器類③	98
图 70	製塩土器類④	99
图 71	製塩土器類⑤	101

1 ~ 4 章表目次

表 1	土器觀察表	105
表 2	石器觀察表	130
表 3	土製品觀察表	131
表 4	製塩土器類口縁部觀察表	132
表 5	製塩土器類底部觀察表	138

1 ~ 4 章写真图版目次

写真图版 1	竖穴住居出土土器・ 掘立柱建物出土土器①	141
写真图版 2	掘立柱建物出土土器②・ 土坑 I 類出土土器①	142
写真图版 3	土坑 I 類出土土器②	143
写真图版 4	土坑 I 類出土土器③・ 土坑 II 類出土土器・埋設土器	144
写真图版 5	土坑 IV 類出土土器・ IV 区出土土器①	145
写真图版 6	IV 区出土土器②	146
写真图版 7	IV 区出土土器③	147
写真图版 8	IV 区出土土器④	148
写真图版 9	IV 区出土土器⑤	149
写真图版 10	IV 区出土土器⑥	150
写真图版 11	IV 区出土土器⑦	151
写真图版 12	IV 区出土土器⑧	152
写真图版 13	IV 区出土土器⑨	153
写真图版 14	IV 区出土土器⑩	154
写真图版 15	IV 区出土土器⑪	155
写真图版 16	IV 区出土土器⑫	156
写真图版 17	IV 区出土土器⑬	157
写真图版 18	IV 区出土土器⑭	158
写真图版 19	IV 区出土土器⑮	159
写真图版 20	IV 区出土土器⑯	160
写真图版 21	IV 区出土土器⑰	161
写真图版 22	IV 区出土土器⑱	162

写真図版23	IV区出土土器⑱	163
写真図版24	IV区出土土器⑳	164
写真図版25	IV区出土土器㉑	165
写真図版26	IV区出土土器㉒	166
写真図版27	IV区出土土器㉓	167
写真図版28	IV区出土土器㉔	168
写真図版29	IV区出土土器㉕	169
写真図版30	72T出土土器①	170
写真図版31	72T出土土器②	171
写真図版32	72T出土土器③	172
写真図版33	72T出土土器④	173
写真図版34	72T出土土器⑤	174
写真図版35	72T出土土器⑥・1G出土土器①	175
写真図版36	1G出土土器②	176
写真図版37	1G出土土器③・3G出土土器	177
写真図版38	4G出土土器①	178
写真図版39	4G出土土器②・5G出土土器	179
写真図版40	6G出土土器・76T出土土器①	180
写真図版41	76T出土土器②	181
写真図版42	76T出土土器③・78T出土土器①	182
写真図版43	78T出土土器②・81T出土土器①	183
写真図版44	81T出土土器②	184
写真図版45	73T出土土器	185
写真図版46	石器①	186
写真図版47	石器②	187
写真図版48	石器③	188
写真図版49	土製品①	189
写真図版50	土製品②	190
写真図版51	製塩土器類①	191
写真図版52	製塩土器類②	192
写真図版53	製塩土器類③	193
写真図版54	製塩土器類④	194
写真図版55	製塩土器類⑤	195

附編 1 挿図目次

図 1	ボーリング調査を実施した地点	200
図 2	ボーリング資料の総合柱状図	202

附編 1 表目次

表 1	ボーリング調査の目的と詳細	199
-----	---------------	-----

附編 2 挿図目次

図 1	ボーリング柱状図と分析位置	204
図 2	暦年較正の結果	205

附編 2 表目次

表 1	測定資料及び処理	203
表 2	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	205

附編 3 挿図目次

図 1	火山ガラスの屈折率測定結果	207
-----	---------------	-----

附編 3 表目次

表 1	No.10ボーリング試料中の 火山ガラスの形態分類	207
-----	------------------------------	-----

附編 4 挿図目次

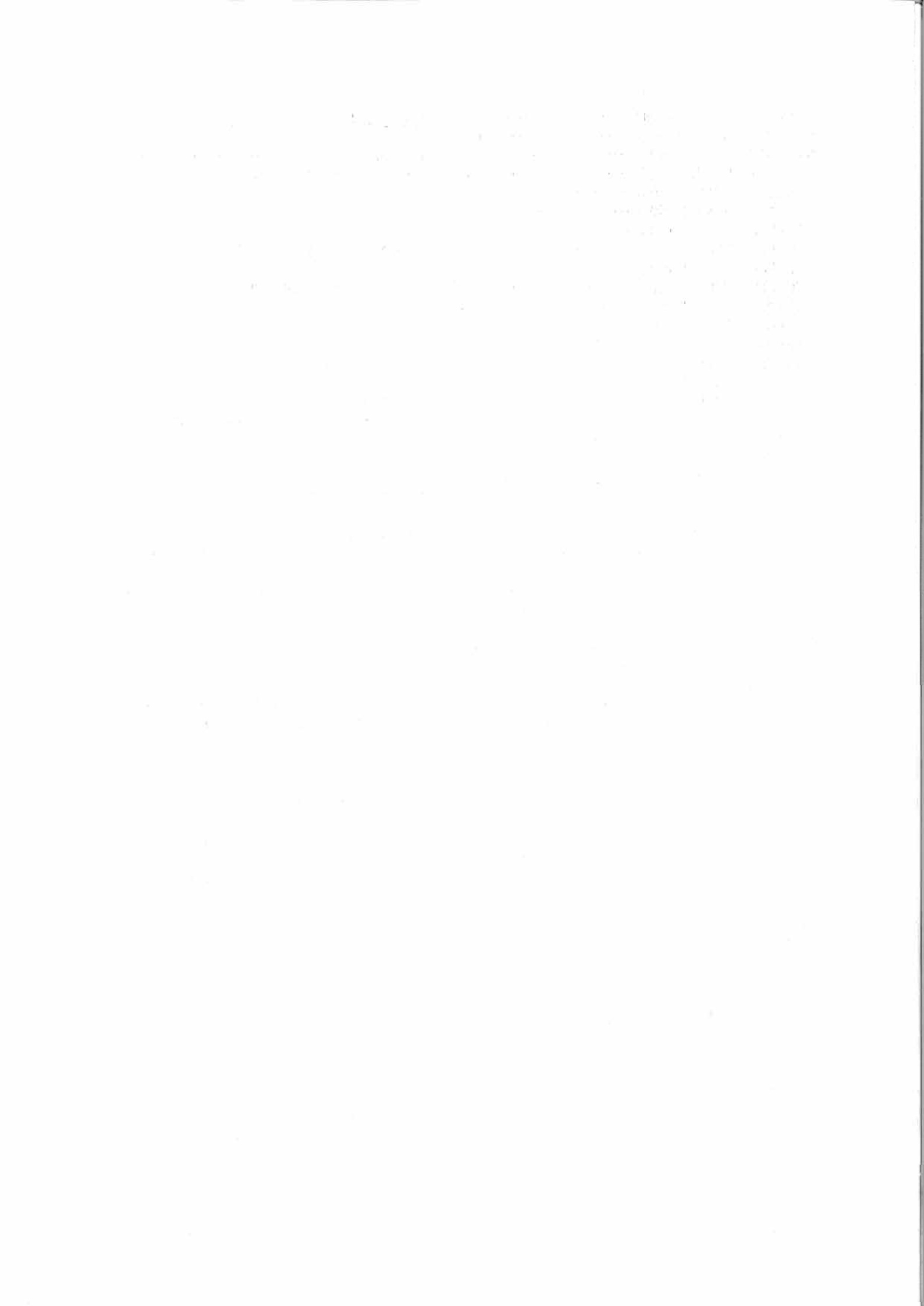
図 1	No.10地点ボーリング堆積物中の 珪藻化石分布図	212
図 2	No.14地点ボーリング堆積物中の 珪藻化石分布図	212

附編 4 表目次

表 1	堆積物中の珪藻化石産出表その 1	213
表 2	堆積物中の珪藻化石産出表その 2	214

附編写真図版目次

写真図版 1	No.10地点ボーリング試料中の ガラス質テフラ	216
写真図版 2	ボーリング試料中の珪藻化石	217



第1章 土器分類ならびに遺構種別、出土層位

第1節 土器分類

本報告に掲載する縄文土器については、下記のように分類した。一部並行すると考えられる土器群も含めている。

I 群土器 縄文時代前期の土器

I-1類 前期初頭～中葉の土器群

I-2類 大木6式

II 群土器 縄文時代中期の土器群

II-1類 大木7a・7b式

II-2類 大木9式

II-3類 大木10式

III 群土器 縄文時代後期の土器

III-1類 網取I式

III-2類 網取II式

III-3類 加曾利B式

III-4類 新地式

IV 群土器 縄文時代晩期の土器群

IV-1類 大洞B式

IV-2類 大洞BC式ならびに結節縄文が施されるもの。

結節縄文が施されるものについては、東北南部において本時期に特徴的なものであるため本群に含めたが、他のIV群土器に伴う可能性もある。

IV-3類 大洞C1式

IV-4類 大洞C2式

IV-5類 大洞A式

IV-6類 大洞C1・C2式に伴う半精製土器

V 群土器 縄文時代の粗製土器群

V-1類 櫛描文が施されるもの。

V-2類 撚糸文が施されるもの。

V-3類 縄文が施されるもの。

V-4類 無文のもの。

第2節 遺構種別・出土層位

本報告では、出土土器を原則、遺構種別、各遺物包含層別に掲載している。遺構種別、出土層位については、「浦尻貝塚1」で報告した分類基準を用いている。基準は以下のとおりである。

1. 遺構種別

竪穴住居（遺構略称SI）

掘り込みがあり、床面、壁周溝、炉の構築が構築されているもの。平面プランの観察から推定して

いるものが一部ある。

掘立柱建物（遺構略称SB）

大型の柱穴を中心に、柱穴の掘り方、柱痕跡の径、柱配列、柱間距離（柱痕跡の中心間の距離）を基に復元したもの。

土坑Ⅰ類（遺構略称SK、P）

柱痕跡が確認できる土坑で、「柱穴」と推定されるもの。概ね径が約50cm以上のものを「SK」、約50cm以下のものを「P」と略称している。

土坑Ⅱ類（遺構略称SK）

平面プラン、直径、断面形、堆積土の観察から、いわゆる「貯蔵穴」と判断されるもの。

土坑Ⅳ類（遺構略称SK）

その他の土坑で、概ね径が約50cm以上あるもの。

小土坑（遺構略称P）

概ね径が約50cm以下のもの。本報告では、一部の出土土器のみ掲載している。

埋設土器（遺構略称SK）

土坑中にいわゆる埋設土器を伴うもの。

2. 出土層位

本報告では、縄文時代の堆積層から出土した遺物を掲載している。縄文時代の堆積層をⅢ層として、小迫地区ではこれを以下のように分類した。

Ⅲ－1層 黒褐色・暗褐色を呈する混貝土層で、小迫地区の東の谷に堆積する。

Ⅲ－2層 小迫地区の西の谷に堆積する焼獣魚骨を含む包含層。堆積土の観察から以下のように大別している。

Ⅲ－2 a層 黒褐色を呈するもの。

Ⅲ－2 b層 暗褐色を呈するもの。

Ⅲ－3層 小迫地区の東の谷に堆積する包含層。堆積土の観察から以下のように大別している。

Ⅲ－3 a層 暗褐色・黒褐色を呈し、焼獣魚骨を含むもの。

Ⅲ－3 b層 暗褐色・黒褐色を呈し、焼獣魚骨を含まないもの。

Ⅲ－4層 Ⅲ－1～3層下に堆積する縄文時代の遺物をほとんど含まないもの。

Ⅲ－5層 Ⅲ－1～4層以外の堆積層で、縄文時代の遺物を一定量含んでいるもの。小迫地区の南谷、斜面部、低地部に堆積している。

第2章 出土土器

第1節 小迫地区遺構出土土器

1. 竪穴住居（遺構略称SI）

SI01（図1-1～5）

76Tの南側で検出された竪穴住居である。遺構上部は削平されていたが、硬化したブロック状の埋土が確認できることから、住居構築時の粗掘りと推定したものである。

1～5は遺構確認時に出土したものである。1は隆帯で口縁部無文帯を区画しているⅢ-1類、2はX字状の隆帯が貼付されているⅢ-4類に相当する。3は結節縄文が施されるⅣ-2類である。4は横位に沈線が走り、5は斜縄文が施される。これらはⅤ-3群に分類される。

SI03（図1-6・7）

84Tで検出された複式炉を持つ竪穴住居である。遺構上面は削平されているが、遺構の南半分では浅い掘り込みが確認され、北半分では周溝の一部が残存しており、平面プランは楕円形と推定される。6・7は床面直上からの出土遺物である。6は口縁が外反する器形で、断面三角形の隆線区画の無文部により文様を表現している。7は沈線区画の無文部が認められる。これらはⅡ-3類に相当する。

SK134（図1-8）

覆土の観察からSI03に伴うと判断した土坑である。8は覆土からの出土遺物で、横走する沈線が施されている。Ⅱ群と考えられる。

P389（図1-9）

覆土の観察からSI03に伴うと判断した小土坑である。9は覆土からの出土遺物で、横位の沈線で口縁部無文帯を区画しているⅡ-3類である。

P395（図1-10・11）

SI03と重複しており、SI03を切っている。10・11は覆土からの出土遺物である。10は隆帯で口縁部無文帯を区画しているⅢ-1類で、11は縄文が施されており、Ⅴ-3類に分類される。

2. 掘立柱建物（遺構略称SB）

76Tで検出された大型の柱穴を中心に、柱穴の掘り方、柱痕跡の径、柱配列、柱間距離（柱痕跡の中心間の距離）を基に、4棟の掘立柱建物を復元した。

SB01

4本主柱（SK53・62・66・83）で、2本の棟持柱（SK52・85）を持つ建物で、平面プランは六角形を呈する。主軸方向は北東-南西であり、平面プランのうえでSB03・04と重複している。

SK52（図2-1～3）

1～3は覆土からの出土遺物である。1は磨消縄文が施された口縁部で、口唇部に沈線が巡り、Ⅳ-4類に相当する。2は羽状縄文が施されているⅤ-3類、3は網目状撚糸文が施されているⅤ-2類である。

SK53（図2-4～6）

4～6は覆土からの出土遺物である。4は口縁部にB突起が付され、口唇に沈線が巡る。5は口縁

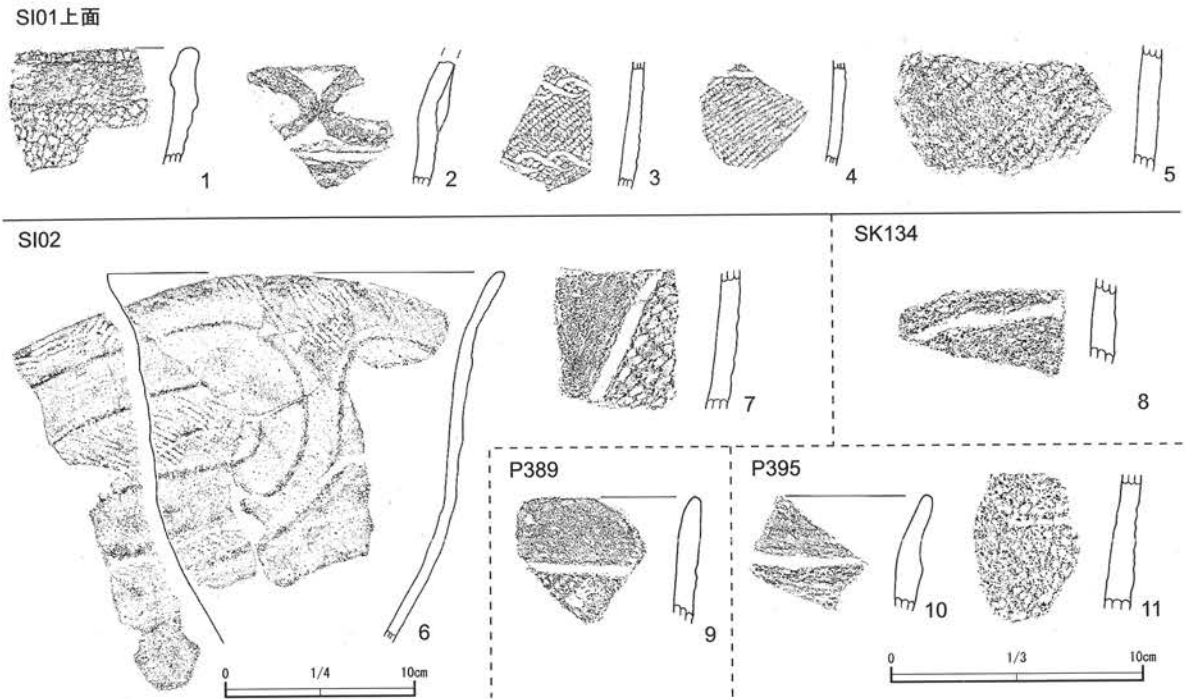


図1 竪穴住居出土土器

に刻みが施され、口唇部に沈線が巡る。これらはIV-6類に分類される。6は胴部には網目状撚糸が施文され、底部は円形状のケズリが施されて上底になっているV-2類である。

SK62 (図2-7~14)

7~14は覆土からの出土遺物である。7は2条の沈線で文様帯を区画し、区画内に弧状の沈線を配しており、IV-4類と考えられる。8は縦位に櫛描文が施文されるV-1類である。9~11は網目状撚糸文が加えられているが、9・10は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文を施している。これらはV-2類である。12・14は斜縄文が施文されるV-3類、13は無文でV-4類に分類される。

SK66 (図2-15~22)

15~22は覆土からの出土遺物である。15は肥厚した口縁部に刻みが施されているIII-3類である。16・17は沈線区画内に刻目、18は縄文が充填されている。16は突起貼付され、18は突起が剥落している。これらはIII-4類に相当する。19は結節縄文が施されているIV-2類、20は底部資料で、横位に2条の沈線が巡るIV群に分類される。21は網目状撚糸文が施文されているV-2類、22は2条の沈線が巡るV-3類である。

SK83 (図2-23)

23は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が施文されているV-2類である。

SB02

4本支柱(SK68・82・86・88)の建物で、平面プランは長方形を呈する。主軸方向北西-南東で、SK86がSB01のSK85に切られている。

SK68 (図2-24・25)

24・25は覆土からの出土遺物で、蛇行櫛描文が施されており、V-1類に分類される。

SK82 (図2-26・27)

26・27は覆土からの出土遺物である。26は沈線区画内に縄文を充填しており、Ⅲ-4類に相当する。27は蛇行櫛描文が施文されているV-1類である。

SK88 (図2-28~33)

28~33は覆土からの出土遺物である。28は胎土に繊維を含み、羽状縄文が施されているI-1類である。29~32は平行沈線・弧状沈線区画内に縄文を充填している。29には横位に刻みが入った縦長突起が貼付され、30には三叉状の沈線が認められる。29~32は同一個体で、Ⅲ-4類に相当する。33は無文でV-4類である。

SB03

4本主柱(SK69・72・81・84)で、2本の棟持柱(SK64・P215)を持つ建物で、平面プランは六角形を呈する。主軸方向は北西-南東で、平面プランのうえでSB01・04と重複する。

SK64 (図3-1・2)

1・2は覆土からの出土遺物である。1は雲形文が施されているIV-4類で、2は網目状撚糸文が施文されており、V-2類に分類される。

SK72 (図3-3)

3は覆土からの出土遺物で、横位沈線の下位に縦位撚糸文が加えられているV-2類である。

SK81 (図3-4・5)

4は覆土からの出土遺物で、5は遺構確認時の出土遺物である。4は弧状沈線区画内に縄文を充填し、突起を貼付しており、Ⅲ-4類に相当する。5はメガネ状付帯文状の隆帯が施され、口縁内側には沈線が巡り、IV-5類に分類される。

SK84 (図3-6)

6は覆土からの出土遺物で、口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施されるV-2類である。

SB04

4本主柱(SK90・91・98・101)の建物で、平面プランは方形を呈する。平面プランのうえでSB01・03と重複している。

SK90 (図3-7~9)

7~9は覆土からの出土遺物である。7は横位櫛描文の施文後に刺突が施され、Ⅲ-3類と考えられる。8は蛇行櫛描文が認められ、V-1類に分類される。9は網目状撚糸文が加えられているV-2類である。

SK91 (図3-14~19)

14~19は覆土からの出土遺物である。14は沈線区画により無文帯を描出しており、Ⅱ-2~3類と考えられる。15は結節縄文が施され、IV-2類に相当する。16は縦位櫛描文が施されるV-1類で、17・18は網目状撚糸文が施されるV-2類である。19は胎土に繊維を含み、I-1類に分類される。

SK98 (図3-10~13)

10~13は覆土からの出土遺物である。10は口縁に刻みを施し、平行沈線区画内に縄文を充填させており、Ⅲ-3類に相当する。11~13は斜縄文が施されるV-3類で、11・13は横位沈線が走っている。

SK101 (図3-20~35)

20~35は覆土からの出土遺物である。20は波状口縁でRL縄文が施文されている。21は沈線区画内に縄文を充填している。23は刻み入りの隆帯が巡り、その下位には斜縄文が加えられている。20・21・

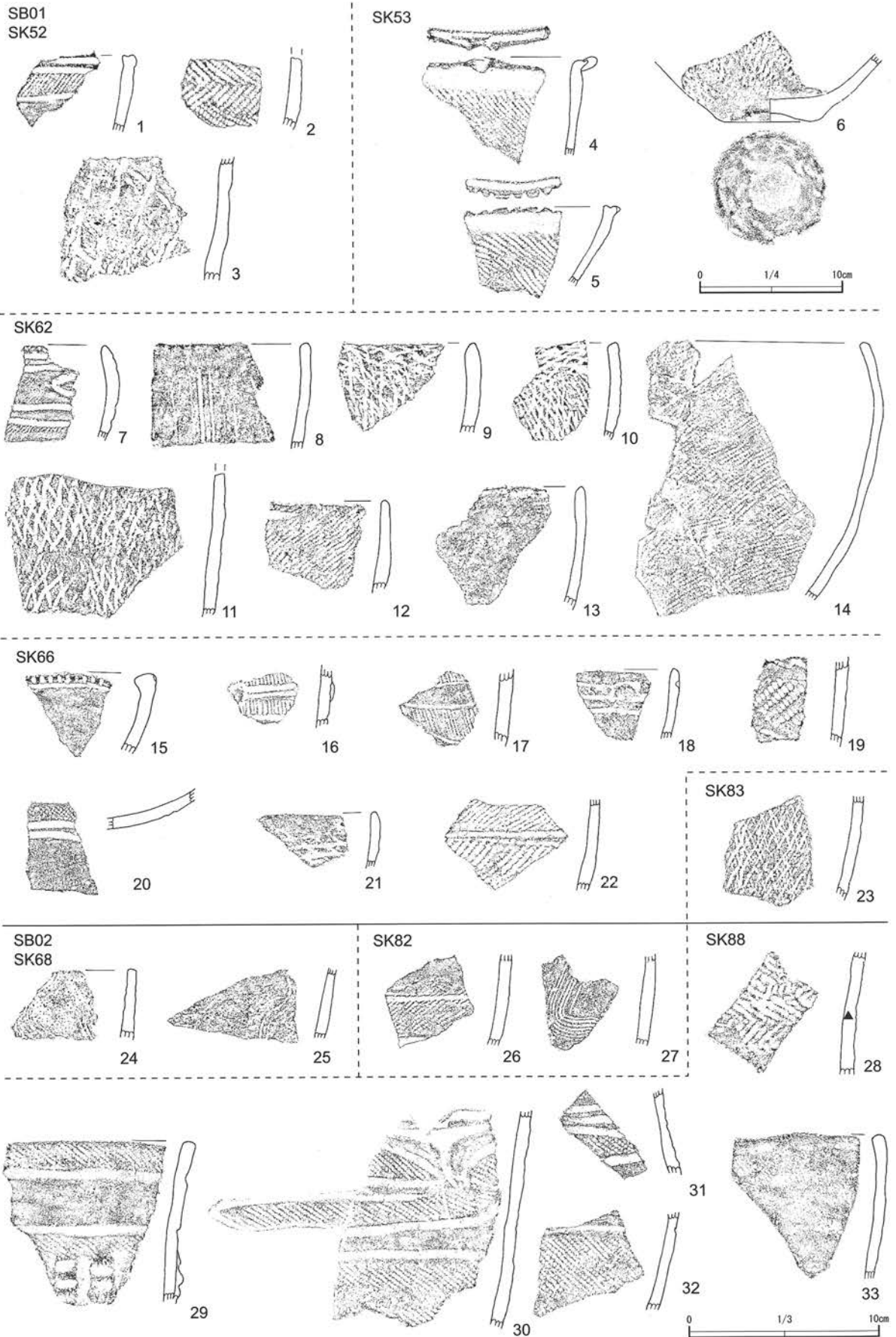


図2 掘立柱建物出土土器①

23はⅢ-3類に分類される。24は沈線区画内に刻みを施している。22は弧状沈線区画内に、25は平行沈線区画内に縄文を充填し、突起を付している。26は弧状の平行沈線が施文されている。22・24~26はⅢ-4類と考えられる。27は羊歯状文が施されており、Ⅳ-2類に相当する。28は連結したC字状沈線で区画され、縄文部が磨り消されており、Ⅳ-4類と考えられる。29~31は横位・縦位櫛描文が認められ、Ⅴ-1類に分類される。32は縦位撚糸文、33は網目状撚糸文が施文されるⅤ-2類で、34・35は斜縄文が施されるⅤ-3類である。

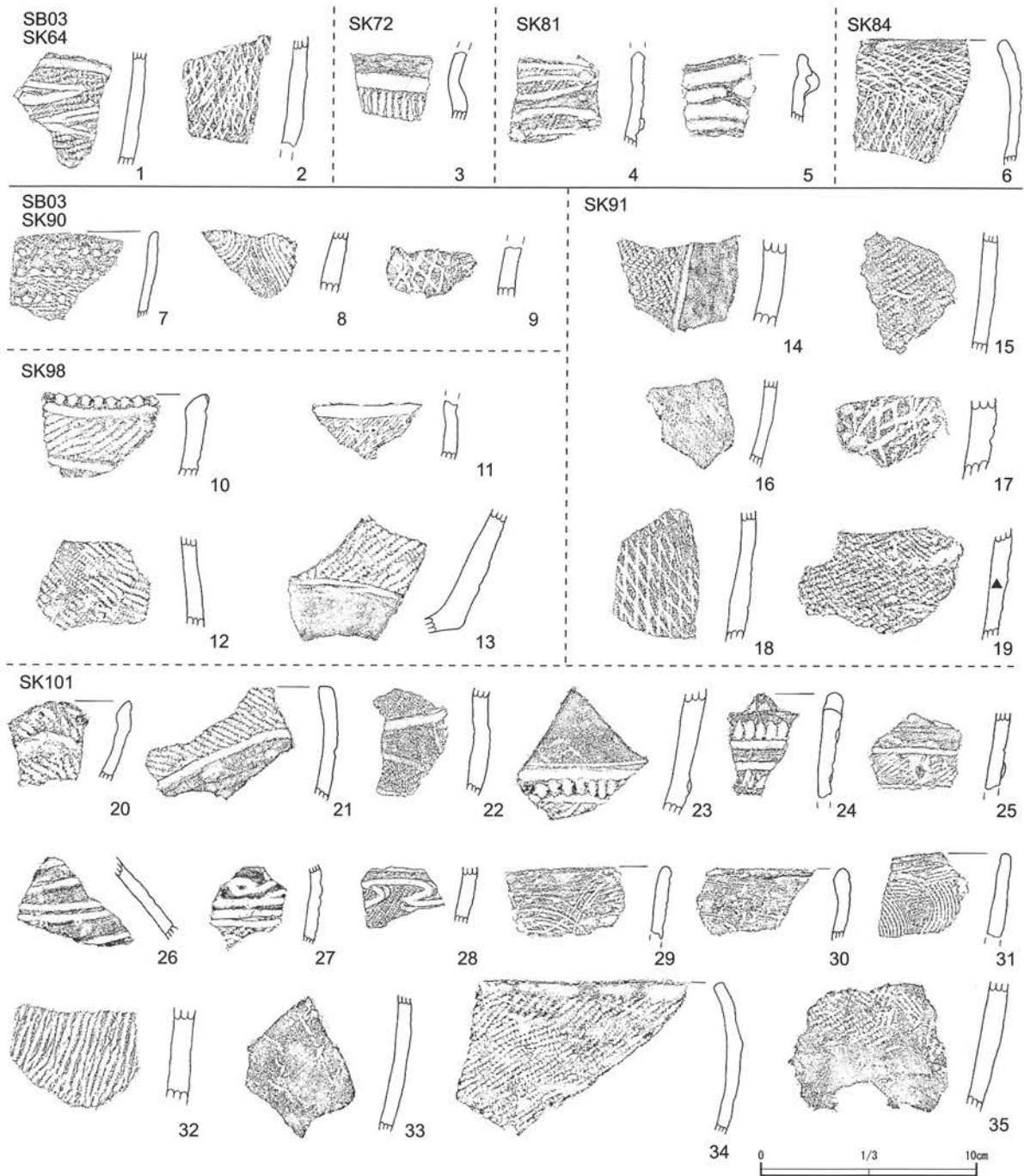


図3 掘立柱建物出土土器②

3. 土坑Ⅰ類（遺構略称SK、P）

土坑Ⅰ類は、平面確認で柱痕跡が確認できたもので、「柱穴」として分類した土坑である。概ね径が約50cm以上のものを「SK」、約50cm以下のものを「P」と略称している。

SK05（図4-1・2）

Ⅳ区で検出したものである。1・2は覆土からの出土遺物である。1は平行沈線区画内に縄文を充填しており、Ⅲ-4に分類される。2は縦位撚糸文が施されるⅤ-2類である。

SK21（図4-3～6）

77Tで検出したものである。3～6は覆土からの出土遺物である。3～5は縦位櫛描文が施文されるⅤ-1類で、6は無文のⅤ-4類である。

SK22（図4-7・8）

77Tで検出したものである。7・8は覆土からの出土遺物である。7は三角状区画に磨消縄文が施されており、Ⅳ-4類に相当する。8は口縁部に指頭圧痕が残っているⅤ-4類である。

SK26（図4-9）

77Tで検出したものである。9は覆土からの出土遺物で、縦位撚糸文が施されており、Ⅴ-1類に分類される。

P51（図4-10・11）

77Tで検出したものである。10・11は覆土からの出土遺物である。10は三叉文が施文されるⅣ-1類で、11は平行沈線で曲線的なモチーフを描出しているⅡ-2～3類と考えられる。

SK27（図4-12～14）

77Tで検出したものである。12は弧状沈線区画内に縄文を充填し、刻みを巡らせており、Ⅲ-3類に分類される。13は横位・斜位櫛描文が施文されているⅤ-1類で、14は羽状縄文が施されているⅤ-3類である。

SK29（図4-15・16）

77Tで検出したものである。15・16は覆土からの出土遺物である。15は口縁部に縦割突起が貼付され、横位沈線が施されており、Ⅲ-4類に相当する。16は平行沈線が横走する。Ⅴ-3類である。

SK30（図4-17）

77Tで検出したものである。17は覆土からの出土遺物で、沈線区画内に縄文を充填しており、Ⅲ-3類に分類される。

P79（図4-18～20）

77Tで検出したものである。18～20は覆土からの出土遺物である。18は口縁部、その下位の沈線内に刺突が巡っており、Ⅳ-4群に相当する。19・20は網目状撚糸文が施されるⅤ-1類である。

SK35（図4-21・22）

77Tで検出したものである。21・22は覆土からの出土遺物である。21は縦位櫛描文が施文されるⅤ-1類で、22は網目状撚糸文が施されるⅤ-2類である。

SK39（図4-23）

80Tで検出したものである。23は覆土からの出土遺物で、横位・弧状沈線により文様が描出されており、Ⅳ群と考えられる。

SK41（図4-24・25）

79Tで検出したものである。24・25は覆土からの出土遺物である。24は内外面に沈線が横走するⅤ

－4類、25は網目状撚糸文が施文されているV－2類である。

SK50 (図4-26)

76Tで検出されたものである。26は覆土からの出土遺物で、平行沈線間に刻みを入れ、列点状の文様を描出しており、IV－6類に相当する。

SK58 (図4-27・28)

76Tで検出されたものである。27・28は覆土からの出土遺物である。27は内外面に横位沈線が走っているV－4類で、28は網目状撚糸文が施文されているV－2類である。

P155 (図4-29)

76Tで検出されたものである。29は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が加えられており、V－2類に分類される。

P160 (図4-30)

76Tで検出されたものである。30は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が施されているV－2類である。

SK65 (図4-31)

76Tで検出されたものである。31は覆土からの出土遺物で、RL縄文が施され、V－3類に相当する。

P187 (図4-32・33)

76Tで検出されたものである。32・33は覆土からの出土遺物である。32は3条の沈線が巡っており、IV群と考えられる。33は上底の底部で、斜縄文が加えられているV－3類である。

SK70 (図4-34)

76Tで検出されたものである。34は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が施文されているV－2類である。

P248 (図4-35・36)

76Tで検出されたものである。35・36は覆土からの出土遺物である。35は平行沈線が施されるIII－4群、36は外面に若干のミガキが認められる無文土器で、V－4群に分類される。

P210 (図4-37・38)

76Tで検出されたものである。37・38は覆土からの出土遺物で、口唇部には1条の浅い沈線、頸部には平行沈線が巡る。37は口縁部に刻みが施され、38は山形状突起が貼付される。これらはIV－4類に相当する。

SK73 (図4-39・40)

76Tで検出されたものである。39・40は覆土からの出土遺物である。39は結節縄文が施されるIV－2類、40は横位・縦位櫛描文が施されるV－1類である。

SK74 (図4-41)

76Tで検出されたものである。41は覆土からの出土遺物で、口縁部に縦割突起が貼付され、その下位には平行沈線・突起が施されており、III－4類に分類される。

SK75 (図5-1・2)

76Tで検出されたものである。1・2は覆土からの出土遺物である。1は口縁部に縦割突起が付され、その突起に向かい三叉状に沈線が延びており、III－4類に相当する。2は縦位櫛描文が施文されているV－1類である。

第1節 小迫地区遺構出土土器

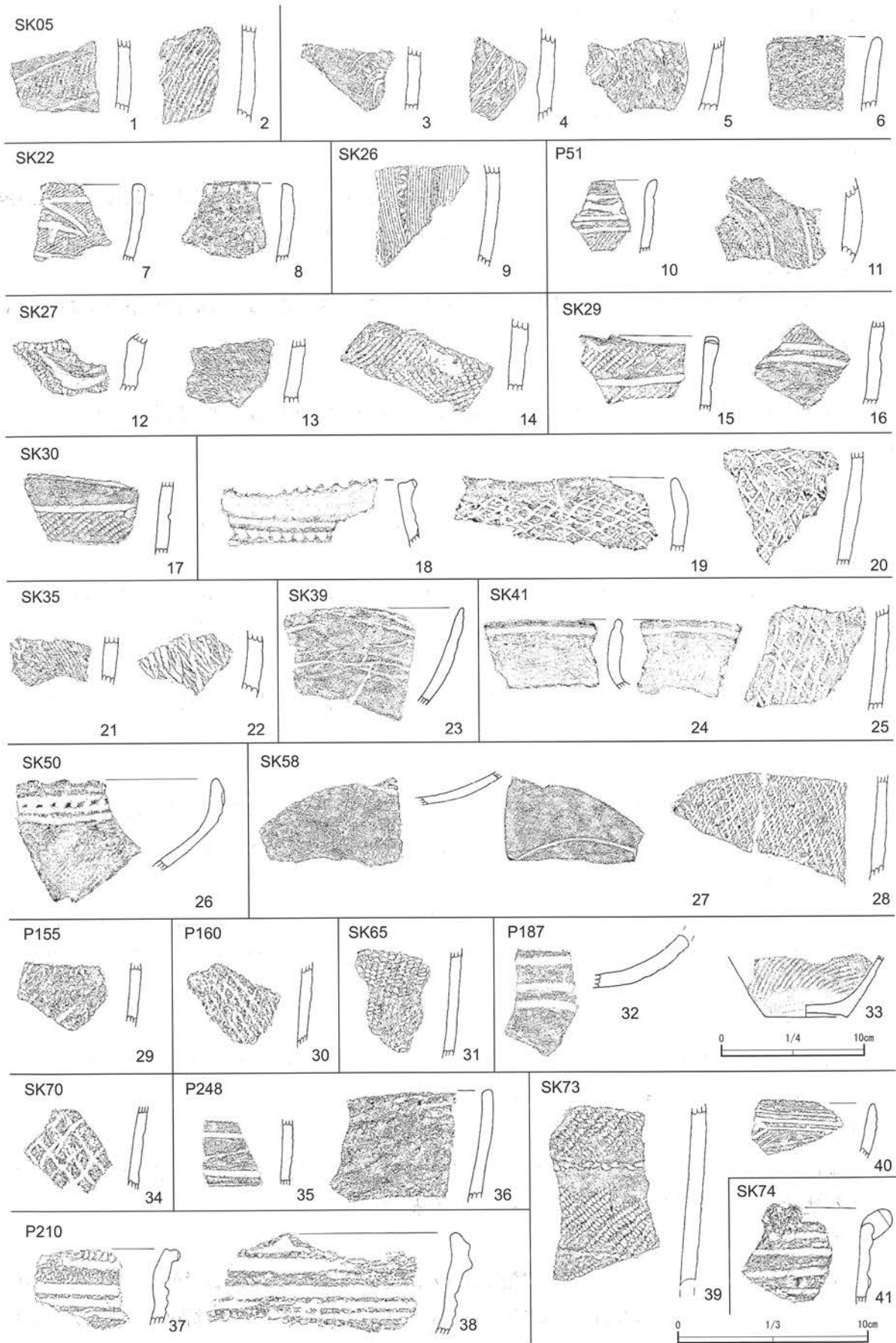


図4 土坑 I 類出土土器①

SK76 (図5-3)

76Tで検出されたものである。3は覆土からの出土遺物で、三叉状沈線・入組状沈線が描出されており、入組部には円形の刺突が施されている。Ⅲ-4類と考えられる。

SK77 (図5-10~14)

76Tで検出されたものである。10~14は覆土からの出土遺物である。10は2条の沈線間に刻みが施されており、Ⅲ-4類に相当する。11・12は横位・蛇行櫛描文が、14は交差櫛描文が描かれている。これらはV-1類に分類される。13はV-4類で、頸部はLR縄文が磨り消されている。

SK79 (図5-4)

76Tで検出されたものである。4は覆土からの出土遺物で、2段にわたり平行沈線区画内に刻みを充填しており、Ⅲ-4類に相当する。

SK80 (図5-5・6)

76Tで検出されたものである。5・6は覆土からの出土遺物である。5は入組状沈線が認められ、Ⅲ-4類に分類される。6は結節縄文が施文されているIV-2類である。

P236 (図5-7)

76Tで検出されたものである。7は覆土からの出土遺物で、口縁部に刻みが施されるⅢ-3類と考えられる。

SK89 (図5-8・9)

76Tで検出されたものである。8は口縁部に縦割突起が貼付され、平行沈線が横走する。9は横位に沈線が施文されている。これらはⅢ-4類に相当する。

P249 (図5-15)

76Tで検出されたものである。15は覆土からの出土遺物で、平行沈線区画内に刻みを施しており、Ⅲ-4類に分類される。

SK96 (図5-16)

76Tで検出されたものである。16は覆土からの出土遺物で、縦位櫛描文が施されているV-1類である。

P278 (図5-17・18)

76Tで検出されたものである。17・18は覆土からの出土遺物である。17は横位・縦位櫛描文、18は縦位櫛描文が施文されているV-1類である。

SK105 (図5-19~21)

76Tで検出されたものである。19~21は覆土からの出土遺物である。19は平行沈線区画内に縄文を充填し、突起が貼付されており、Ⅲ-4類と考えられる。20は口縁部に山形状突起が貼付され、頸部は沈線で長形状のモチーフが描出されている。IV-5類に相当する。21は小波状の口縁を持つ。胴部にはメガネ状付帯文が貼付され、その下位には磨消縄文が施されている。口縁内側には横位沈線が巡っており、IV-4類に分類される。

SK107 (図5-22~25)

76Tで検出されたものである。22~25は覆土からの出土遺物である。22・23は列点文を描出し、結節縄文を施している。24は結節縄文を施している。22~24はIV-2類に相当する。25は蛇行櫛描文が施されたV-1類である。

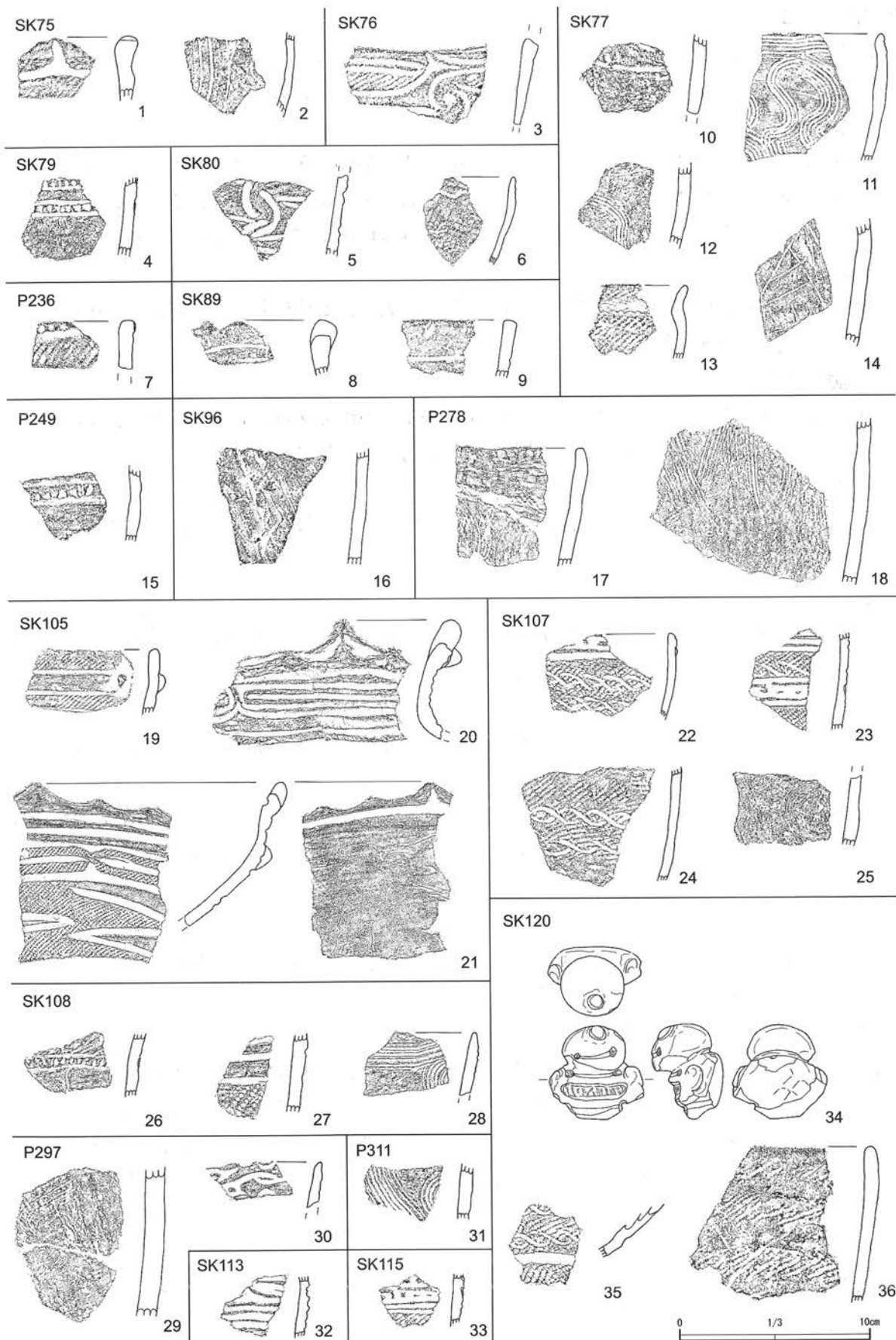


図5 土坑 I 類出土土器②

SK108 (図5-26~28)

76Tで検出されたものである。26~28は覆土からの出土遺物である。26は平行沈線区画に刻みを充填している。27は平行沈線が横位に走っている。これらはⅢ-4類にと考えられる。28は横位・縦位櫛描文が施文されているV-1類である。

P297 (図5-29・30)

76Tで検出されたものである。29・30は覆土からの出土遺物である。29は蛇行櫛描文が施されているV-1類、30は三叉文が施文されており、Ⅳ-1類に分類される。

P311 (図5-31)

76Tで検出されたものである。31は覆土からの出土遺物で、蛇行櫛描文が施されているV-1類である。

SK113 (図5-32)

76Tで検出されたものである。32は覆土からの出土遺物で、外面に平行沈線が横走し、内面はミガキが施されており、Ⅳ-5類に相当する。

SK115 (図5-33)

76Tで検出されたものである。33は覆土からの出土遺物で、羊歯状文が描出されており、Ⅳ-2類

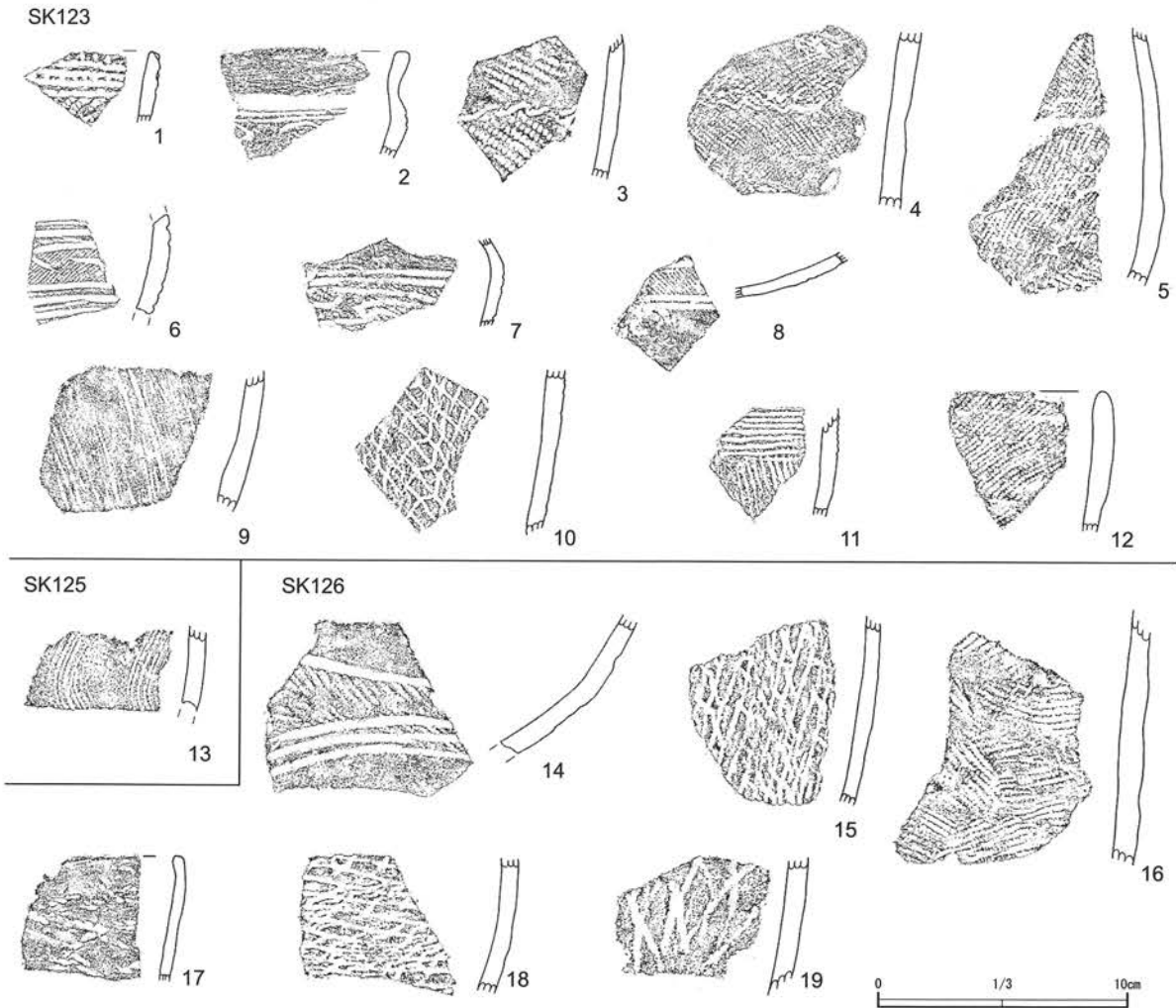


図6 土坑Ⅰ類出土土器③

に分類される。

SK120 (図5-34~36)

76Tで検出されたものである。34~36は覆土からの出土遺物である。34は刺突・沈線が施されている突起で、Ⅲ-3類と考えられる。35は結節縄文が施文されており、Ⅳ-2類に相当する。36は斜縄文が加えられているⅤ-3類である。

SK123 (図6-1~12)

76Tで検出されたものである。1~12は覆土からの出土遺物である。1は口縁部に刻みが巡り、その下位には列点状の文様を描出しており、Ⅳ-6類に分類される。2・6は平行沈線・C字状沈線が認められる。7は磨消縄文で雲形文を描出している。これらはⅣ-4類と考えられる。3・5は結節縄文が施されており、Ⅳ-2類に相当する。8は平行沈線が巡っており、Ⅳ群に分類される。9は縦位櫛描文が施されているⅤ-1類である。10は網目状撚糸文、11は横位・縦位撚糸文が加えられており、Ⅴ-2類土器に相当する。4は結節羽状縄文、12は斜縄文が施文されているⅤ-3類である。

SK125 (図6-13)

76Tで検出されたものである。13は覆土からの出土遺物で、縦位櫛描文が施されているⅤ-1類である。

SK126 (図6-14~19)

76Tで検出されたものである。14~19は覆土からの出土遺物である。14は平行沈線・弧状沈線区画内の縄文を磨り消しており、Ⅳ群と考えられる。15・17~19は網目状撚糸文が施されているⅤ-2類、16は不規則に縄文を施文しているⅤ-3類である。

4. 土坑Ⅱ類 (遺構略称SK)

平面プラン、直径、断面形、堆積土の観察から、いわゆる「貯蔵穴」と判断されるもの。

SK18 (図7-1~4)

77Tで検出されたものである。1~4は覆土からの出土遺物である。1は斜位に短沈線が加えられている。2は羽状縄文、4は斜縄文が施されている。1~4は胎土に繊維を含む。これらはⅠ-1類に分類される。

SK23 (図7-5・6)

77Tで検出されたものである。5・6は覆土からの出土遺物である。5は平行沈線による山形文が施文されており、Ⅰ-2類に相当する。6は斜縄文が施されているⅠ群である。

SK46 (図7-7)

76Tで検出されたものである。7は覆土からの出土遺物で、弧状沈線により無文帯を区画している。Ⅱ-2~3類と考えられる。

SK152 (図7-8~11)

50Tで検出されたものである。8~11は覆土からの出土遺物である。8は胎土に繊維を含み、結束羽状縄文が加えられており、Ⅰ-1類に分類される。9は縦位・弧状沈線が施されている。10は縦位の結節縄文は施文されている。これらはⅡ-1類である。11は弧状沈線により無文帯を区画しており、Ⅱ-2~3類と考えられる。

SK153 (図7-12~15)

25Tで検出されたものである。12~15は覆土からの出土遺物である。12は縦位沈線で、13は隆帯で

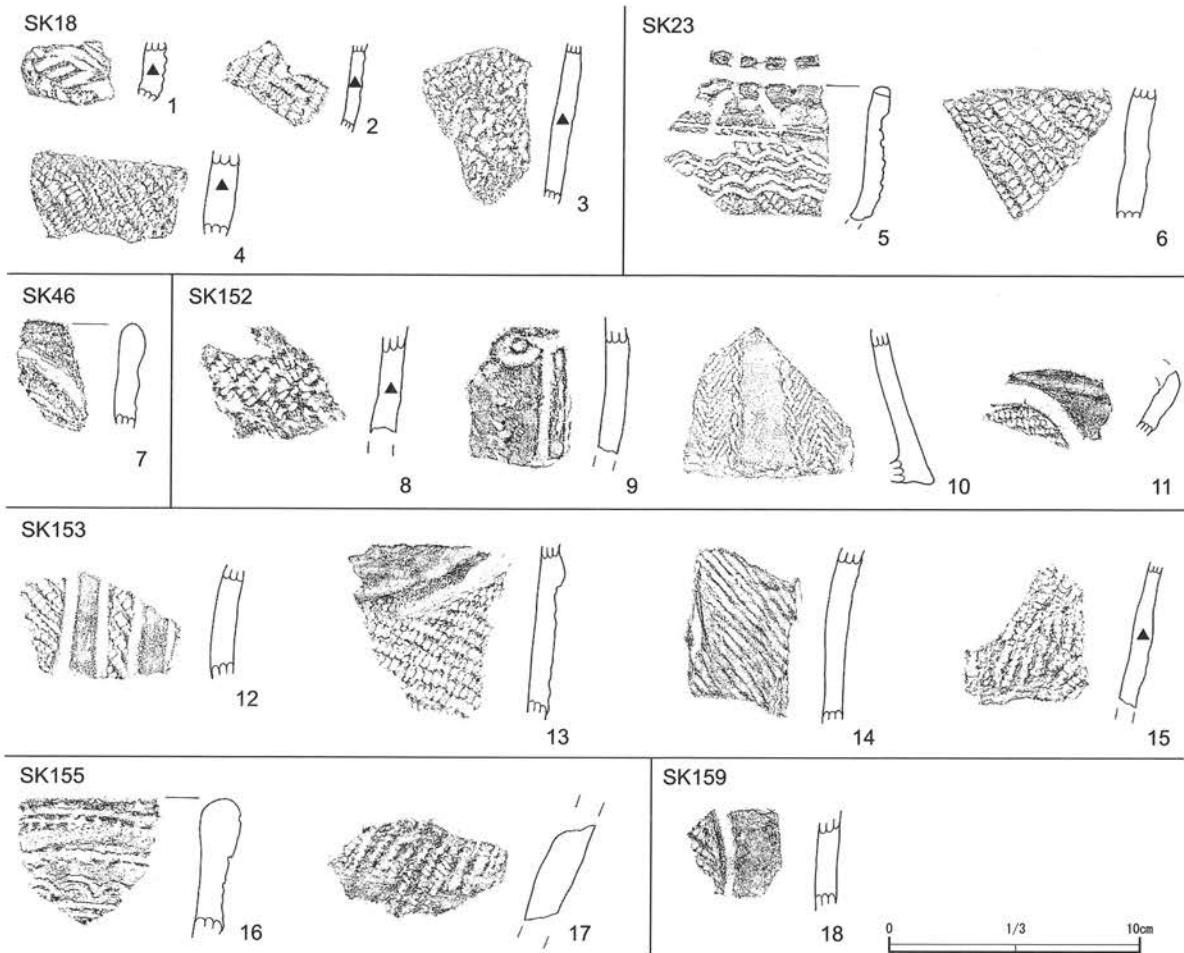


図7 土坑Ⅱ類出土土器

無文帯を区画している。これらはⅡ-3類に相当する。14は縦位に沈線が走るⅡ群である。15は胎土に繊維を含み、斜縄文が施されている。Ⅰ-1類と判断される。

SK155 (図7-16・17)

24Tで検出されたものである。16・17は覆土からの出土遺物である。16は口縁部に刺突が巡り、平行沈線によるコンパス文が施文されており、Ⅱ-1類に分類される。17は斜縄文が加えられているⅡ群である。

SK159 (図7-18)

23Tで検出されたものである。18は覆土からの出土遺物で、縦位沈線により無文帯を区画しており、Ⅱ-2~3類と考えられる。

5. 埋設土器 (遺構略称SK)

77Tから1基 (SK17) 検出された。

SK17 (図8-1~4)

1~4は覆土からの出土遺物である。1は口縁部に弧状櫛描文、その下位には蛇行櫛描文が施されているⅤ-1類である。2・3は横位・弧状沈線により文様が描出されている。これらはⅣ-4類に分類される。4は外面に輪積痕を残し、内面にはケズリの痕跡が顕著に確認できる無文土器で、Ⅴ-4類である。

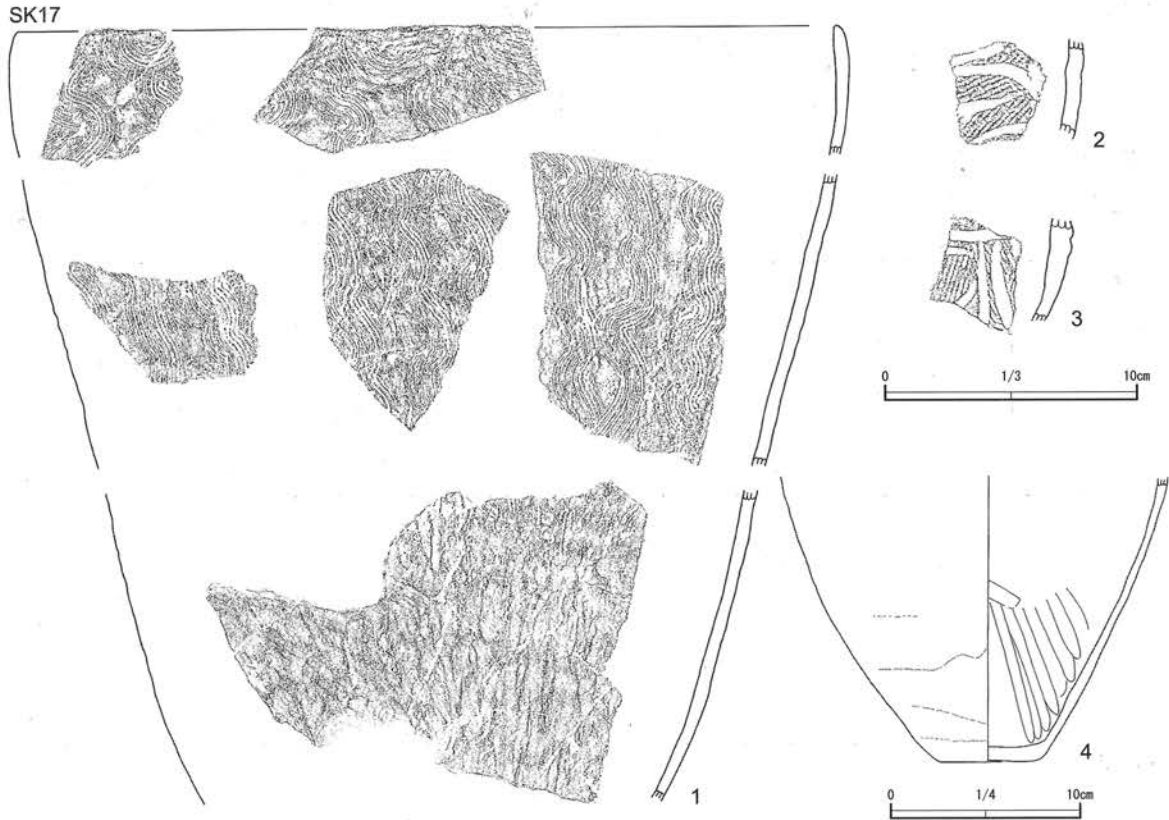


図8 埋設土器

6. 土坑IV類 (遺構略称SK)

土坑Ⅰ類・土坑Ⅱ類、埋設土器以外の土坑で、堆積土の観察などから縄文時代のものと推定できるものを本群とした。

SK04 (図9-1~4)

Ⅳ区で検出されたものである。1~4は覆土からの出土遺物である。1は平行沈線区画内に刻みを施し、胴部には入組部に刺突を持つ入組文が施されており、Ⅲ-4類と考えられる。2は蛇行櫛描文が施文されているV-1類である。3は網目状捺糸文が認められ、V-2類に分類される。6は斜位縄文が施されるV-3類である。

SK06 (図9-5)

Ⅳ区で検出されたものである。5は覆土からの出土遺物で、非結束羽状縄文が加えられ、胎土に繊維を含み、Ⅰ-1類と判断される。

SK95 (図9-6)

76Tで検出されたものである。6は覆土からの出土遺物で、縦位櫛描文が施されるV-1類である。

SK102 (図9-7・8)

76Tで検出されたものである。7・8は覆土からの出土遺物である。7は沈線により雲形文を描出しており、Ⅳ-3類に相当する。8は無節縄文を不規則に施文した後に櫛描文を施しているV-3類である。

SK103 (図9-9~11)

76Tで検出されたものである。9~11は覆土からの出土遺物である。9は縦位・蛇行櫛描文が施さ

れているV-1類である。10は口縁に縦割突起が貼付され、沈線区画内に縄文を充填しており、Ⅲ-4類と判断される。11は斜縄文が施されているV-3類である。

SK104 (図9-12)

76Tで検出されたものである。12は覆土からの出土遺物で、弧状の平行沈線が施文されている。IV-4類に分類される。

SK112 (図9-17~19)

76Tで検出されたものである。17~19は覆土からの出土遺物である。17は三叉文が認められ、IV-1類に相当する。18は横位・縦位櫛描文が施文されているV-1類、19は網目状撚糸文が施されているV-2類である。

SK114 (図9-13)

76Tで検出されたものである。13は覆土からの出土遺物で、網目状撚糸文が加えられているV-2類である。

SK116 (図9-14)

76Tで検出されたものである。14は覆土からの出土遺物で、横位・縦位櫛描文が施文されており、V-1類に分類される。

SK118 (図9-15・16)

76Tで検出されたものである。15・16は覆土からの出土遺物である。15は横位櫛描文、16は横位・縦位櫛描文が施されているV-1類である。

SK117 (図9-20・21)

76Tで検出されたものである。20・21は覆土からの出土遺物である。20は平行沈線区画内に縄文を充填している。Ⅲ-4類と判断される。21は網目状撚糸文が加えられているV-1類である。

SK128 (図9-22・23)

3Gで検出されたものである。22・23は覆土からの出土遺物である。22は網目状撚糸文が施文されており、V-1類に分類される。23は口唇部に浅い沈線、口縁部に刻み・平行沈線が巡っており、IV-6類に相当する。

SK172 (図9-24)

11Tで検出されたものである。24は覆土からの出土遺物で、横位櫛描文・補修孔が認められるV-1類である。

SK175 (図9-25)

11Tで検出されたものである。25は覆土からの出土遺物で、無文の底部資料である。V-4類に分類される。

SK176 (図9-28~31)

11Tで検出されたものである。28~31は覆土からの出土遺物である。28は平行沈線区画内に刻みを充填させ、突起を貼付している。29は弧状沈線区画内に縄文を充填し、刺突を加えている。これらはⅢ-4類と判断される。30は斜縄文が施されているV-3類、31は縦位櫛描文が施文されているV-1類である。

SK177 (図9-26・27)

11Tで検出されたものである。26・27は覆土からの出土遺物である。26は無文の口縁部資料で、V-4類である。27は沈線が横走するV-3類である。

第1節 小迫地区遺構出土土器

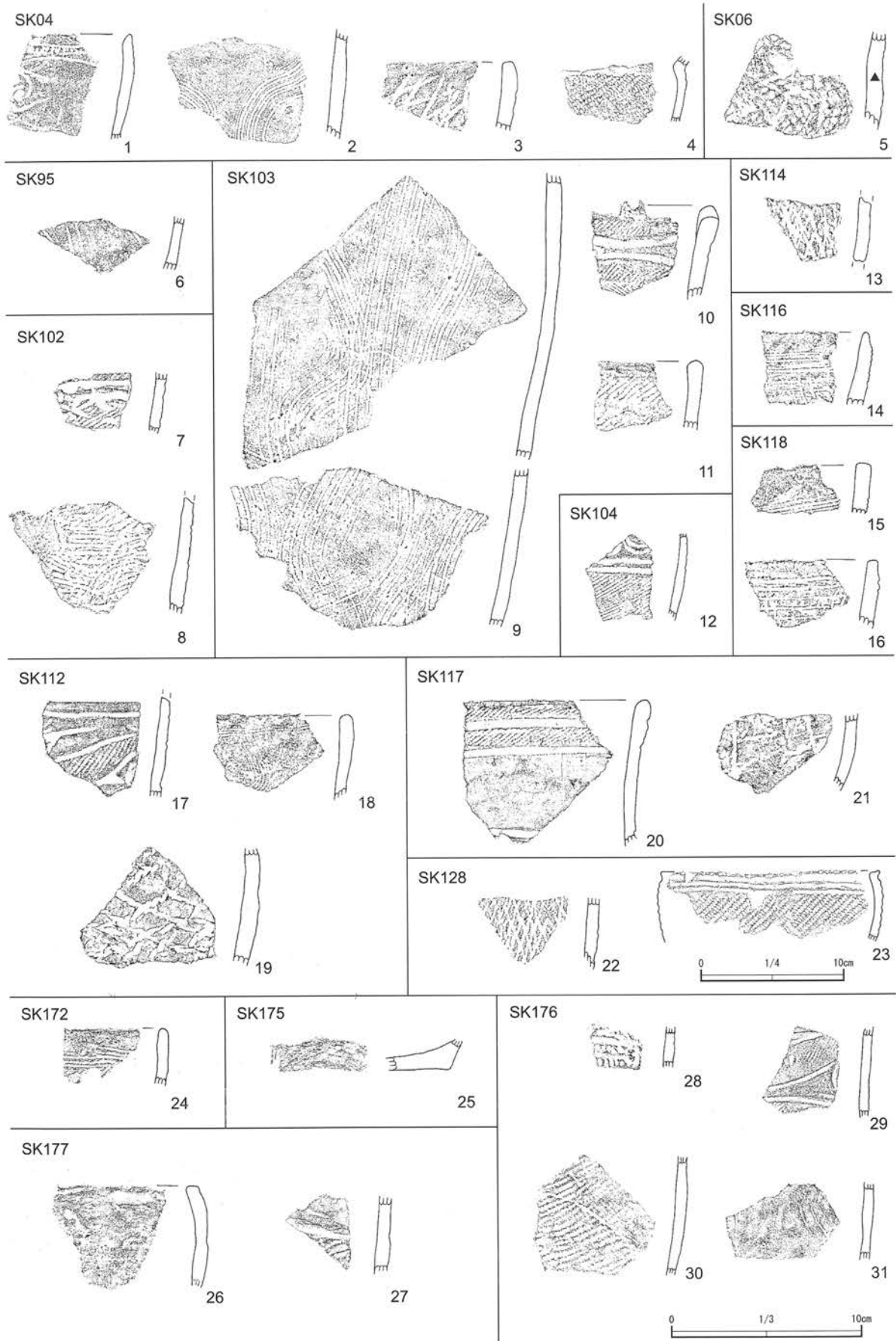


図9 土坑IV類出土土器

第2節 小迫地区台地貝層・遺物包含層

小迫地区台地に所在する2箇所の埋没谷（西の谷・東の谷）の堆積土のうち、縄文時代の堆積層から出土した土器をまとめた。

1. 西の谷

26・27・80TならびにIV区で確認された埋没谷で、大別Ⅲ-2 a層（以下、Ⅲ-2 a層）・大別Ⅲ-2 b層（以下、Ⅲ-2 b層）が堆積している。IV区にサブトレンチを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査をおこなった。遺物については、Ⅲ-2 a層をⅢA～C層に、Ⅲ-2 b層をⅢD～Fに分層して取り上げているが、土器が多量に出土したことから、一部の層では明確に区別することができなかつたため、一括して遺物を取り上げたものがある。また、焼獣魚骨が出土するため北壁に接するかたちでコラムサンプルを設定し、ⅢA～F層の層位毎に調査を実施している。

IV区サブトレンチ

ⅢA層（図10、図11-1～19、図30-1～7）

表土下、Ⅱ層（縄文時代以後の堆積土である黒色土）下に堆積している層で、Ⅲ-2 a層の上層にあたる。サブトレンチ内南東側では堆積が確認されない。

IV-1類（図10-1）

図10-1は注口土器の注口部で、玉抱三叉文が描出されている。

IV-2類（図10-2～5、図30-2・6）

図10-2～4は羊歯状文が描出されている。5は列点文が施されている。図30-2は口縁が若干内湾する器形で、頸部に羊歯状文が巡り、B突起が貼付されている。図30-6は段を有し、胴部下半で大きく外反する浅鉢形土器で、底部は丸底である。底部は中央を円形に彫去され、胴部下半の屈曲部には横位沈線が走る。口縁部にはB突起が付されている。

IV-3類（図10-8～13、図30-1）

図10-8～10・12・13は彫去もしくは磨消縄文で雲形文を描出している。8・9は口唇部に彫去や沈線を用いて浮彫状の装飾を施している。図30-1は長頸壺である。彫去により雲形文が描かれ、口縁部にはB突起が貼付されている。

IV-6類（図10-6・14～19）

図10-6は口縁内側に刻み加えられ、外面には平行沈線間に刺突が施されている。14～18は口縁部が小波状を呈し、19は平口縁である。それぞれ数条の沈線が横走している。

V-1類（図10-21・24～27、図11-1～3、図30-3）

図10-21・26・27は弧状・縦位・蛇行櫛描文を施文されており、26には補修孔が認められる。24は横位櫛描文・蛇行櫛描文を施している。図11-1・3は蛇行櫛描文が施文されている。図30-3は平底の底部で、縦位櫛描文が加えられている。

V-2類（図11-4～7）

図11-4～7は網目状撚糸文が施されている。

V-3類（図10-7・22・23、図11-8～17、図30-4・5）

図10-7は平行沈線、22・23は1条の沈線が横走している。また、22は口縁部に刻みが施されている。図11-9は折返口縁である。13は外面に輪積痕を残し、14は外面に輪積痕・指頭圧痕が認められ

ⅢA層

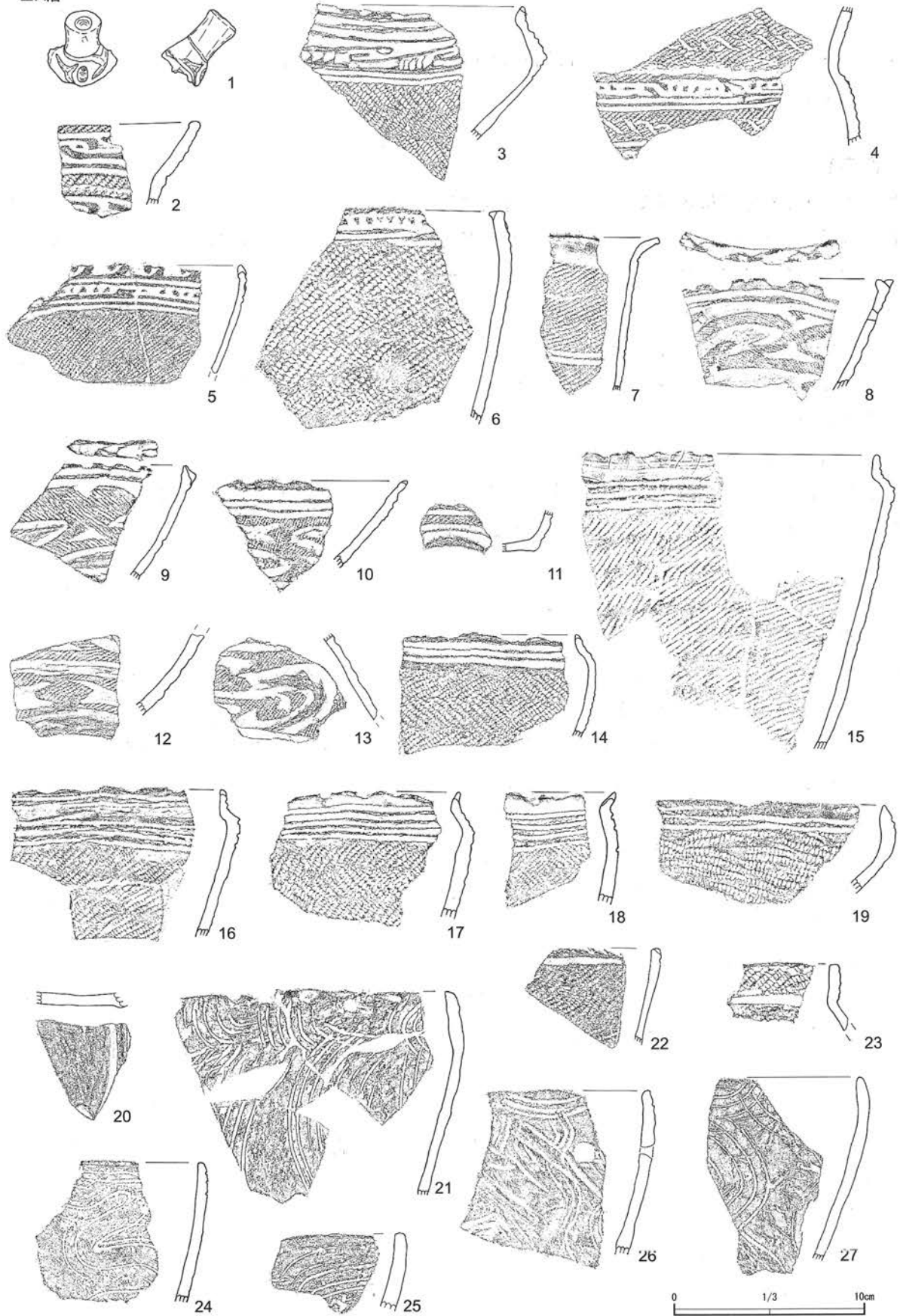


图10 IV区出土土器①

る。図30-4は球形を押し潰したような器形で、底部は丸底である。胴部の上下に平行沈線が巡っている。5は短頸壺の口縁部である。

V-4類 (図10-20、図11-18・19、図30-7)

図10-20、図30-7は底部資料で、1条の沈線が巡っている。図11-18は内外面にミガキ認められ、特に内面は丁寧にミガキが施されている。

ⅢA下層 (図11-20~22、図12-1~7、図30-8~11)

ⅢA層のなかでも下位にあたる。

IV-6類 (図11-20~22、図12-1)

図11-20・22は口縁が小波状を呈し、22はB突起が貼付されている。21は口縁部に細かい刺突が巡る。20~22は、沈線間に刺突が施され、20・21は列点状の文様が描出されている。図12-1は口縁が小波状を呈し、平行沈線が横走る。

V-1類 (図12-2)

図12-2は横位・縦位櫛描文が施されている。

V-2類 (図12-3~5)

図12-3~5は網目状撚糸文が加えられており、4には補修孔が認められる。

V-3類 (図12-7、図30-8)

図12-7は結節羽状縄文、図30-8は斜縄文が施されている。

V-4類 (図12-6、図30-9~11)

図30-9は外面にケズリ・ミガキ、10は外面にミガキ、11は外面にミガキ、内面にケズリが加えられている。

コラムサンプルⅢA層 (図12-8~12)

図12-8は彫去を用いて口唇部に浮彫状の装飾、胴部には雲形文が施され、IV-3類に相当する。11は沈線内に刺突を巡らせており、IV-6類に分類される。9は縦位櫛描文が施文されているV-1類、10は網目状撚糸文が加えられているV-2類、12は斜縄文が施されているV-3類である。

ⅢB層 (図13~図16-20、図30-12~24)

Ⅱ層ならびにⅢA層下に堆積している層で、Ⅲ-2a層の中層にあたる。サブトレンチ内南東側では堆積が確認されない。

IV-1類 (図13-1)

図13-1は沈線により三叉文が描出されている。

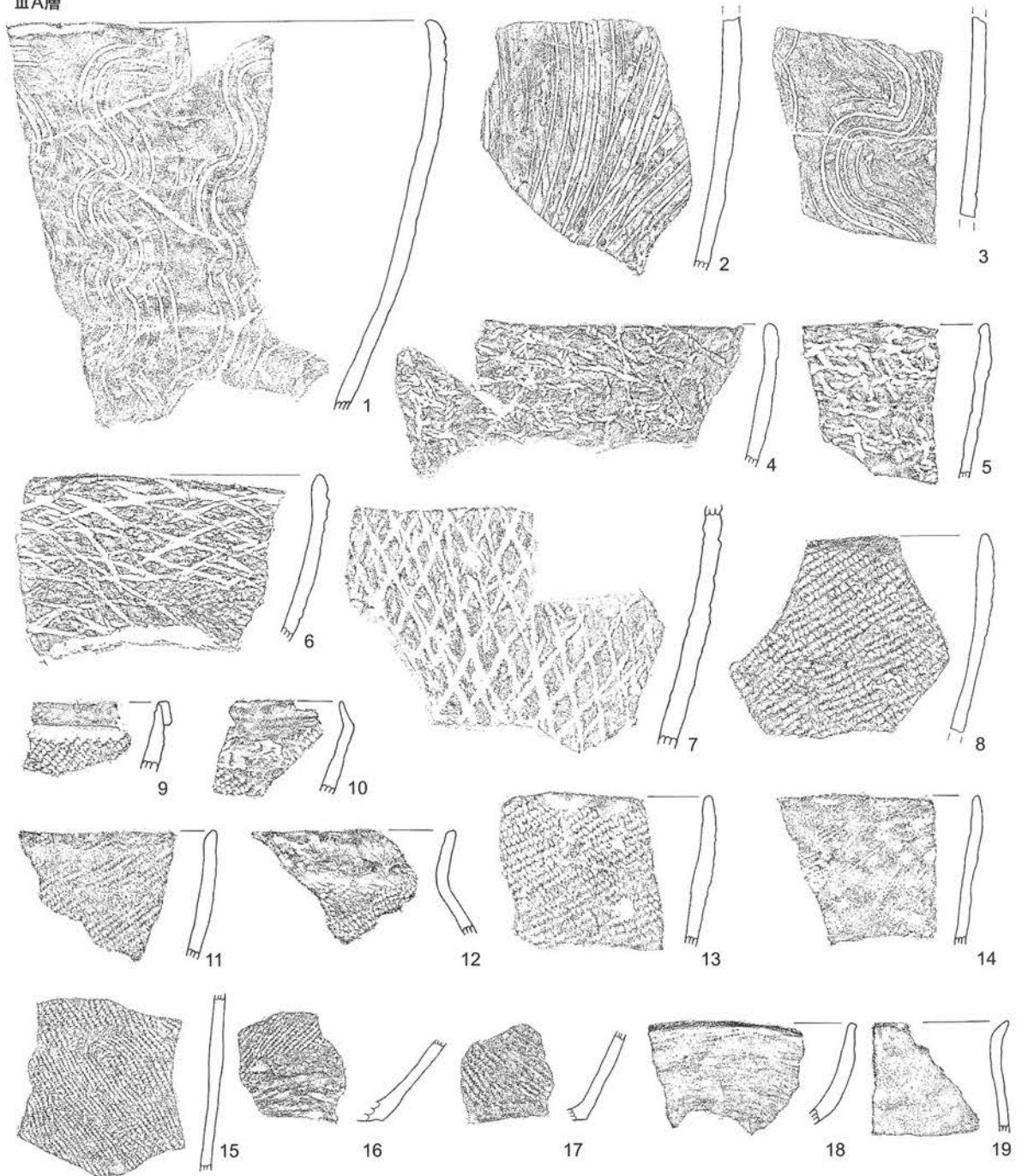
IV-2類 (図13-2~5・8~15・18、図30-12・13)

図13-3・5は羊歯状文が施され、5は口縁部に連結したC字状沈線が加えられている。2・4・8・11・18は列点文が巡り、18は口縁部に連結したC字状沈線が施文されている。図30-13は頸部で括れ、口縁部が外反する器形で、口縁部および胴部上半に列点文が施されている。図13-9・10・12~15、図30-12は結節縄文が施文されている。9は口唇部ならびに口縁部、10は口唇部に刺突が加えられている。

IV-3類 (図13-7、図14-4~9・14、図30-15)

図13-7は羊歯状文が施され、その下位には彫去による雲形文が認められる。図14-4~9・14は胴部に彫去もしくは磨消縄文により雲形文を描出し、図14-5・6・8は口唇部に彫去や沈線を用いて浮彫状の装飾を施している。図30-15は口縁部が内湾気味に立ち上がる器形で、口唇部に浮彫状の

ⅢA層



ⅢA下層

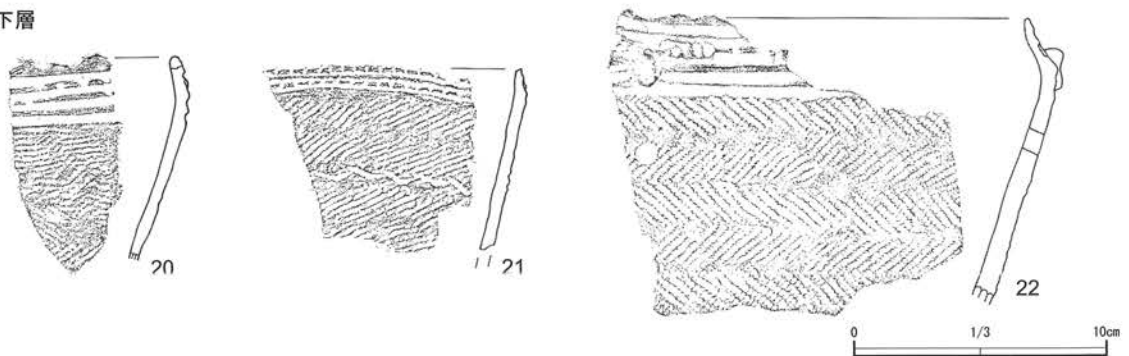


图11 Ⅳ区出土土器②

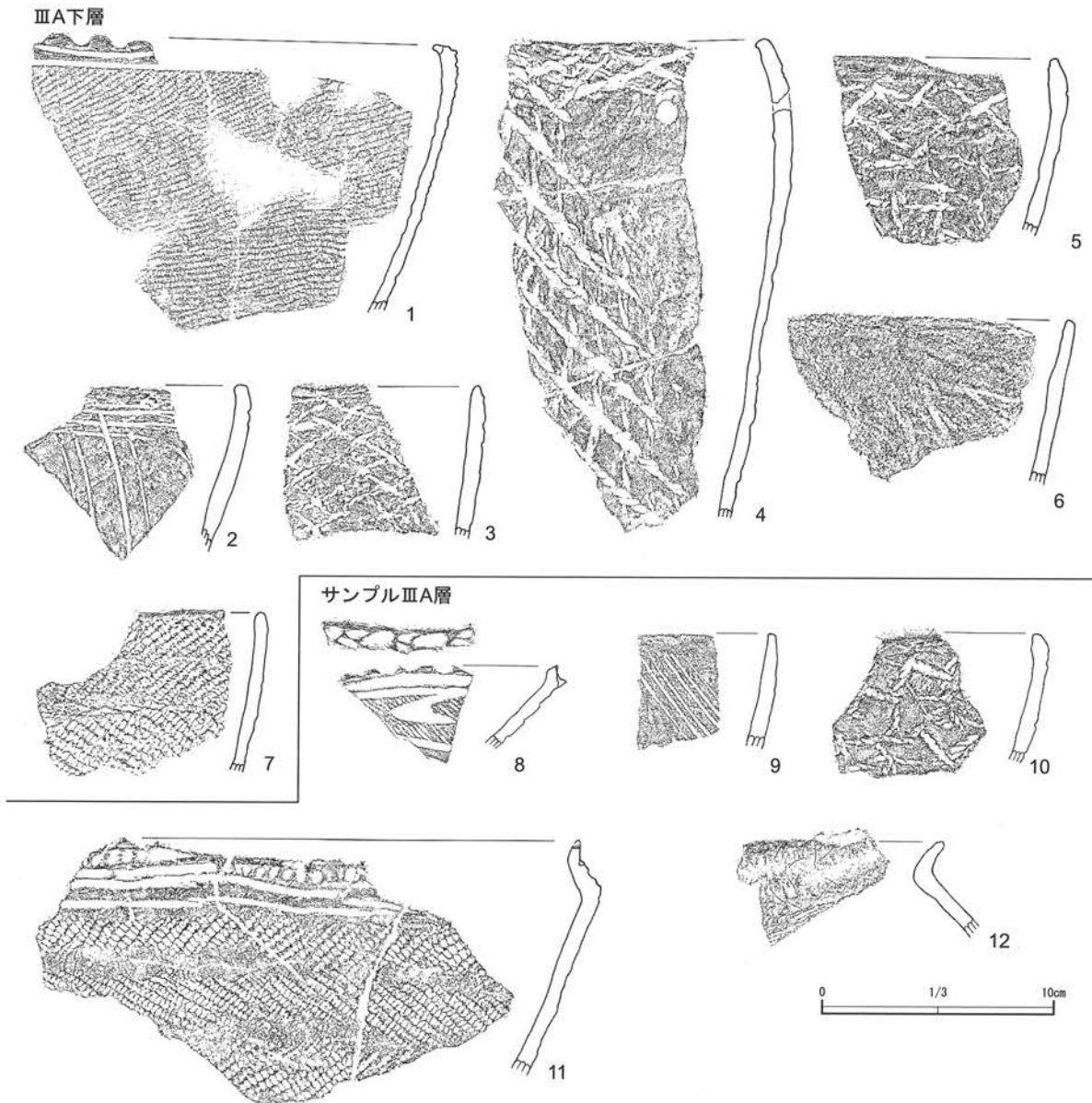


図12 IV区出土土器③

装飾を加え、胴部には彫去により雲形文を描いている。

IV-4類 (図13-6、図14-10~13、図30-14)

図13-6は列点状の文様が施され、胴部には曲線状のモチーフが描出されている。図14-12は雲形文、11は楕円形状のモチーフを、それぞれ磨消縄文および沈線を用いて描出している。10は三角形・C字状沈線、13は弧状沈線が施されている。図30-14は底部から緩やかに膨らみ、胴部中央から内湾して口縁に至る器形で、胴部中央に最大径を持つ器形である。口縁には刻み・平行沈線が加えられており、胴部には沈線で曲線状のモチーフが描かれている。

IV-6類 (図13-16・17・19、図14-1~3、15~17)

図13-16は口縁が小波状を呈し、2段にわたり平行沈線間に細かい刺突を施している。17・19は沈線内に刺突が認められる。図14-1~3は平行沈線間に刺突が加えられ、口唇部には刺突が巡ってい

ⅢB層

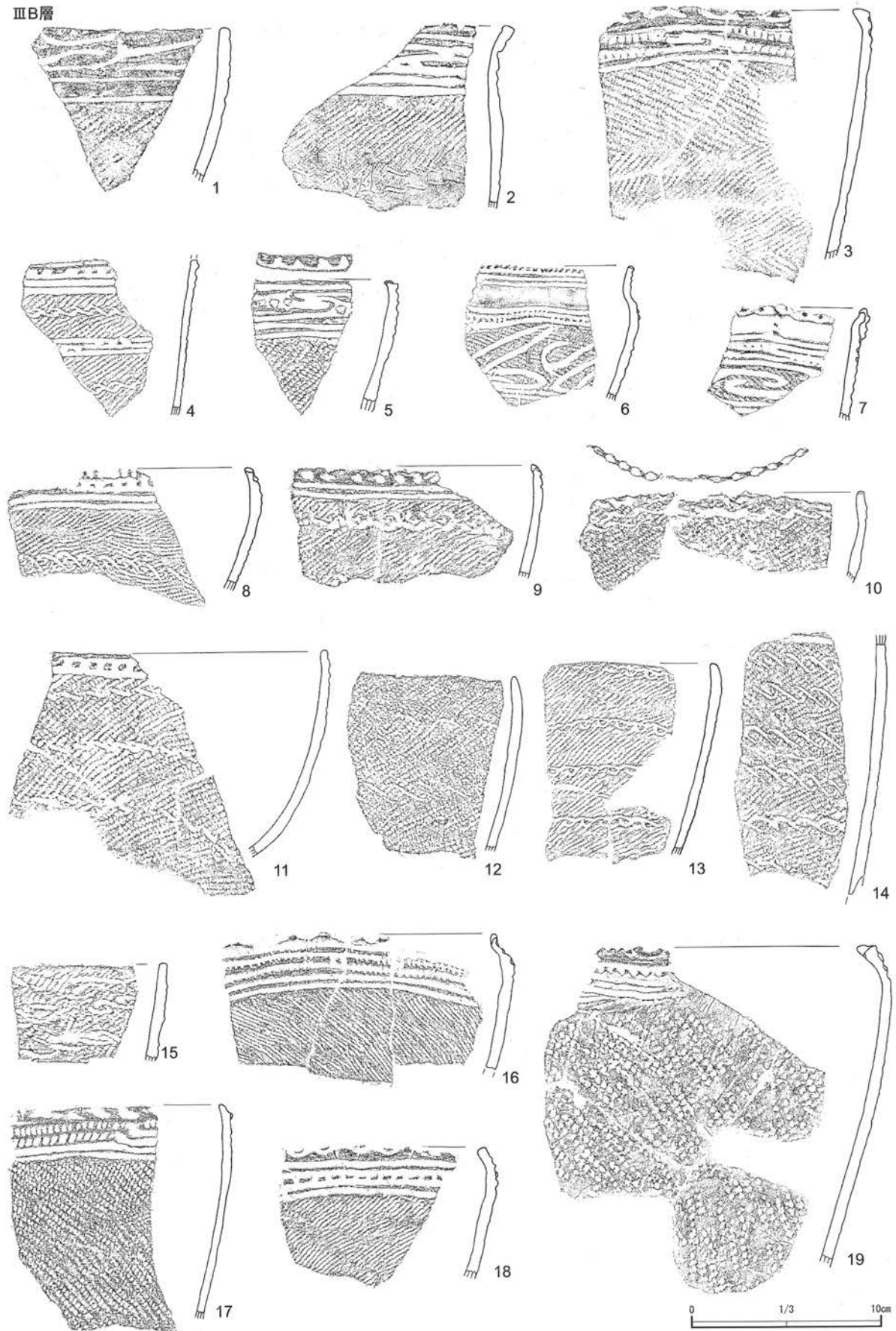


图13 IV区出土土器④

る。15～17は数条の平行沈線が横走している。15は口縁が小波状を呈し、16・17は口唇部に刺突が施されている。

V-1類 (図14-21～24、図15-1～6)

図14-21は横位櫛描文、22は横位・弧状・蛇行櫛描文、図14-24、図15-1・2・5は横位・蛇行櫛描文が施文されている。図14-24には補修孔が認められる。

V-2類 (図15-7～14、図16-1～4)

全て網目状撚糸文が施されている。図15-10には網目状撚糸文とともにLR縄文が加えられている。図15-13は頸部で括れ、口縁部が外半する器形である。

V-3類 (図16-5～11、図30-16・17)

図16-8は外面に輪積痕を残している。11は胴部下端にケズリが施されている。図16-10は口縁部に、図30-17は胴部下半および底部に沈線が巡っている。

V-4類 (図14-18～20、図16-12～18、図30-18～24)

図14-18～20は口縁部に平行沈線が横走している。図16-12は口唇部が面取りされ、外面はミガキが施されている。15は頸部にケズリが加えられている。図30-20は短頸壺形土器の口縁部で、外面に輪積痕を残し、口縁部内側では面取りされている。18は手捏ね土器で、外面に指頭圧痕が認められる。21は台付土器の台部である。24は丸底の底部から直線的に開く器形で、外面および底部にケズリが加えられている。

ⅢB下層 (図30-25)

ⅢB層の中でも下位にあたる。図30-25は短頸壺の口縁部で、橋状把手が貼付されている。V-3類に分類される。

コラムサンプルⅢB層 (図16-19～25、図30-26)

図16-19は彫去により口唇部には浮彫状の装飾を施し、胴部には雲形文を描出し、上下2箇所にも補修孔が認められる。19はIV-3類に相当する。20は浮彫状の装飾が見られ、胴部には1条の横位沈線が巡っており、注口土器の可能性もある。20はIV群に相当する。図16-21は平行沈線間に刺突を施している。図30-26は口縁部が内湾する器形で、口縁部は小波状を呈し、沈線内に刺突が巡っている。これらはIV-6類と判断される。図16-22・23は櫛描文が施文され、22は刻みが加えられている。これらはV-1類に分類される。24・25は斜位縄文が施文されているV-3類である。

ⅢC層 (図17～図21-9、図31、図32-1～4)

Ⅱ層ならびにⅢB層下に堆積している層で、Ⅲ-2 a層の下層にあたる。

Ⅲ-3類 (図17-1)

1は口縁部に2段の刻みが施されている。

Ⅲ-4類 (図17-2)

2は平行・弧状沈線によりモチーフを描出している。

IV-2類 (図17-3・4・7～11、図31-1)

図17-3・4は口唇部に刺突、口縁部および頸部に列点文が施文されている。11は列点文が認められる。7～10は結節縄文が加えられている。図31-1は頸部で括れ、口縁部が外反する器形で、口縁部には刻みと列点文、頸部に羊歯状文が巡っている。

IV-3類 (図17-12～17、図31-2～7)

図17-12～17は彫去もしくは磨消縄文の手法で雲形文を描出している。12は沈線間に刺突が施され、

ⅢB層

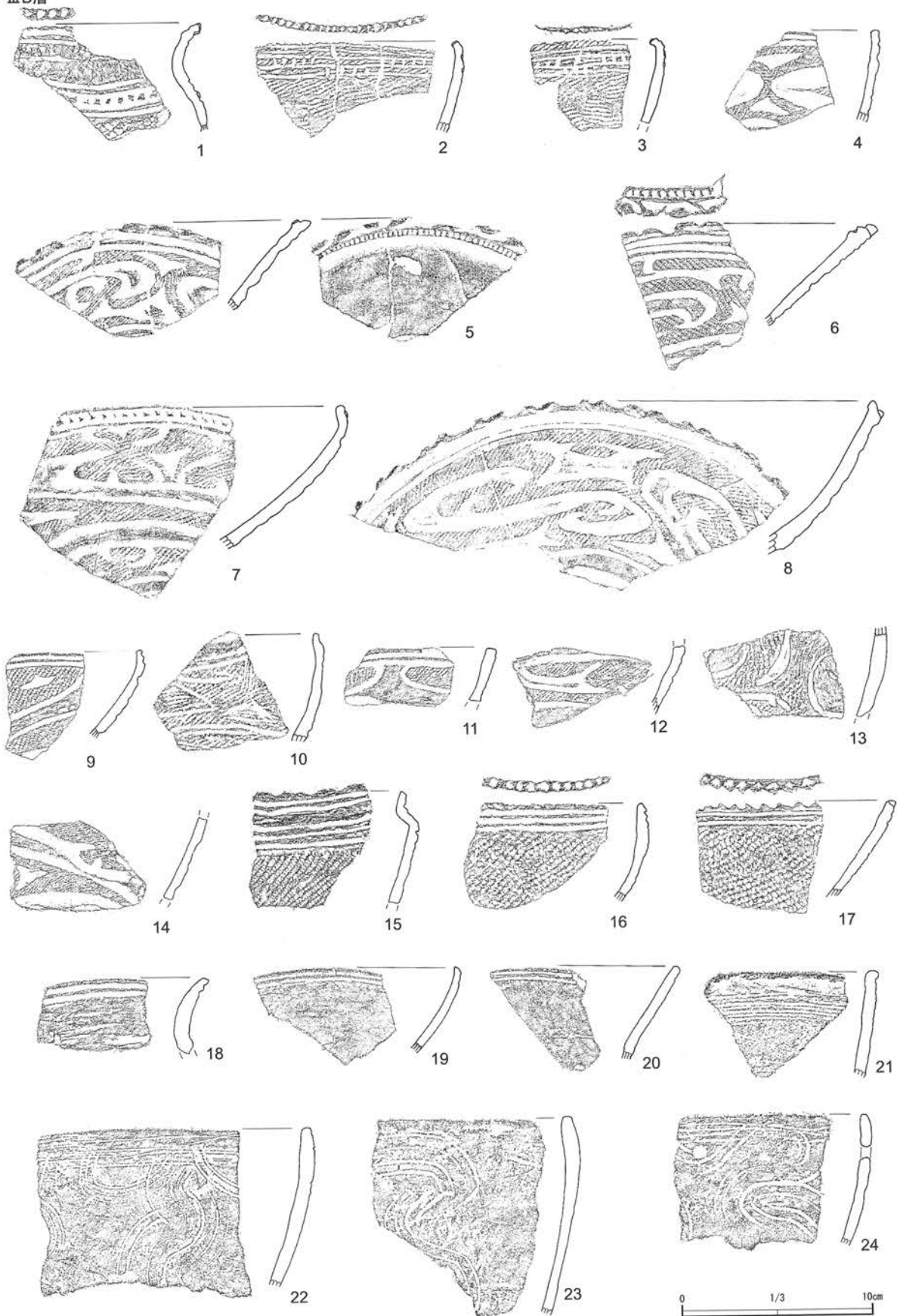


图14 IV区出土土器⑤

ⅢB層

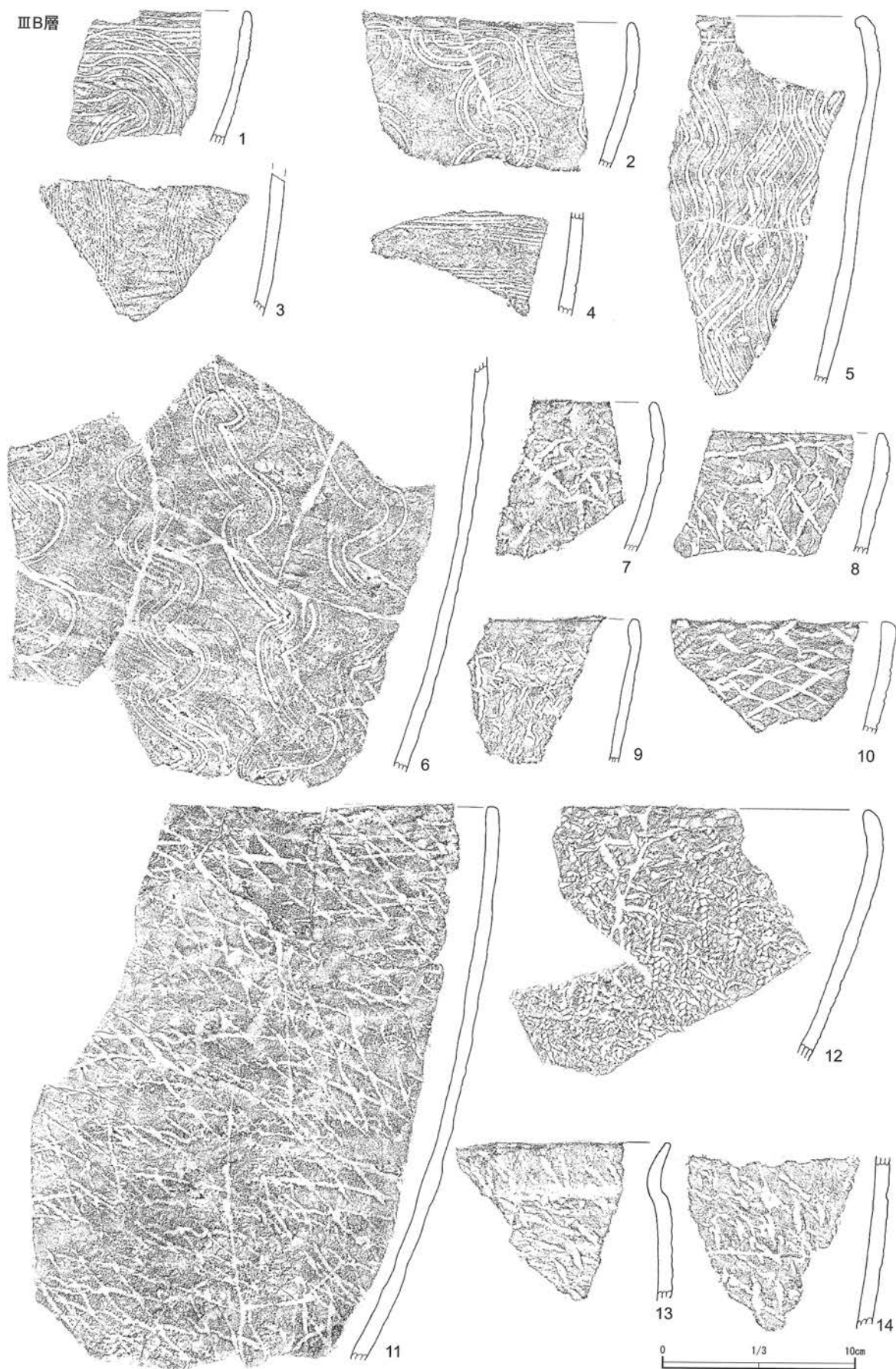
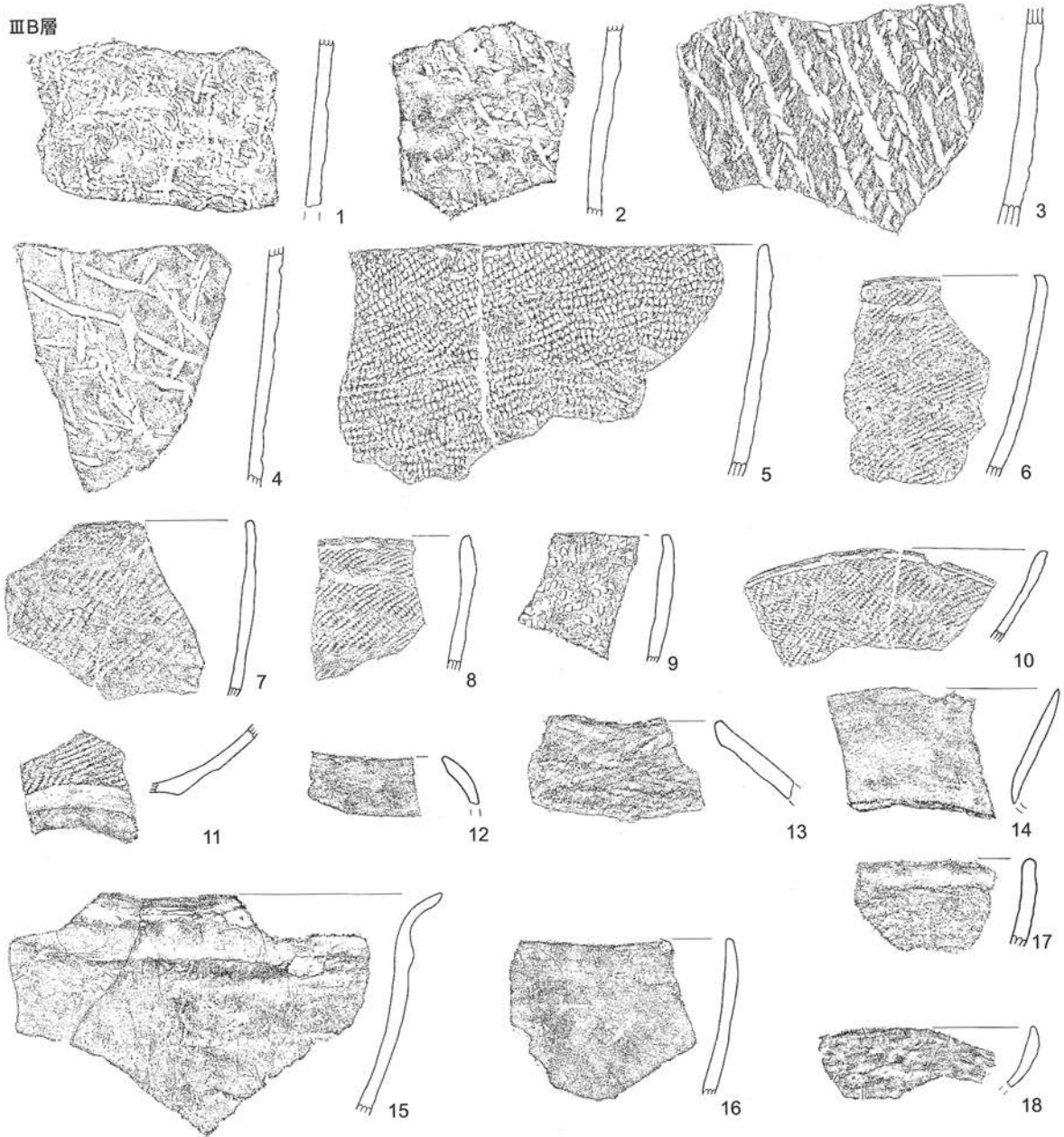


图15 IV区出土土器⑥

ⅢB層



サンプルⅢB層

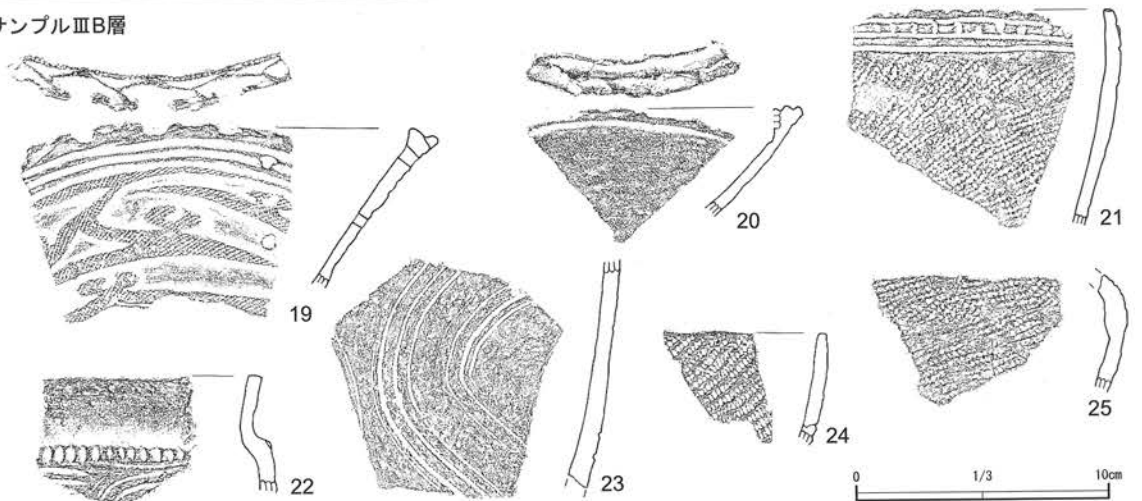


図16 Ⅳ区出土土器⑦

15は口唇部に彫去で浮彫状の装飾を加えている。16は口縁部に沈線を施したB突起を貼付している。図31-2は平底の底部から直線的に開く浅鉢で、彫去により口唇部に浮彫状の装飾が施され、胴部に雲形文が描かれている。3は口縁部が若干内湾する浅鉢で、彫去により雲形文が描出されている。4は有段丸底の浅鉢で、胴部から底部にかけて磨消縄文で雲形文を施文している。5は平底の浅鉢で、磨消縄文で雲形文を描出している。6は口縁部が内傾する器形で、幅の狭い口縁部文様帯に羊歯状文を施し、胴部には磨消縄文で雲形文を描出している。7は口縁部がやや内湾する深鉢で、羊歯状文が退化したことにより形成された、内部に刺突を持つ連結したS字状沈線が巡る。胴部には彫去により雲形文が描かれている。

Ⅳ-4類 (図17-22)

図17-22はメガネ状付帯文が施文されている。

Ⅳ-6類 (図17-5・6、18~21)

図17-5は沈線間に刺突を施して列点状の文様を描出しており、口縁部には刺突が加えられている。6・19は2段にわたり平行沈線間に刺突を施しており、19は口縁部に細かな刺突が巡っている。18・20は沈線間に刺突を加え、18は口縁部に刺突が施され、20は口縁部に沈線が入ったB突起を付している。21は口縁部に細かな刺突が加えられ、頸部には横位平行沈線が走っている。

Ⅴ-1類 (図18、図19-1~5、図31-12、図32-1)

図18-1~6は横位・蛇行櫛描文が施され、1は口縁部に横位沈線ならびに刻みを加えている。図18-7・8、図23-2~5は蛇行櫛描文を施文している。図19-1は口縁部には弧状の櫛描文を施し、その下位には不規則に櫛描文を加えている。図31-12は平底で口縁部が若干内湾する深鉢で、蛇行櫛描文が施文されている。図32-1は図31-12と同様の器形で、弧状・蛇行櫛描文が施文されている。

Ⅴ-2類 (図19-6~9、図20-1~9、図31-11、図32-2~4)

ⅢC層から出土した本類は、すべて網目状撚糸文が施されている。図32-2・3は口縁部が若干内湾する深鉢である。3は球状に近い器形を呈する胴部資料である。

Ⅴ-3類 (図20-10~14、図21-1~3、図31-10・13)

図20-10は羽状縄文、図20-11~14、図21-1・2は斜縄文が施されている。図21-3は底部資料である。図31-10は口縁部が若干内湾する浅鉢で、底部にケズリが加えられ、上底となっている。13は球形を押し潰したような器形で、底部は丸底を呈する。胴部上半には1条の横位沈線が走る。

Ⅴ-4類 (図21-4~9、図31-8・9)

図21-4は口縁部に刺突が認められる。8は浅鉢形土器で、内外面に若干のミガキが加えられている。7は内外面に丁寧なミガキ、9は外面にケズリ・ミガキが施されている。図31-8は胴部に3条の平行沈線が巡っており、9は底部に沈線が施文されている。

コラムサンプルⅢC層 (図21-10~13、図32-5)

図32-5は底部から若干内湾気味に立ち上がる器形で、底部には2条の沈線が巡り、胴部には磨消縄文により雲形文が描出されている。Ⅳ-3類に相当する。図21-10・12は横位・蛇行櫛描文が施されており、10の口縁内側には指頭圧痕が残されている。これらはⅤ-1に分類される。13は網目状撚糸文が施文されているⅤ-2類、11は斜縄文が加えられているⅤ-3類である。

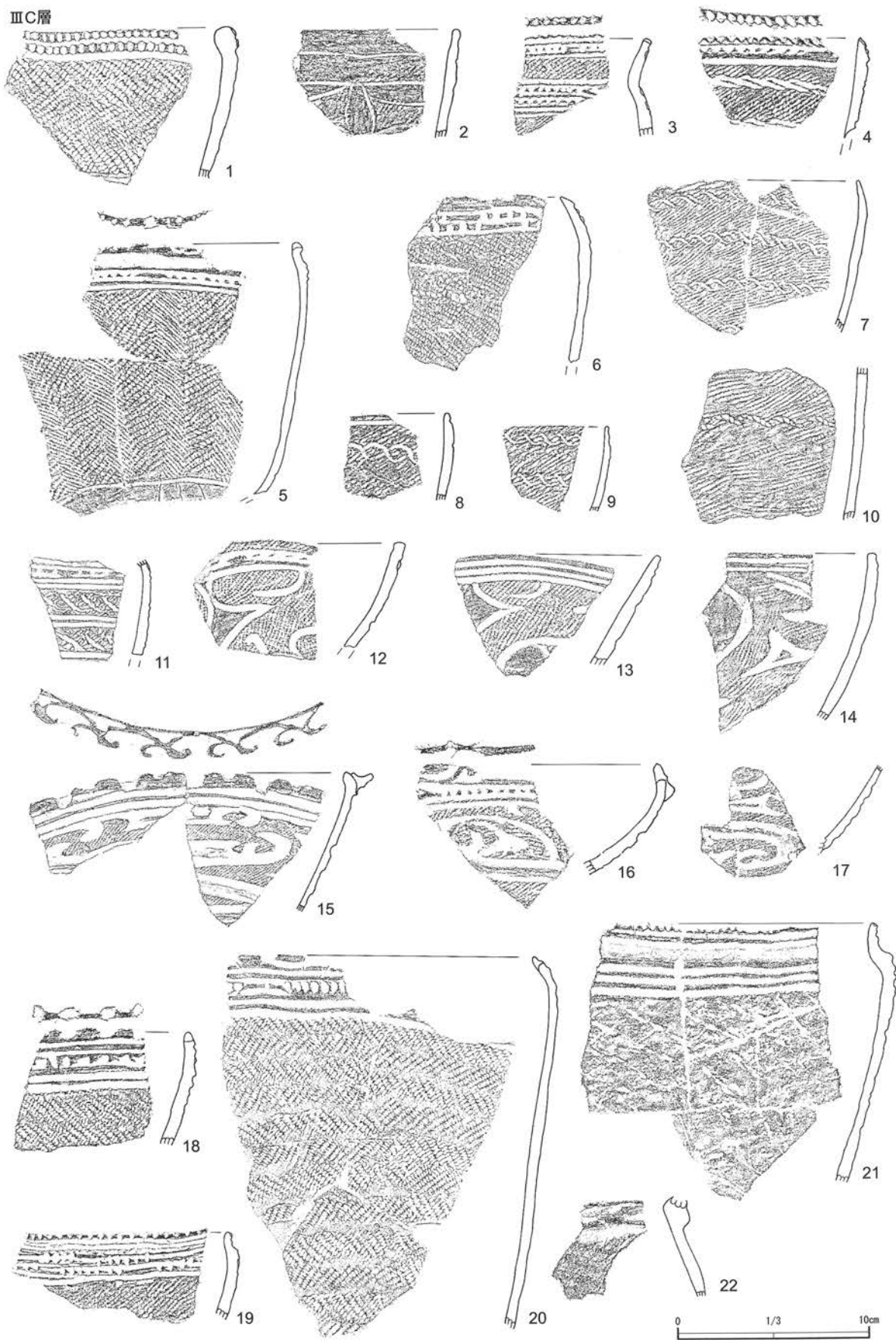


图17 IV区出土土器⑧

ⅢC層

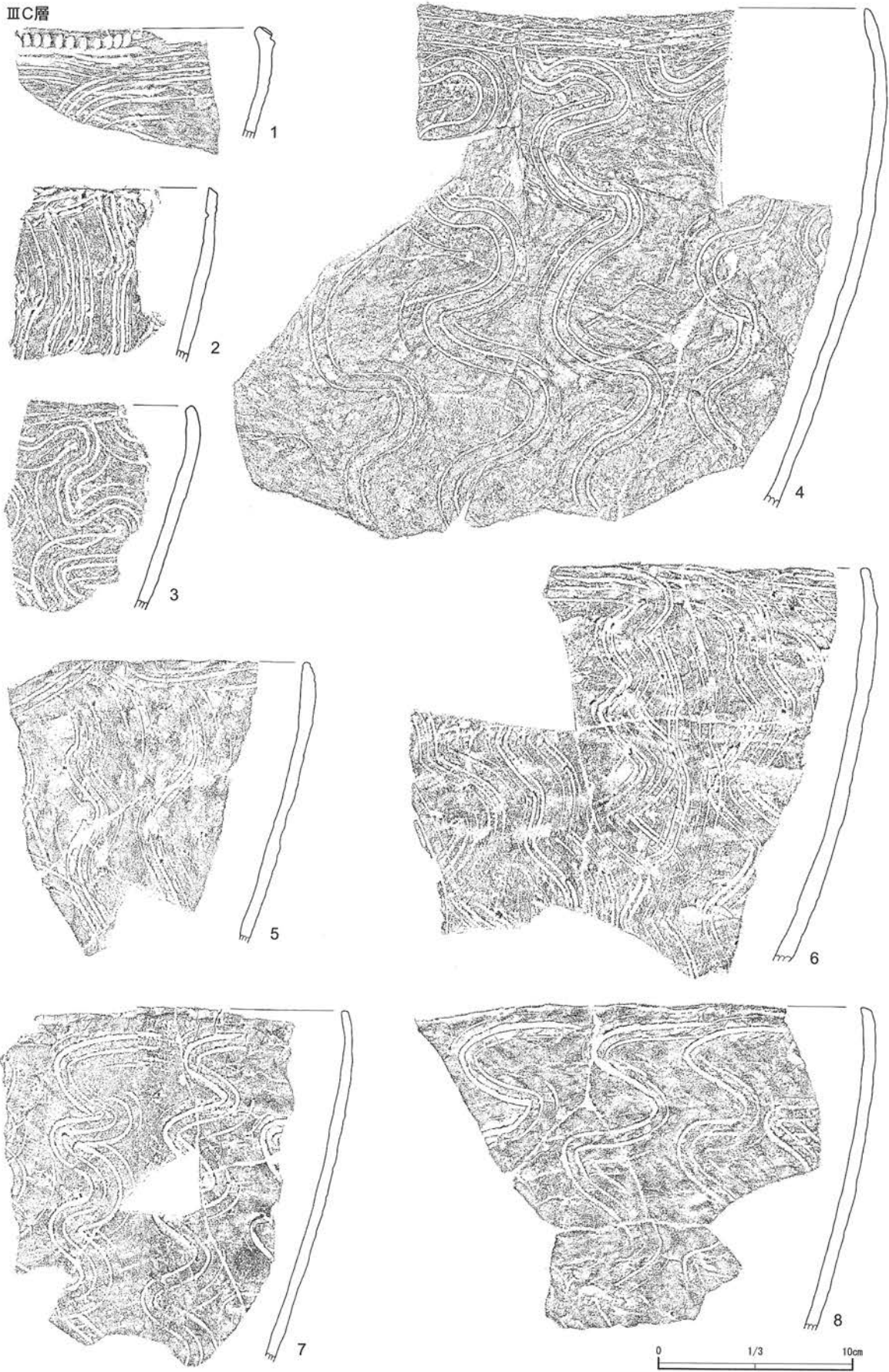


图18 IV区出土土器⑨

ⅢC層

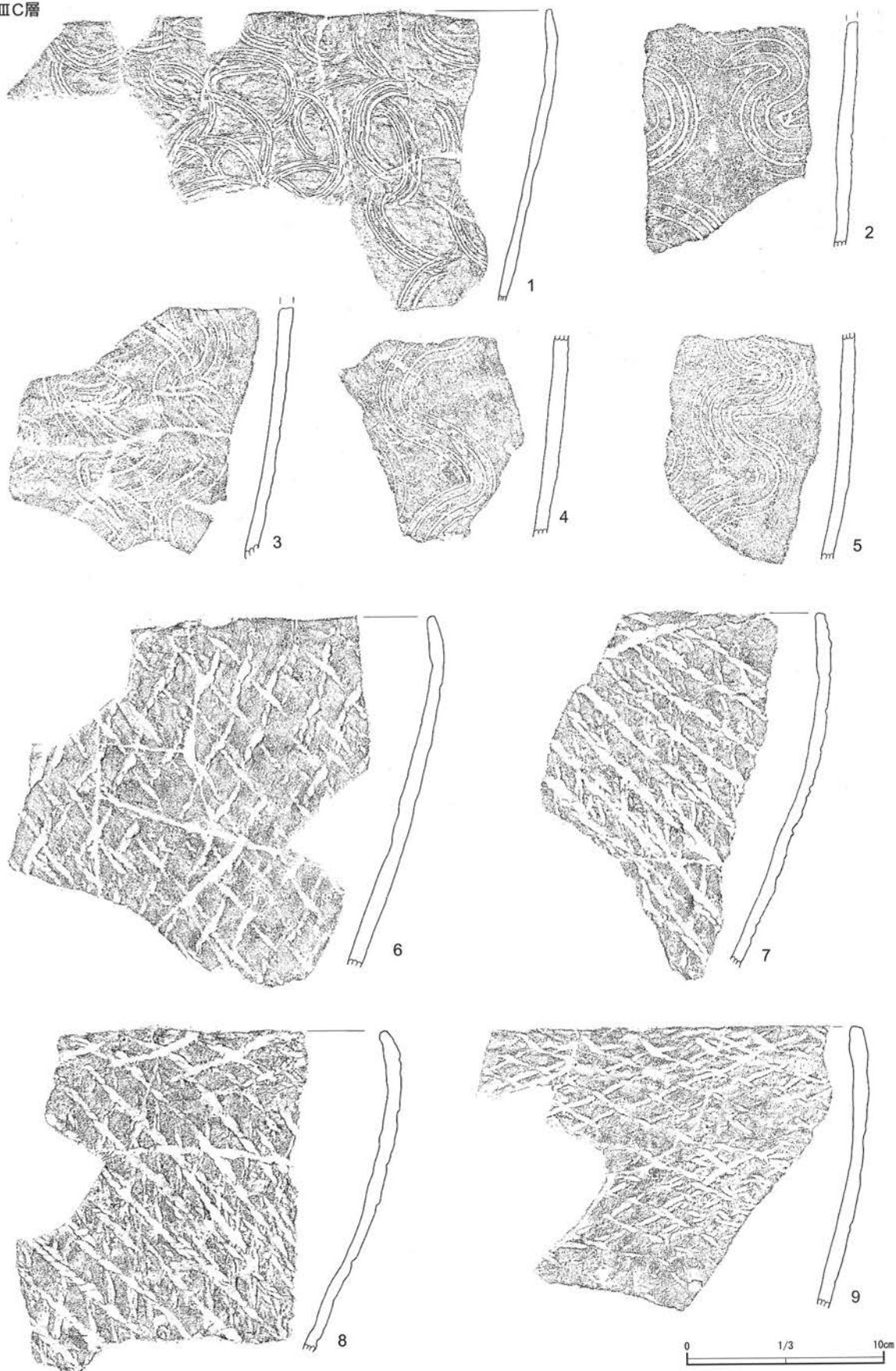


图19 IV区出土土器⑩

ⅢC層

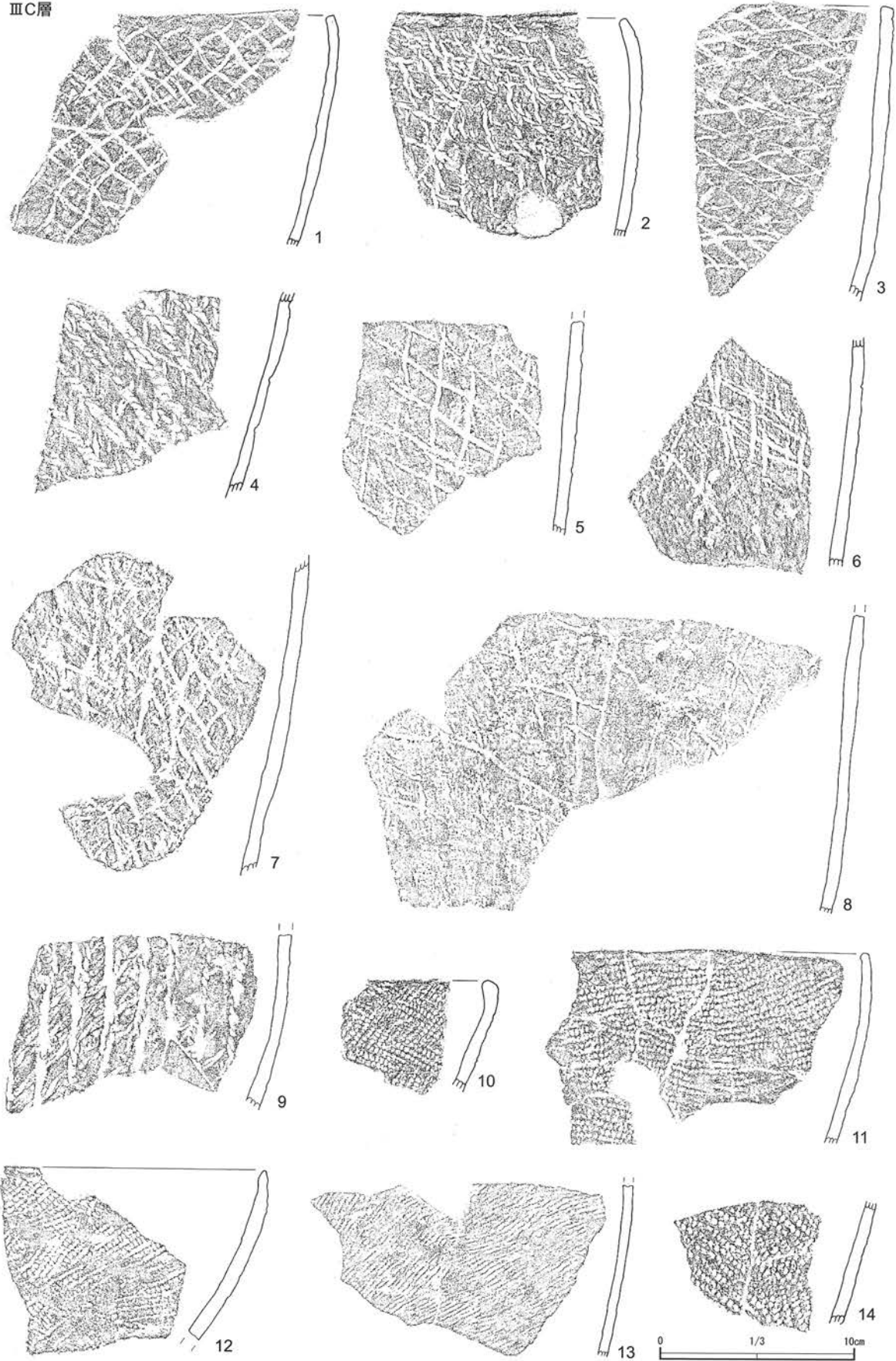
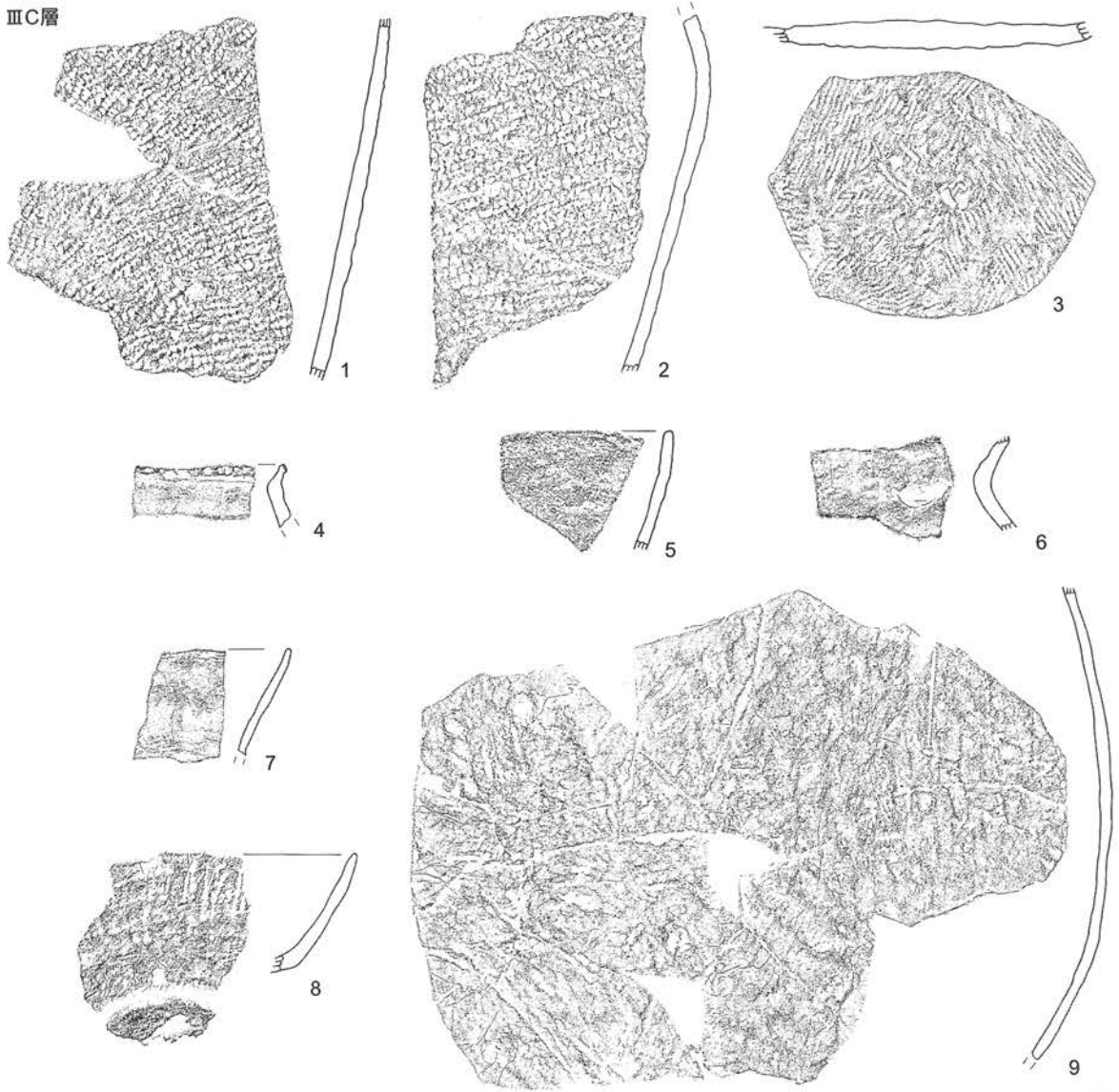


图20 IV区出土土器⑪

ⅢC層



サンプルⅢC層

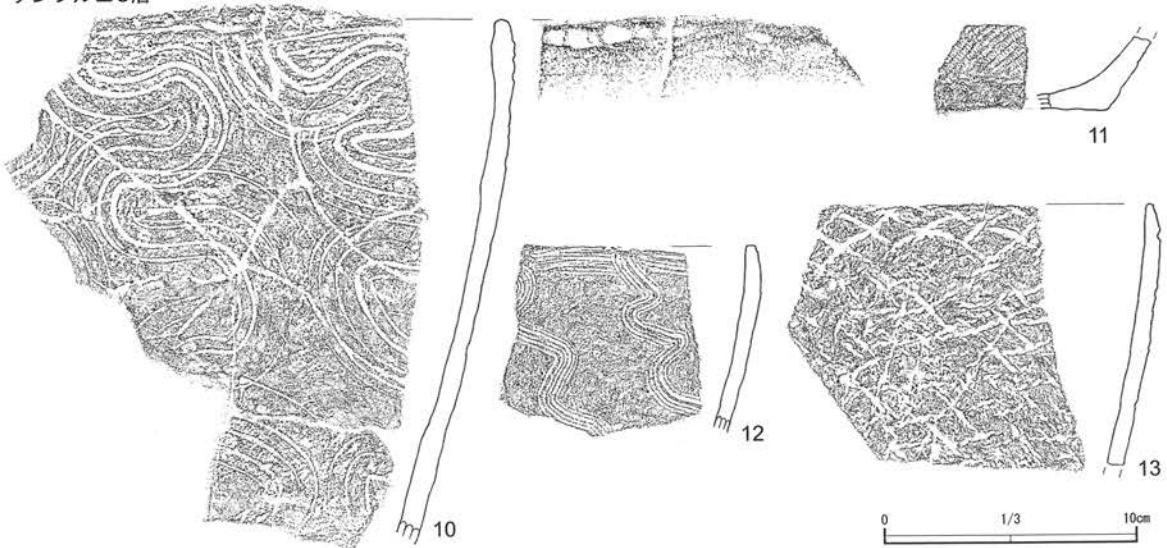


図21 Ⅳ区出土土器⑫

Ⅲ C・D層（図22、図25-1～10、図33）

Ⅲ C層の最下層およびⅢ D層の最上層にあたる。遺物が多量に出土したため層位毎に取り上げることができなかつたので一括して取り上げた。

Ⅲ-4類（図22-1）

1は弧状沈線区画で文様を描出しており、区画内には縄文を充填している。文様の起点部には突起を付している。

Ⅳ-2類（図22-2～8・12、図33-1・2）

図22-2・4は羊歯状文が施されている。12は口縁部に羊歯状文が施文され、胴部上半には磨消縄文により雲形文が描出されている。3・5～8は列点文が施文されている。図33-1は頸部で括れ、口縁部が外反する器形で、頸部に羊歯状文が施されている。2は結節縄文が施文され、底部には2条の沈線が巡っている。

Ⅳ-3類（図22-10・11・13・14・17、図33-5・6）

図22-10・11・13・14は彫去もしくは磨消縄文により雲形文を描出している。10は口縁部に列点状の文様が施され、13は口唇部に浮彫状の装飾が見られる。10はⅣ-2類に位置付けられる可能性もある。図33-5は有段の浅鉢形土器で、磨消縄文により雲形文が描かれている。6は沈線間に刺突が施され、その下位には連結したC字状のモチーフが描かれている。

Ⅳ-4類（図22-15）

15は口縁部ならびに頸部に細かい刺突を加えており、胴部にはC字状の沈線区画を配置して雲形文を描出している。

Ⅳ-6類（図22-9・16、図33-3・4）

図22-9は沈線間に刺突を加え、列点状の文様を描出している。16は口縁部ならびに口縁直下の平行沈線間に刺突が施されている。図33-3は口縁部が直線的に開く器形で、口縁部内側に列点状の文様が施文されている。4は口縁部が内傾する器形で、口縁部に沈線が施されたB突起・刺突が加えられ、その下位では沈線間に刺突を巡らせている。

Ⅴ-1類（図22-18・19、図23-1～3、図33-7）

図22-19、図23-1は横位・蛇行櫛描文、図22-18、図23-2・3は蛇行櫛描文が施文されている。図33-7は口縁が若干内湾する器形で、横位・蛇行櫛描文が加えられている。

Ⅴ-2類（図23-4、図33-8・9）

図33-8は口縁部が直線的に開く器形で、網目状撚糸文が施文されている。9は頸部で括れ、口縁部が外反する器形で、口縁部に縦位、胴部に横位の網目状撚糸文が施されている。図23-4は図33-9と器形・施文手法が類似しており、同一個体と考えられる。

Ⅴ-3類（図23-5～7、図33-10・11）

図33-10は丸底気味の底部から直線的に開く器形で、全面に縄文が施文されている。11は、胴部に2条の沈線、底部に1条の沈線が巡っている。

Ⅴ-4類（図23-8～10、図33-12～14）

図23-9・10は外面に輪積痕を残している。図33-12は底部から直線的に開く器形である。13は頸部で括れ、外反して口縁に至る器形で、底部は丸底となる。内外面ともケズリが加えられている。14は球状を呈する手捏ね土器である。

ⅢC・D層

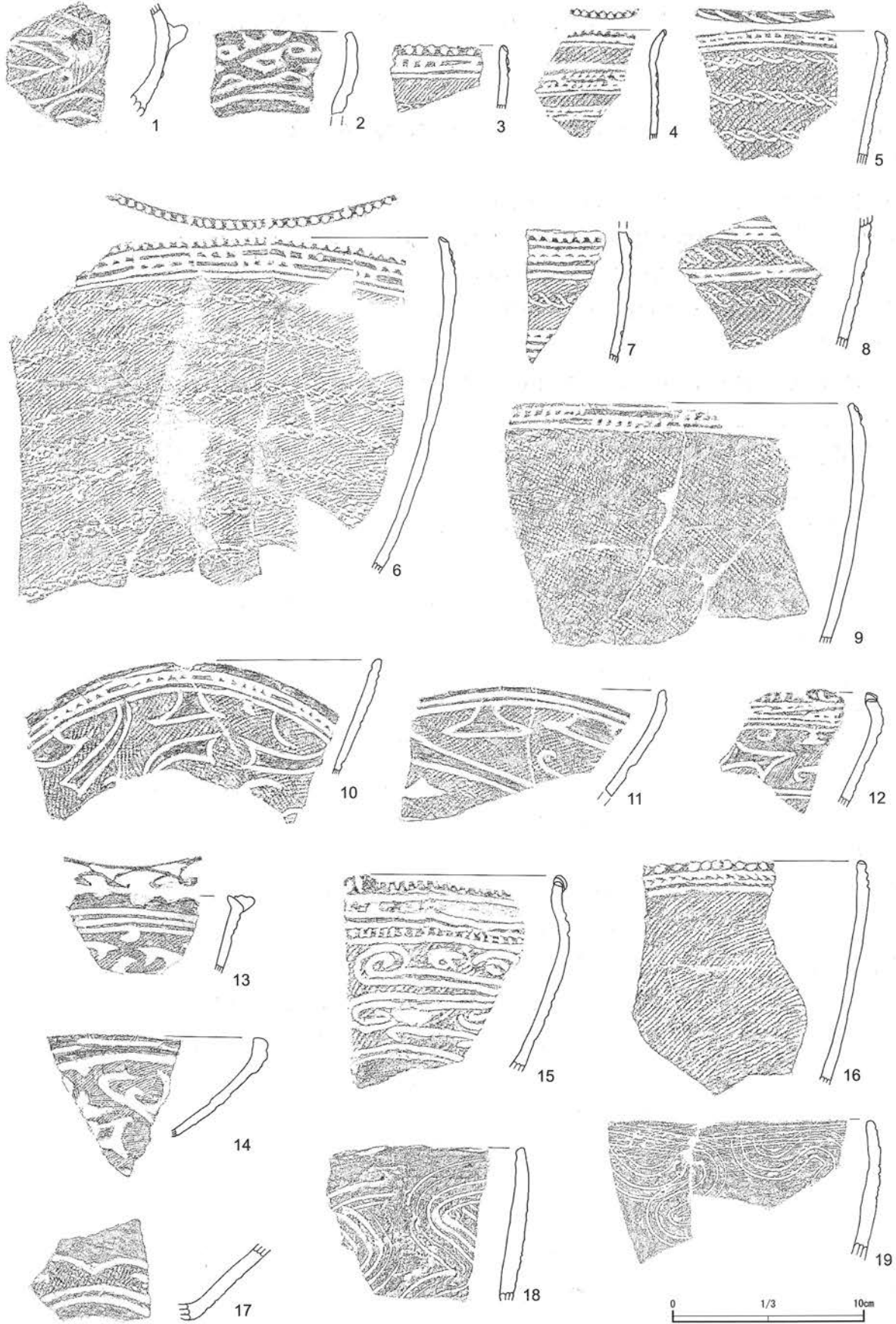


图22 IV区出土土器⑬

ⅢD層（図23-11~19、図24、図25-1~4、図34-1~11）

ⅢC層下に堆積している層で、Ⅲ-2b層の上層にあたる。

Ⅲ-4類（図23-11・12）

11は口縁部に縦割突起が付され、平行沈線区画内に縄文が充填されている。12は口縁部ならびに胴部に横位沈線が巡っている。

Ⅳ-2類（図23-13~18、図24-1、図34-1~5）

図23-13・14、図24-1は羊歯状文が施文されている。図23-15~18は結節縄文が施されている。図34-1は口縁が直線的に開く台付浅鉢で、羊歯状文が加えられている。2は有段の浅鉢で、口縁部には突起が貼付されている。胴部から底部にかけて結節縄文が施文され、底部中央は円形のケズリが施されている。3は頸部で括れ、口縁が外反する器形で、頸部に羊歯状文が施されている。4は口縁部が若干内湾する深鉢で、結節縄文が加えられている。5は底部資料で、結節縄文が巡っている。

Ⅳ-3類（図23-19、図34-7・8）

図23-19は注口土器と推測される破片で、肩部には三叉状・半円状の沈線が施され、胴部下半には磨消縄文のより雲形文が描かれている。図34-7は口縁部が若干内湾する器形で、磨消縄文により雲形文が描出されている。8は口頸部が外反する、いわゆる算盤玉形を呈する注口土器であるが、注口部を欠損している。口唇部には突起が付され、浮彫状の装飾が施されている。肩部には彫り込みによる突起列が巡り、胴部上半および下半は磨消縄文により文様が描かれている。

Ⅳ群（図34-6）

図34-6は有段の浅鉢で、2条の沈線が横走する。

V-1類（図24-2~7）

2~6は横位・蛇行櫛描文、7は蛇行櫛描文が施文されている。

V-2類（図24-8~14）

8~14は網目状撚糸文が施されている。

V-3類（図24-15~18、図25-1・3、図34-9・10）

図34-9は2条の沈線が巡っている。10は球状を呈する胴部資料である。

V-4類（図25-2・4）

2は外面に輪積痕を残し、4は外面にケズリを加えている。

コラムサンプルⅢD層（図25-5~7、図34-11）

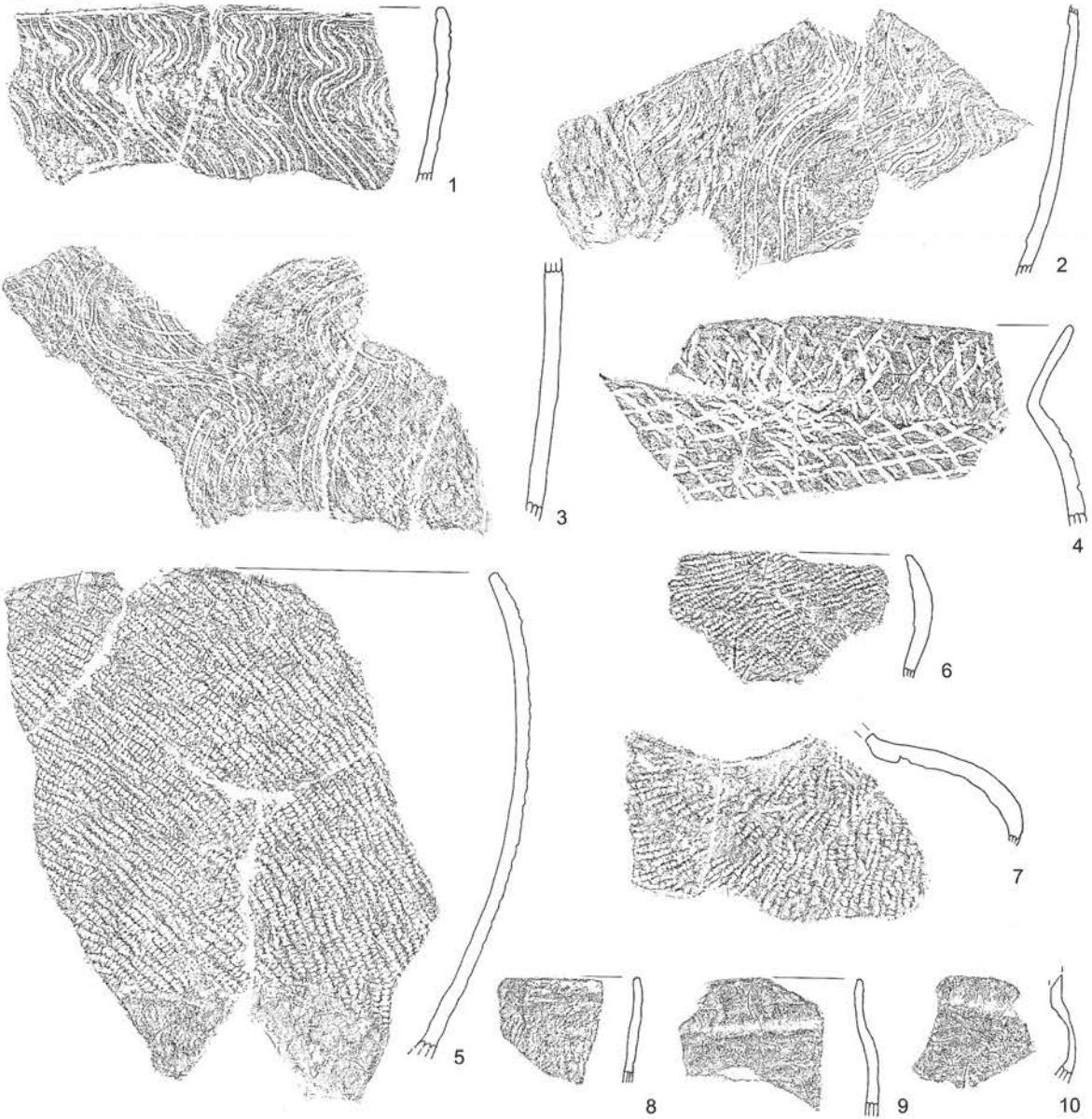
図25-5は口縁部に羊歯状文が施され、胴部上半には磨消縄文により雲形文が描出されている。図22-12と同一個体である。図34-11は頸部で括れ、口縁部が若干外反する器形で、口縁部・頸部・胴部に列点文が施文されている。これらはⅣ-2類に相当する。図25-6は横位・蛇行櫛描文が加えられているV-1類、7は網目状撚糸文が施文されているV-2類である。

ⅢD・E層（図25-8~13）

ⅢD層の最下層およびⅢE層の最上層にあたる。平面観察では、一部分で明確に分層ができなかったため一括して取り上げた。

図25-8は口縁部に刻みが施されている。9は沈線区画内に縄文を充填している。11は波状口縁で内外面に丁寧なミガキを加えている。これらはⅢ-3類に分類される。12は弧状沈線で文様が描かれており、Ⅲ-4類と判断される。13は底部に櫛描文が施文されているV-1類、10は羽状縄文が施されているV-3類である。

ⅢC・D層



ⅢD層

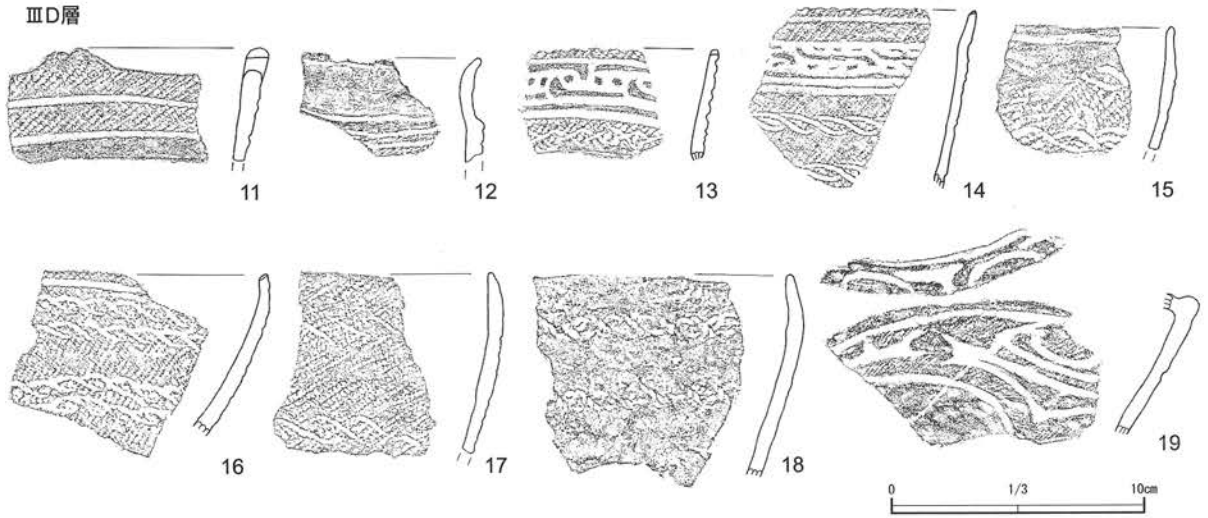


图23 Ⅳ区出土土器⑭

ⅢE層（図25-14～26、図26、図27-1～10、図35、図36-7）

ⅢD層下に堆積する層で、Ⅲ-2b層の中層にあたる。

Ⅲ-3類（図35-11）

図35-11は台付土器の台部で沈線区画内に縄文を充填している。

Ⅲ-4類（図25-14～23、図35-1・2）

図25-14は口縁部に縄文を施し、突起の形状に合わせて山形状の沈線を加えている。15～17・19・20・23は沈線区画内に縄文を充填している。15・19は口縁部に縦割突起が、20は文様の起点部に小突起が貼付されている。21・22は沈線区画内に刻みを施しており、21は小突起、22は橋状把手が付されている。図35-1は頸部で括れる器形で、弧状沈線内に縄文を充填し、弧状沈線の起点には小突起が加えられている。2は胴部が球状を呈する異形台付土器で、台部を欠損している。数条の弧状沈線が走り、弧状沈線の起点部には小突起が貼付されている。

Ⅳ-2類（図25-24～26、図35-3～6・8）

図25-24・26は羊歯状文が施されている。25は列点文が施文されている。図35-3・4は口縁部が内湾する器形で、3は列点文ならびに結節縄文、4は結節縄文が施されている。5は頸部で括れ、口縁が外反する器形で、口縁部・頸部に列点文が施文されている。8は台部を欠損している台付浅鉢で、有段で口縁が大きく外反する器形である。口縁部と頸部には列点文が施され、胴部には弧状沈線が加えられている。

Ⅳ-3類（図26-4、図35-9）

図26-4は口縁部に列点状の文様が施文され、胴部に磨消縄文により雲形文が描出されている。図22-10と同一個体で、Ⅳ-2類に位置付けられる可能性もある。図35-9は台部を欠損している台付浅鉢で、口縁部が直線的に開く器形である。口唇部に彫去により浮彫状の装飾が施され、胴部には磨消縄文で雲形文が描かれている。

Ⅳ-6類（図26-1～3）

図26-1は口縁部にC字状の沈線が施文され、その下位には沈線内に刺突を施している。2・3は口縁部に刺突が加えられ、その下位の沈線間にも刺突が施されている。

Ⅴ-1類（図26-5～16、図36-1～3）

ⅢE層から出土した本類には、横位・蛇行櫛描文が施文されているものが多く見られる。図26-9は口唇部に刺突が加えられている。7・11は施文手法が類似しており、同一個体の可能性が高い。図36-1は口縁部が直線的に開く深鉢で、横位・蛇行櫛描文が施文されている。2は口縁部が若干外反する小型土器で、不規則に斜位櫛描文が施され、外面に指頭圧痕が残されている。

Ⅴ-2類（図26-17・18）

図26-17・18は網目状撚糸文が施文されている。

Ⅴ-3類（図27-1～9、図35-7、図36-4～6）

図27-1は3条の沈線が横走している。図35-7は、底部に沈線が2条巡っている。図36-4は頸部で括れ、口縁部が外反する器形である。口縁部に突起が付され、器面全体にLR縄文が施文されている。5は底部にケズリが加えられ、上底となっている。

Ⅴ-4類（図27-10、図35-10、図36-7）

図35-10は台付土器の台部で、沈線が施されている隆帯・突起が付されている。図36-7は頸部で括れ、口縁が外反する短頸壺で、胴部中程に最大径を持つ。

ⅢD層

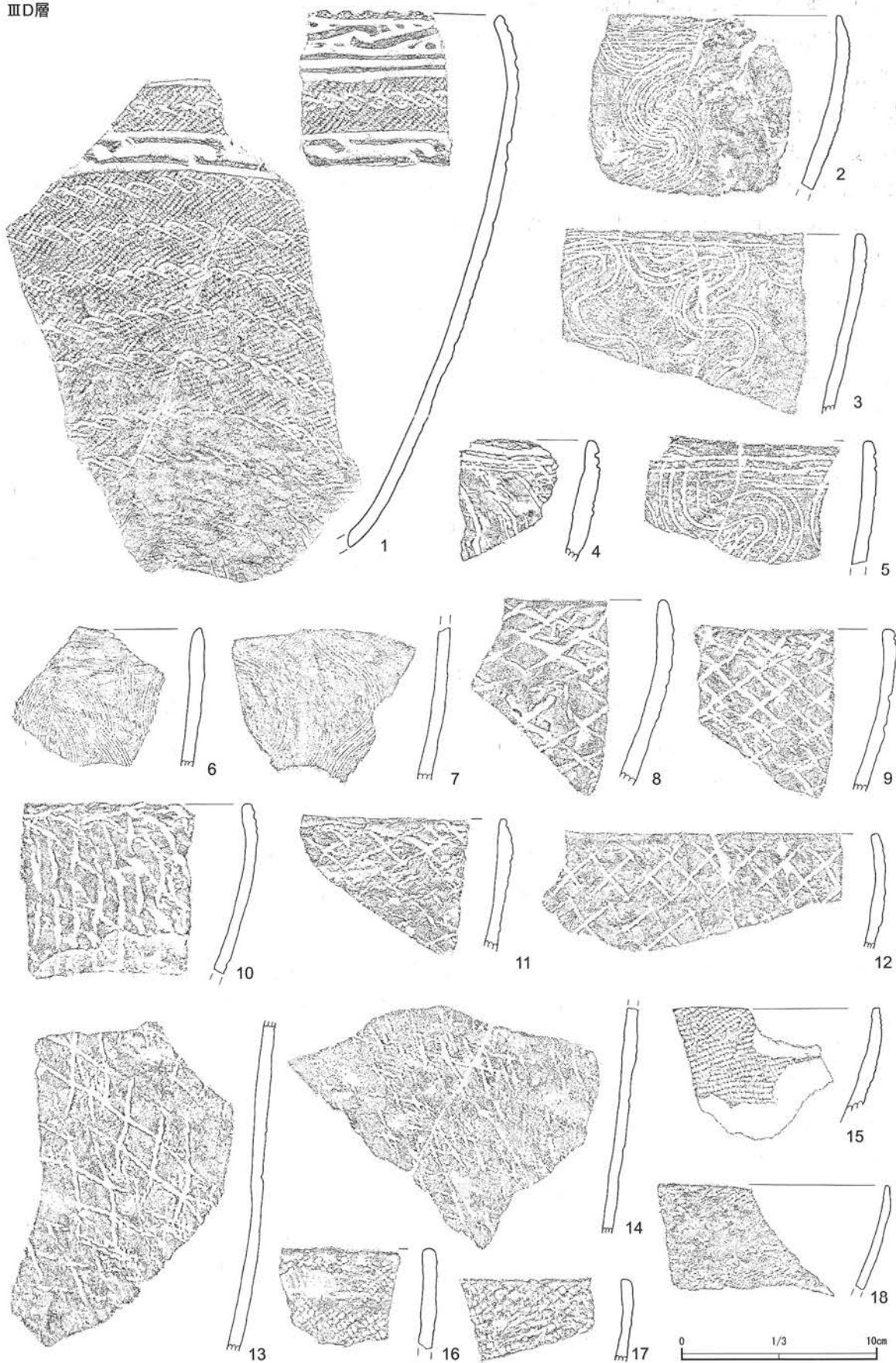


图24 IV区出土土器⑮

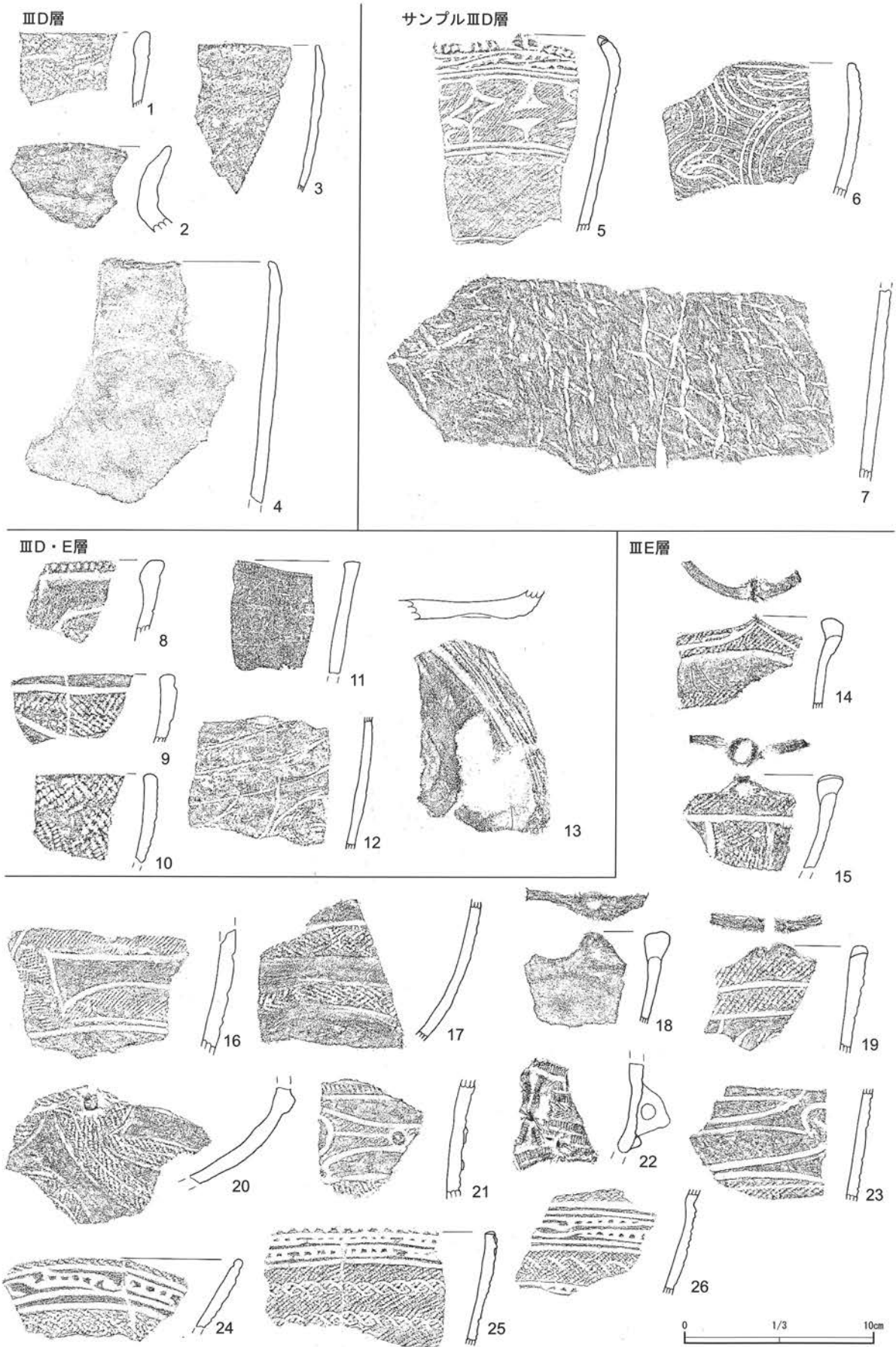


图25 IV区出土土器①

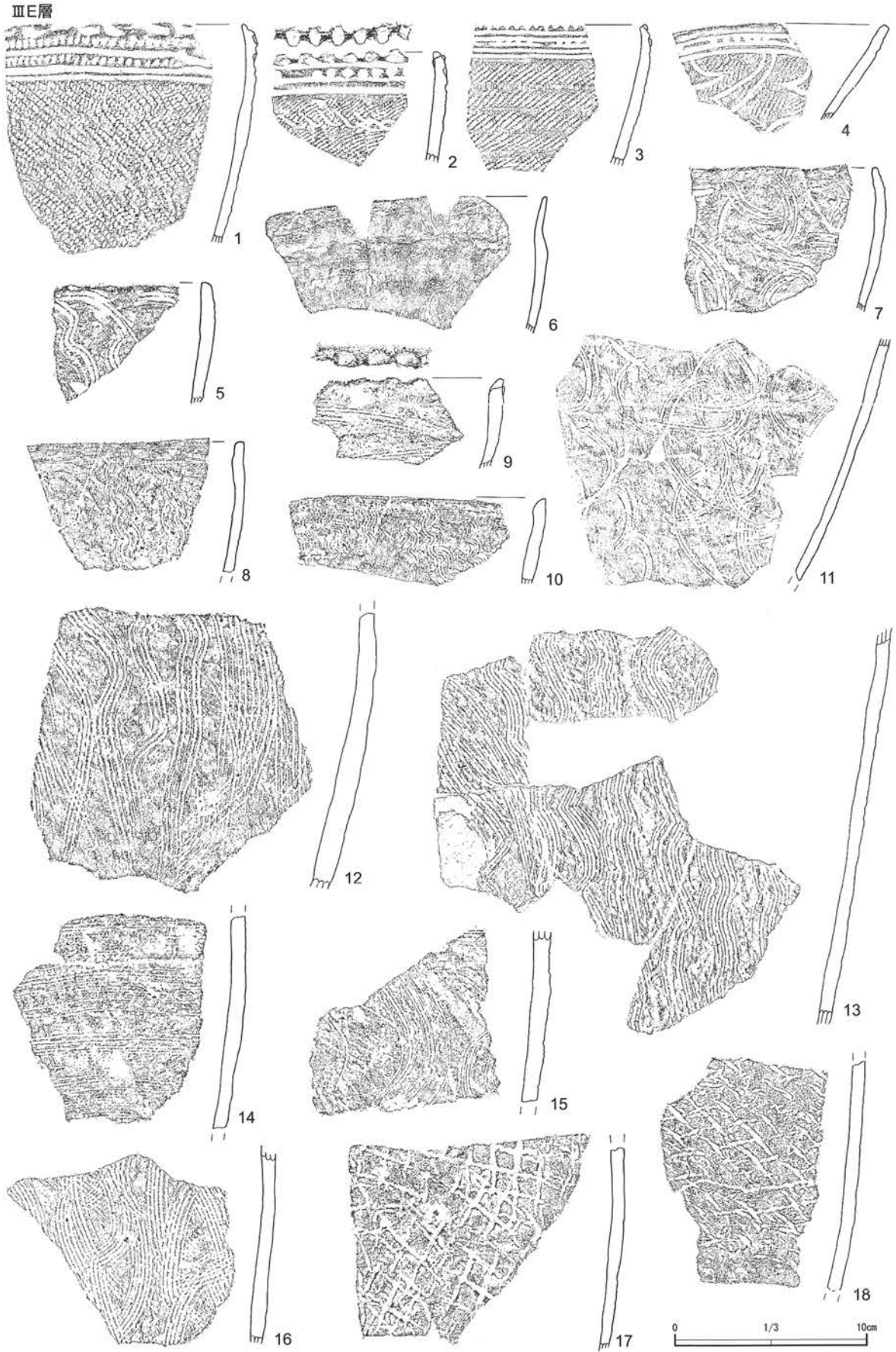
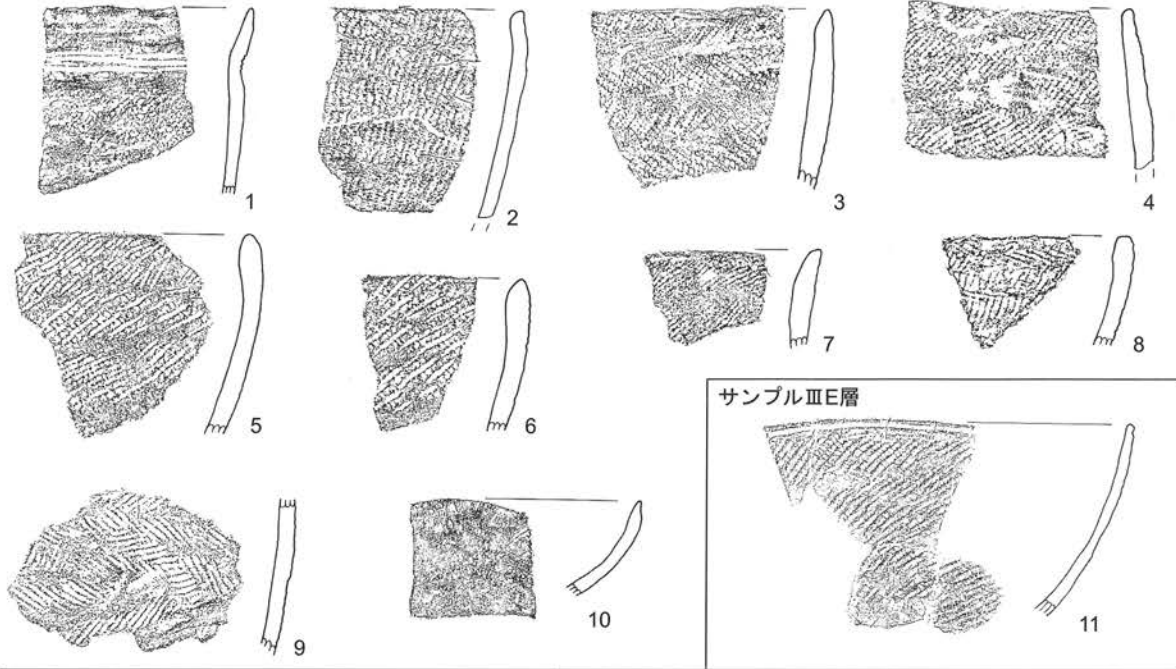


图26 IV区出土土器①

ⅢE層



ⅢF層

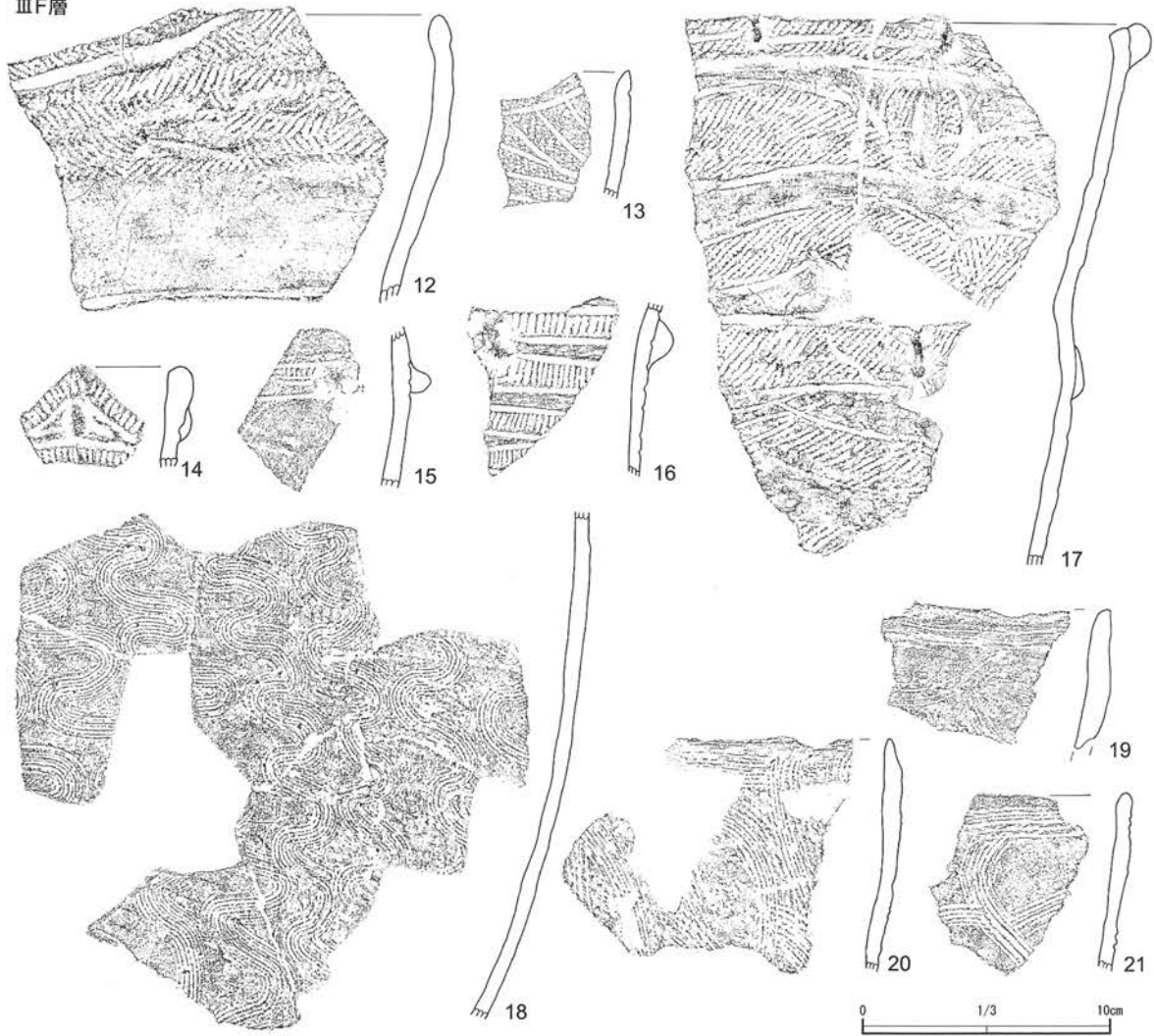


図27 IV区出土土器⑩

コラムサンプルⅢE層 (図27-11)

図27-11は口縁部に横位沈線が1条施され、その下位には斜縄文が施文されている。V-3類に分類される。

ⅢF層 (図27-12~22、図28-1~7、図36-8~10)

ⅢE層下に堆積する層で、Ⅲ-2b層の下層にあたる。

Ⅲ-3類 (図27-12・13)

図27-12・13は口縁が波状を呈し、口縁の形状に沿って沈線が施されている。13は口縁部から胴部に向かい数条の沈線が施文されている。

Ⅲ-4類 (図27-14~17)

図27-14~16は口縁部ならびに沈線区画内に刻みを加え、突起を貼付している。17は沈線区画内に縄文を充填し、突起を付している。

V-1類 (図27-18~21、図28-1、図36-10)

図27-18は蛇行櫛描文、19~21は横位・蛇行櫛描文、図28-1は横位櫛描文が施されている。図36-10は平底の底部で、縦位櫛描文が認められる。

V-3類 (図28-2~5)

2は突起が貼付されている。3・4は斜縄文、5は羽状縄文が施文されている。

V-4類 (図28-6・7、図36-8・9)

図28-6・7は内外面にミガキが加えられている。図36-9は胴部ならびに底部にケズリが施されている。

コラムサンプルⅢF層 (図28-8~11)

図28-8は内外面に丁寧なミガキが加えられている。9は数条の弧状平行沈線が認められる。8・9はⅢ-3類に相当する。10は横位・縦位の櫛描文で方形を描出している。11は横位櫛描文が施文されている。これらはV-1類に分類される。

Ⅲ-2a・2b層 (図28-12~21、図29、図36-11~15)

Ⅳ-2類 (図28-12・13・16)

12は口縁部ならびに頸部に列点文が施され、13・16は結節縄文が加えられている。

Ⅳ-3類 (図28-14・17・18、図36-11)

14・17・18は磨消縄文により雲形文が描出されている。図36-11はC字状沈線が配置された長円形区画・三角形の区画により雲形文が描かれている。

Ⅳ群 (図28-19)

図28-19は磨消縄文が施されている。

Ⅳ-6類 (図28-20・21、図29-1・2)

図28-20は平行沈線間に刺突が加えられており、口縁部は小波状を呈する。21は2段にわたり平行沈線間に刺突が施され、口縁部内側には刻みが認められる。図29-1・2は小波状の口縁部で、数条の沈線が横走している。2は胴部に縦位の櫛描文が施文されている。

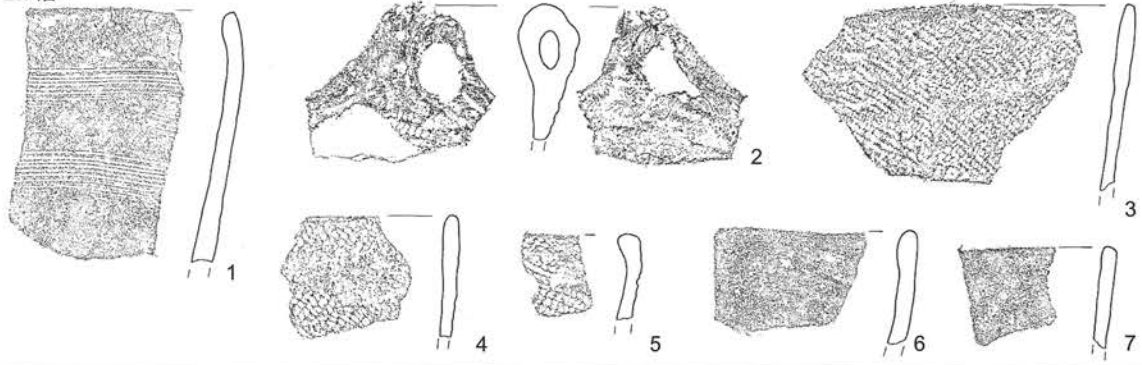
Ⅳ群 (図28-15)

15は注口土器で、肩部には彫り込みにより突起列が巡っている。

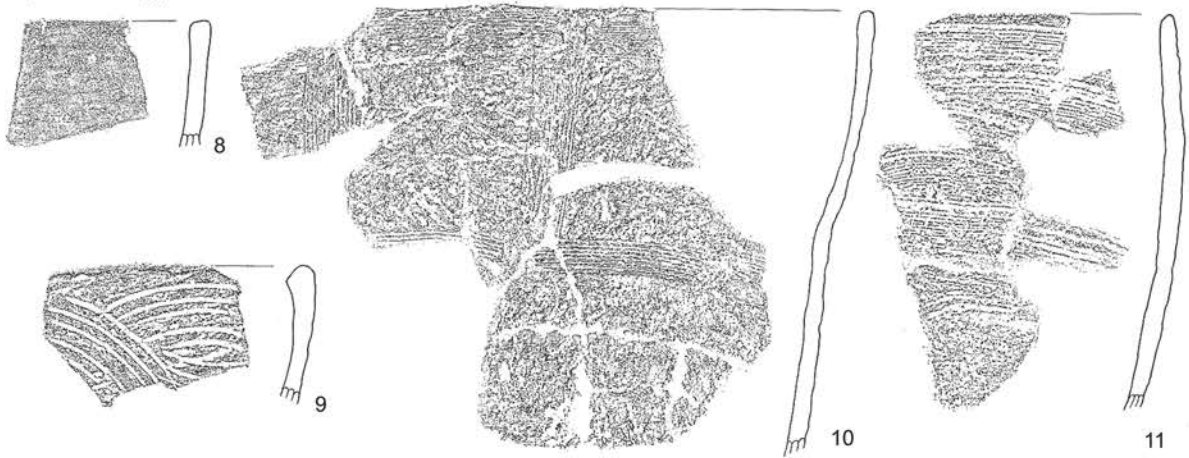
V-1類 (図29-3~6)

3~6は横位・蛇行櫛描文が施されている。3は外面に指頭圧痕が認められる。

ⅢF層



サンプルⅢF層



Ⅲ-2a・2b層

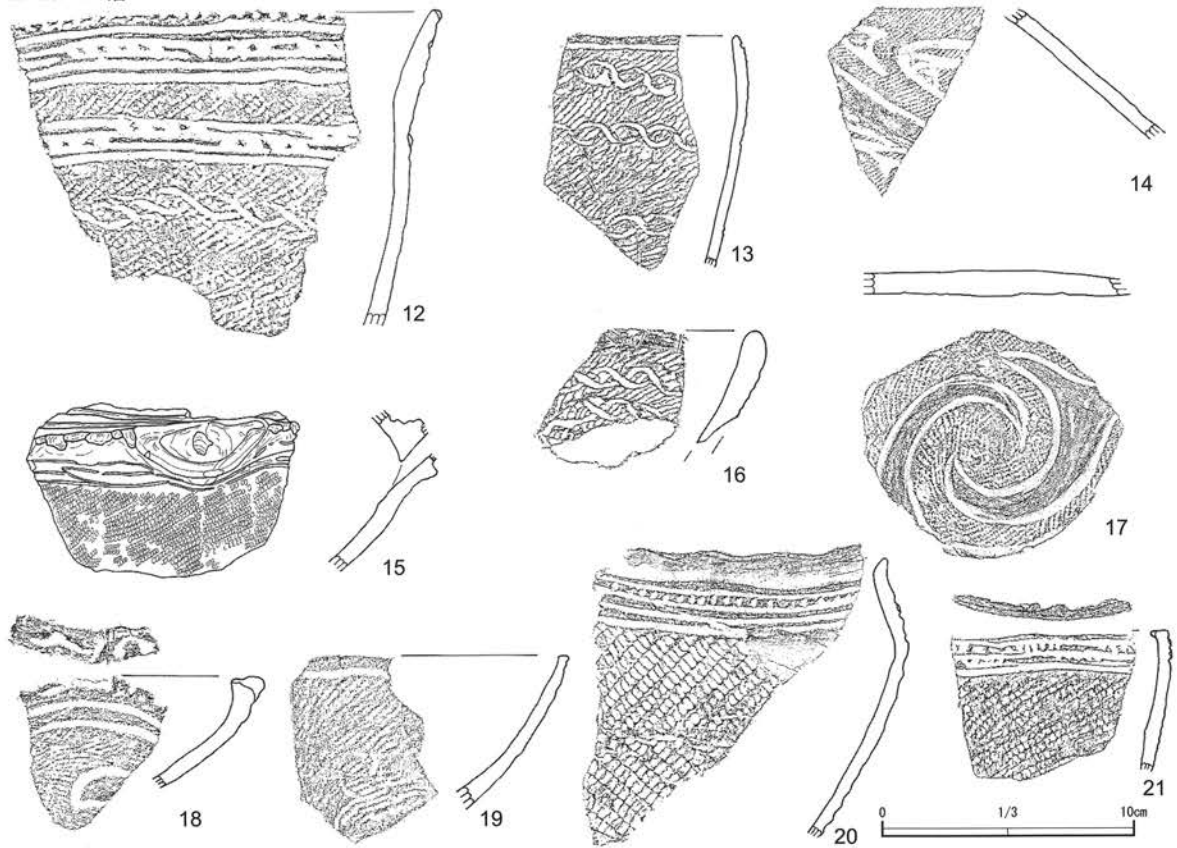


図28 Ⅳ区出土土器①

Ⅲ-2a・2b層

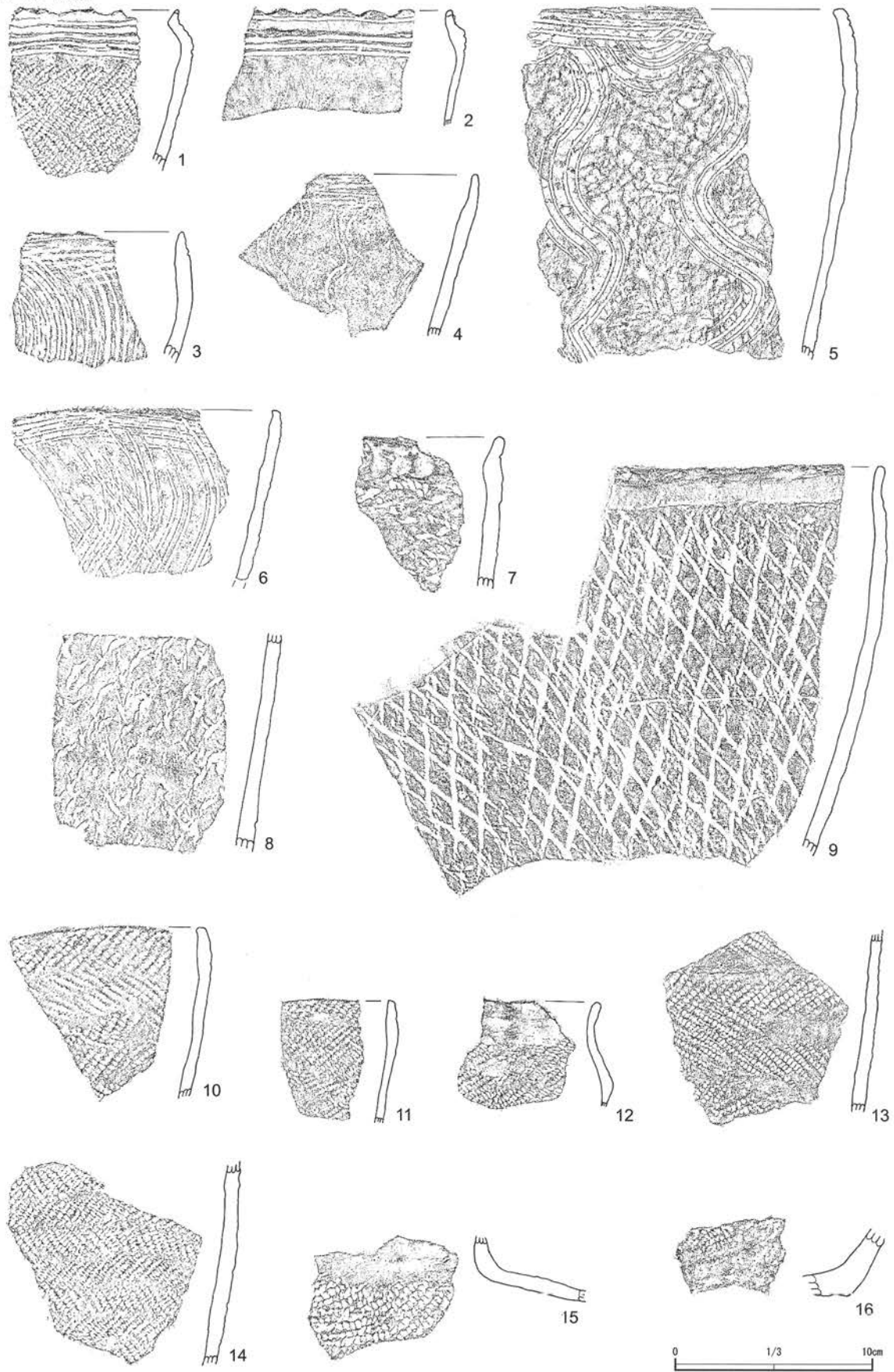


图29 IV区出土土器⑳

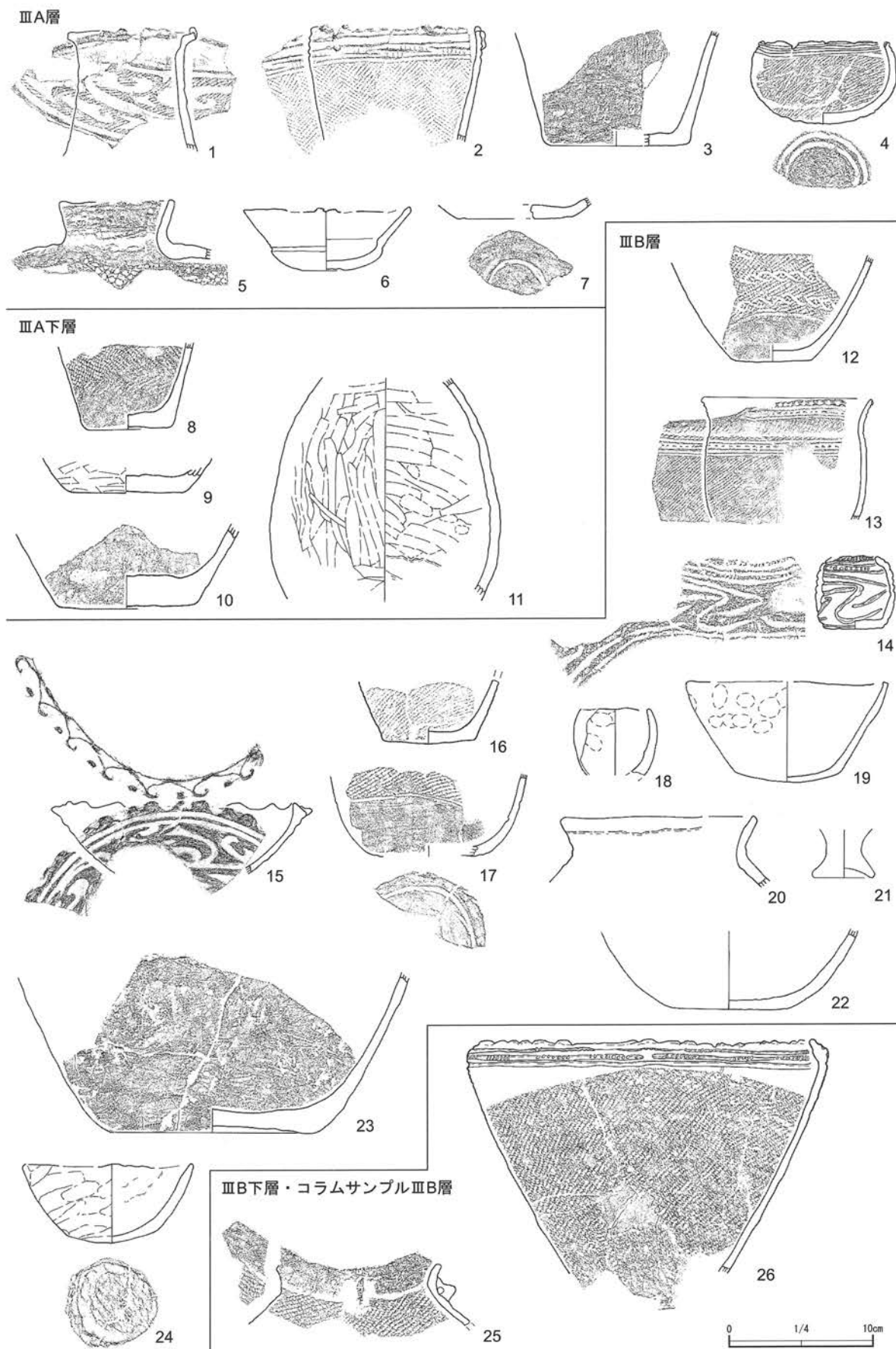


図30 IV区出土土器①

ⅢC層

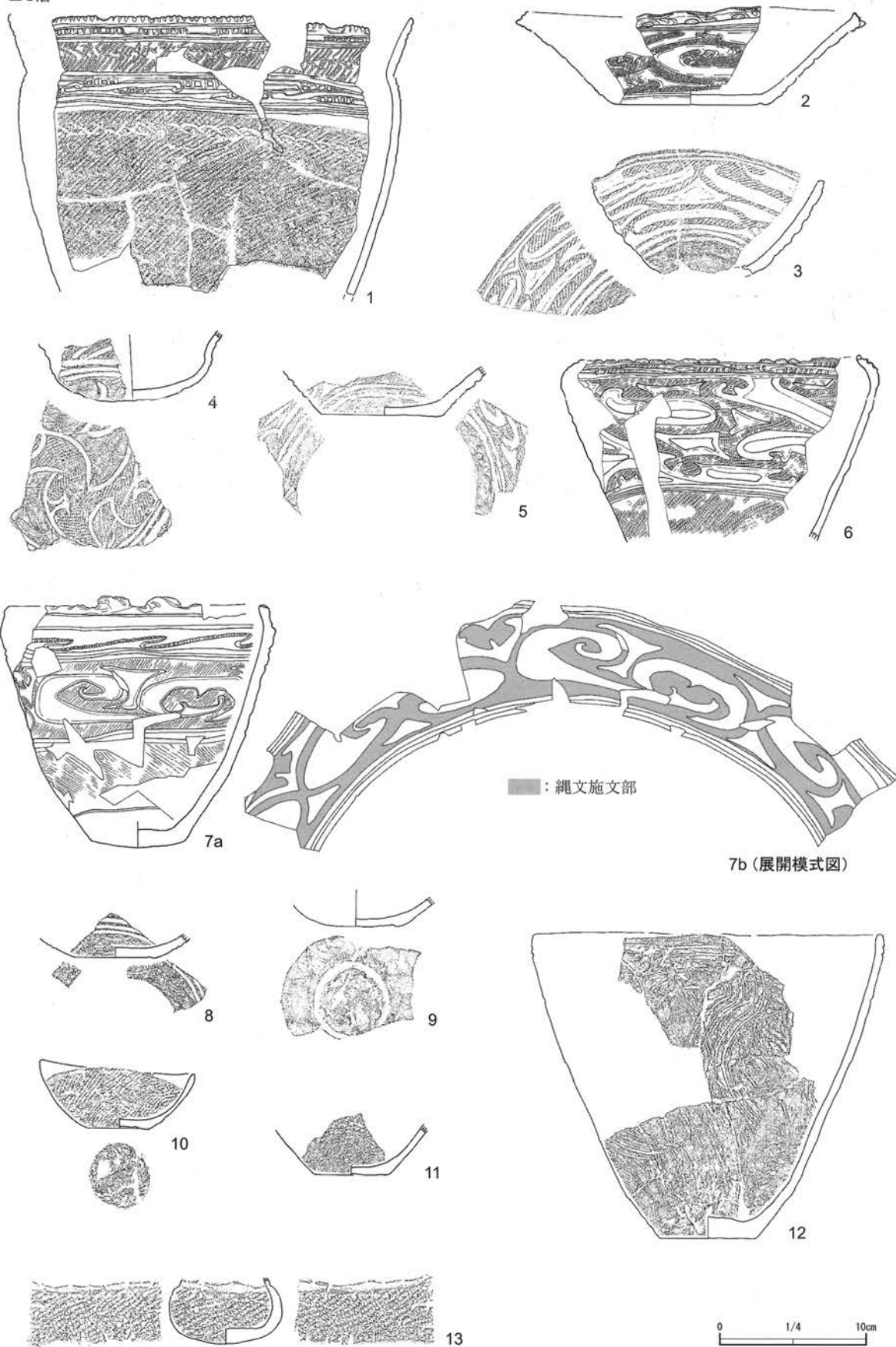


图31 IV区出土土器②

ⅢC層

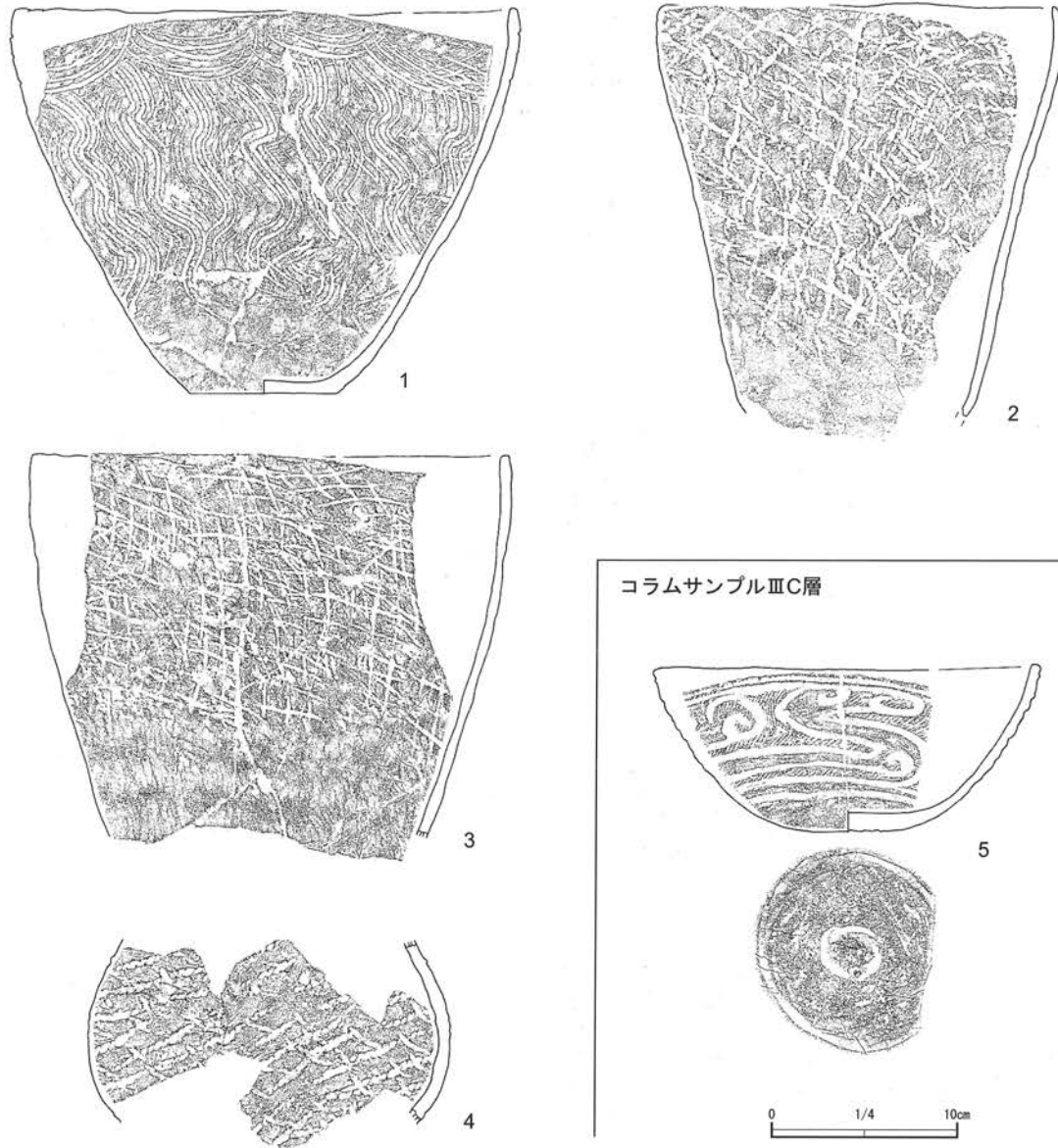


図32 IV区出土土器⑳

V-2類 (図29-7~9)

7~9は網目状撚糸文が加えられている。7は口縁部に指頭圧痕を残している。9は口縁部にケズリを加えて段を作り出している。

V-3類 (図29-10~16、図36-12~15)

図29-12は頸部の縄文を磨り消している。図36-13は口縁部が短く外反する短頸壺である。図29-15も口縁部が短く外反する短頸壺と考えられる。図36-14は底部にケズリを施している。

ⅢC・D層

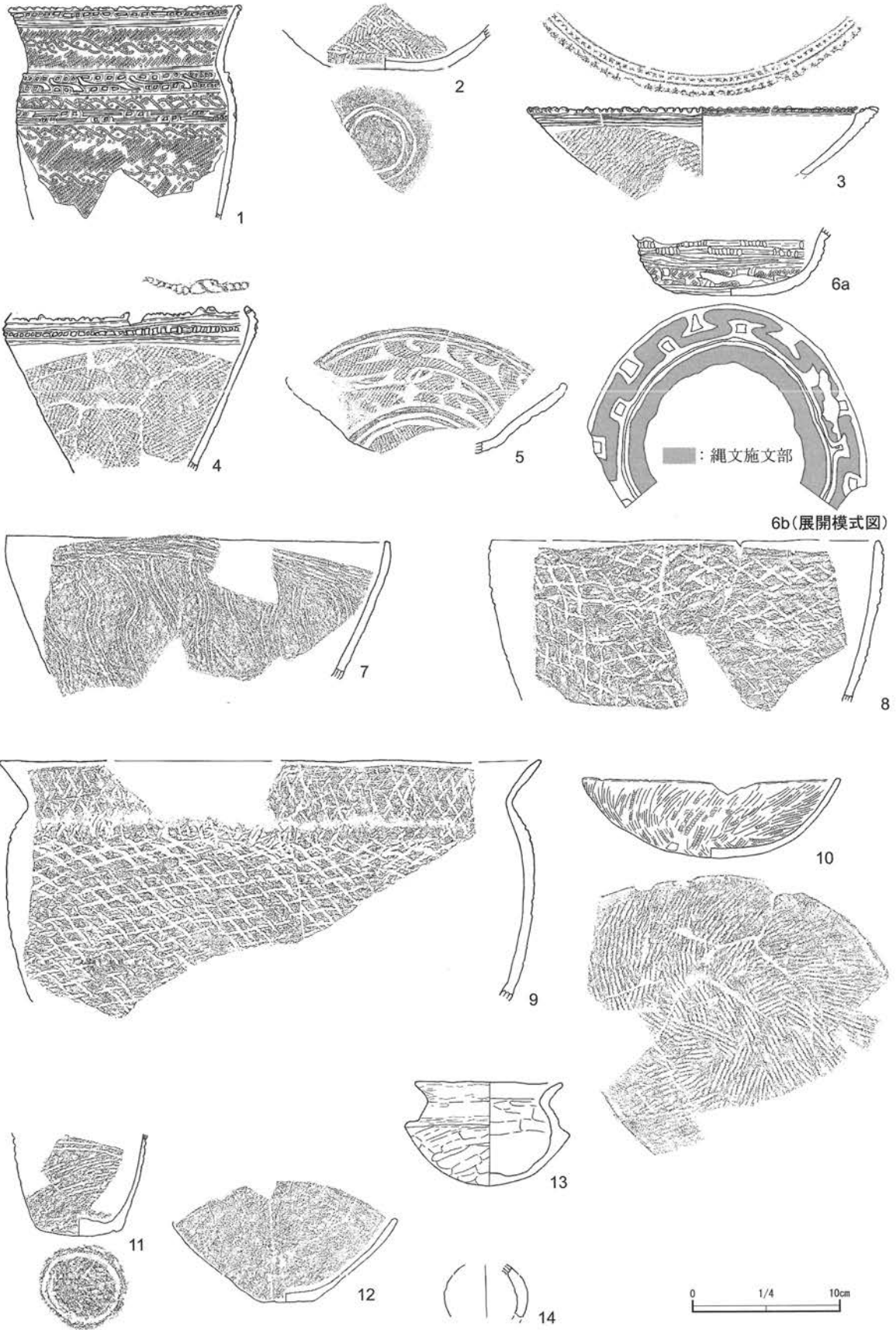


图33 IV区出土土器④

ⅢD層

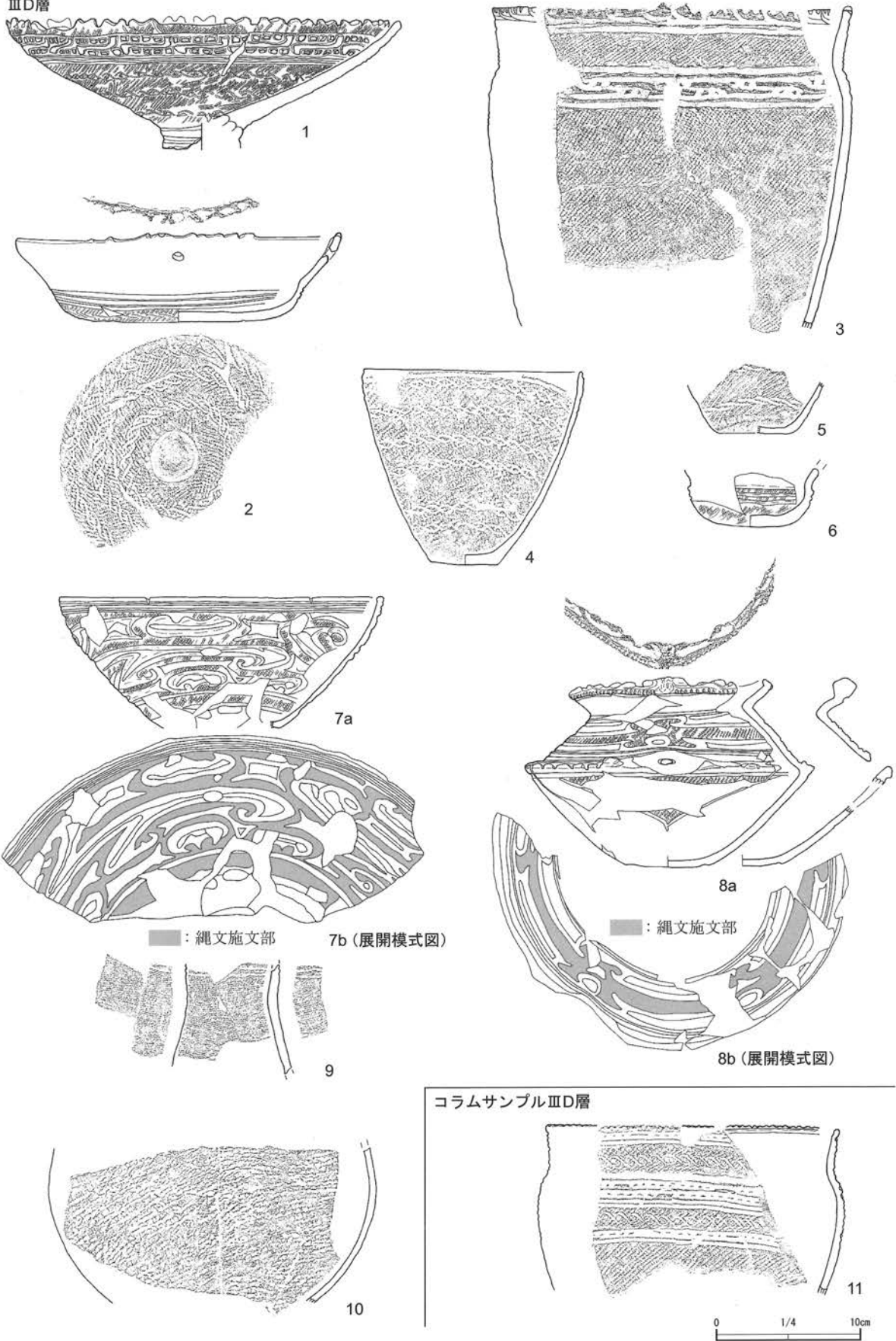


図34 IV区出土土器②

ⅢE層

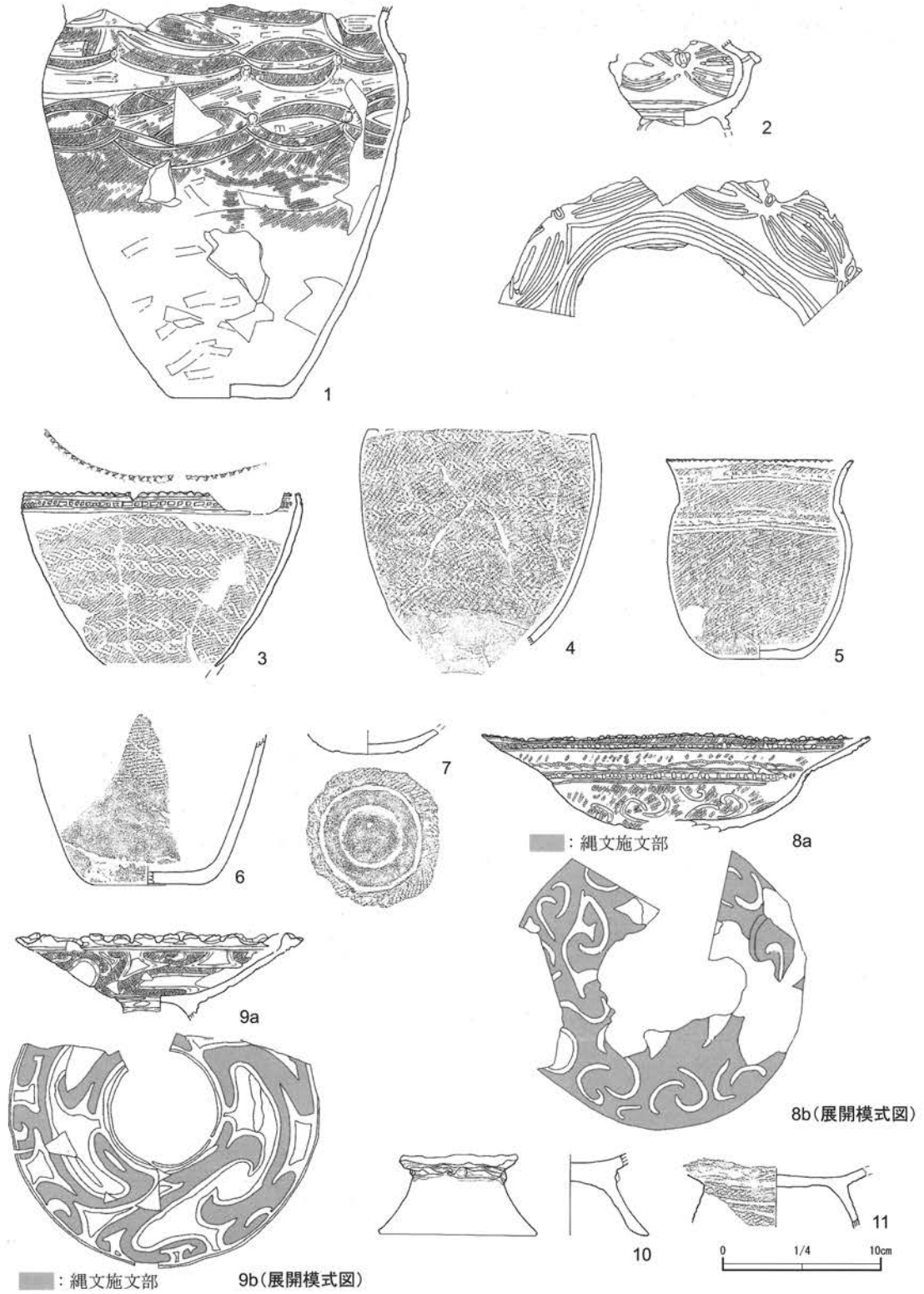
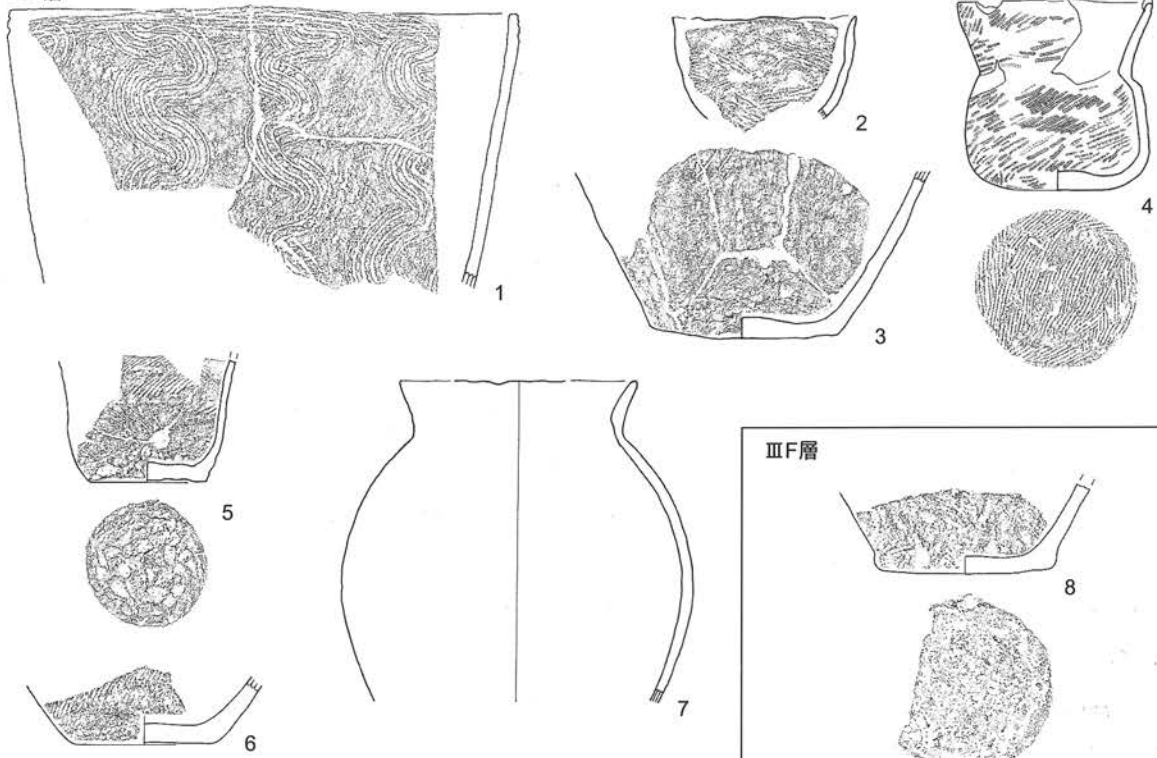
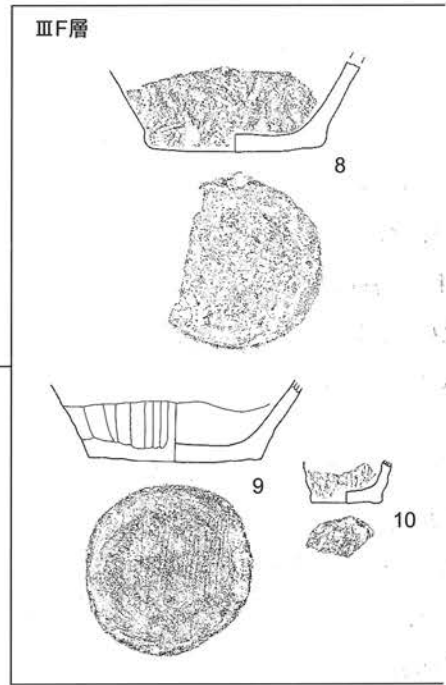


图35 IV区出土土器②⑥

ⅢE層



ⅢF層



Ⅲ-2a · 2b層

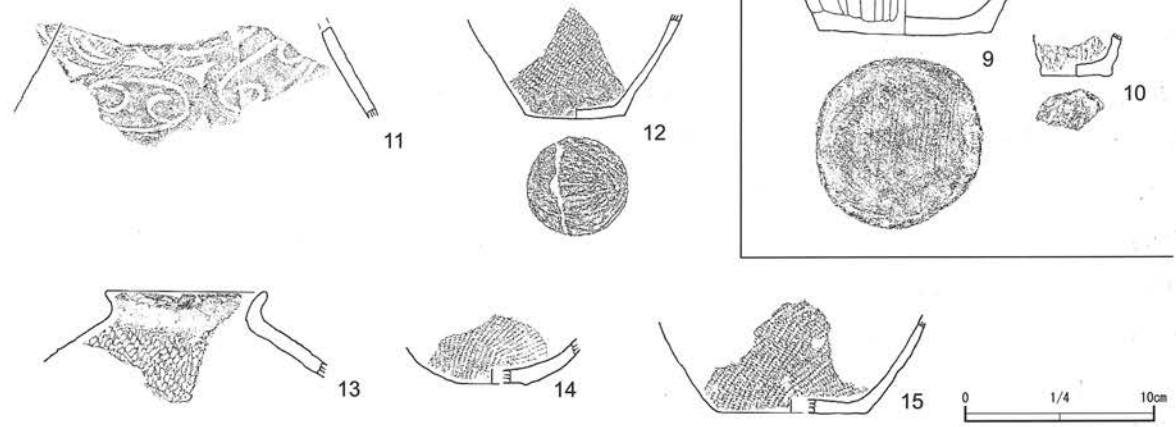


图36 IV区出土土器②

2. 東の谷

72・76T、1・3・4～6Gで確認された埋没谷で、大別Ⅲ-1層（以下Ⅲ-1層）、大別Ⅲ-3a層（以下Ⅲ-3a層）、大別Ⅲ-3b層（以下Ⅲ-3b層）が堆積している。

小迫貝層（72T・1・3・4～6G）

獣魚骨を含むⅢ-3a層が、混貝土層であるⅢ-1層の上位に堆積していることが考えられ、一連の堆積土の可能性があるため、Ⅲ-1・3a層を合わせて小迫貝層と呼称している。Ⅲ-1層は72T・1G・3Gで確認されており、約12m×10mの範囲で堆積している。Ⅲ-3a層は、72T、1・3・4～6Gで確認されている。

72T

Ⅲ-1層・Ⅲ-3a層・Ⅲ-3b層がブロック状に堆積していることが確認されたため、各細別層をブロックと呼称し、番号を付したが、堆積の順序を示すものではない。また、2箇所50cm×50cmのコラムサンプル（S1・S2）を設定し、S1は基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施し、S2はⅢ-1層のみのサンプリングに留めた。コラムサンプルではⅢ-1層に対応するサンプルをA、Ⅲ-3b層に対応するサンプルをBとし、サンプル番号にそれぞれ付記した。

コラムサンプルS1（図37-1・2）

1は斜縄文が施されるV-3類で、2は沈線区画内に縄文を充填しているⅢ-3類である。

コラムサンプルS2（図37-3～6）

5は磨消縄文により雲形文が描出されており、IV-3類に相当する。3は口縁部が若干内湾する深鉢で、口縁部に刻み・横位沈線が巡り、その下位には櫛描文が施文されているV-1類である。4・6はV-4類である。4は頸部で括れ、口縁部が短く外反する小型の壺形土器で、胴部上半に最大径を持つ。外面にケズリが加えられている。6は内外面にミガキが施されている。

土層・貝層ブロック（図37-7～24、図38-1～6、図40-1～8）

- ①（図37-7）：櫛描文が施文されているV-1類である。
- ②（図37-8・9）：8は沈線区画内に縄文ならびに刺突を施しており、Ⅲ-4類と判断される。9は磨消縄文により雲形文が描出されている。IV-4類に分類される。
- ③（図37-10）：横位沈線・結節縄文が加えられているIV-2類である。
- ④（図37-11）：沈線区画内に刺突が施されており、Ⅲ-4類と考えられる。
- ⑦（図37-12）：磨消縄文により雲形文が描出されているIV-3類である。
- ⑭（図37-13～24、図38-1、図40-1～6）：図37-13は結節縄文が施されており、IV-2類と判断される。図37-14・15は雲形文が描かれている。図40-1は口縁部が内湾する浅鉢で、口縁にはA突起が付され、刺突が巡る。胴部には磨消縄文で雲形文が描かれている。2は頸部から口縁部が強く屈曲する壺形土器で、肩部に磨消縄文で雲形文が描出されている。これらはIV-4類に相当する。図37-17は口唇部に沈線が巡り、口縁部には刺突・沈線が加えられており、IV-6類と考えられる。図37-24は蛇行櫛描文が施されているV-1類、図38-1は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施文されているV-2類である。図37-16・18～21・23、図40-3～6はV-3類に分類される。図40-3は口縁部が直立する短頸壺である。6は口縁部が若干内湾する器形で、LR縄文施文後に撚糸文が加えられている。図37-22は外面に輪積痕を残すV-4類である。
- ⑮（図38-2）：沈線区画内に縄文を充填している。Ⅲ-3類と考えられる。
- ⑳（図38-3・4）：3は羊歯状文が施文されているIV-2類、4は沈線内に刺突を施しているIV

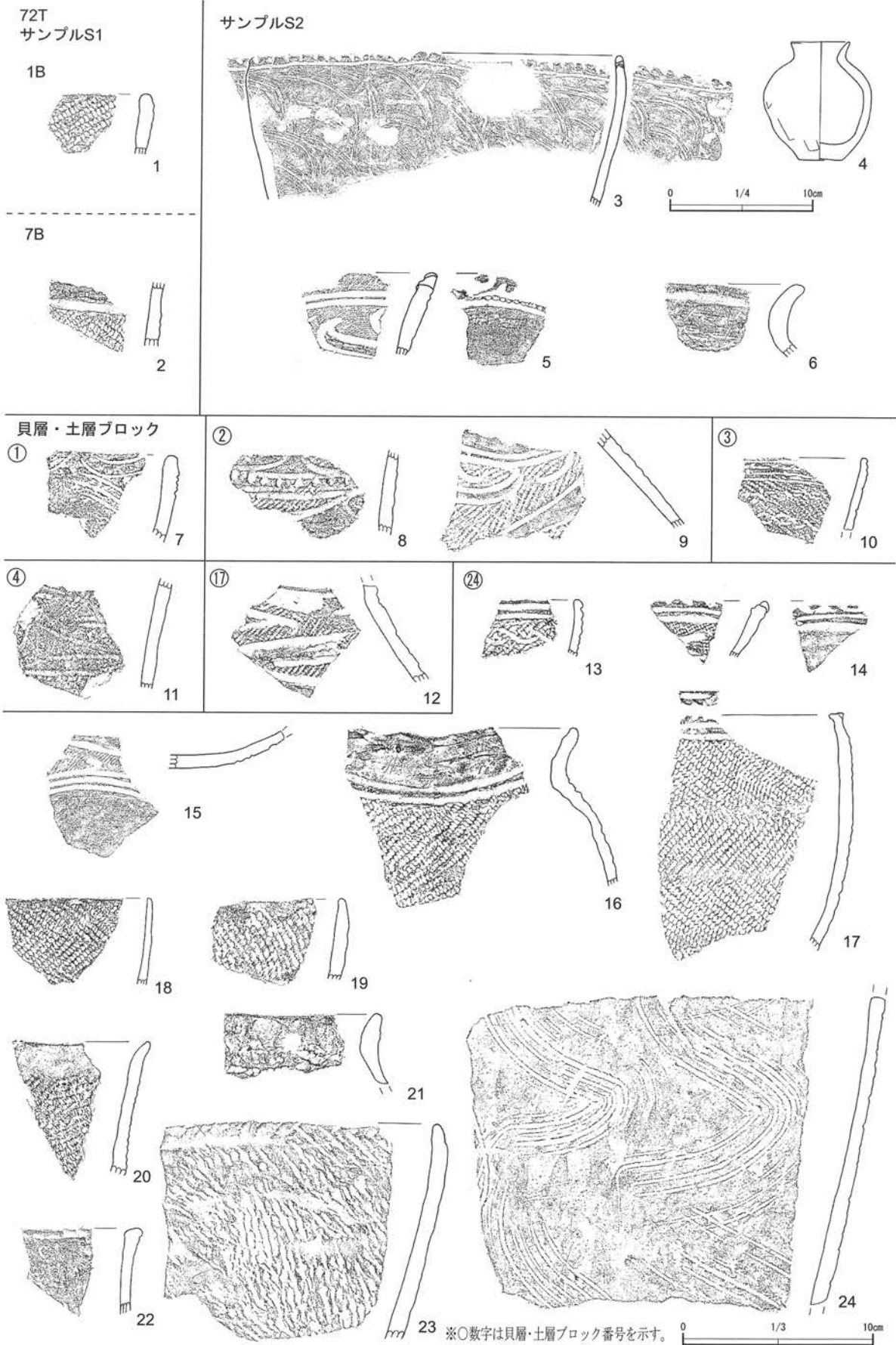


図37 72T出土土器①

－6類である。

③(図38-5・6、図40-7・8)：図40-7は頸部で括れ、口縁部が短く外反する器形で、口縁部に刻みが施されている。3条の沈線が巡り、口縁部内側には1条の横位沈線が走る。IV-6類に分類される。図38-6は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施文されているV-2類、図38-5は結節羽状縄文、図40-8は羽状縄文が施されているV-3類である。

Ⅲ-1・3a・3b層(図38-7~24、図39-1~9、図40-9~12)

Ⅲ群(図38-7)

7は肥厚する口縁部に4条の弧状沈線が走っている。

Ⅳ-2類(図38-9~11)

9・10は結節縄文が加えられている。11は列点文が施され、胴部に磨消縄文で文様が描出されている。

Ⅳ-4類(図38-16)

16は胴部に直線的な磨消縄文、口唇部に弧状の装飾が描出されている。

Ⅳ-6類(図38-12~15、図39-1)

図38-12は口縁部が強く内外に屈曲する器形で、口縁部では刻みならびに沈線間に刺突を加えている。13は口縁部に刺突が施され、その下位では沈線間に刺突を施している。14・15は口唇部に沈線が巡り、口縁部ならびに口縁直下の沈線内に刺突が加えられている。14は口縁部に突起が貼付されている。図39-1は口縁部が小波状を呈し、4条の沈線が横走する。

Ⅴ-1類(図38-18~21)

18~21は横位・弧状・蛇行櫛描文が施される。

Ⅴ-2類(図38-22~24)

22~24は網目状撚糸文が加えられている。

Ⅴ-3類(図38-8、図39-1~6、図40-9)

斜縄文・羽状縄文が施されているものが多く見られる。図38-8は結節羽状縄文が施文されている。図40-9は平底の底部で、斜縄文が加えられている。

Ⅴ-4類(図39-7~9、図40-10~12)

図39-9は頸部に横位のケズリが施されている。図40-10は丸底を呈する底部から直線的に立ち上がる器形で、口縁部内外面・底部に沈線が巡る。11は台付土器の台部で、1条の沈線が横走する。12は口縁が内湾気味に立ち上がる小型の土器で、内面にミガキが施されている。

Ⅲ-1・3a・3b層上面(図39-10~27、図41、図42)

Ⅲ-3類(図39-10)

10は口縁部に2段の刻みが施され、胴部には弧状沈線区画内に縄文が充填されている。

Ⅳ-2類(図39-11~16、図42-11)

図39-11・14は羊歯状文、13は列点文が施文されている。12・15・16は結節縄文が加えられている。図42-11は口縁部が内側に短く屈曲する器形で、口縁部は小波状を呈する。頸部には羊歯状文ならびにB突起が施されている。

Ⅳ-3類(図39-17~19、図42-12)

図39-17~19は磨消縄文・彫去により雲形文が描出されている。18は口唇部に浮彫状の装飾が施されている。図42-12は内湾気味に立ち上がる浅鉢形土器で、口縁部の沈線内に連続刺突が巡り、

貝層・土層ブロック

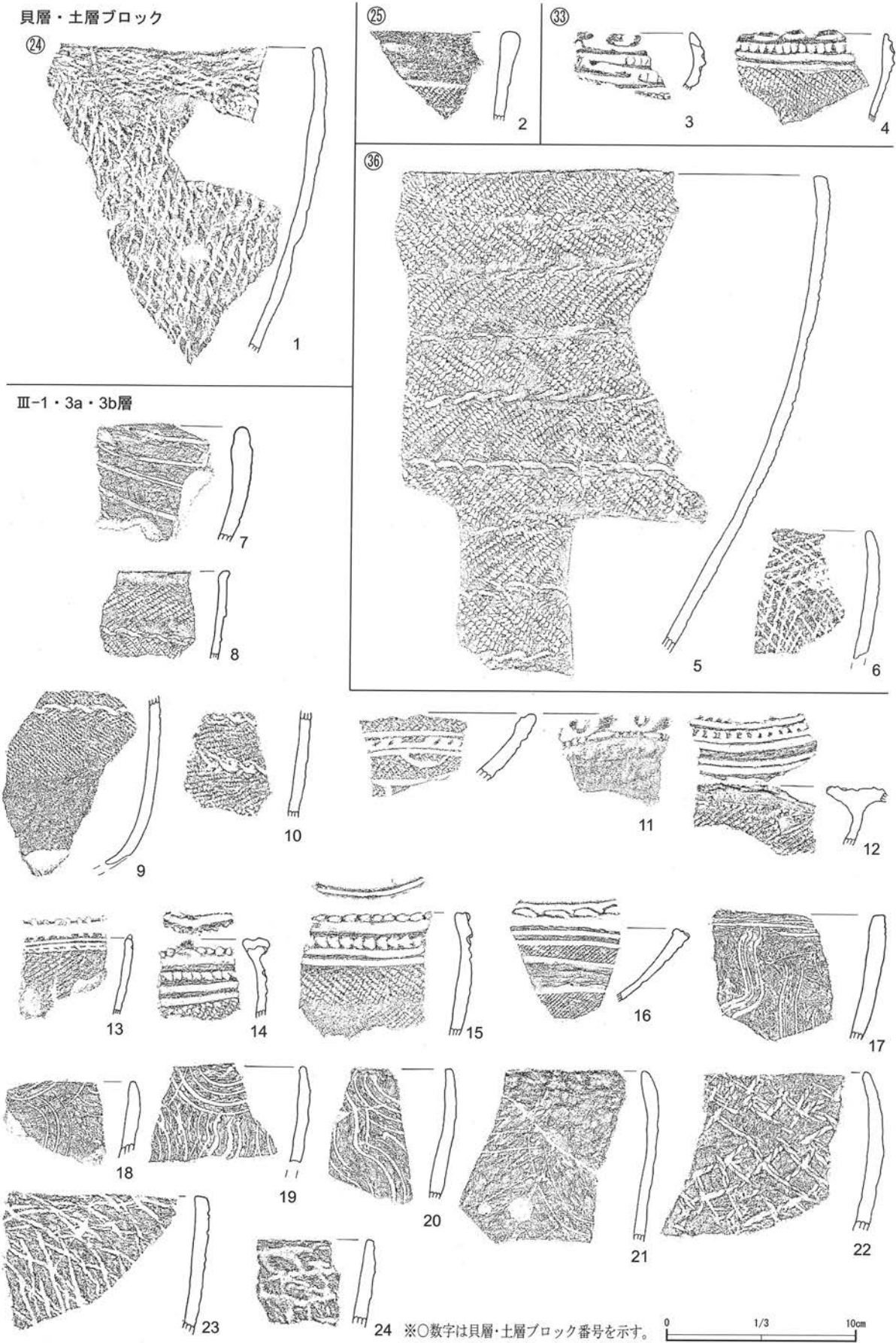
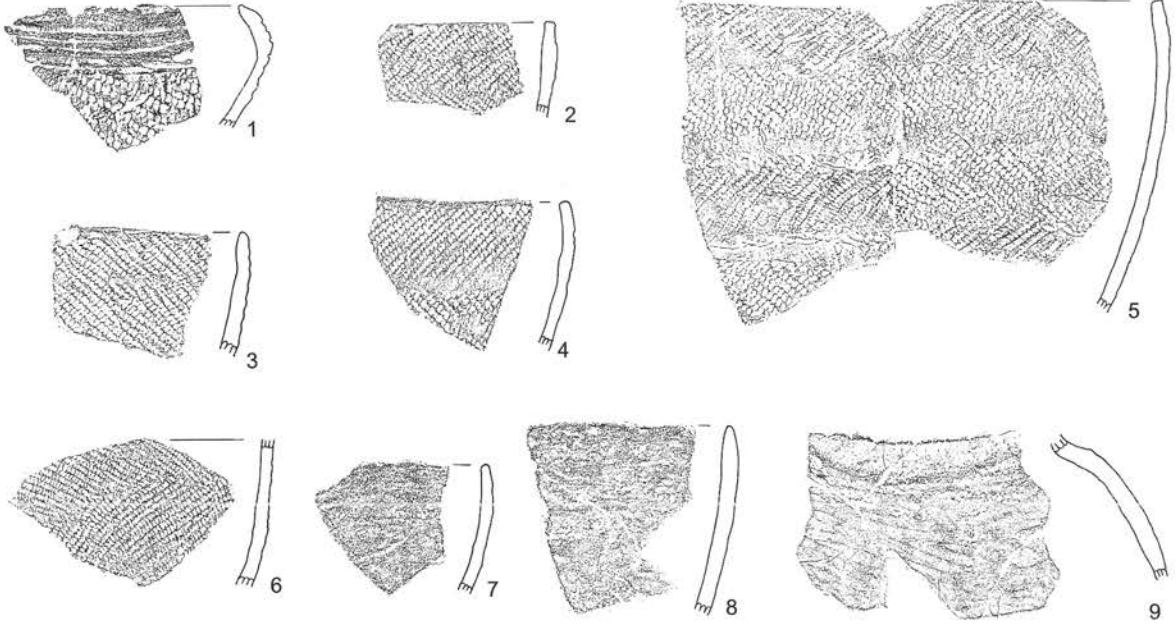


図38 72T出土土器②

Ⅲ-1・3a・3b層



Ⅲ-1・3a・3b層上面

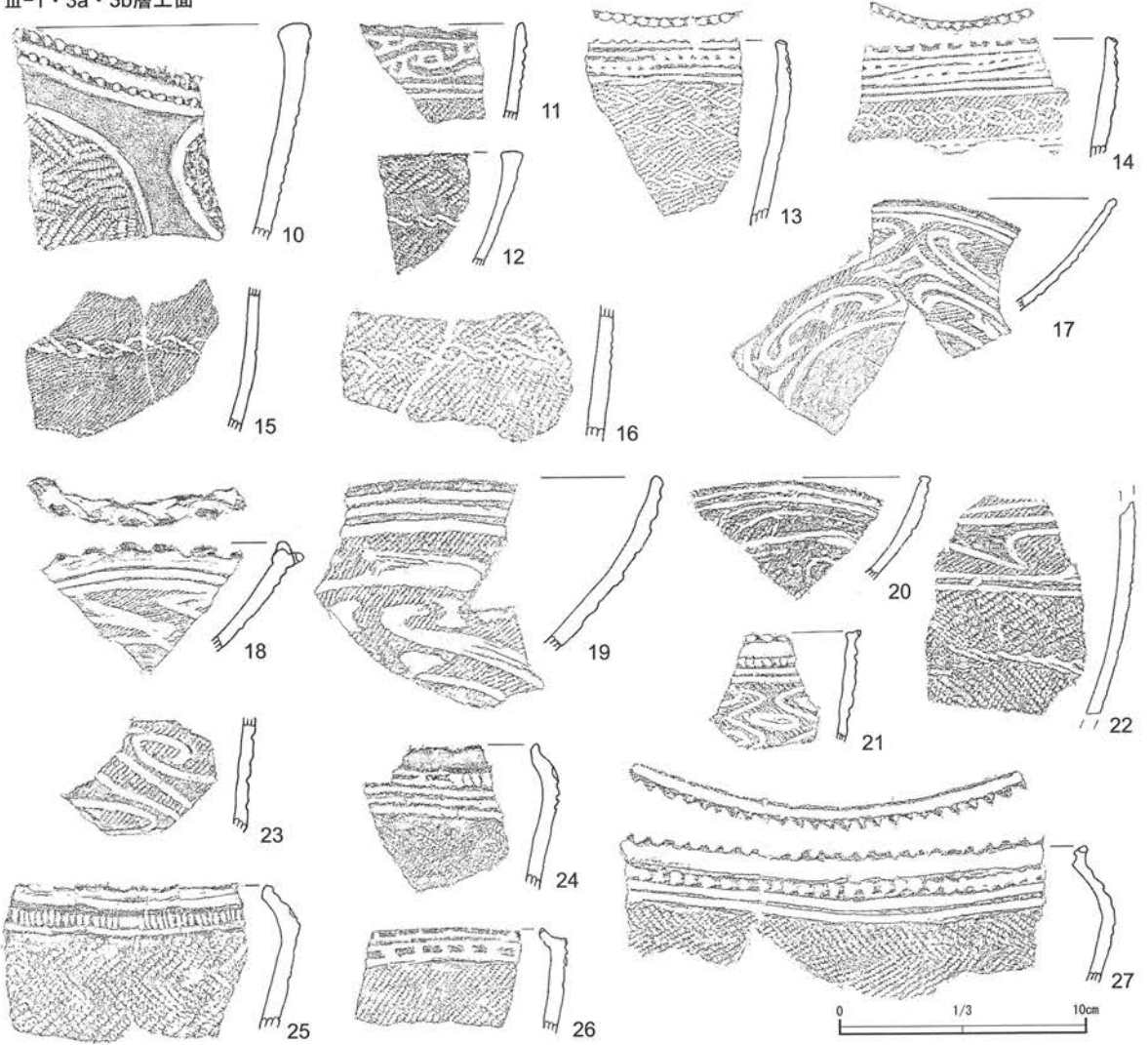
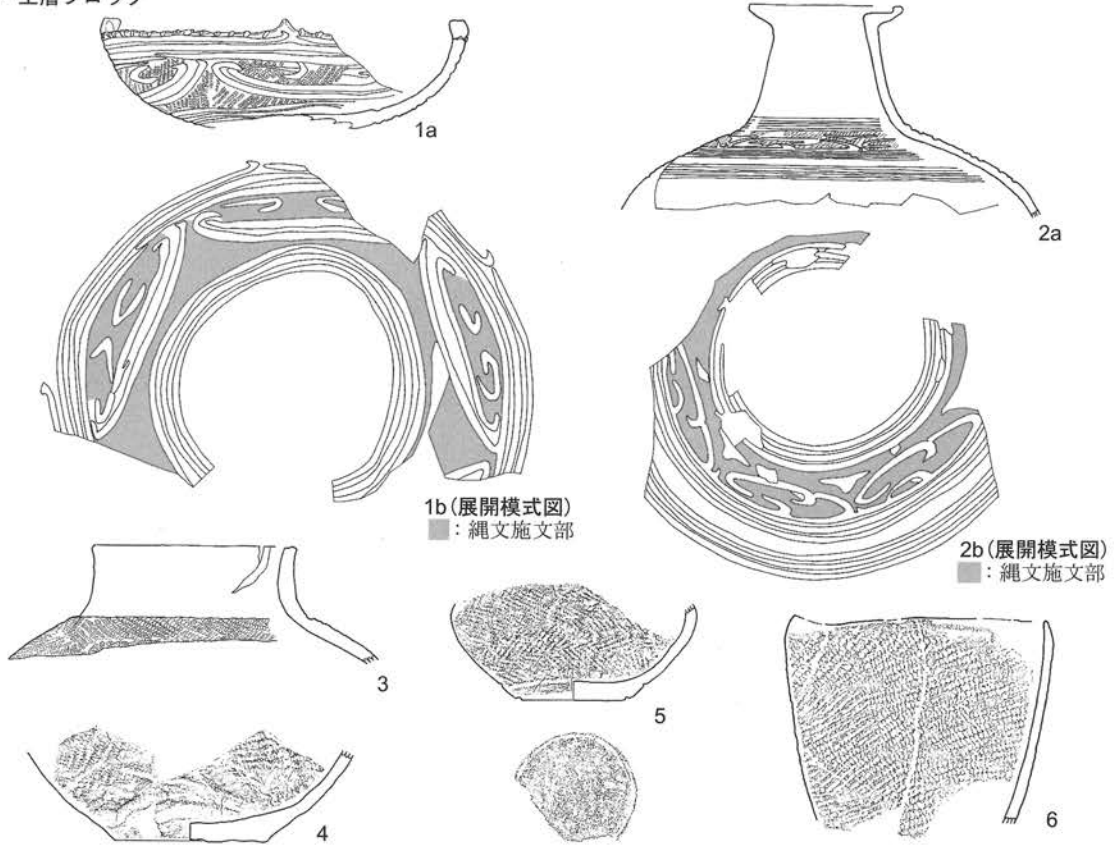


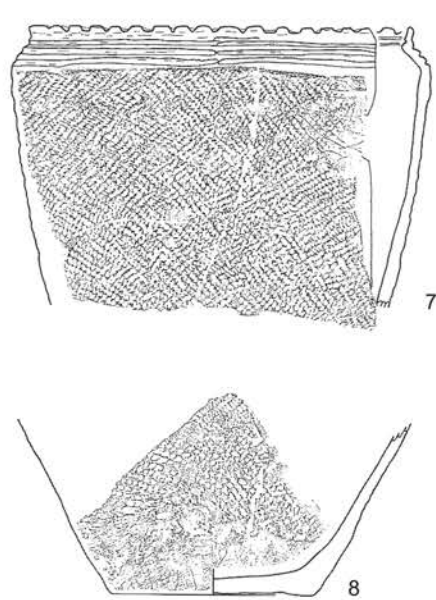
图39 72T出土土器③

貝層・土層ブロック

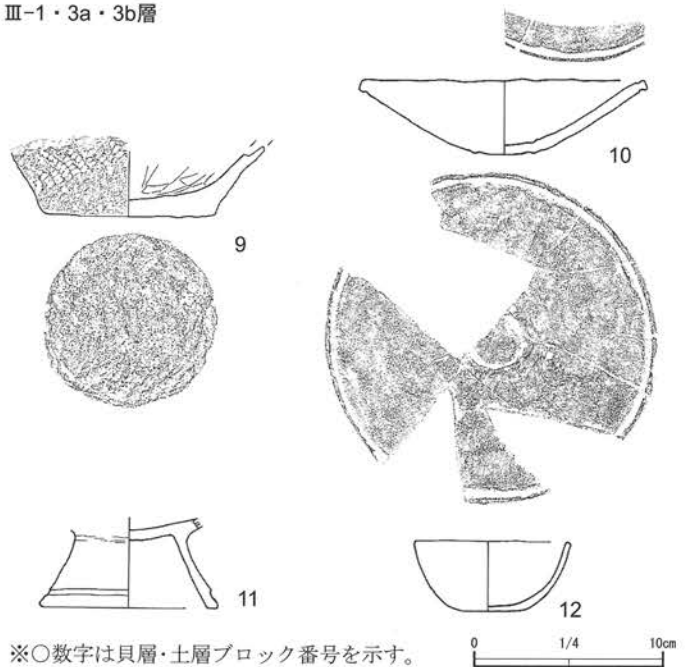
②4



③6



Ⅲ-1・3a・3b層



※○数字は貝層・土層ブロック番号を示す。

図40 72T出土土器④

Ⅲ-1・3a・3b層上面

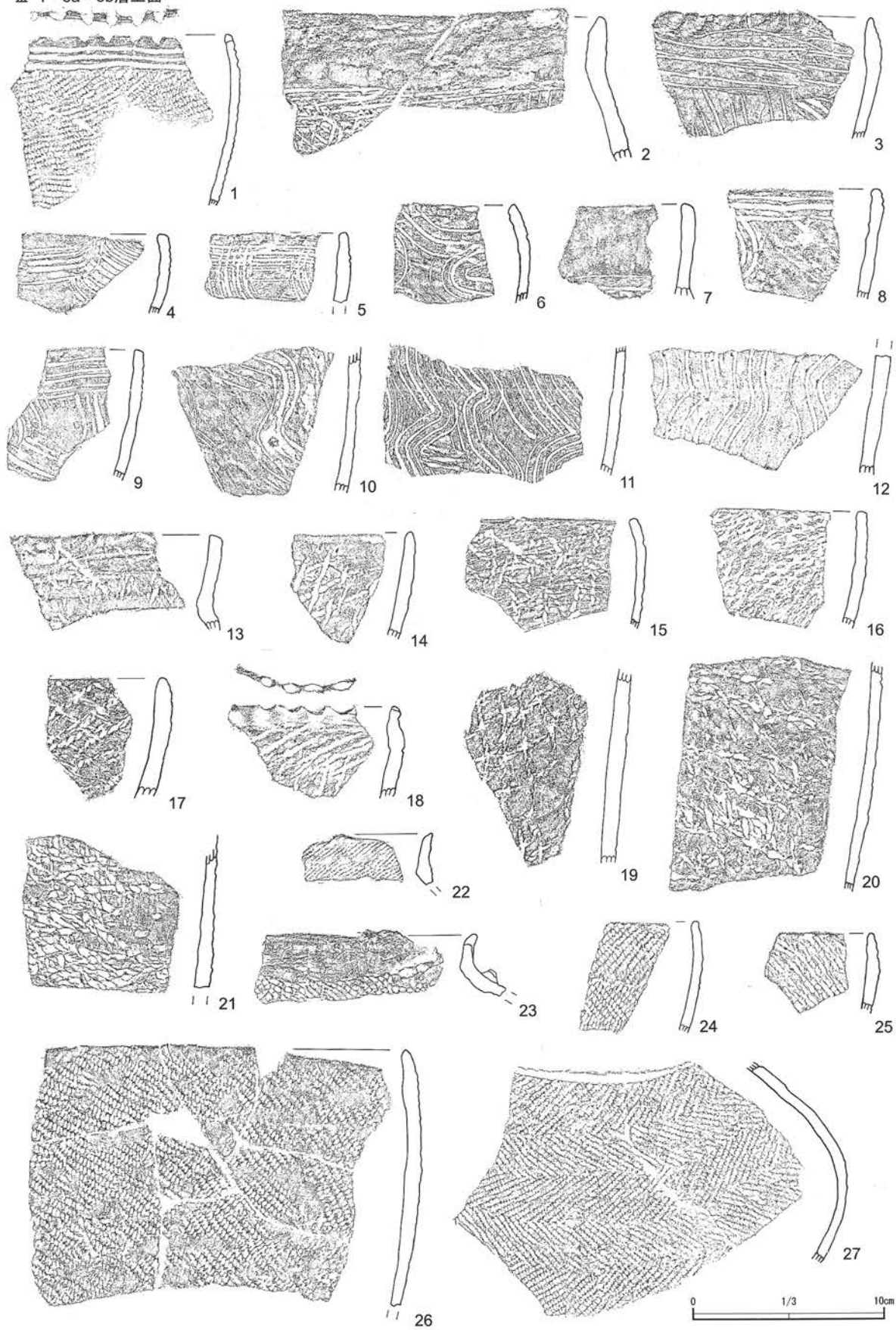


图41 72T出土土器⑤

Ⅲ-1・3a・3b層上面

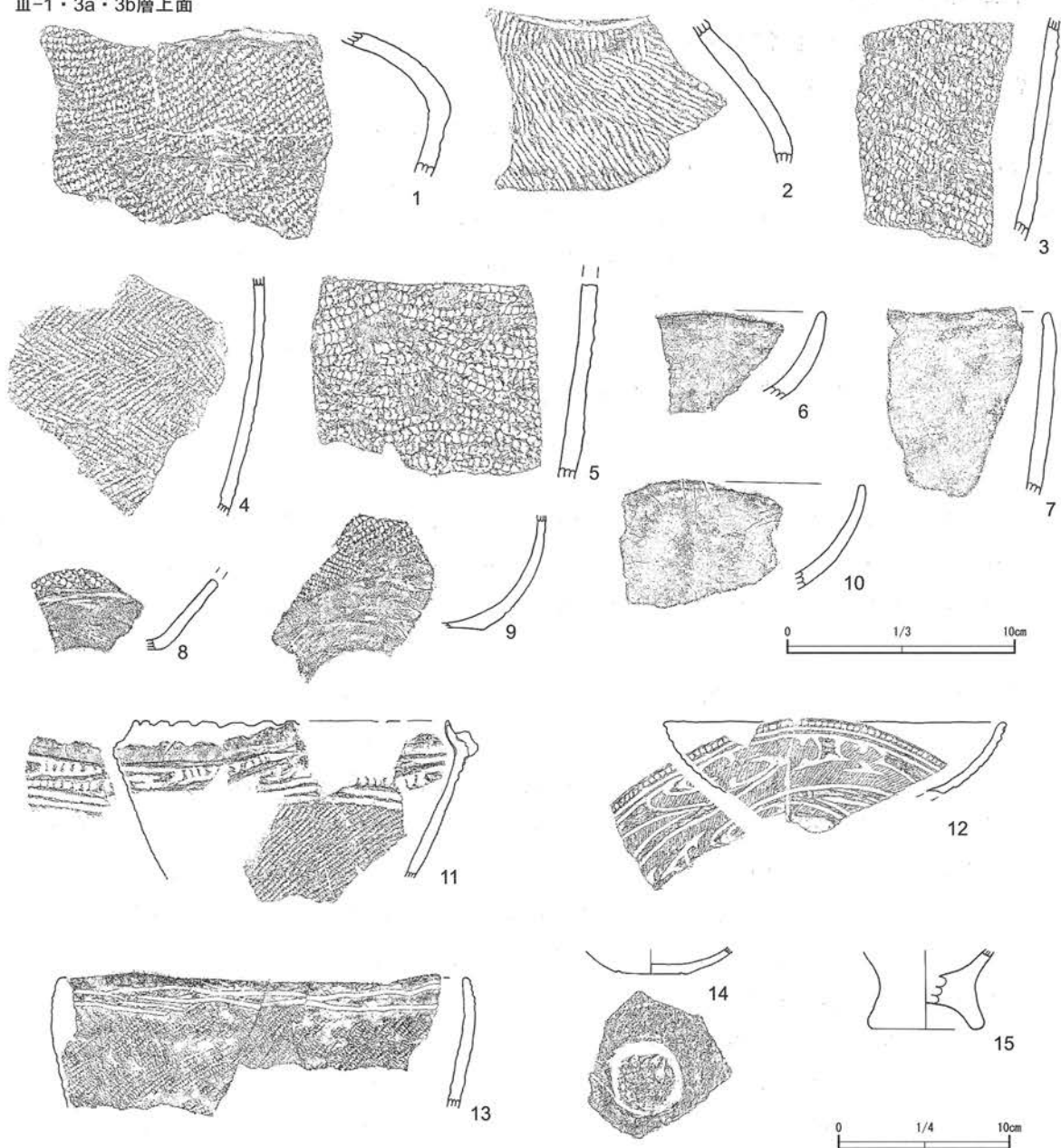


図42 72T出土土器⑥

胴部には磨消縄文により雲形文が描かれている。

Ⅳ-4類 (図39-20~23)

図39-20は沈線により文様が描かれている。21は口唇部に沈線が巡り、口縁部ならびに頸部の沈線内に刺突が加えられ、胴部には縦位の山形状沈線間に楕円状沈線区画を配置している。22・23は磨消縄文により雲形文が描かれている。

Ⅳ-6類 (図39-24~27、図41-1、図42-13)

図39-24・25・27は沈線内に刺突を施しており、27は口縁部内側には沈線が巡っている。26は沈線間に刺突を加えている。図41-1は口縁部に刻みが施され、3条の横位沈線が施文されている。図42-13は口縁部が若干内湾する器形で、2条の口縁部に沈線が横走している。

V-1類 (図41-2~12)

2~12は横位・弧状・蛇行櫛描文が施されている。

V-2類 (図41-13~21)

13~21は網目状撚糸文が施文されている。18は口縁部に刺突が加えられている。

V-3類 (図41-22~27、図42-1~5・8・9)

斜縄文・羽状縄文が施されているものが多く見られる。図41-22は口縁部に突起が付されている。23は短頸壺の口縁部と考えられ、口縁部ならびに肩部に突起が貼付されている。

V-4類 (図42-6・7・10・14・15)

6は内外面に、7は内面にミガキが施されている。14は底部に沈線が巡り、内外面にミガキが加えられている。15は台付土器の台部である。

1G

Ⅲ-1層・Ⅲ-3 a層の堆積が確認された。Ⅲ-1層に1箇所、Ⅲ-3 a層に1箇所、50cm×50cmのコラムサンプル(S1・S2)を設定し、基盤層(第四紀堆積層)まで調査を実施した。コラムサンプルではⅢ-1層に対応するサンプルをA、Ⅲ-3 a・3 b層に対応するサンプルをBとし、サンプル番号にそれぞれ付記した。

コラムサンプルS1 (図43-1~16)

1・9・11・14はⅢ-3類である。1は口縁部に刻み、沈線区画内に充填縄文を施している。9は沈線区画内に縄文を充填している。11は口縁部に刻みを加えている。14は口縁部が波状を呈し、横位沈線が1条巡っている。2・3・10はⅢ-4類に分類される。2・3は沈線区画内に刻みが施され、2は突起が貼付されている。10は横位櫛描文が加えられ、口縁部・胴部に突起が付されている。4・6・7・12・15は横位・縦位の櫛描文が施文されるV-1類、8は斜縄文が施されているV-3類である。5・13・16はV-4類で、16は内外面にミガキが加えられている。

コラムサンプルS2 (図43-17~23)

20は平行沈線区画内に縄文が充填されているⅢ-4類である。17は頸部で括れ、口縁部が外反する器形である。口唇部に連続刺突、口縁部ならびに頸部に横位沈線が巡り、頸部から胴部には結節縄文が施文されている。17はIV-2類に相当する。18は横位櫛描文、19は蛇行櫛描文が施されており、V-1類に分類される。23はV-2類で、網目状撚糸文が施文されている。21・22は羽状縄文が加えられているV-3類である。

Ⅲ-1・3 a層 (図44-1~11)

1はⅢ-4類で、刻みを充填した入組文が施文されている。6は磨消縄文により雲形文が描出されているIV-3類である。7には弧状沈線が加えられており、IV-4類に相当する。2~5は列点状の文様が認められ、2・3・5は口縁部に刻み・刺突が施されている。これらはIV-6類に分類される。8は櫛描文が施文されているV-1類、9は網目状撚糸文が施されているV-2類、10は斜縄文が加えられているV-3類、11は底部に沈線が巡るV-4類である。

Ⅲ-1・3 a層上面 (図44-12~30)

12はクランク状の沈線が施文され、橋状把手が貼付されている。13は羊歯状文、14・16は結節縄文が施されている。これらはIV-2類に相当する。20は磨消縄文で雲形文が描かれているIV-3類で、17は平行沈線間に刺突が施され、その下位に磨消縄文が施文されているIV-4類である。15・18・19

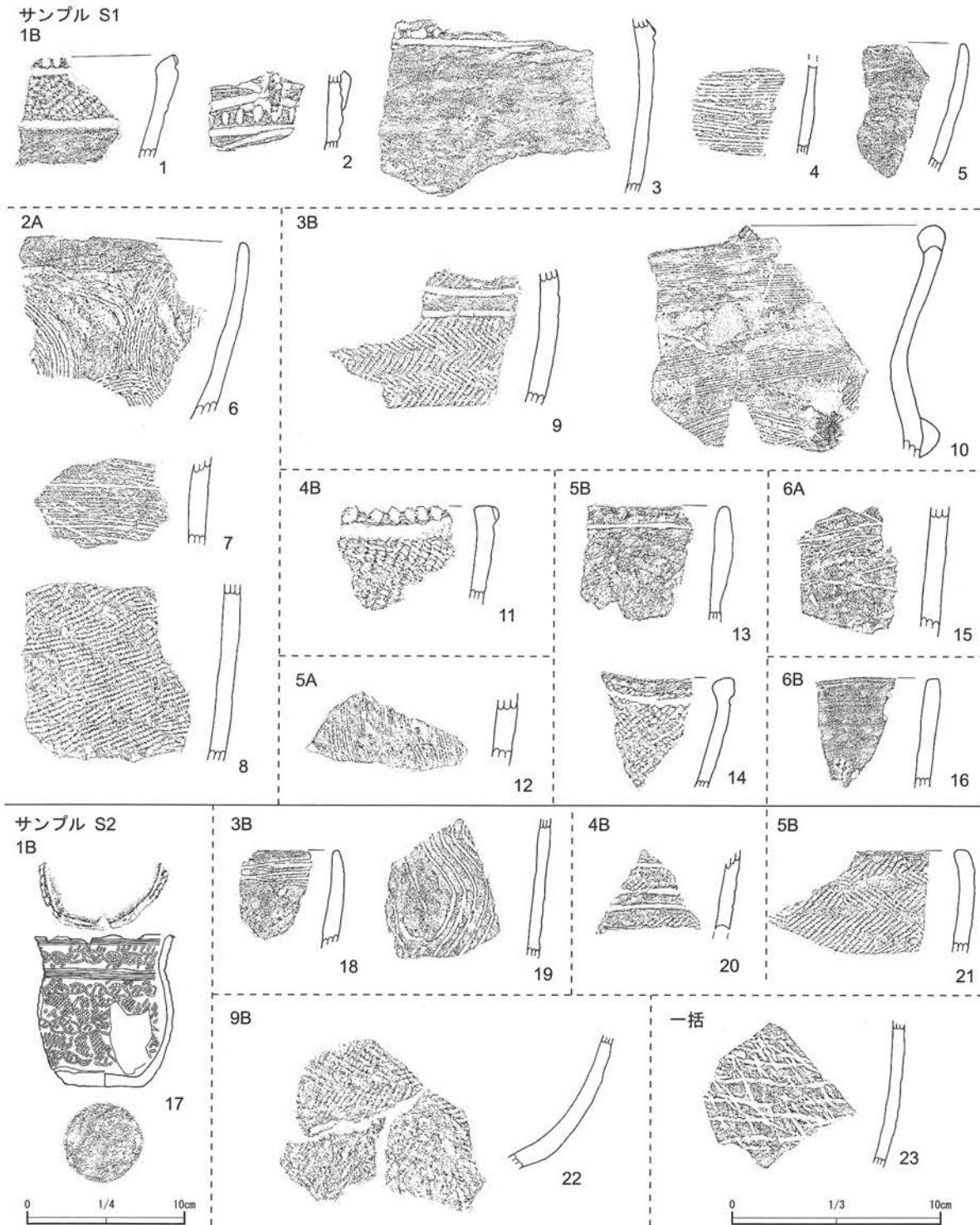
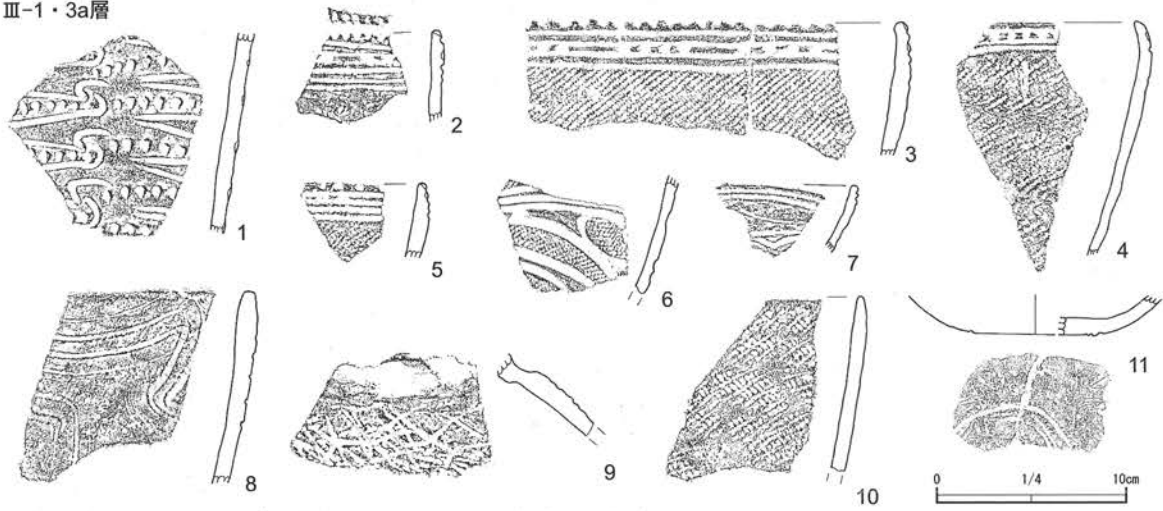


図43 1G出土土器①

は口縁部に刺突が巡り、その下位には列点状の文様が加えられており、IV-6類と判断される。21~23は横位・弧状・蛇行櫛描文が施文されているV-1類である。24~26は網目状撚糸文が加えられており、V-2類に分類される。27~30は斜縄文が施文されるV-3類である。29は台付土器の台部で、1条の沈線が横走している。30は胴部が直線的に立ち上がり、胴部中程で外反して口縁に至る器形で、底部は丸底気味である。口縁部内側および頸部に横位沈線が巡る。

Ⅲ-1・3a層



Ⅲ-1・3a層上面

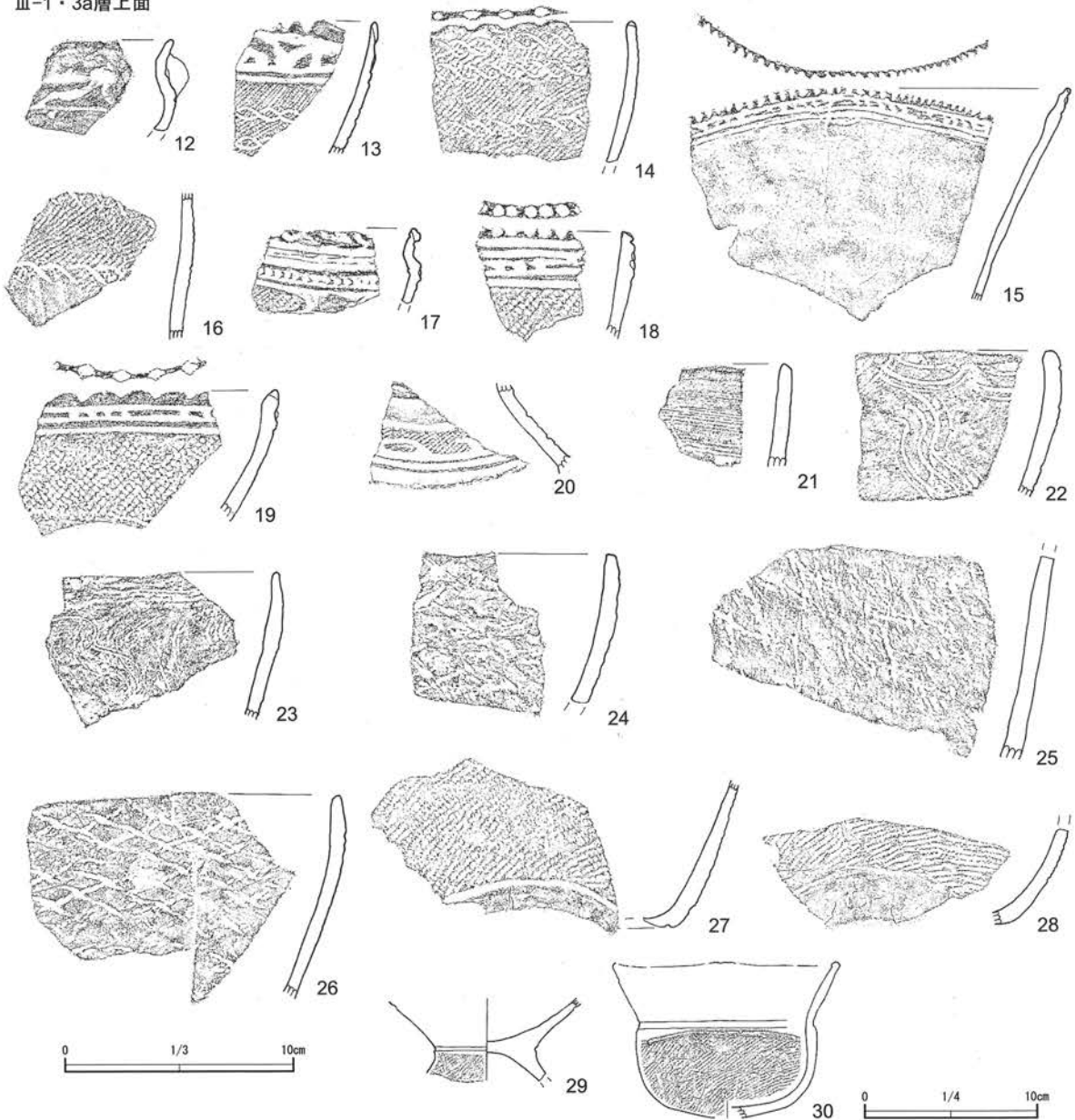


图44 1G出土土器②

3G

Ⅲ-1層・Ⅲ-3 a層の堆積が確認された。Ⅲ-1層に1箇所、50cm×50cmのコラムサンプル(S1)を設定し、基盤層(第四紀堆積層)まで調査を実施した。コラムサンプルではⅢ-1層に対応するサンプルをA、Ⅲ-3 b層に対応するサンプルをBとし、サンプル番号にそれぞれ付記した。

コラムサンプルS1(図45)

15は2段の刻みが施されているⅢ-3類である。1は底部から直線的に立ち上がる浅鉢形土器で、口縁部にB突起が巡り、その下位には列点文が施文されている。胴部には磨消縄文で文様が描出されている。2は口縁部が内湾する鉢形土器で、口縁部に平行沈線、胴部に結節縄文が施されている。5は結節縄文が加えられる。7は口縁部に細かい刻みが巡り、口縁部・頸部・胴部に列点文が施文され

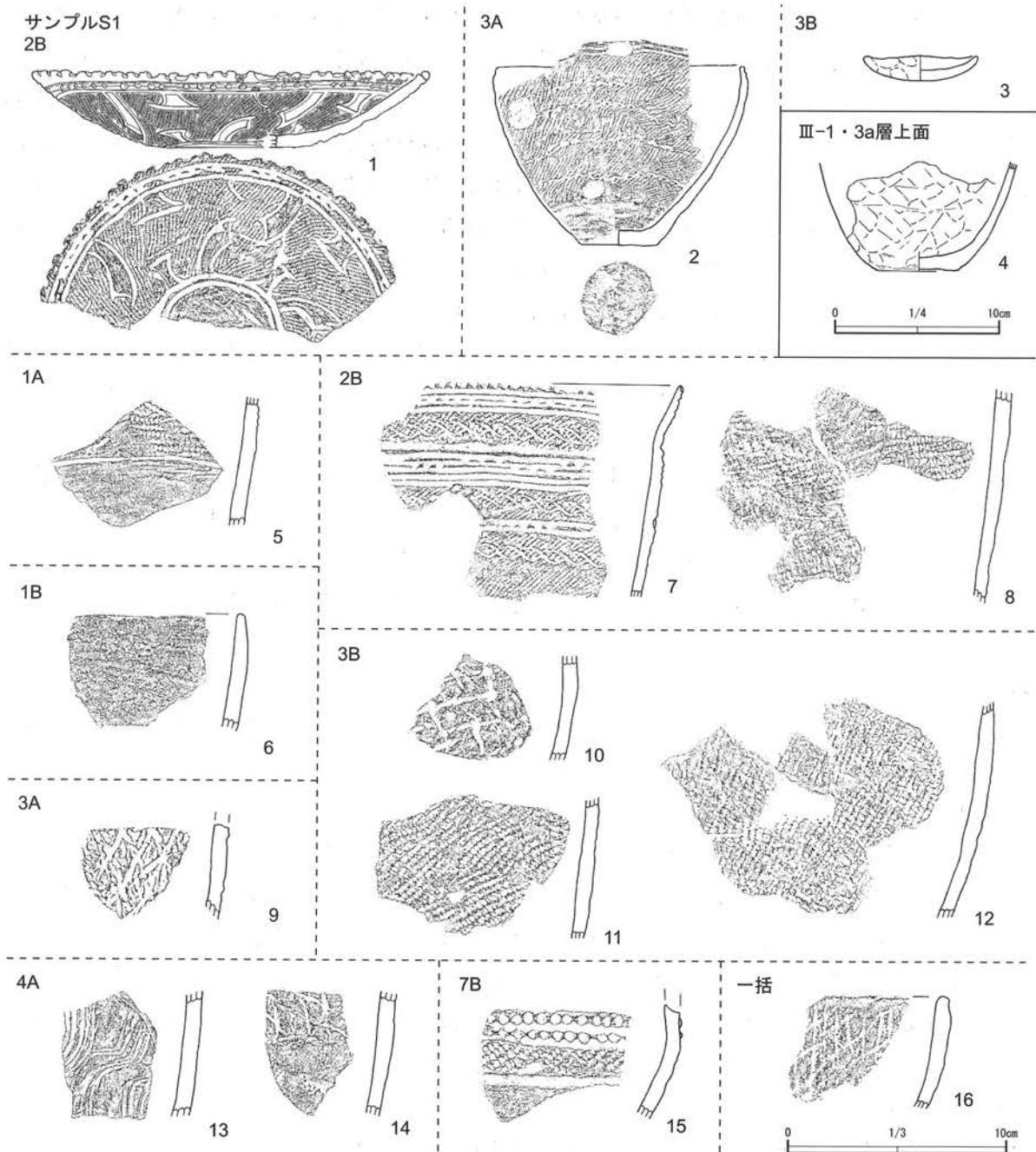


図45 3G出土土器

ている。これらはIV-2類に相当する。1はIV-3類に位置付けられる可能性もある。13は蛇行櫛描文が施されているV-1類、9・10・14・16は網目状撚糸文が加えられているV-2類である。8・11・12は斜縄文が施文されているV-3類である。3・4・6はV-4類で、3は外面に指頭圧痕を残す手捏ね土器である。4は外面にケズリ、6は内外面にミガキが施されている。

4 G

III-3 a層の堆積が確認された。コラムサンプルの設定などは行っておらず、調査区内を5 cm前後掘り下る程度の調査しか実施していない。

III-3 a層 (図46、図47-1~10)

図46-5~8は沈線・磨消縄文でモチーフを描出しており、7には口縁部に橋状把手が付されている。10は口縁部が波状を呈しており、口縁部内側には口縁部の形状に沿って沈線が施文されている。これらはIV-4類と判断される。11は5条の幅広い平行沈線・突起が加えられている。口縁部内側には1条の沈線が横走しており、IV-5類に分類される。9は口唇部には1条の沈線が巡り、口縁部に刻みおよび沈線が施されており、IV-6類と考えられる。12~14は縦位櫛描文が施されているV-1類である。15~22はV-2類で、15は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が加えられている。20・21は口縁部に横位、胴部に縦位撚糸文が施されている。図46-1・3・4、図47-1~10はV-3類に分類される。図46-3・4は結節羽状縄文が認められる。図47-1・5は折返口縁で、5は口縁部に指頭圧痕を残す。4は口縁部に刺突、10は縦位の結節縄文が施文されている。図46-2はV-4類で、外面にミガキが加えられている。

III-3 a層上面 (図47-11~17)

11は弧状沈線、12は三角形区画の磨消縄文により文様が描出されている。これらはIV-4類に相当する。14は横位・蛇行櫛描文が施されているV-1類である。16・17は網目状撚糸文が施文されているV-2類で、16は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施されている。13は斜縄文が加えられているV-3類で、折返口縁である。15は折返口縁で、その下位に沈線が巡るV-4類である。

5 G

III-3 a層の堆積が確認された。コラムサンプルの設定などは行っておらず、調査区内を5 cm前後掘り下る程度の調査しか実施していない。

III-3 a層 (図48-1~25)

1は羊歯状文ならびに結節縄文、2は結節縄文が施文されているIV-2類である。3・4は彫去・磨消縄文で雲形文が描出され、3は口唇部には浮彫状の装飾が施されている。3・4はIV-3類と考えられる。5はメガネ状付帯が貼付され、その下位には弧状沈線が加えられている。25は内側に屈曲した後に口縁部が短く外反する浅鉢で、口縁部にはメガネ状付帯が付され、胴部には磨消縄文で雲形文が描出されている。これらはIV-4類に相当する。6は突起貼付後に平行沈線を施しているIV-5類である。8・10は口縁部に刺突が巡り、8は平行沈線間に刺突が加えられ、10は平行沈線が施されている。9は平行沈線が横位に走る。8~10はIV-6類である。7は磨消縄文・平行沈線が施されているIV群である。13は櫛描文が施文されているV-1類である。14~19・23・24はV-2類に分類される。14~18は網目状撚糸文が施文されている。14・15は折返口縁で、15は口縁部に斜縄文が施された後にケズリが加えられている。16は口縁部に横位のケズリを施した後に指で押さえている。

Ⅲ-3a層

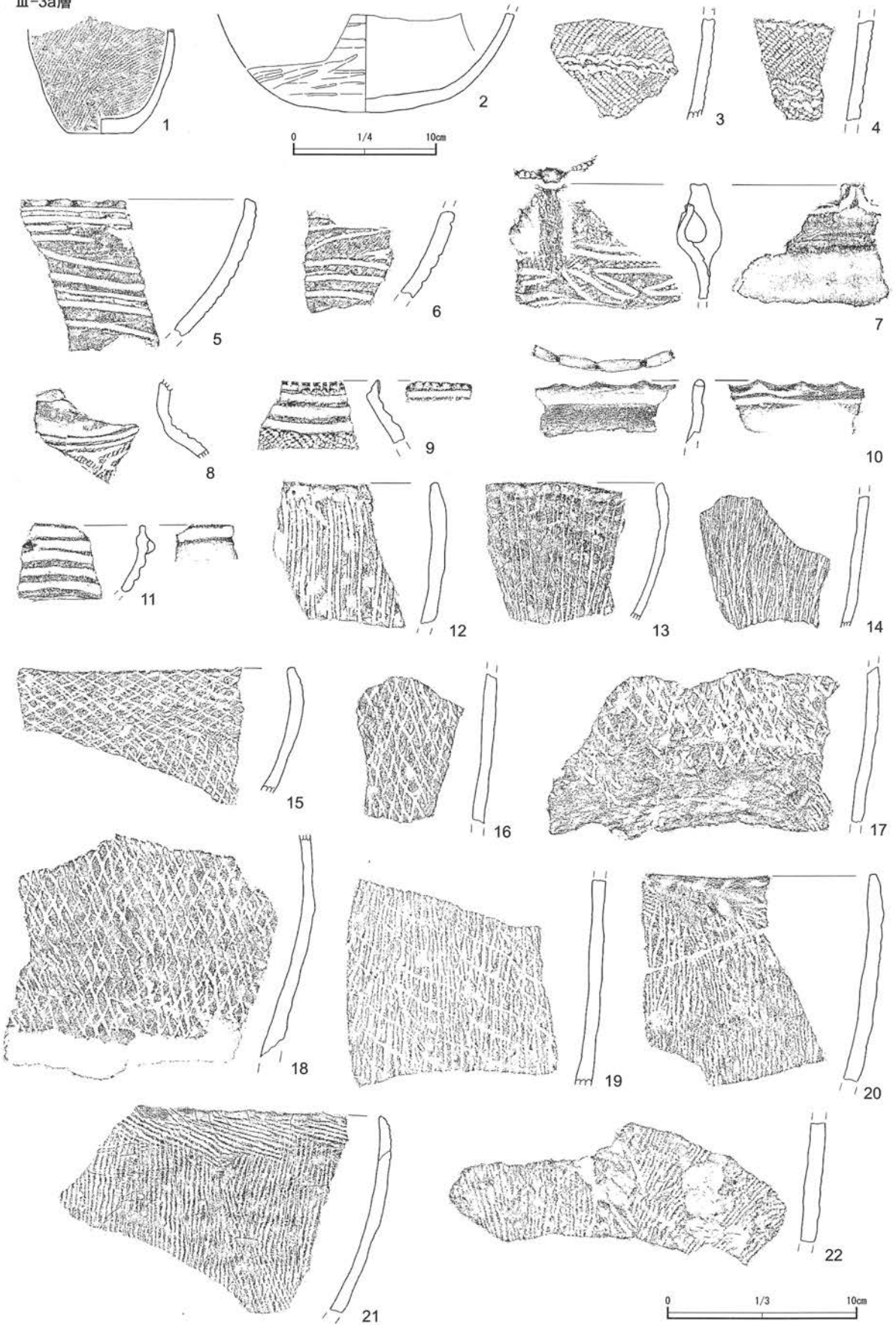


图46 4G出土土器①

Ⅲ-3a層

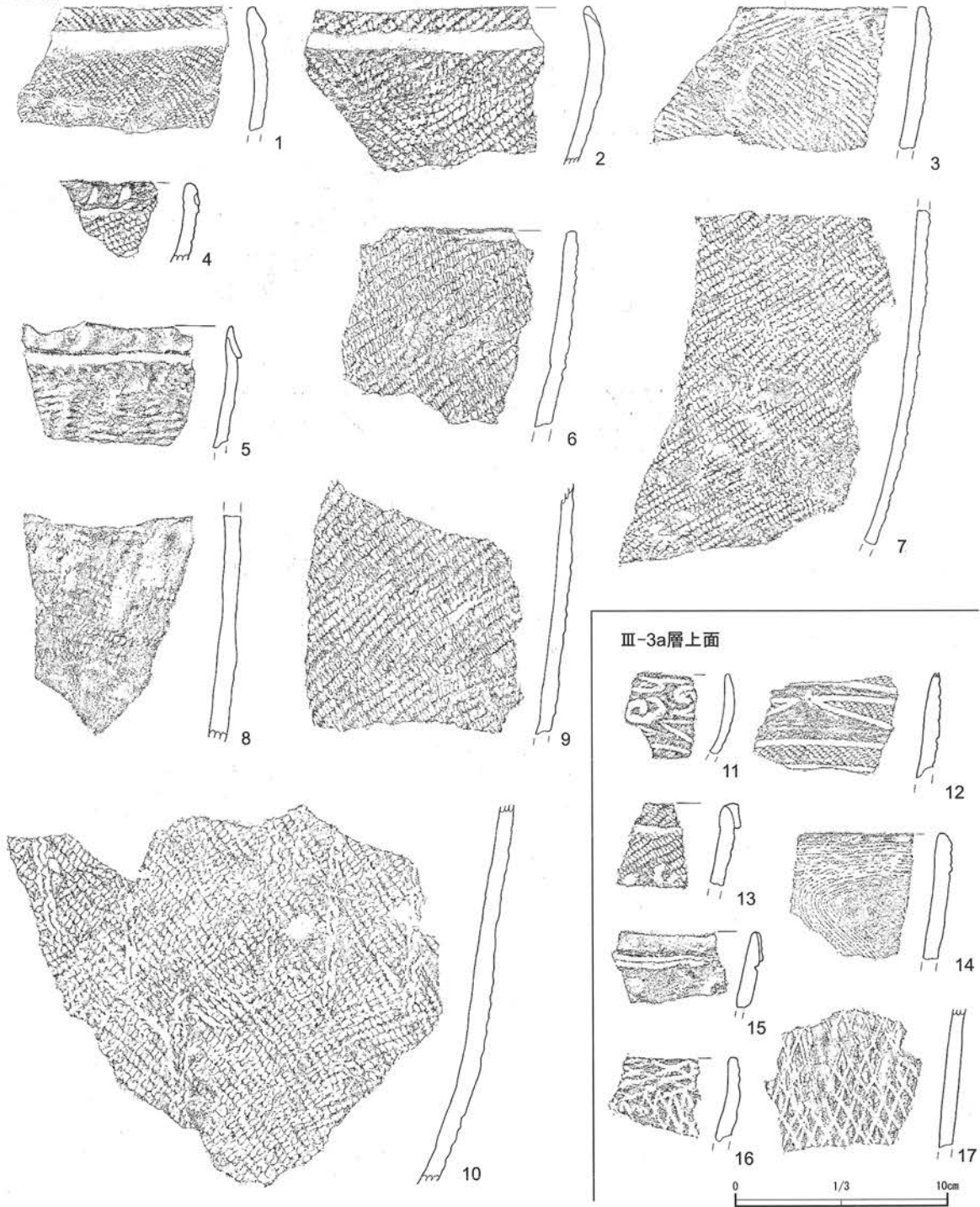


図47 4G出土土器②

17は口縁部に横位、胴部に縦位の網目状撚糸文が施されている。19は口縁部に突起が貼付され、横位撚糸文が加えられている。23・24は縦位撚糸文が施文されている。11・12・20・21は縄文が施されているV-3類、22は無文でV-4類に分類される。

Ⅲ-3 a層上面 (図48-26~28)

26は横位沈線・山形状沈線が加えられており、IV-4類に相当する。27は縦位撚糸文が施され、28は口縁部に横位、胴部には縦位の網目状撚糸文が施されている。これらはV-2類である。

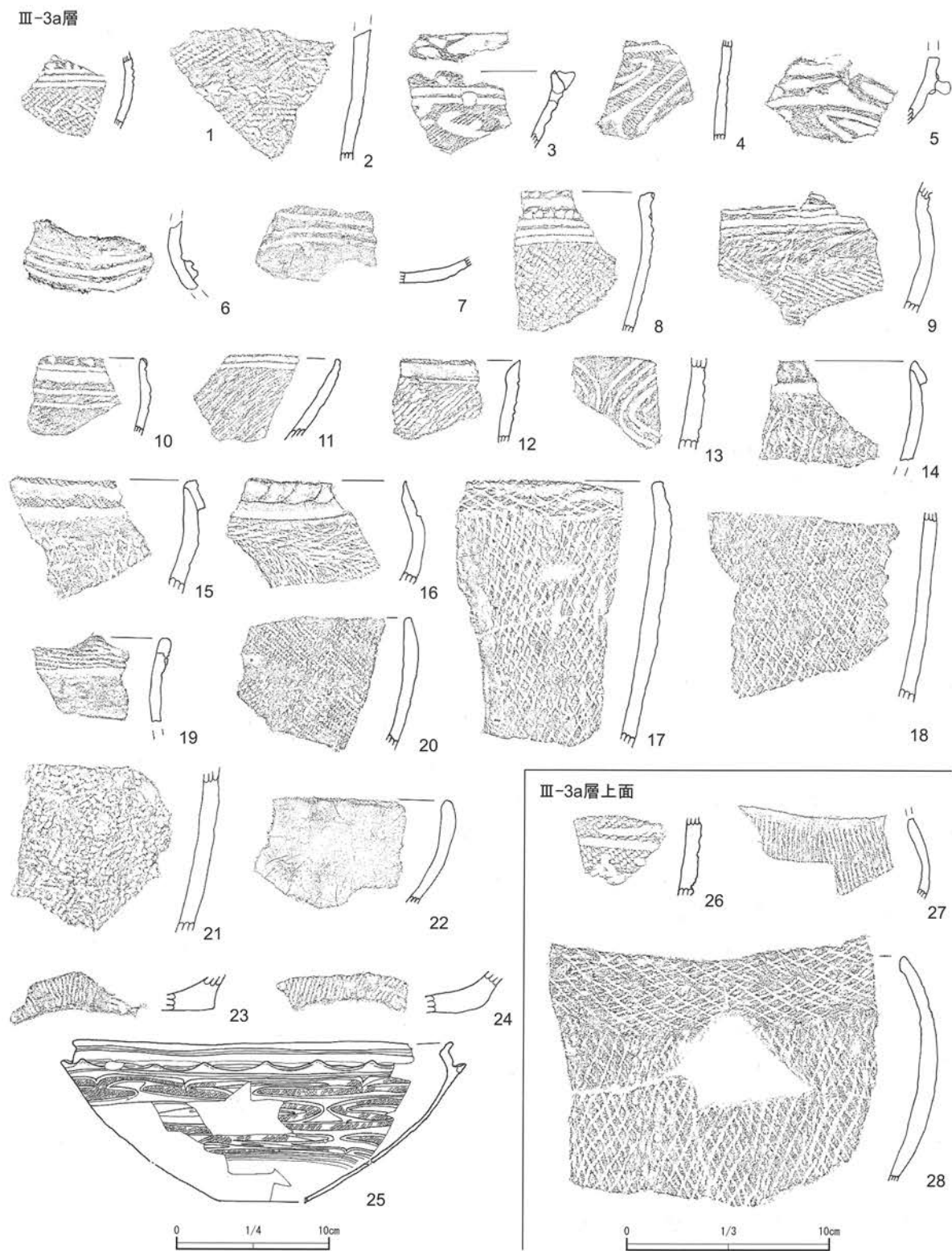


图48 5G出土土器

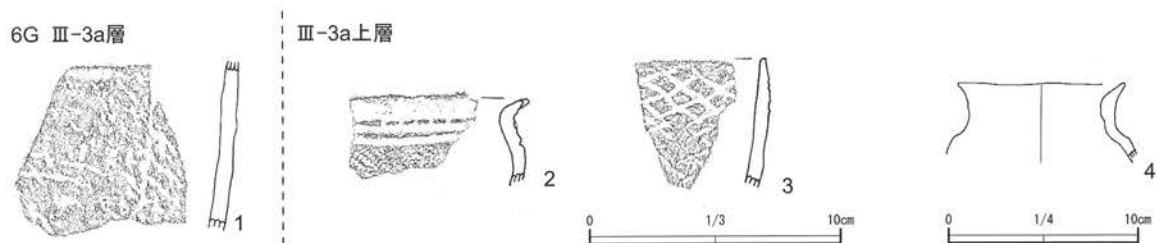


図49 6G出土土器

6G

III-3 a層の堆積が確認された。コラムサンプルの設定などは行っておらず、III-3 a層の検出面で調査を留めた。

III-3 a層 (図49-1)

1は網目状撚糸文が施文されるV-2類である。

III-3 a層上面 (図49-2~4)

2は小波状を呈する口縁部で、沈線間に刺突を施しているIV-6類である。3は網目状撚糸文が加えられており、V-2類に分類される。4は口縁が外反する無文の短頸壺で、V-4類である。

76T

トレンチの北側で、III-1・III-3 a層下に堆積するIII-3 b層が確認された。平面観察から、III-3 b層は谷部中央に向かって窪む自然堆積ではなく、層位がブロック状に分かれてことが認められた。III-3 b層中に2m×3mのテストピットを設定し、層位的に調査を実施した。断面観察からもレンズ状堆積を示す自然堆積ではないことが認められ、整地あるいは遺構の構築による堆積と判断した。このため、遺構を破壊する恐れがあることから、約20cmまでの調査に留めた。

テストピットIII-3 b上層 (図50、図51-1~5・26・27)

図50-1・2は羽状縄文が施文され、胎土に繊維を含んでいる。I-1類に分類される。図50-3~9・12~17はIII-3類に相当する。3~7は口縁部に刻み、12は胴部に2段の刻みが施されている。8は無文の波状口縁で、内面にミガキが加えられている。9、16~17は沈線区画内に充填縄文を施している。13~15は横位平行沈線・縦位蛇行沈線が施文されている。図50-10・11・18~21、図51-26・27はIII-4類である。図50-10・12・18~21は沈線区画内に充填縄文が施されている。19は口縁部に縦割突起が付され、20は口縁部に刻みが加えられている。図51-26は肩が張る壺形土器で、2条一対の弧状沈線が施されている。図51-27は口縁部が内傾する壺形土器で、弧状沈線区画内に縄文が充填されている。図50-22~28は横位・縦位櫛描文が施文されているV-1類、図50-29~31、図51-1~5は縄文が加えられているV-3類である。

テストピットIII-3 b下層 (図51-6~9・28)

図51-6・8はIII-3類に相当する。6は扇状の突起である。8は刻み・沈線区画内に充填縄文が施されている。7・9・28は縄文が施されているV-3類である。

テストピットIII-3 b層 (図51-10~25)

図51-11~13・17~19はIII-3類に分類される。11・18は刻みならびに沈線区画内に充填縄文を施している。12・17は2段の刻み加えられている。13・15は肥厚する無文の口縁部で、内外面にミガキを施している。19は横位平行沈線・縦位弧状沈線が施文されている。14は弧状沈線区画内に充填縄文

テストピット III-3b層

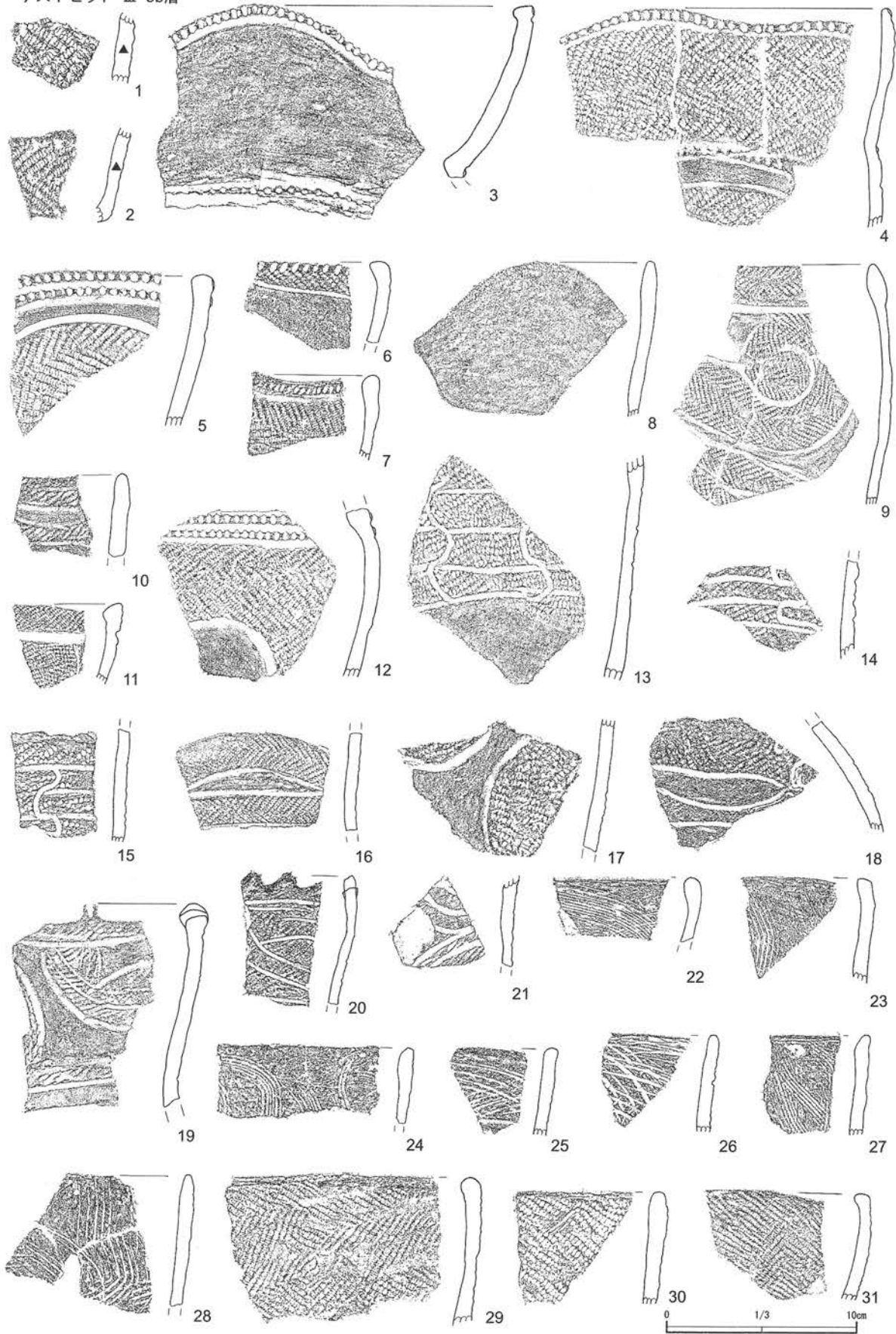
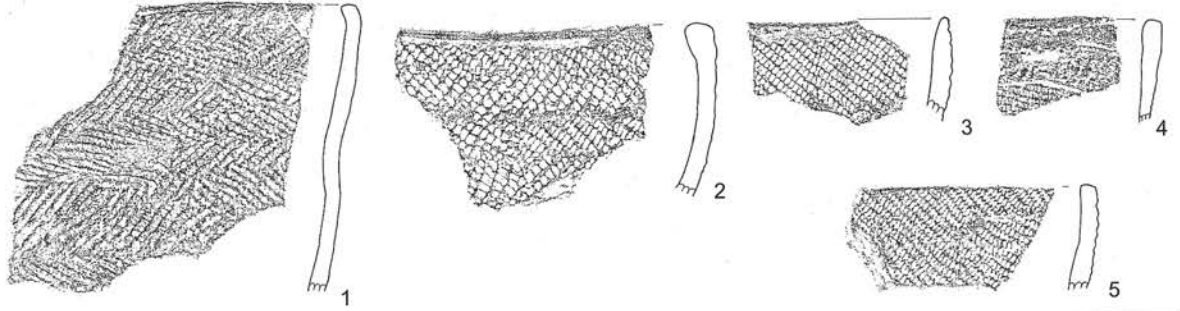
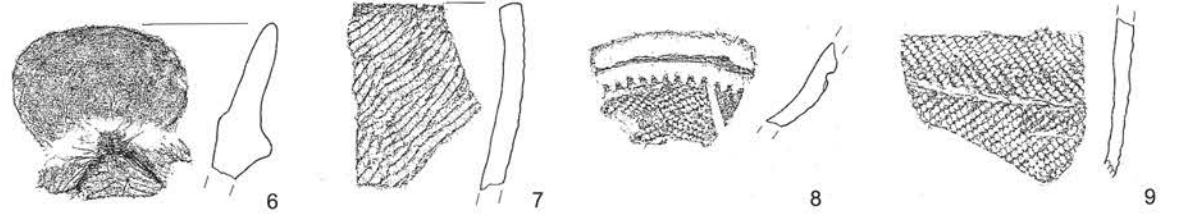


図50 76T出土土器①

テストピット Ⅲ-3b上層



テストピット Ⅲ-3b下層



テストピット Ⅲ-3b層

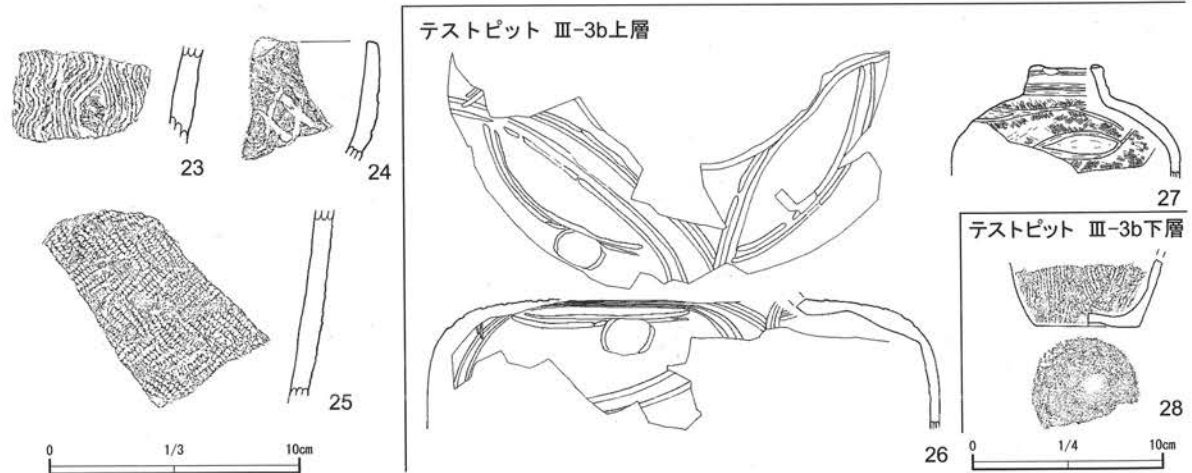
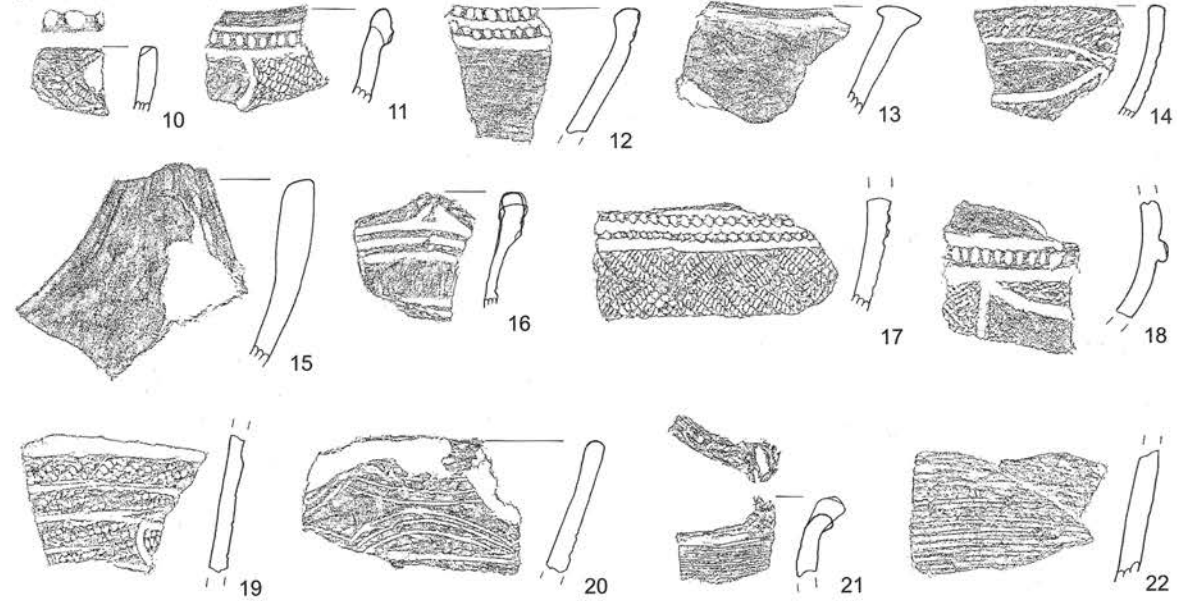


図51 76T出土土器②

Ⅲ-3b層

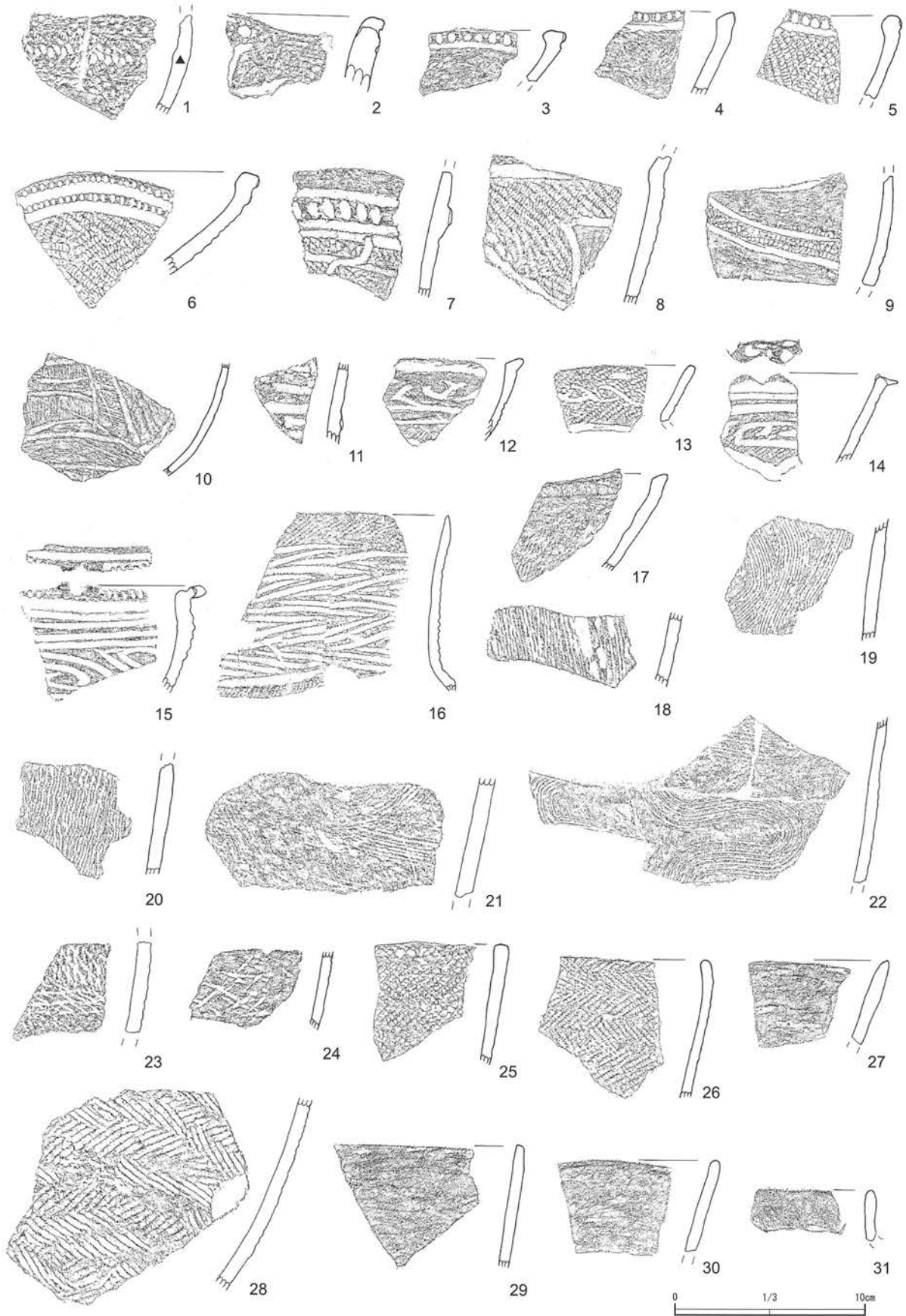


图52 76T出土土器③

を施している。16は口縁部に突起が付され、突起の形状に合わせて三叉状の沈線が加えられている。21は口縁部に縦割突起が貼付されている。14・16・21はⅢ-4類と考えられる。20・22・23は横位・弧状・蛇行櫛描文が施文されているV-1類である。24は網目状撚糸文が施されているV-2類である。10は羽状縄文が施され、口縁部内側に刻みが加えられている。25は羽状縄文が施されている。これらはV-3類である。

Ⅲ-3b層 (図52)

1は結束第1種の羽状縄文が加えられ、胎土に繊維を含むI-1類である。2は盲孔および縦位沈線が施文されているⅢ-1～2類である。3～8・17はⅢ-3類に分類される。3～5は口縁部に1段の刻み、6は2段の刻みが加えられている。7は刻みを施した隆帯の下位に横位沈線・縦位蛇行沈線が施文されている。8は沈線区画内に縄文が充填されている。17は波状を呈する口縁で、形状に合わせて1条の浅い沈線が巡り、胴部には縦位櫛描文が施文されている。9～11はⅢ-4類に相当する。9は沈線区画内に充填縄文が施され、10は沈線区画内に櫛描文が充填されている。11は横位沈線ならびに小突起が付されている。12は三叉文が認められ、IV-1類と判断される。13は結節縄文が施文されているIV-2類である。14は沈線により雲形文が描出されており、15は口唇部に沈線が巡り、口縁部に刺突・B突起が施され、胴部には雲形文が加えられている。14・15はIV-4類に分類される。16は綾杉状沈線が施されており、IV-5類と考えられる。18・19・21・22は横位・縦位・蛇行櫛描文が施文されているV-1類、20は縦位撚糸文、23・24は網目状撚糸文が加えられているV-2類である。25・26・28は縄文が施文されているV-3類、27・29～31は内外面にミガキが施されているV-4類である。

第3節 小迫地区南谷・斜面部・低地部遺物包含層

小迫地区南谷・斜面部・低地部の堆積土のうち、縄文時代の堆積層である大別Ⅲ－5層（以下、Ⅲ－5層）から出土した土器をまとめた。

1. 南谷（78T）

Ⅲ－5層の堆積が確認されたため、サブトレンチを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施した。Ⅲ－5層は大きく、灰黒色～黒灰色シルト（Ⅲa～g層）と暗褐色土（Ⅲh・i層）の2種類に分けることができる。遺物については、Ⅲ－5層をⅢa～i層に分層して取り上げているが、小破片のうえ摩滅しているものが多く、図化できたものは少ない。

Ⅲa層（図53－1～8）

4は弧状の平行沈線が施文されているⅢ－2類である。1～3・5はⅢ群に分類される。1は横位に平行沈線が走っている。2は沈線区画内に縄文が加えられている。3は長方形の沈線区画に縄文が施されている。5は1条の沈線が横走している。6～8は縄文が施文されているV－3類である。

Ⅲh層（図53－9・10）

9・10は胎土に繊維を含む無文土器で、I－1類に分類される。

Ⅲh層上面（図53－11～13）

13は胎土に繊維を含み、平行沈線が施文されている。I－1類である。11は貫通孔が施され、その上部には半円状の沈線が加えられている。12は多条沈線が縦位に走っている。これらはⅢ－2類に相当する。

Ⅲ層上面（図53－14～19）

16は楕円形沈線により無文部を描出している。Ⅱ－2類と考えられる。15・17は沈線区画の無文帯が認められるⅡ－2～3類である。14は刺突が施された隆帯が横位に巡っており、Ⅲ－1類に分類される。18・19は縄文が施文されているV－3類である。

2. 斜面部（81T）

Ⅲ－5層の堆積が確認されたため、サブトレンチを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施した。遺物については、Ⅲ－5層をⅢ上層、Ⅲ中層、Ⅲ下層に分層して取り上げている。

Ⅲ上層（図54－1～14、図56－1・2）

図54－1～14、図56－1は胎土に線維を含むI－1類である。図54－1・2は、円形竹管文を基点として、2本1単位でハの字状の縄圧痕文に文様を描くものである。いずれも内削ぎ状の口縁に刻みを施す。縄圧痕文の文様の空隙部には半截竹管の外側を用いた短沈線が斜位に加えられる。2は波状口縁で、胴部以下には縄文が施される。5～7は半截竹管によるC字形の刺突が多段に施される。

3は附加条第1種、4は非結束羽状縄文、12は0段多条の単斜縄文が施される。8・9は羽状縄文の結束部を、10はループ文を多段に施す。11・13・14は結束第1種の羽状縄文である。いずれも1単位幅は2cm以下で幅が狭い。14は胴部から緩やかに外反する器形を呈する。

図56－1は底部資料である。底面はやや丸底状を呈し、外面ならびに底面に羽状縄文が施される。2も底部資料であるが、器壁が厚く、外面はナデ、内面にはミガキ調整が施される。繊維を含まないことから、縄文前期後葉以後に位置付けられるI群である。

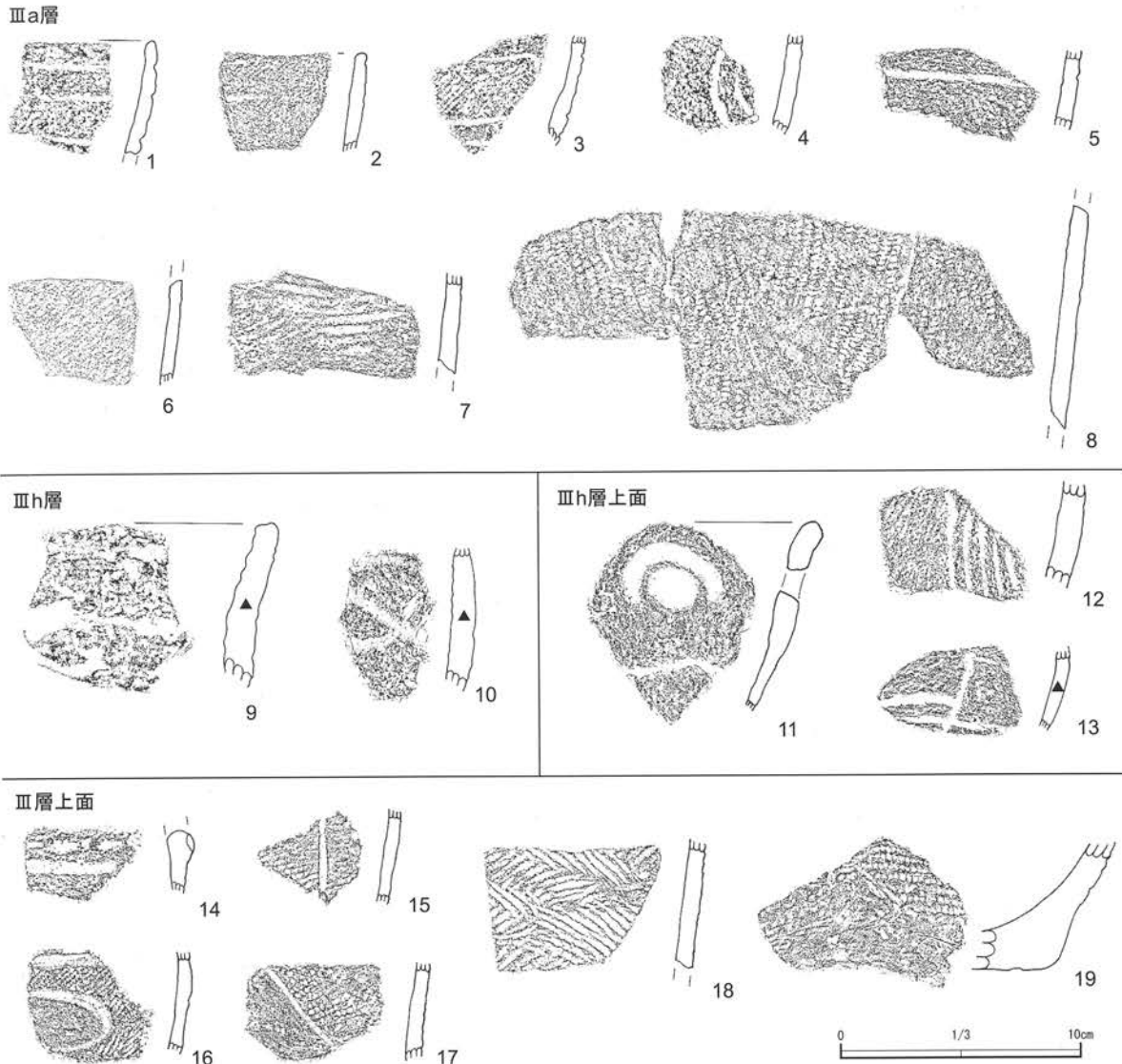


図53 78T出土土器

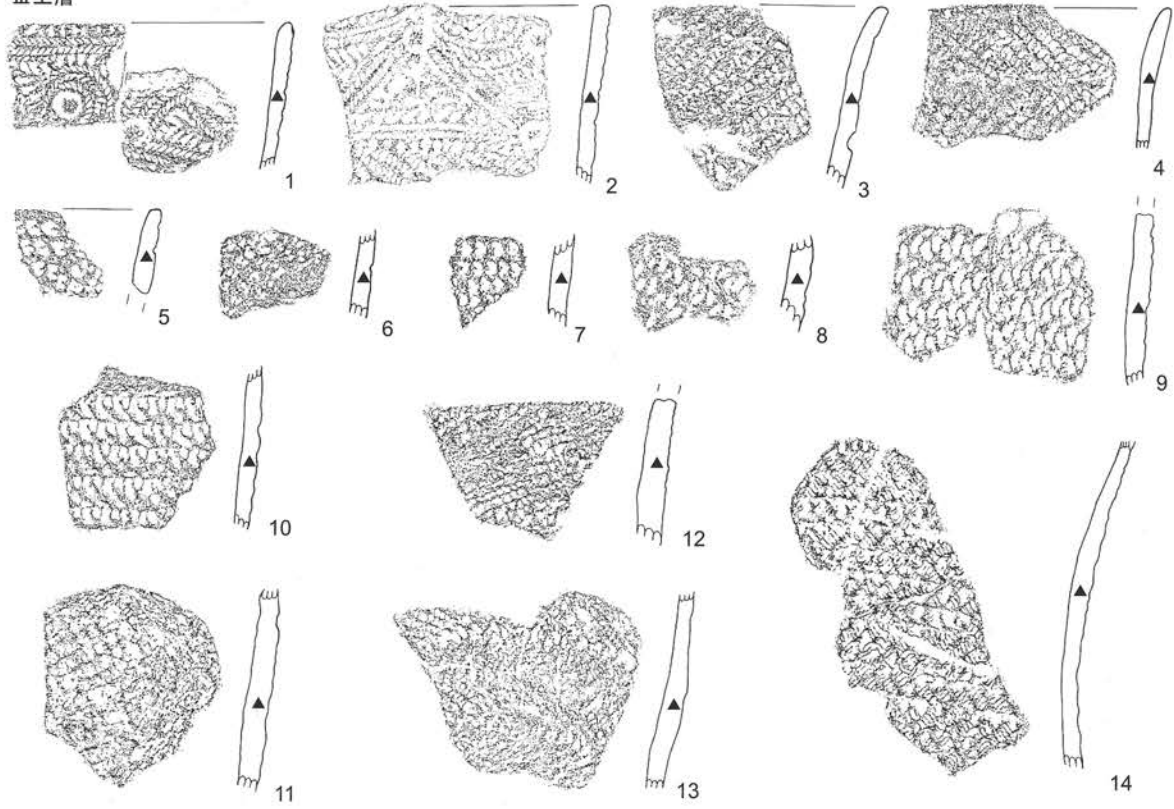
III中層（図54-15~36、図55-1~7）

図55-6は縦位にLR縄文が施されるII群である。その他はすべて胎土に線維を含むI-1類である。図54-15は口縁外面に縦位の刻みを施し、上下を単沈線で区画した中にループ文が施されている。16・17は円形竹管文を施し、2条単位のC字形爪形文が施文される。16は波状口縁を呈し、補修孔を有する。23・25は半截竹管による刺突文が施される。26・28は平行沈線により文様を描くものである。26は矢羽状の文様と考えられる。文様部には縄文は施されず、28は胴部に縄文が認められる。24は頸部に刺突を施し、胴部下に羽状縄文が見られる。同様に27は頸部に刺突を持つ隆帯が巡らされる。地文は結束第1種羽状縄文である。

18~21は結束第1種の羽状縄文が施された口縁部である。18~20の口縁は内削ぎ状を呈する。32・36も同様の胴部破片である。31・33・34は結束部のみ施文するものである。33は同図8・9と同一個体である。29・30はループ文が施される。これらの施文単位幅はいずれも2cm以下と狭い。

22は無節L縄文で、内外面に指頭圧痕が顕著に残る。図54-35、図55-1は非結束の羽状縄文である。図55-2~4は単斜縄文が施されるが、2は結節縄文が認められる。7は底部破片である。底部

Ⅲ上層



Ⅲ中層

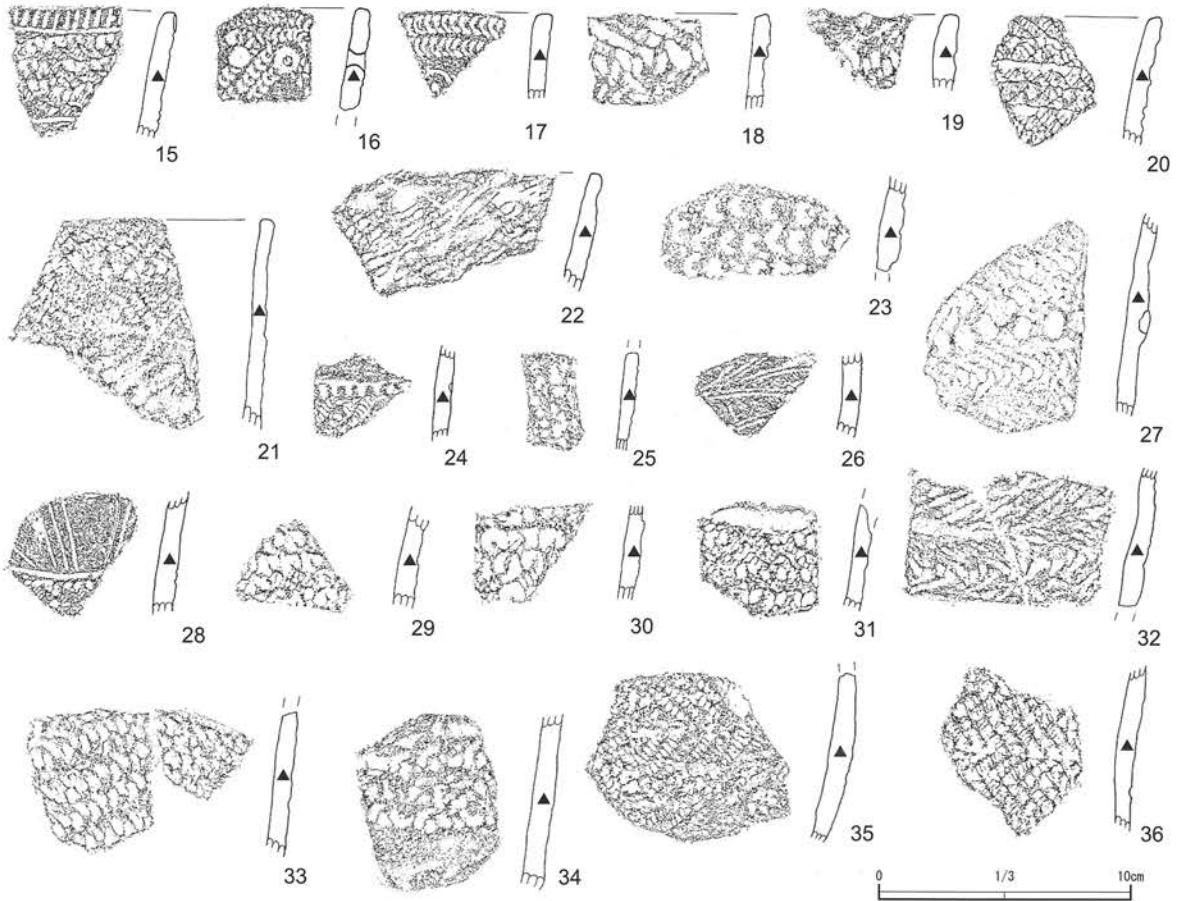
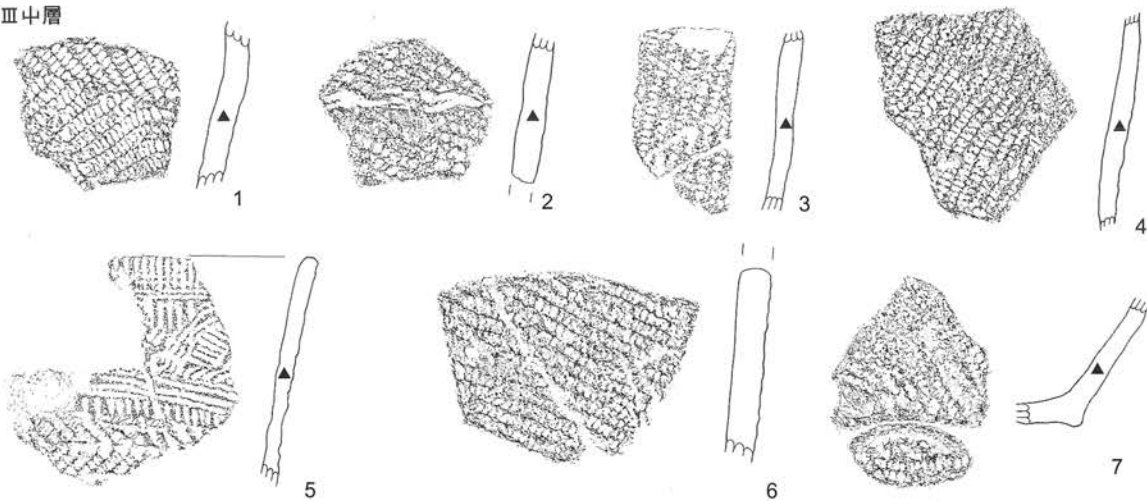


图54 81T出土土器①

Ⅲ中層



Ⅲ下層

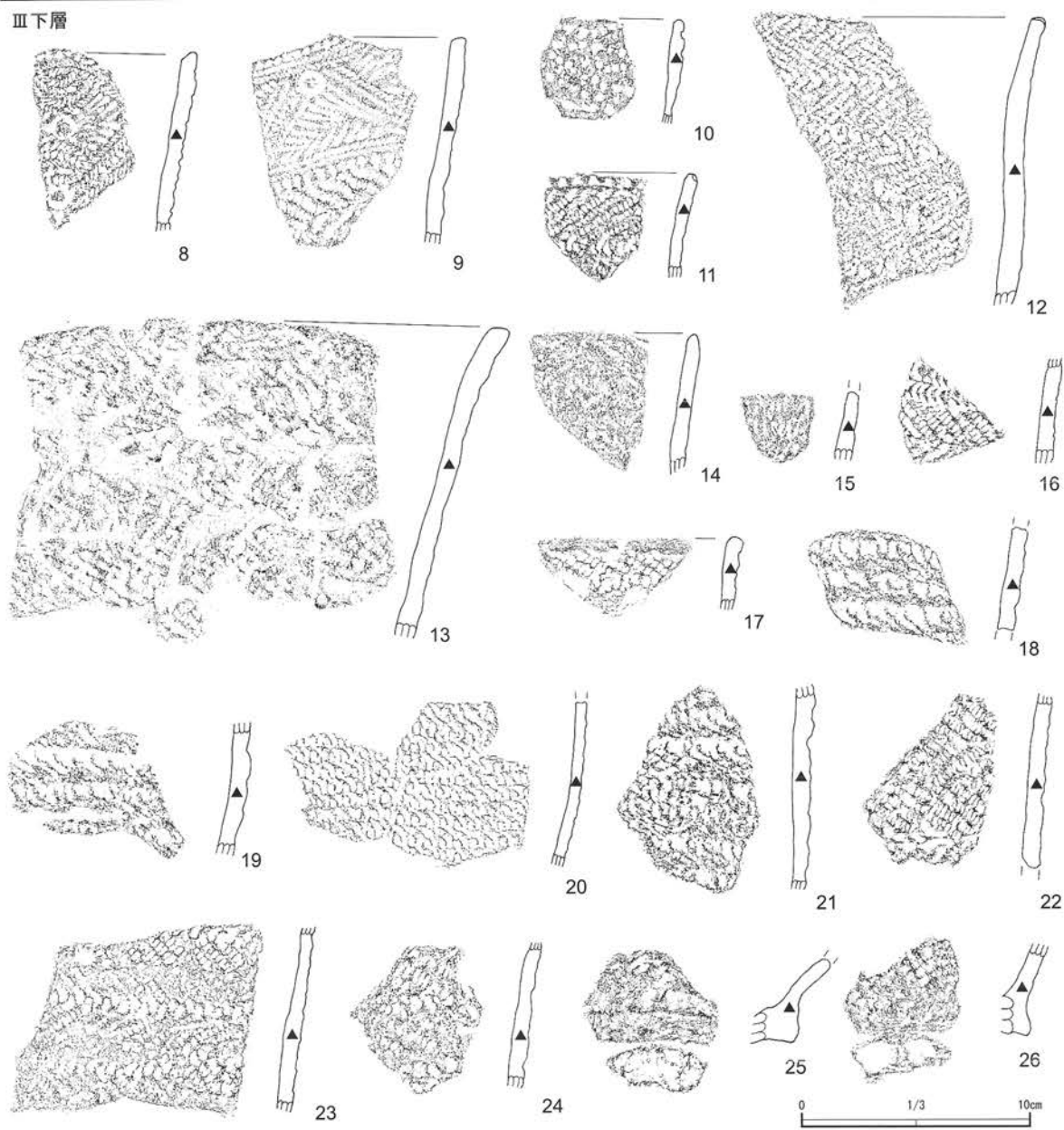


图55 81T出土土器②

縁が外側に突出している。摩滅が激しいが、胴部・底面に羽状縄文が施される。

図55-5は口縁に縦位の刻みを施し、2条1単位のハの字状縄圧痕文で上下を区画し、文様を描くものである。文様の空隙部には半截竹管の外側を用いた短沈線が充填され、同一の施文具の縦位の刻み列で文様部下端を区画している。胴部は結束第1種の羽状縄文である。

Ⅲ下層（図55-8～26、図56-3）

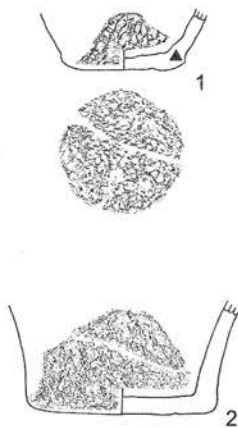
出土した土器はすべて胎土に線維を含むI-1群土器である。図55-8・9は同一個体であり、刻みを有する波状口縁で、ハの字状縄圧痕文による文様を描く。8の波頂部に対応して、縦位に配置された円形竹管文と上下に対向した弧状の縄圧痕文が施されている。9は口縁に沿って上下を縄圧痕文で区画し、円形竹管文を基点に山形文を施す。胴部は結束第1種の羽状縄文である。いずれも縄圧痕文の空隙部には短沈線が充填されている。

10は刺突が多段に配されるものである。11は口縁に外方からの刻みが、12は上方からの刻みが施され、地文は結束羽状縄文が施される。12は胴部がややふくらみ、頸部で緩やかに外反しながら直立的に口縁が立ち上がる器形を呈する。15・16はC字形爪形文が施文されるもので、16は爪形文帯の下部に羽状縄文が施されている。

13・17・22～24は結束第1種の羽状縄文が施されるものである。13は直線的に立ち上がる器形を呈し、口縁がやや肥厚し、口唇は平坦である。17は口縁が丸く整えられる。14は無文であり、口縁はやや内削ぎ状である。18～21はループ文が多段に配されるものである。19・20はループ部のみ回転施文である。25・26は同一個体と考えられる底部破片である。底面は指頭圧痕が残る指ナデ調整である。

図56-3は非結束の羽状縄文が施される深鉢である。やや粗雑な施文であり、施文単位幅は約4cmを測り、幅広い。口縁は直線的に広がり、胴部下位から底部がすぼまる器形を呈する。

Ⅲ上層



Ⅲ下層

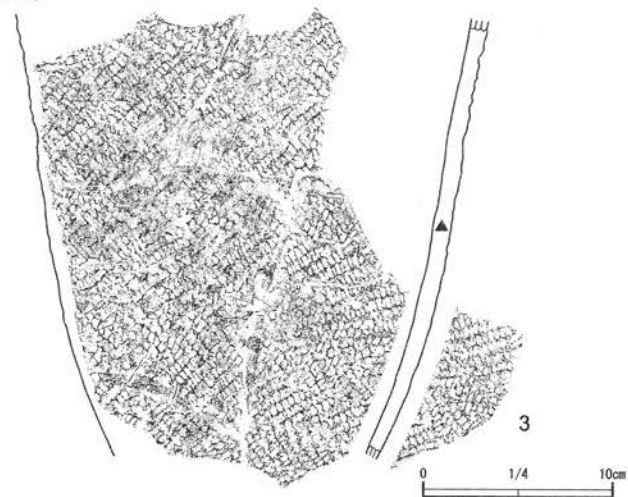


図56 81T出土土器③

Ⅲa層

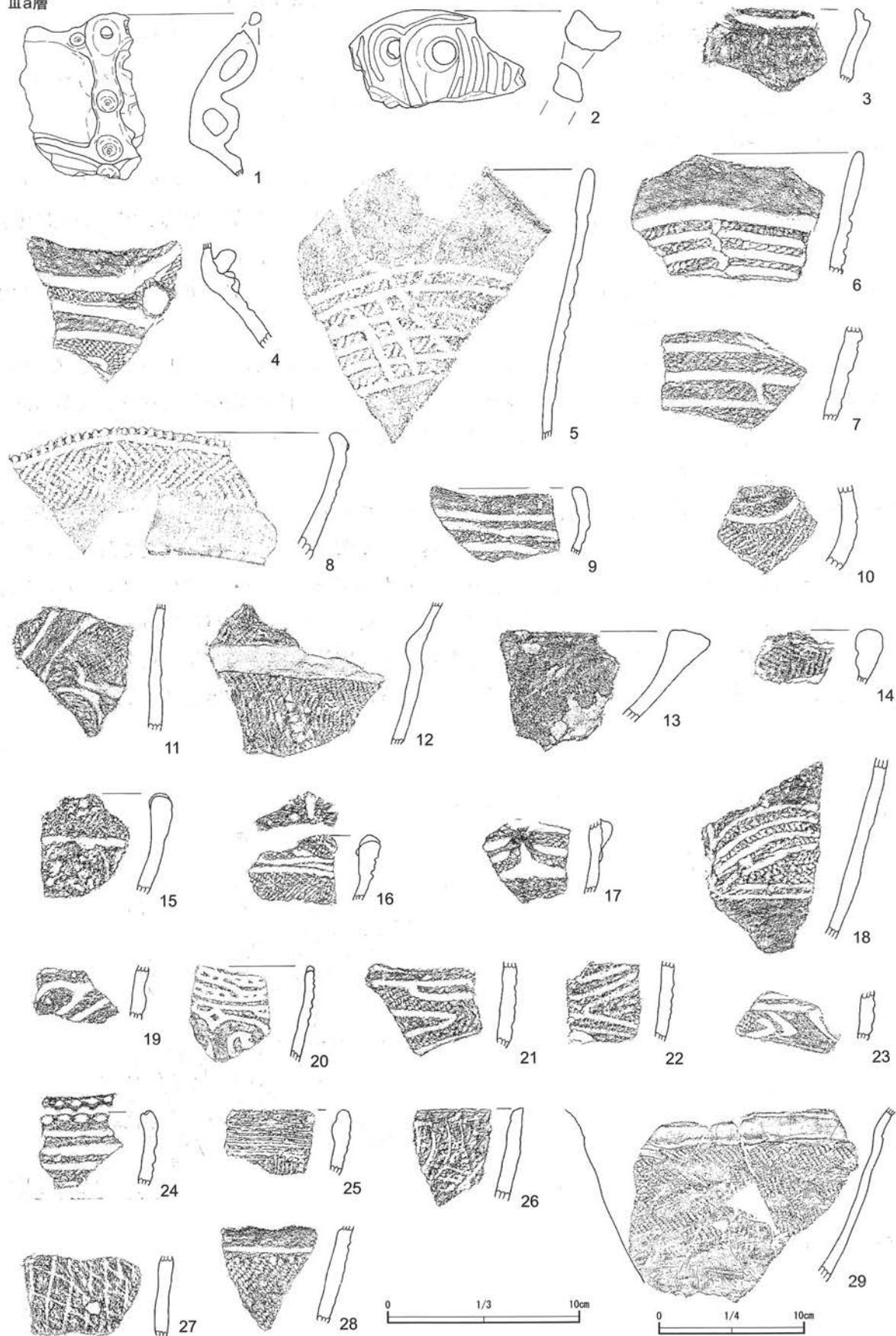


图57 73T出土土器①

3. 低地部 (73T)

Ⅲ-5層の堆積が確認されたため、サブトレンチならびにグリットを設定して、基盤層（第四紀堆積層）まで調査を実施した。Ⅲ-5層は大きく、灰褐色砂（Ⅲa層）と灰黒色～黒灰色シルト（Ⅲb～g層）の2種類に分けることができる。遺物については、Ⅲ-5層をⅢa～g層に分層して取り上げている。

Ⅲa層 (図57、図58-1～8)

図57-1は貫通孔・盲孔が施された橋状把手が付されている。4は隆帯に盲孔が加えられ、その下位には沈線区画で文様が描出されている。これらはⅢ-1類である。2は2つの貫通孔ならびに集合沈線が縦位に施文されている。3は口縁部に1条の沈線が横走する。2・3はⅢ-2類に分類される。5～14・29はⅢ-3類に相当する。5・7は横位平行沈線ならびに縦位沈線が加えられている。6は横位平行沈線をなぞりながら弧状沈線を施文している。9は平行沈線が施されている。8は口縁部に刻みが加えられている。10・11は沈線区画内に縄文を充填している。12・29は屈曲部の縄文を磨り消している。13・14は口縁部が肥厚しており、14は羽状縄文が施文されている。15～18はⅢ-4類に分

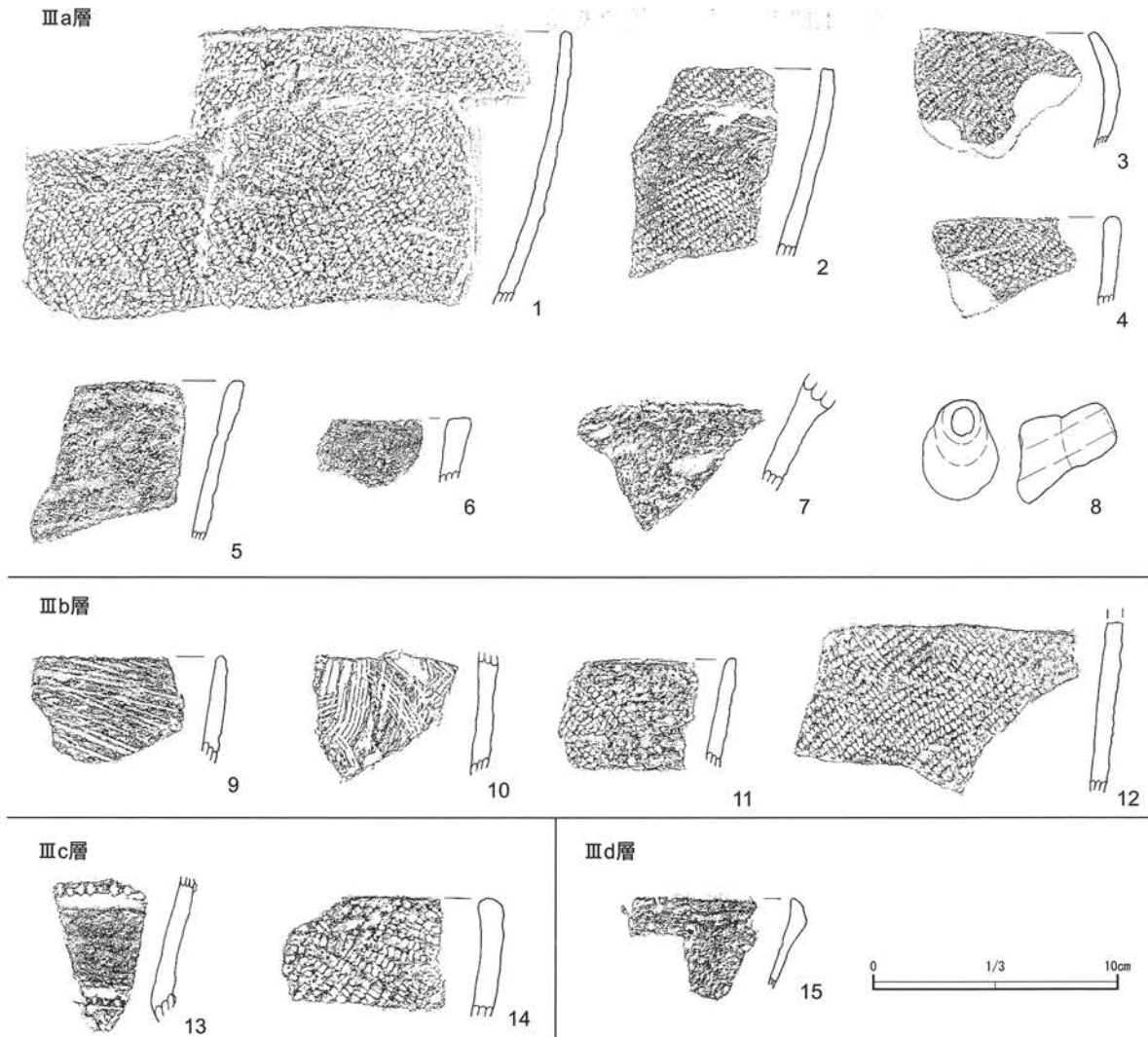


図58 73T出土土器②

類される。15・16は口縁部に縦割突起、横位沈線が施されている。17は突起が付され、突起下位に三叉状沈線が加えられている。18は横位・弧状沈線区画内に縄文を充填している。19は三叉文が施文されており、IV-1類と判断される。20口縁部に羊歯状文が施され、その下位には曲線的なモチーフが描出されている。20はIV-2類と考えられる。21～23はIV-4類に相当する。21・23は磨消縄文で、22は沈線で文様が描かれている。24は口唇部・口縁部に刺突が巡り、その下位に平行沈線が施文されているIV-6類である。25・26は横位・縦位櫛描文が加えられているV-1類、27は網目状撚糸文が施されているV-2類である。図57-28、図58-1～4は縄文が施文されているV-3類である。5～8はV-4類で、7は横位に隆帯が巡る。8は注口部である。

Ⅲ b 層 (図58-9～12)

9・10は横位・縦位櫛描文が施されており、V-1類に分類される。11・12は斜縄文が施文されているV-4類である。

Ⅲ c 層 (図58-13・14)

13は2段の刻みが認められるⅢ-3類、14は羽状縄文が施されているV-3類である。

Ⅲ d 層 (図58-15)

15は口縁部が肥厚する無文土器で、V-4類である。

第3章 石器・土製品

第1節 石器

スクレイパー（図59-1）

両面の両側面に細かい調整を施して刃部を形成し、背面には素材剥片の剥離面を残している。頁岩製である。

石鏃（図59-2～27）

小迫地区から出土した石鏃の形態は多様で、凹基無茎鏃・平基有茎鏃・凸基有茎鏃・尖基鏃・円基鏃が認められる。これらの完形品は、最大長は1.4～3.0cm前後、最大幅0.7～2.0cm前後を測り、断面の形状はレンズ状を呈するものが多い。2～12は凹基無茎鏃で、基部の挟りは浅いものが多い。13～15は平基有茎鏃で、茎部はしっかりと作り出されている。16・20・22～24は凸基有茎鏃である。16・20の茎部の作り出しはしっかりしており、23は舌状の茎が作り出されている。22・24は左右両側に小さいが凸状に茎部の作り出しが認められるため凸基有茎鏃に分類した。17～19・21・25は尖基鏃である。18・25は片側に小さな茎部の作り出しが認められるが、反対側は作り出しが不明確であるため尖基鏃に含めた。26は基部が円形に近い形状を呈しており、円基鏃に分類される。27は尖頭部の破片であり、全体の形状は不明である。石材は頁岩（赤色頁岩・珪質頁岩を含む）が多く、その他はメノウ・凝灰岩・石英安山岩が使用されている。

異形石器（図59-28）

三日月上の形状を呈している。凹基無茎鏃の基部の形状に類似するが、刃部が作り出されていることから、異形石器とした。メノウ製である。

石鏃未製品（図60-1～13）

剥離面を残し、調整が施されないもの、製品と比較すると調整が粗雑なもの、側縁を残すものを未製品とした。最大長1.6～3.0cm前後、最大幅0.7～2.4cm前後を計測する。石材は頁岩（赤色頁岩・珪質頁岩を含む）ならびにメノウが使用されており、その数はほぼ同数である。

剥片（図60-14～20）

石鏃未製品に比較し、側縁の調整が施されない部分や剥離面を多く残すものを剥片として分類した。14・16は背面に自然面を残す。石材はすべて頁岩である。

磨石・敲石・石皿（図61～64-7）

図61-1は全面に敲打痕が認められるが、大型の礫であることから台石として使用されたものと考えられる。2・3・7～9は敲打痕・擦痕が観察される敲石・磨石である。4は敲石、5は両面が使用された石皿、6は磨石である。図62-1～3・5・7は敲石である。2は使用部分が大きく窪むほど敲打痕が顕著である。6は大型の礫で、台石として使用されたものと思われる。4・8は敲打痕・擦痕が観察される敲石・磨石である。9は磨石である。図63-1・8・9は敲打痕・擦痕が観察される敲石・磨石である。1はやや大型であり、台石として使用された可能性が考えられる。2～5・7は石皿である。6は敲石である。図64-1は擦痕ならびに若干の敲打痕が観察される敲石・磨石である。2・6は磨石、3は石皿である。4・5・7は敲石で、4は側縁に敲打痕が顕著に認められる。これらの石材には花崗岩系の岩石が多く利用されている。

第1節 石器

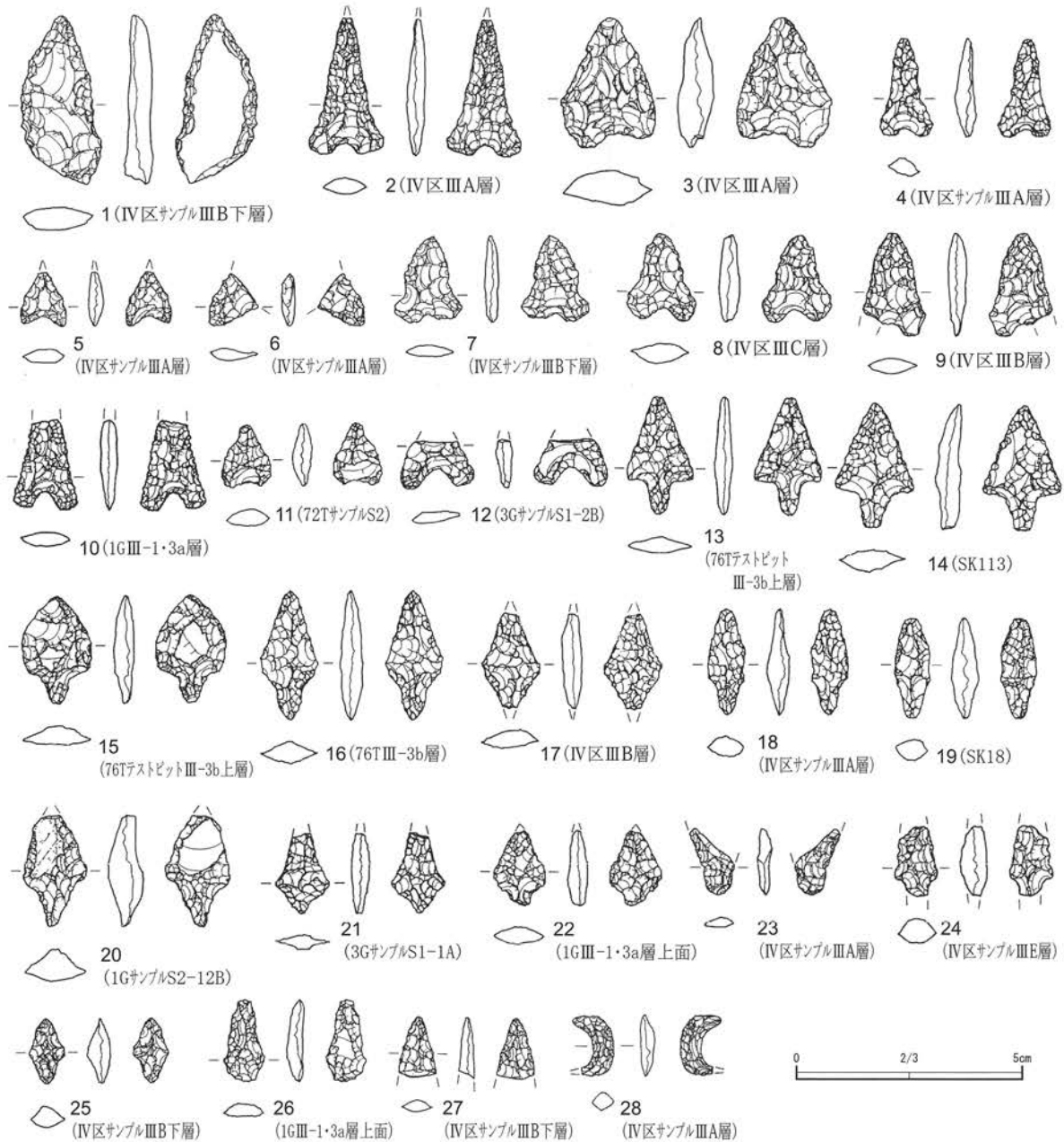


図59 石器①

石棒・石刀 (図64-8~10)

8・10は石棒で、9は石刀ある。8~10はともに全体的に擦痕が認められ、10は擦りを施した後に光沢がでるほどのミガキを加えている。8・9は粘板岩製、10は石墨千枚岩製である。

第2節 土製品

土偶 (図65-1~5)

1は遮光器土偶の頭部である。沈線で眼、刺突で鼻が描出されている。口は貫通孔で表現されており、口の両側にも孔が穿たれている。首にはメガネ状付帯が見られ、後頭部には刺突が2箇所施されている。頭頂部には4つの突起により王冠状装飾が表現されている。2は沈線で頭部と胴部を分けている。胴部前面には粘土粒で乳房の表現がされており、前面ならびに背面にはV字状の沈線が施文さ

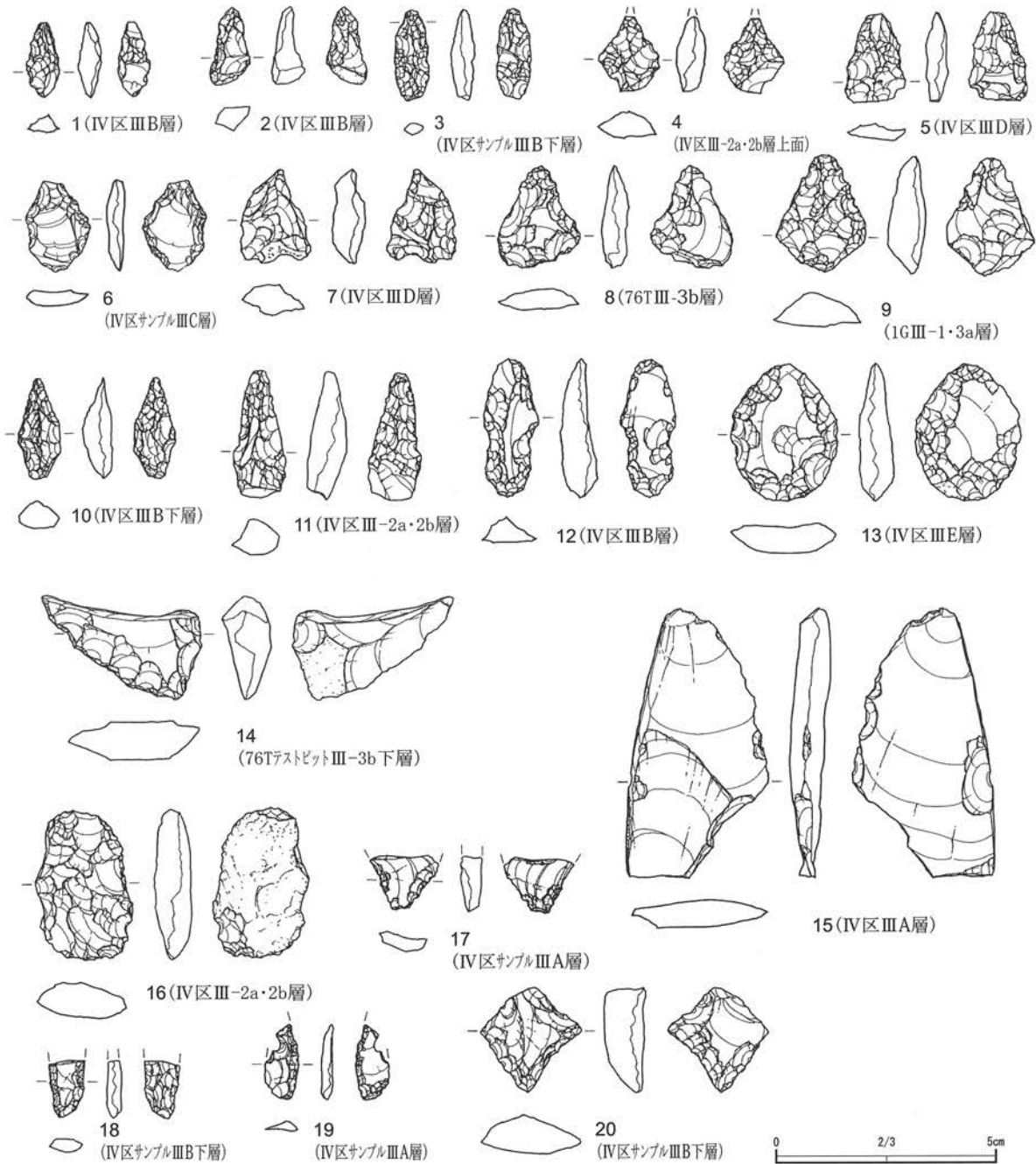


図60 石器②

れている。3は肩部の破片であり、前面・背面に細かい円形刺突が加えられている。4は胴部に刺突の施された隆帯を垂下させて正中線を表している。胴部下半には全面にわたり、細沈線で「こしみの」状の表現がされている。5は前面に粘土粒で乳房、刺突が加えられた隆帯で正中線が表現されている。背面には、首から肩・背中にかけて沈線が施されている。

土面 (図65-6)

隆帯により眉毛ならびに鼻が表現されている。目は隆帯と貫通孔で表されている。目の下位には目よりも大きい孔が穿たれている。表面は赤彩され、裏面は平坦である。

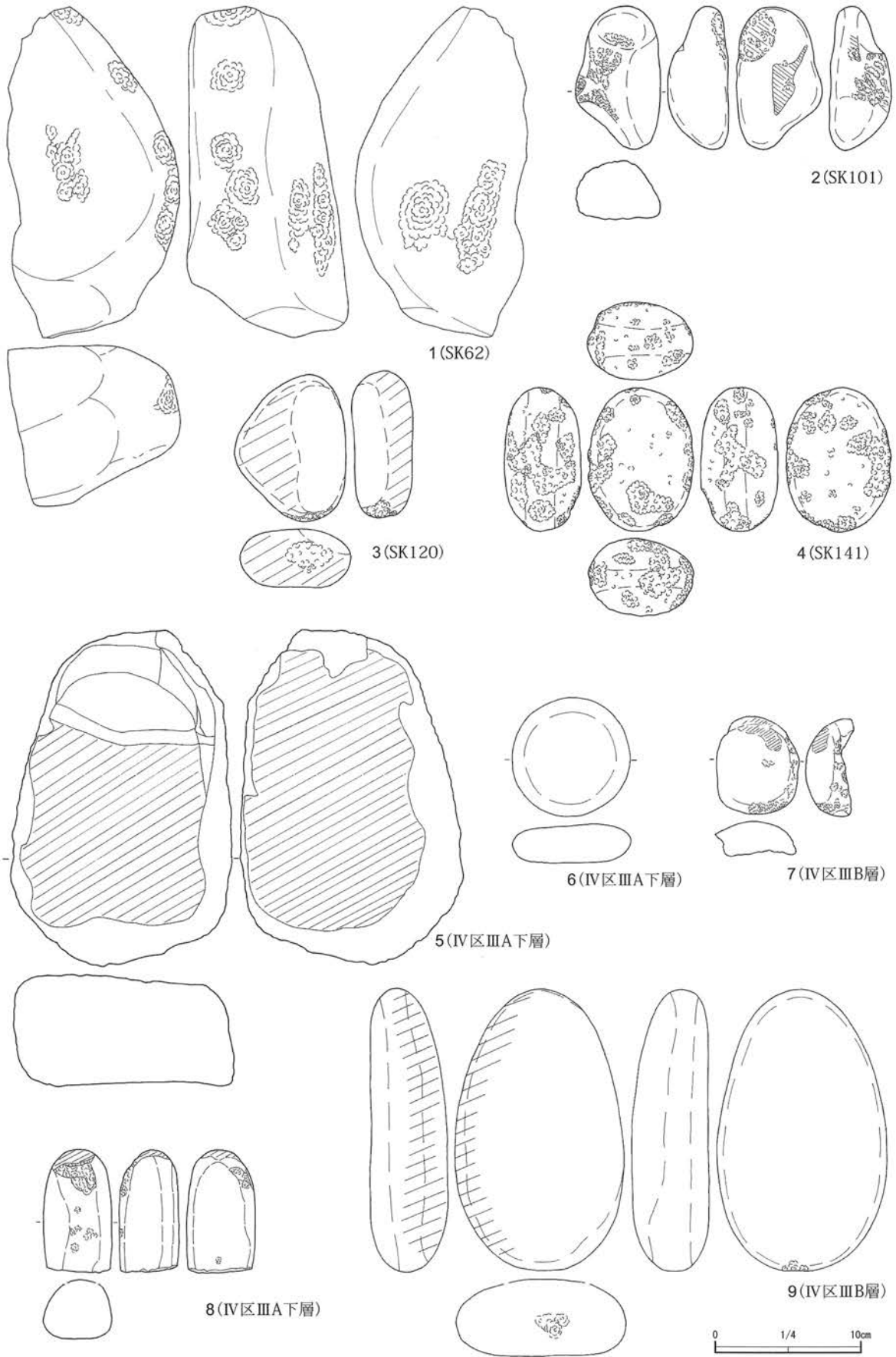


图61 石器③

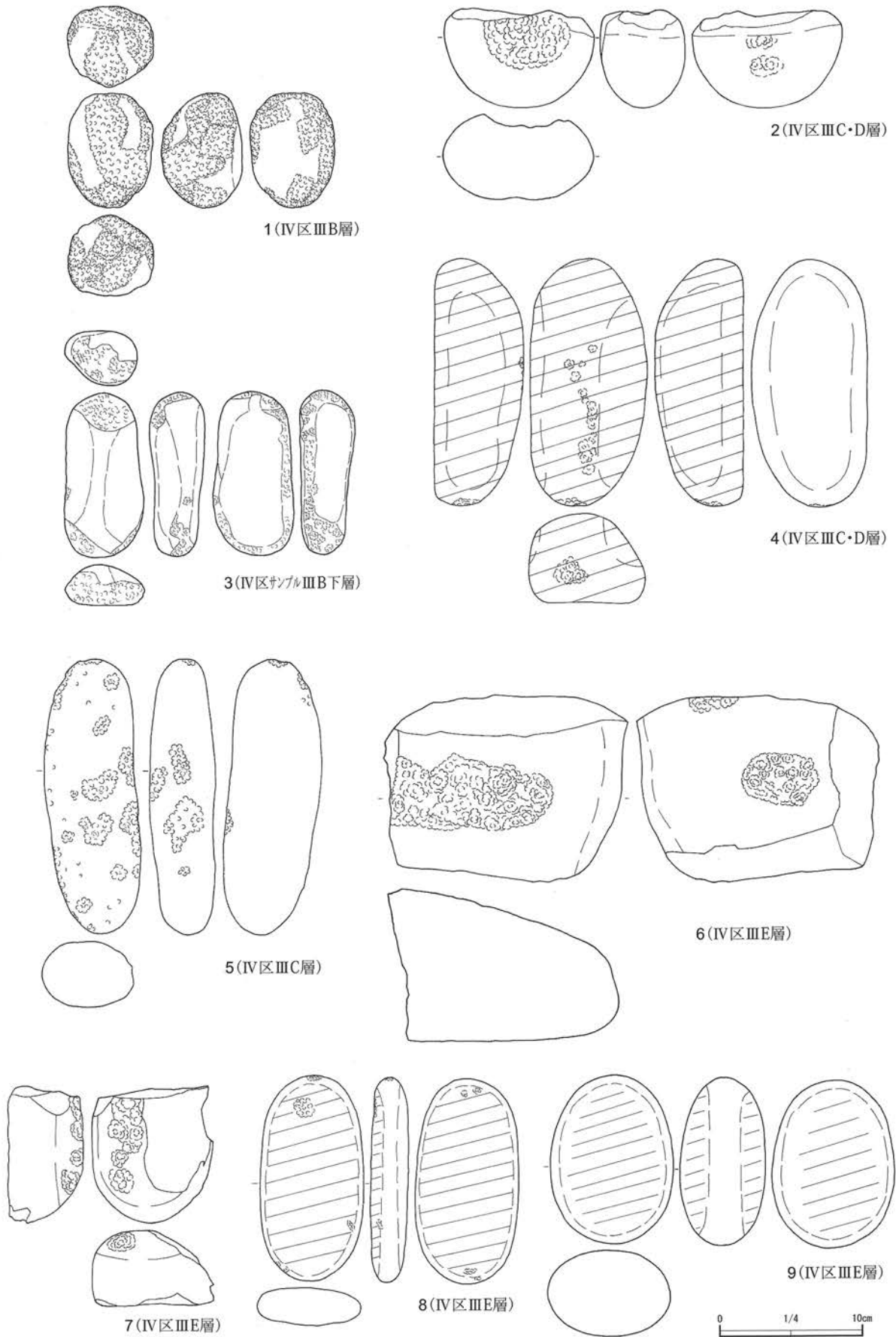


图62 石器④

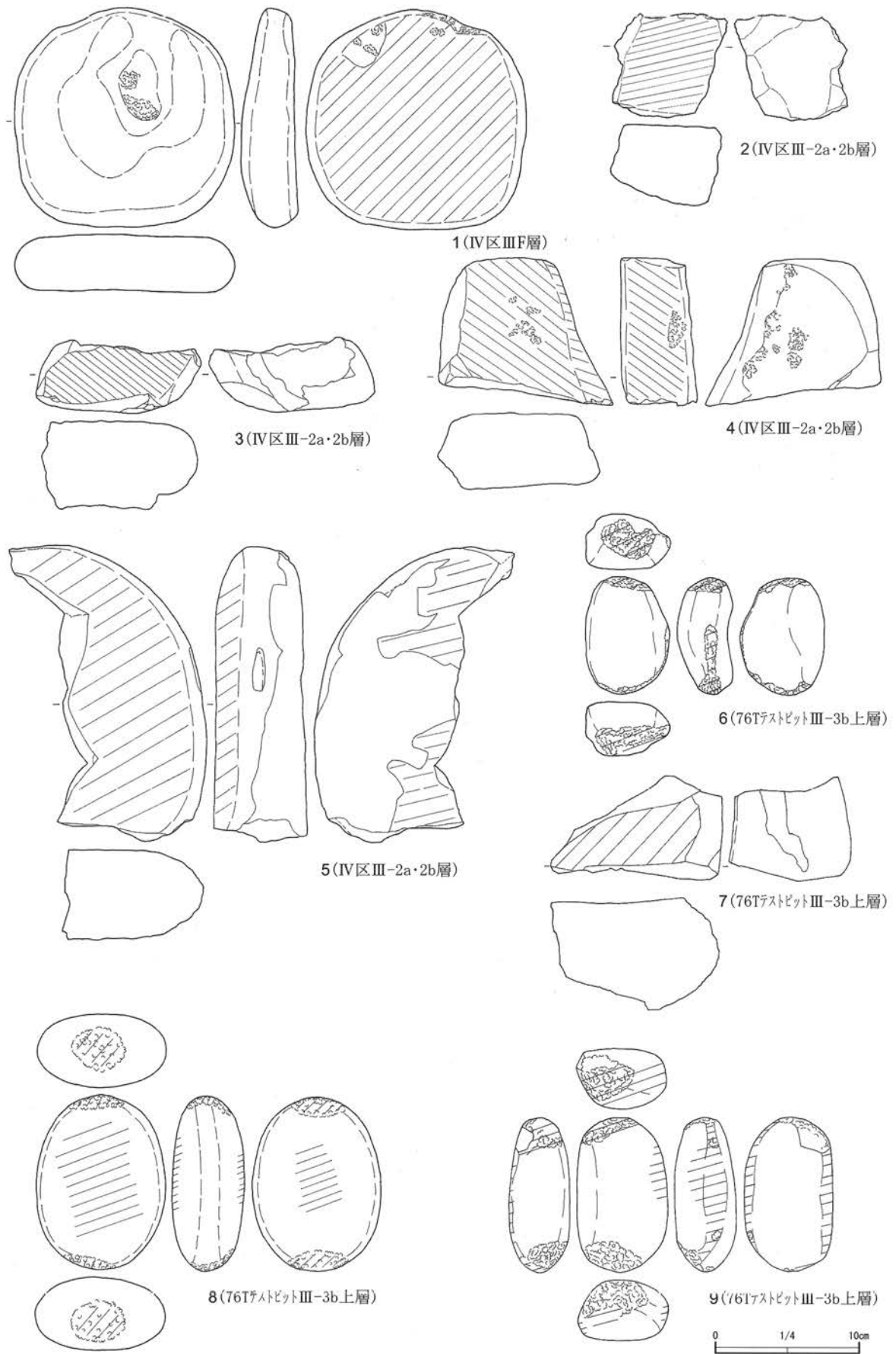


図63 石器⑤

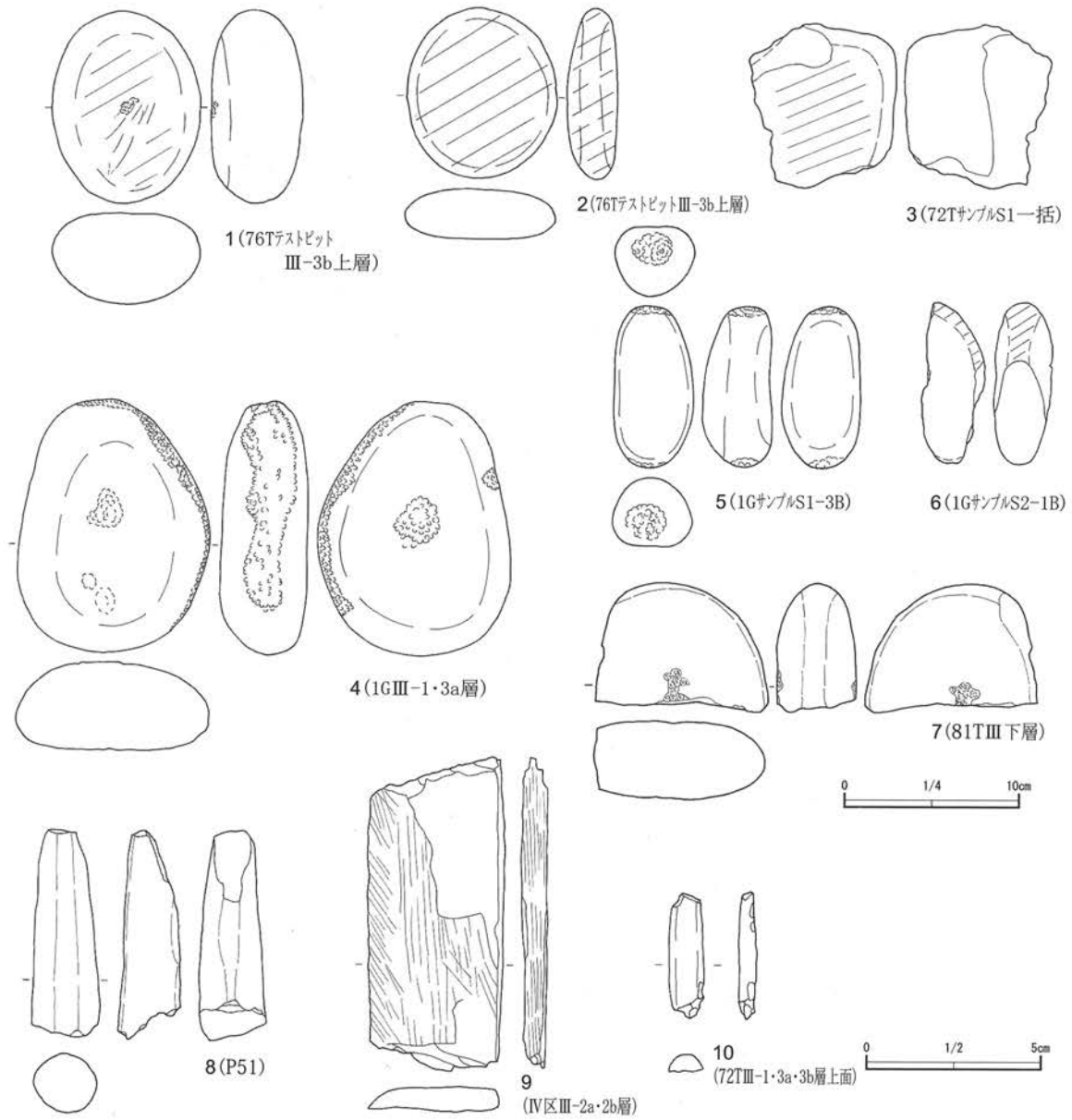


図64 石器⑥

皿状土製品 (図66-1)

緩やかに内湾しながら立ち上がる皿状の形状を呈する土製品である。内面には細い沈線で矢羽状の文様が描かれ、外面には内面の沈線より太い沈線で、弧線や直線を施している。

土版状土製品 (図66-2・3)

2は中央に向かって厚みを増す形状で、側面には刺突が巡っている。表・裏両面とも縁に沿った刺突と弧状沈線が施されている。3は表面に矢羽状沈線の施文後に十字状沈線を加えている。

耳飾り (図66-4・5)

4は無文の小型の耳飾りで、中央に穿孔されている。5は中心部に孔が穿たれ、表面が菱形状の彫去ならびに弧状沈線で装飾されている耳飾りである。

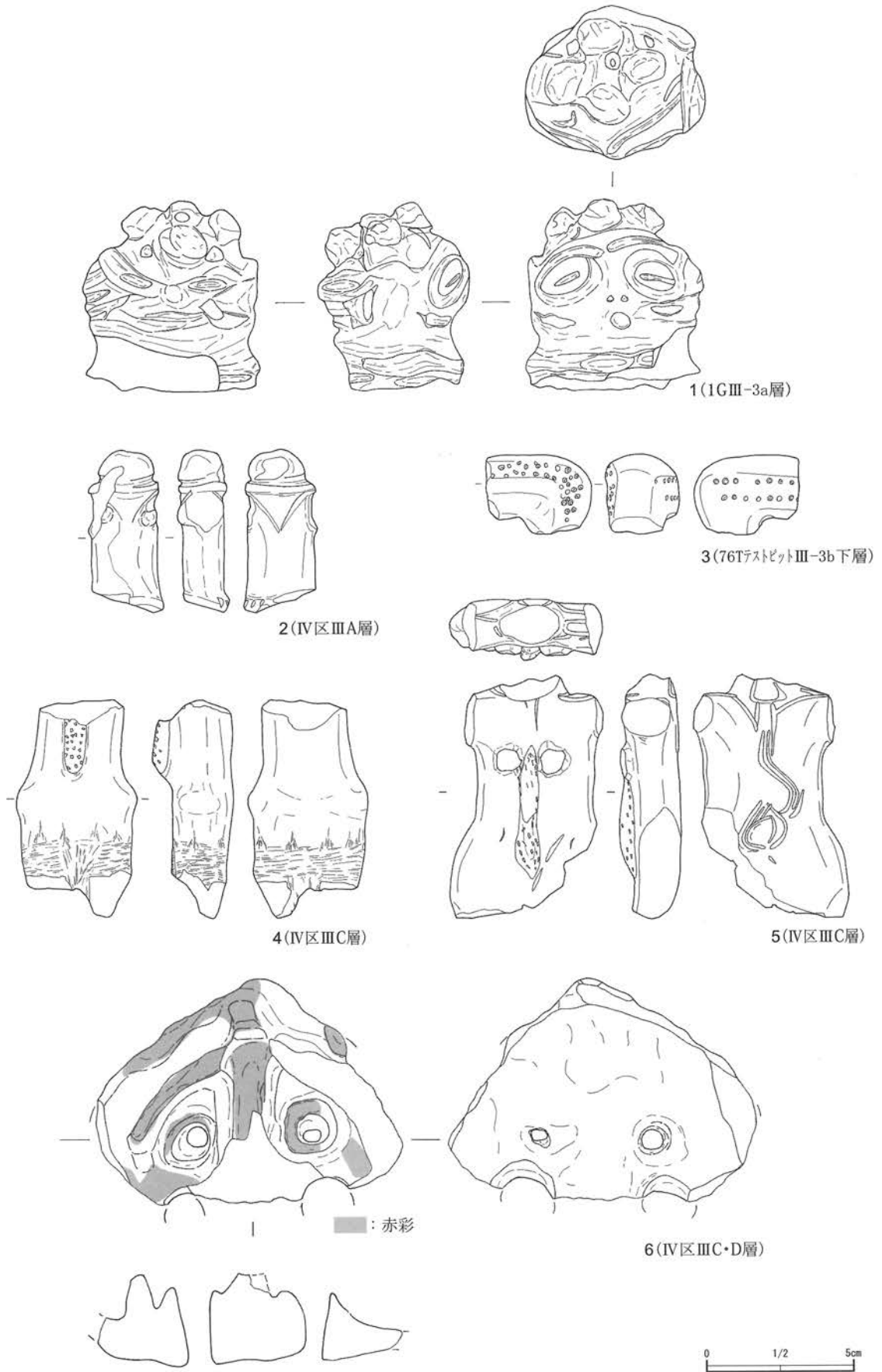


図65 出土土製品①

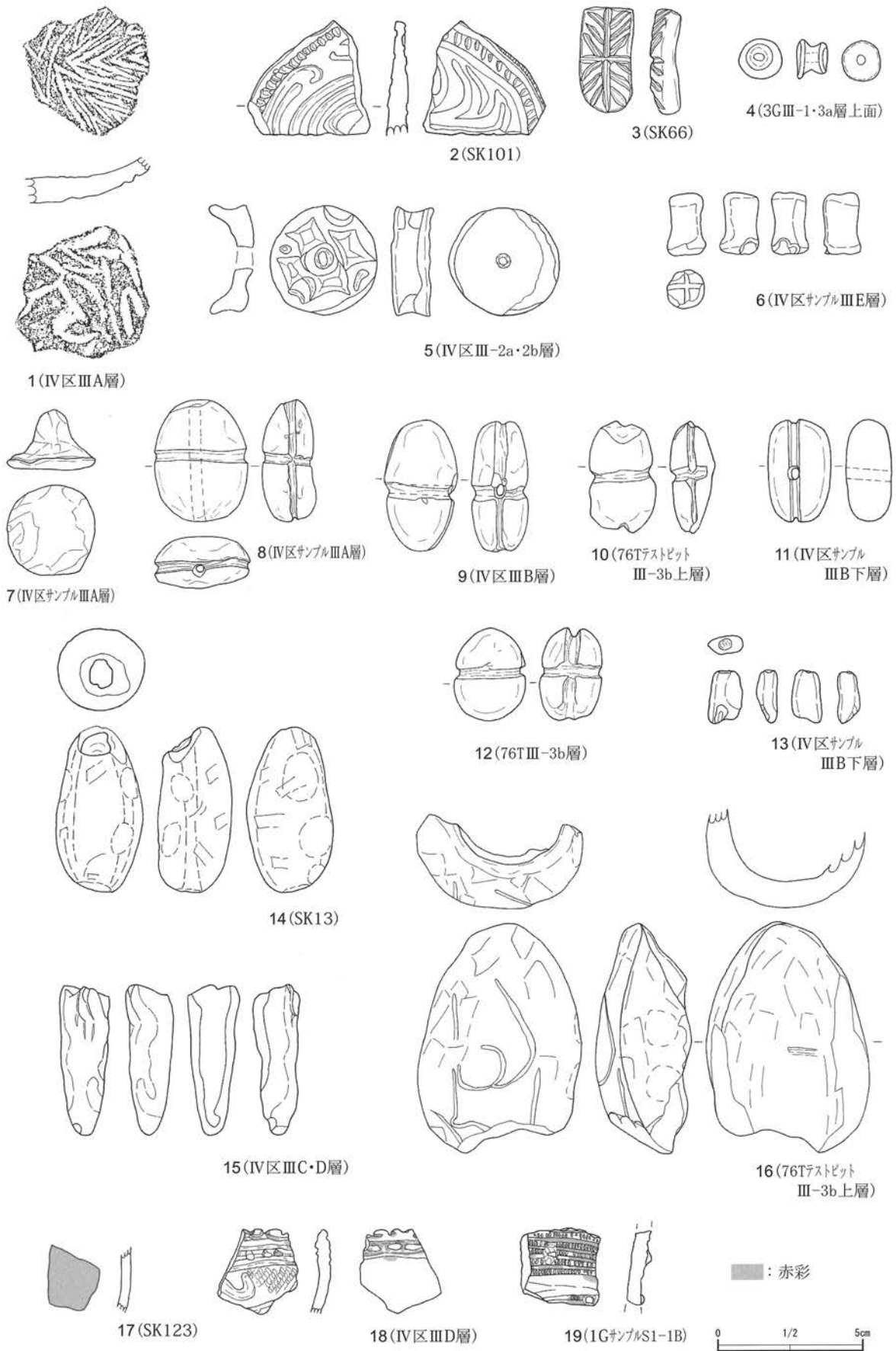


図66 出土土製品②

スタンプ状土製品（図66-6・7）

6は中央が若干窪む円柱状の形状を呈している。底面には浅い十字状の沈線が施文されている。7は円形の底面に先細りの短い把手部が付されている。底面は無文である。

土錘（図66-8～12）

平面形は楕円形基調である。8～10・12は側辺部に溝が一周し、さらに表・裏面に横位に溝が巡り、側辺部で十字に交差する。8は側辺部から縦位に孔が穿たれており、9は溝が十字に交差する部分から横位に穿孔されている。11は表・裏面に縦位に溝が回り、中央部に孔が穿たれている。

その他土製品（図66-13～16）

15は棒状土製品で、沈線が施されている。16は匙状土製品である。指頭圧痕やケズリで成形されており、外面には弧線・直線が施文されている。13・14は不明土製品である。13は上面に円形刺突が加えられている。14は中空の土製品で、外面に成形時の指頭圧痕やケズリが残されている。土笛の可能性が考えられる。

赤彩土器（図66-17～19）

17は内外面が丁寧に研磨されているV-4類土器で、外面が赤彩されている。18は口縁外面に沈線間刻み、胴部には磨消縄文が施され、口縁内面は列点状の文様が加えられているIV-3類土器で、内外面赤彩が施されている。19は沈線区画内に刻みを充填し、突起を貼付しているIII-4類土器で、外面が赤彩されている。

第4章 製塩土器類

第1節 はじめに

浦尻貝塚に所謂製塩土器が伴うことは、浦尻磯坂遺跡資料とともに玉川一郎らの先行研究により明らかにされている（玉川1986、玉川・吉田1987）。今回の報告に至る一連の発掘調査でも、既に『浦尻貝塚1』（2005）において、小迫地区の貝塚及び遺物包含層から製塩土器の出土があることについて触れられている。これらは、縄文時代晩期前葉から中葉を中心とする土器群に伴っており、福島県内の資料としては比較的まとまったものであり、今後の研究の中で基礎的資料となりうるものである。

本章節では、出土した製塩土器類の基礎的な分類を行い、本遺跡の製塩土器類の基本的な特徴について報告する。また、出土地点や層位の比較と精製土器及び粗製土器類の出土傾向と併せ、製塩土器類の時期的な変遷についても若干言及する。

第2節 製塩土器類の観察と分類

(1) 資料の概要

今回主に取り扱う製塩土器類は、接合／同一個体判別作業を経た、長軸が概ね5 cm以上の口縁部破片資料と、底径が復元できる底部資料である。さらに参考資料として数点の胴部破片を含めた143点を図示している。

ところで製塩土器は無文土器に含められるが、今回は無文土器を、口縁部断面の形状が一定で、内面／外面／口唇部の各部位の調整がナデやミガキ等で明確に施され、（有文の）粗製土器からの連続性が想起される土器群とし、製塩土器（特に口縁部資料）と区別している。それでもなお、完全に分別しきれない部分があるため、製塩土器類として扱っている。底部資料については製塩土器としての判別がさらに困難であるため、使用痕跡が明確であるものを今回は製塩土器類として扱っている。

(2) 資料の観察

資料の観察と分類にあたっては、新地町三貫地貝塚出土製塩土器類の報告（高橋2006）を参考にしている。

口縁部資料の観察は、口縁部の平面形及び断面形状、口唇部の仕上げ（断面形状と調整）、器面の調整といった土器の製作手法に関わる属性に主眼を置いて行い、その結果は観察表に一覧として示した。属性の内容は以下の通りである。

- ・口縁部平面形は、平縁やほぼ平縁のもの（一）、緩やかな小波状や低い小波状のもの（二）、折れ線グラフ上に不整な小波状を呈するもの（三）、に概ね分けられ、これらは口唇部の調整方法と関連が深い。
- ・口縁部断面形は、口縁部（口端部（口唇）から約5 cmの範囲）の断面形状を比較したもので、最大器厚部がどの位置にくるのかという観点である。ア：口端部に向かって断面が先細りしていくもの。イ：口縁部中位から先細りするもの。ウ：口縁部の中位に最大器厚があり、上方と下方に向かって厚さを減じて行くもの。エ：器厚が一定のもの。オ：口縁部の中位から口端部まで最大器厚となるもの。カ：口端部に向かって器厚が増すもの。キ：内面側に肥厚するもの。以上の形状に区分できるが、ア～エが主体的である。
- ・口唇断面形状は、先端が尖る「尖」、丸みをもつ「丸」、角頭状の「角」と角が丸みを持ちながら平

坦面を残す「垂角」に分けられ、それぞれが組み合う個体や中間的な個体もある。「角」は平坦部が内削ぎ状のものと外削ぎ状のものが見られる。

- ・口唇部の調整は、調整が見られないものとナデが施されるものが大別としてあり、前者は「尖」との相関が強く、後者は「丸」との相関が強い傾向がある。
- ・使用痕は、製塩土器の特徴ともされる器面の剥離が、一定の範囲に認められる「◎」、小さな剥離が複数認められる「○」、剥離は認められないものの被熱により器面が荒れる「△」が観察できる。
- ・器面調整等は、土器成形時の指オサエによる指圧痕（指頭圧痕）や指紋と器面の整形時のケズリ／ナデ／ミガキ等が観察できる。最も観察頻度が高いのはナデになる。
- ・外面接合痕は、上述の整形調整の程度によって接合痕の本数／長さ／形状／深さに影響を与える。接合痕の長さは、一定の長さで観察できる「長線」、部分的に接合痕が消える「破線」、短線としてのみ認められる「部分線」に区分した。接合痕の形状は「直線状」のものと、波打つ「波状」がある。また接合痕が器面に深く残る「溝状」のものと、指圧痕等でつぶれた「痕跡的」なもの2種が存在する。なお接合痕のうち口縁上端部から数mmの位置に接合痕が認められる場合があるが、これらは付加粘土として上記の接合痕とは区別している。
- ・胎土については、特記される事項のみ記述したが、特徴的な事象として胎土に所謂海綿骨針と思われる白色針状物質を含む個体が存在することが挙げられる。
- ・最大器厚は口端部から5cmの範囲内で計測した。最小値は4.0mmで、最大値は9.0mmであった。

(3) 製塩土器類の分類

以上の観察項目の内、口唇部の断面形状は口唇部調整と相関が強く、これらとは直接的な影響関係のない外面の仕上げ状況との組み合わせに着目して分類とした。なお、分類記号「x」は遺存状況の制約による分類不可能を表している。

口唇部の断面形状をⅠ：「尖」、Ⅱ：「丸」、Ⅲ：「角」・「垂角」としたが、「尖」と「丸」、「丸」と「角」・「垂角」が組み合う場合は、「尖」と「角」・「垂角」を優先項して分類を行なった。i～iii・kは口唇部の調整で、iは未調整／iiはナデ／iiiはミガキ／kはケズリやヘラ切りを示す。

また外面は調整の程度を以下の4段階のレベルで表示している。レベルA：丁寧に調整が施され、接合痕を残さないもの。レベルa：丁寧に調整が施されるが、接合痕を消去しきれていないもの。レベルb：調整が弱く、接合痕の消去も弱い。レベルB：調整がほとんど観察されずに、接合痕が多く残る。器面の押圧が特に意識されないと溝状の深い接合痕になる。

器面剥落等の個体それぞれの状況により、観察が不十分で、調整程度の判断が徹底できない部分もあり、上記組み合わせによる分類は、記述のための分類という側面をもつことも否めないが、三貫地貝塚出土製塩土器類の分析で示したように、製塩土器の成立と変遷を検討する上で有用な視点であると考えている。

以下、調査区別に遺物取上単位毎の製塩土器類の傾向について説明する。

第3節 製塩土器類の様相（図67～図71）

前項での手続きにより多様に分類された製塩土器類の口縁部資料のうち、Ⅰi類とⅡii類が各出土単位で最も出現頻度の高いものである。Ⅰi類は、指オサエ等により口唇部を尖らせて成形し、端部の調整をほとんど行なわないものである。このため口縁部は成形状態のままとなり、不整な小波状口縁を呈するものが多い。Ⅱii類は成形後、口唇部にナデを主体とする調整加えることで端部を丸く作

出するものである。この結果として口縁端部が整えられ、平縁を呈する口縁となるものが多い。

これらの分類を中心に、外面調整の各レベルとどのような組み合わせとなって各出土単位に現れるのか確認していく。

(1) IV区

①土坑 図67-1は土坑出土の平底の底部である。外面に剥離がある。今回報告する底部資料のなかでは最も底径が小さい。

②ⅢA層 図67-2～20は口縁部資料である。Ⅰ類がⅡ類よりも多い。Ⅰ類は口唇部が未調整であるものが大部分で、これらは低波状や不整な小波状口縁を呈している。Ⅱ類は口唇部にナデを施し、平縁に仕上げるものが一定量存在する。外面の仕上げはⅠ類でレベルBが目立ち、Ⅱ類ではレベルaが多い。とくにⅠ類では指圧痕が顕著に観察される。5の拓本には「目」字様の痕跡が伴う圧痕が見られるように、指頭が直接器面に触れない成形法（手袋等の着用？）が想起される。また2の外面接合痕も当て具を用いたかのようなつづれた状況を示している。図67-21～24は底部資料である。21・22は平底である。23と24は丸底になる。24の底面縁辺部には網代の痕跡と思われる圧痕が観察できる。

③ⅢB層 図67-25～30、図68-1～12は口縁部資料である。Ⅲ類が一定数存在することが特徴的で、Ⅰ～Ⅲ類の出現数に大きな差はない。Ⅰ類は口唇部を未調整として低い波状や不整な小波状口縁を呈すること、Ⅱ類では口唇部にナデを施し平縁とする組み合わせが見られることはⅢA層と同様である。器面の仕上げはレベルaが各類別で安定して出現し、Ⅱ・Ⅲ類ではレベルAも確認できる。外面には指圧痕が顕著なものが多く、Ⅰ類で顕著に認められる。図68-9では「目」字状圧痕が観察できる。また図67-25・26では指圧痕と指圧痕の境界にミミズ腫れ様の微隆線が生じている。30は溝状の長線の接合痕が2条確認できる。図68-13～15は底部資料で、13が丸底、14が上げ底気味の平底、15が平底の底部である。

④ⅢC層 図68-16～27は口縁部資料である。典型的なタイプであるⅠi類とⅡii類が安定して組成する。外面の状況は16が多条に接合痕を残すレベルBである他は、レベルaが卓越し、レベルAも散見できる。指圧痕は横位に連続して施されるものは少ない。図68-28・29は底部資料である。28は平底、29は丸底気味の底部になる。

⑤Ⅲ2a層 本層は前出のⅢA～ⅢC層に伴うものである。図68-30～34、図69-1～3が口縁部資料である。Ⅰi類は少なく、Ⅱii類が安定組成している。外面は、接合痕が残存する図68-31・33以外はレベルaやAとなる。図69-4は平底の底部である。

⑥ⅢC・D層 本層はⅢC層とⅢD層にまたがる層位である。図69-5～16が口縁部資料である。Ⅰ類が多く、Ⅱ類はⅡii類が安定しているが少ない。外面の状況はⅠi類がレベルBに限定され、他はレベルaが多い。レベルbまたはBとしたものは指圧痕や指紋がよく観察できるが、5・10・12は横位に連続する指圧痕が顕著である。図69-17は平底の底部資料である。

⑦ⅢD層 図69-18～20は口縁部資料である。個体数が少ないので傾向が窺い知れないが、外面はナデを主体とする調整で、接合痕を残すものは無く、レベルaまたはAとなる。18は指圧痕が顕著である。

⑧ⅢE層 図69-21～25が口縁部資料である。Ⅱ類が多く見られ、外面の状況もレベルaとAが主体である。図69-26は胴部資料である。製塩土器であるのかどうか判断しにくい面もあるが、外面は指圧痕が顕著で、接合痕も「長線」の波状の接合痕が3条観察できる。接合痕は痕跡的タイプで、レベルBに分類できる。図73-27は平底の底部資料である。

第3節 製塩土器類の様相

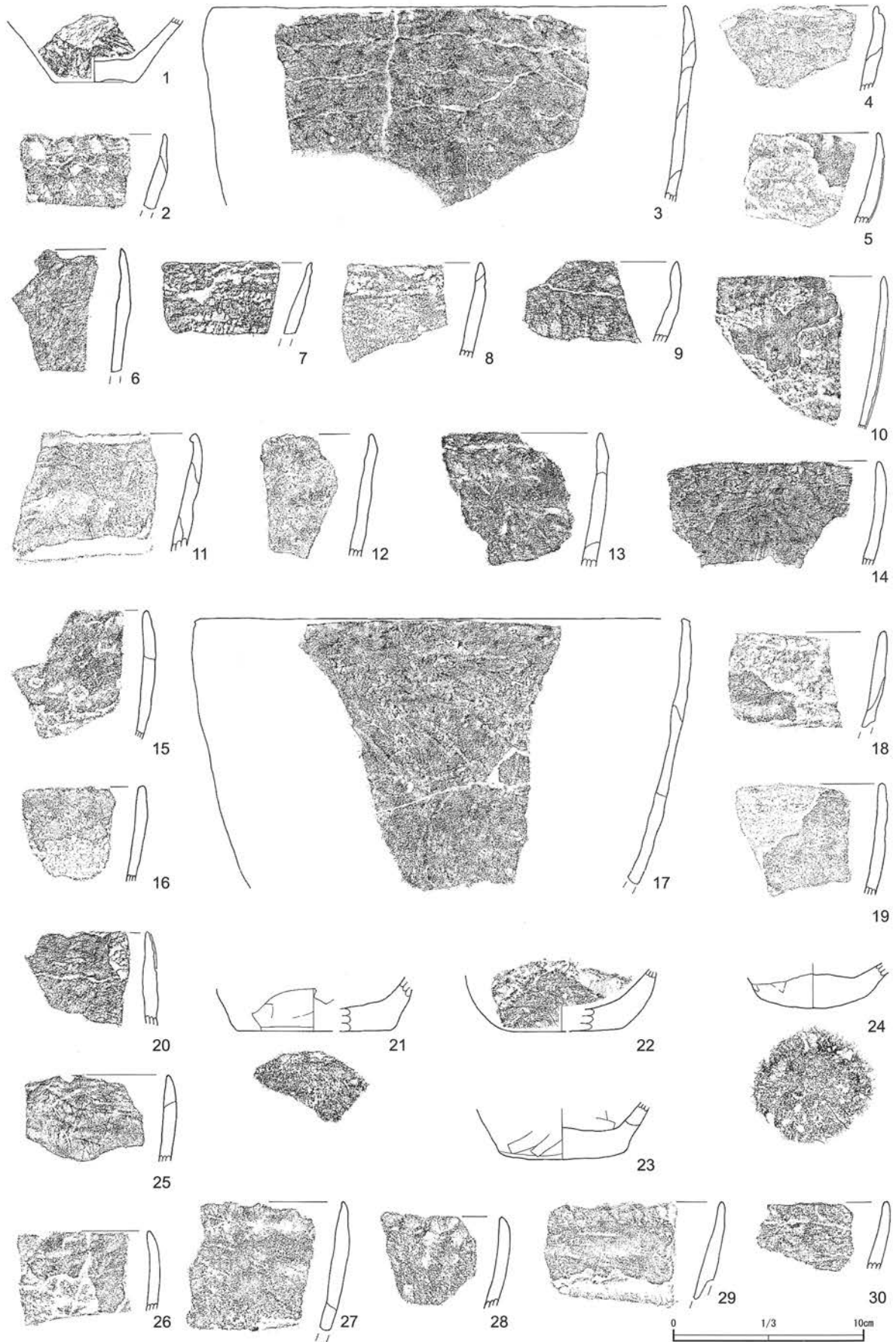


図67 出土製塩土器類①

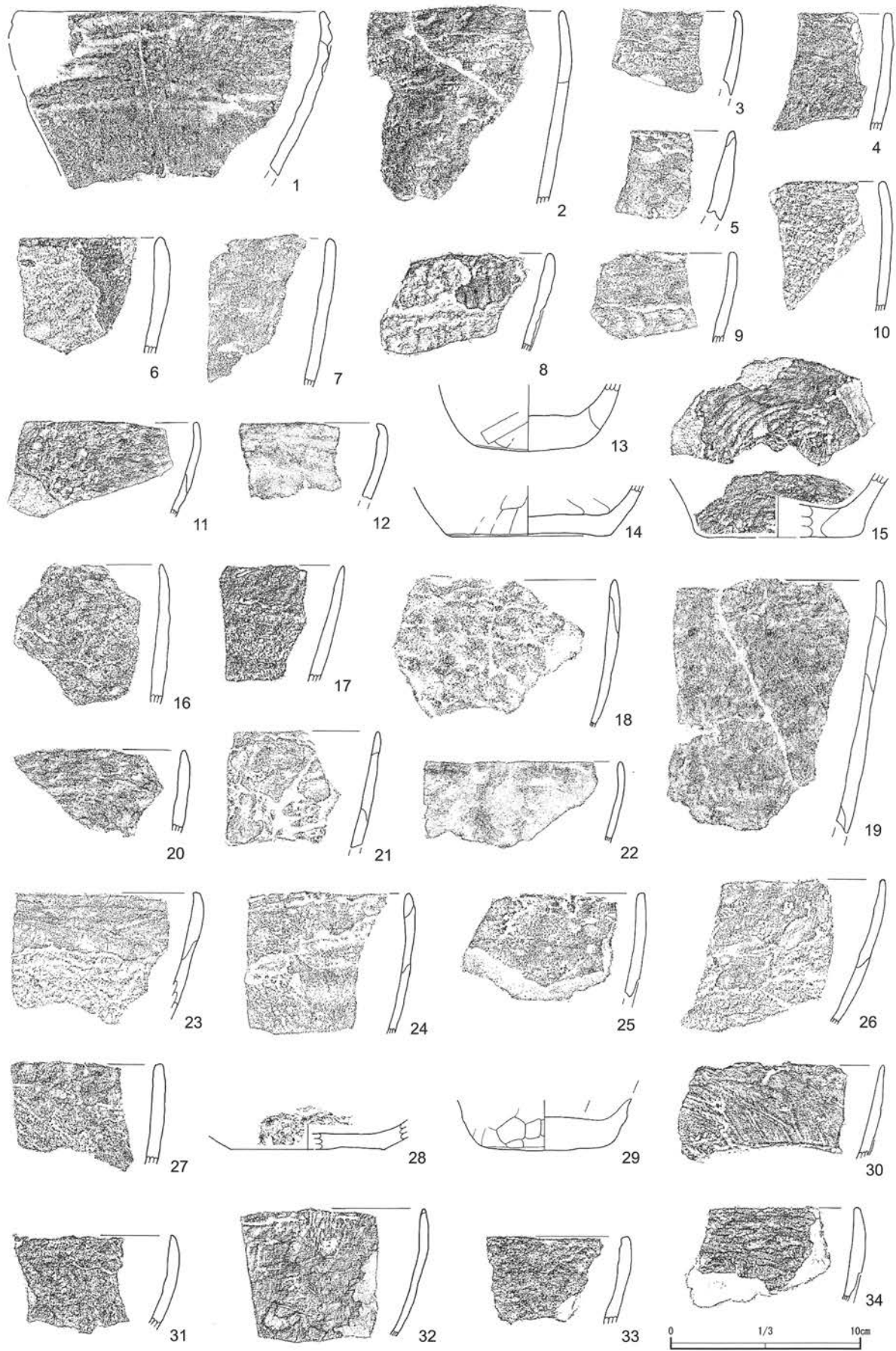


图68 出土製塩土器類②

第3節 製塩土器類の様相

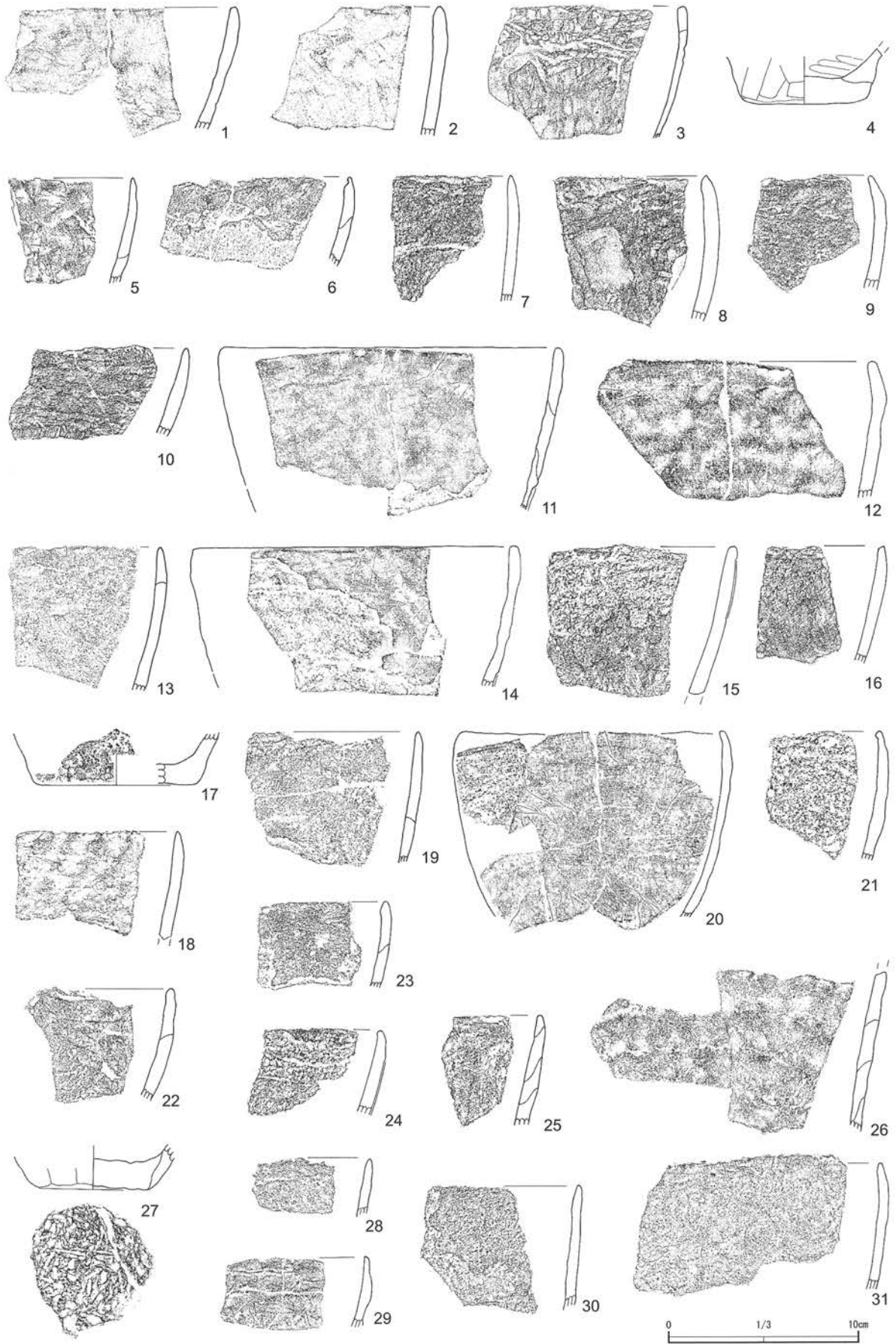


図69 出土製塩土器類③

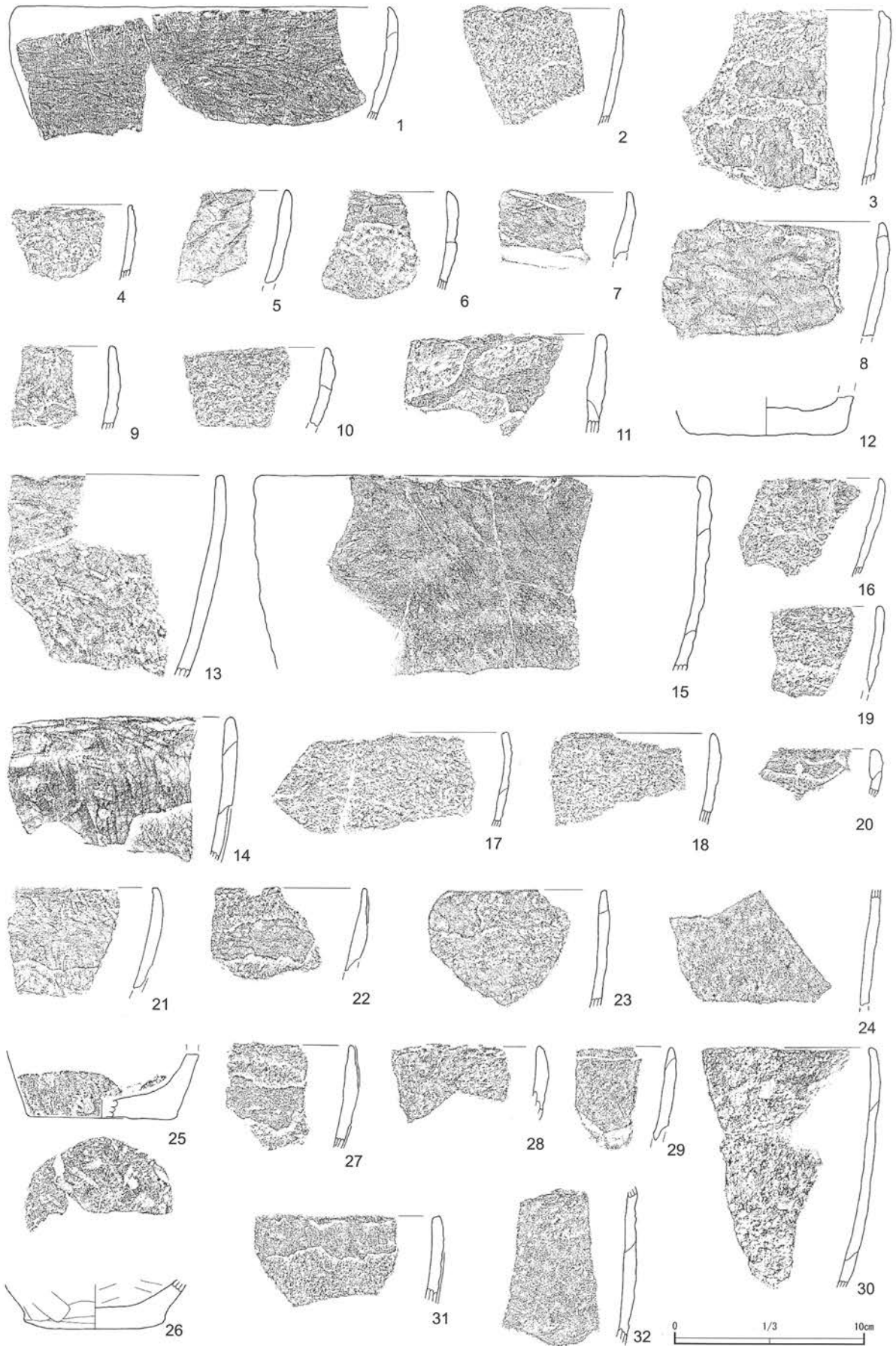


图70 出土製塩土器類④

(2) 72T

①Ⅲ層直上 図69-28~31、図70-1~11が口縁部資料である。I i類が卓越し、II ii類はその他の類型とともに少数である。外面の仕上げ状況はレベルaが主流で、レベルAも一定量存在し、レベルBとbは低調である。図69-29の指圧内にはミミズ腫れ状の微隆起線が「目」字状に認められる。図70-5の指圧も顕著である。図70-12は平底の底部である。

②S2(Ⅲ-1層) Ⅲ-1層に設定したサンプリングからの出土である。図70-13・14は口縁部資料で、Ⅲ ii類とII iii類にそれぞれ分かれるが、外面調整は両者ともレベルAである。

③ブロック②④(Ⅲ-1層) 図70-15~23が口縁部資料である。I i類とII ii類がほぼ同数確認できる。外面調整はレベルAが卓越するが、調整レベルと特定の口唇部形成が関連する傾向は弱い。図70-24は胴部資料である。4条の痕跡的な接合痕が確認できる。

④ブロック③④(Ⅲ-3a層) 図70-25・26は底部資料である。25は平底で、底面に網代痕と思われる痕跡があるが明確でない。木葉の主脈のような痕跡も認められる。26は丸底気味の平底になる。

⑤ブロック③⑥(Ⅲ-3a層) 図70-27は口縁部資料である。II ii類の典型で、外面調整はレベルAである。

⑥Ⅲ-3b層 図70-28~31が口縁部資料である。I i類とII ii類からなる。外面調整はレベルAとaである。図70-32は胴部資料であるが口端部を欠く口縁部付近の破片である。外面調整はレベルaに相当する。

(3) 1G/4G/5G/その他

①1G 図71-1~4は口縁部資料である。I i類とII ii類からなる。外面調整は各レベルからなるが、3は外面に溝状の接合痕が3条確認できる。

②4G 図71-5~9が口縁部資料である。I類が多く、中でもI i類が卓越している。一方でII類は認められない。外面調整はレベルBを主体とし、bが伴う。とくに外面の接合痕は溝状のものが顕著に見られる。5では器面の指圧痕が顕著であるが、指圧痕の単位が規則的で、単位の末端が短い直線状を呈する特徴がある。図71-10は最大径15.8cmの胴部資料である。使用痕は観察できない。上半部に溝状の接合痕が破線として残っている。図71-11は底部資料で上げ底気味の平底である。底縁部に網代様の圧痕が観察できる。

③5G 図71-12~15は口縁部資料である。I類はI ii類のみ認められ、II ii類が伴う。外面調整はレベルa~Bとなる。

④その他 図71-16は底部資料で僅かに上げ底となる。

第4節 まとめ

以上浦尻貝塚における製塩土器類の特徴と動向について口縁部資料を中心に見てきた。各出土単位では資料の個体数が少なくなるため明確な傾向を捉えきれていないが、いくつか指摘できる事項があるので補足を交え記述したい。

まずIV区の層位資料を確認してみる。IV区最下層のⅢE層ではI i類の存在は明確ではなく、II ii類が伴っている。外面調整はレベルA~aの範囲にある。ⅢD層では外面調整のレベルに変化は無いが、I i類とII ii類との組み合わせが出現する。ⅢC・D層では、外面調整にレベルbやBが出現し以後継続して行く傾向がある。またI i類とII ii類では前者の外面調整にはレベルAが出現せず、一方後者にはレベルBが出現しないという差異が認められる。最上層のⅢA層ではII ii類にレベルAが

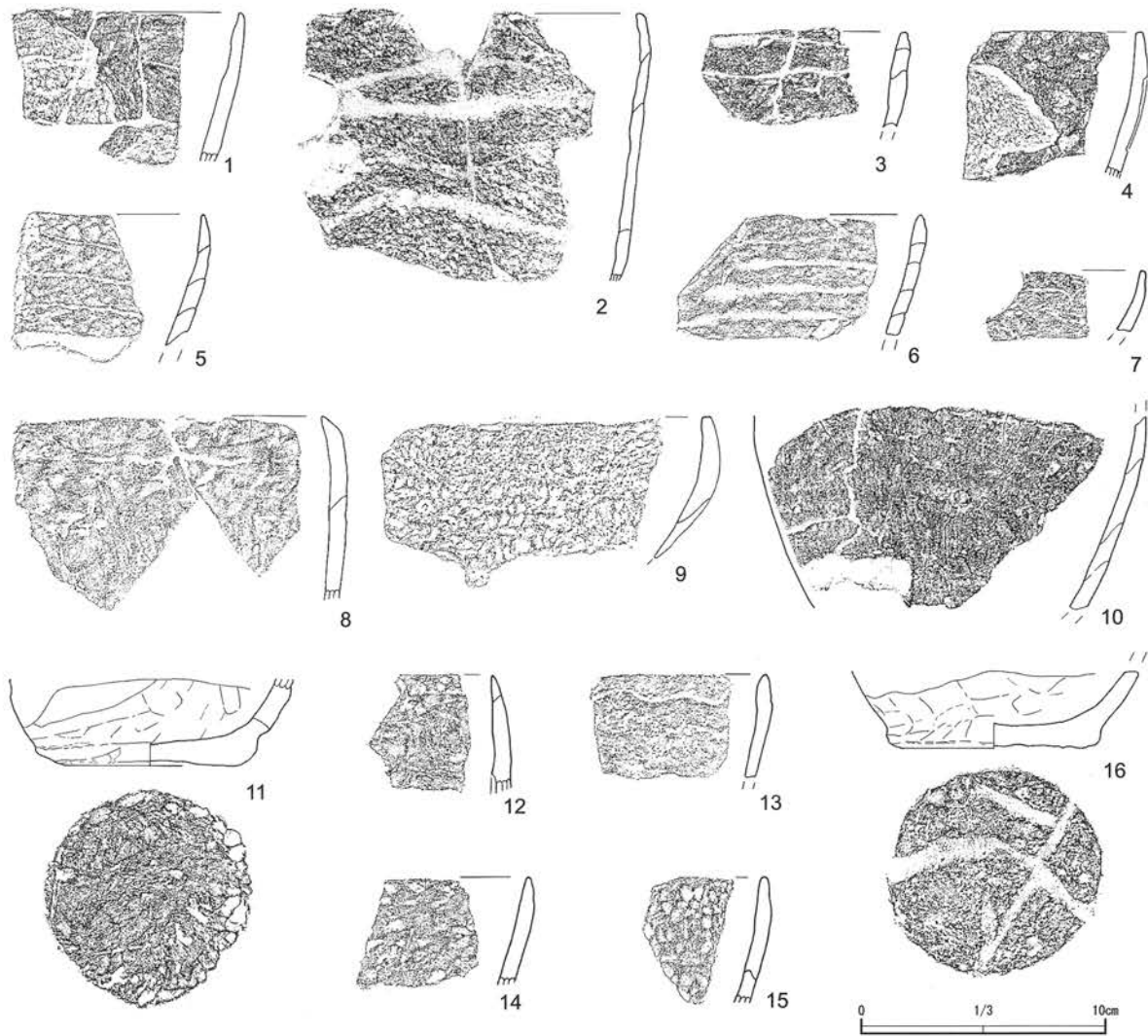


図71 出土製塩土器類⑤

出現しなくなり、I i 類でレベルBが卓越する状況になる。

IV区の各層からは大洞B C式～C 2式土器が混在して出土しており、各層の形成時期や製塩土器類の共伴時期の判断には困難を伴うが、概ね大洞C 1式を主体とする遺物包含層と考えられる。上層位に少なからず大洞C 2式が含まれることと外面調整のレベルBの動向には関連があるものと判断しておきたい。

7 2 Tでも複数の土器型式が混在しているが、大洞C 2式土器を伴うブロック24の製塩土器類は、I i 類とII ii 類ともに外面調整がレベルA/b/Bで構成されており、多様な特徴をもつ土器群で製塩土器類が組成する段階なのかもしれない。

1 G/4 G/5 Gは製塩土器類の出土は少ないものの、上記の調査区と比較して伴出した土器群の時期が限定できる傾向がある。1 Gは大洞C 1式を主体とし、4 Gは大洞C 2式末期から大洞A式期、5 Gは大洞C 2式新段階を中心とする時期とそれぞれ位置付けられる可能性がある。4 Gの製塩土器類にはII類が認められず、外面調整がレベルBを主体としつつも溝状の接合痕を顕著に残す土器群であることは既に触れたが、これは時期的な特徴を明確に示しているものと判断して良いだろう。

このように今回報告した製塩土器類は、いくつかの段階のものを内包する土器群であることと、不明確な部分もあるが、型式変化の方向性についても示唆できることを指摘してまとめとする。

引用・参考文献

- 飯館村教育委員会 1984 『山辺沢』 飯館村文化財調査報告第5集
いわき市教育委員会ほか 1988 『薄磯貝塚』 いわき市埋蔵文化財調査報告第19冊
大川清ほか編 1996 『日本土器事典』 雄山閣
大熊町教育委員会 1983 『道平遺跡の研究』 大熊町文化財報告Ⅲ
小高町教育委員会 1975 『宮田貝塚』 小高町文化財調査報告第1集
小高町教育委員会 2004 『北原貝塚遺跡群』 小高町文化財調査報告第5集
小高町教育委員会 2005 『浦尻貝塚1』 小高町文化財調査報告第6集
郡山市教育委員会ほか 2005年 『阿武隈川築堤関連 町B遺跡』
小林達雄編 1989 『縄文土器大観4 後期・晩期・続縄文』 小学館
小林達雄編 2008 『総覧 縄文土器』 株式会社アム・プロモーション
高橋満 2006 「三貫地貝塚出土製塩土器の再検討」『福島県立博物館紀要』20号
高橋龍三郎 1981 「亀ヶ岡式土器の研究」『北奥古代文化』12号
玉川一郎 1986 「福島の縄文製塩土器」『福島の研究1 地質考古編』清文堂
玉川一郎・吉田秀亨 1987 「浦尻磯坂遺跡の縄文晩期土器と製塩土器」『福島考古』28号
戸沢充則編 1994 『縄文時代研究事典』 東京堂出版
浪江町教育委員会 1998 『七社宮』 浪江町埋蔵文化財調査報告第12冊
弘前大学人文学部 2004 『亀ヶ岡文化遺物実測図集』 弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告1
弘前大学人文学部 2005 『青森県東津軽郡平館村今津遺跡発掘調査報告書』 弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告2
弘前大学人文学部 2006 『亀ヶ岡文化遺物実測図集2』 弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告4
福島県教育委員会ほか 1984 「一斗内遺跡」『母畑地区遺跡発掘調査報告16』 福島県文化財調査報告132集
福島県教育委員会ほか 1986 「岩下A遺跡（第1次）」「岩下B遺跡」「岩下C遺跡」
『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅶ』 福島県文化財調査報告150集
福島県教育委員会ほか 1986 「日向南遺跡（第1・2次）」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅷ』 福島県文化財調査報告165集
福島県教育委員会ほか 1987 「日向南遺跡（第3次）・稲荷塚遺跡」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅸ』
福島県文化財調査報告182集
福島県教育委員会ほか 1988 「羽白C遺跡（第1次）」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅹ』 福島県文化財調査報告194集
福島県教育委員会ほか 1989 「羽白C遺跡（第2次）・宮内A遺跡（第1次）・宮内B（第2次）」
『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅺ』 福島県文化財調査報告182集
福島県教育委員会ほか 1989 「王子前遺跡」『母畑地区遺跡発掘調査報告26』 福島県文化財調査報告203集
福島県教育委員会ほか 1995 『相馬開発関連遺跡発掘調査報告Ⅲ』 福島県文化財調査報告312集
福島県教育委員会ほか 1999 「獅子内遺跡」『摺上川ダム遺跡発掘調査報告Ⅷ』 福島県文化財調査報告346集
福島県教育委員会ほか 2006 『こまちダム遺跡発掘調査報告4 沢目木B遺跡』 福島県文化財調査報告第431集
福島県立博物館 1988 『三貫地貝塚』 福島県立博物館調査報告第17集
福島市教育委員会 1991 『南諏訪原遺跡』 福島市埋蔵文化財報告書第44集
福島市教育委員会 2004 『宮畑遺跡（岡島）』 福島市埋蔵文化財報告書第173集
福島市教育委員会 2004 『摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告13総括編』 福島市埋蔵文化財報告書第172集
福島大学考古研究会 1971 『浦尻貝塚』 福島大学考古研究会発掘調査報告書第1冊
藤沼邦彦 1989 「亀ヶ岡式土器の文様の描き方」『考古学論叢Ⅱ』 芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
双葉町教育委員会 『双葉・郡山貝塚の研究』 双葉町埋蔵文化財調査報告第7冊
二島町教育委員会ほか 1990 『荒屋敷遺跡Ⅱ』 二島町文化財報告書10集
南相馬市教育委員会 2006 『南相馬市内遺跡発掘調査報告書2』 南相馬市埋蔵文化財調査報告書第3集
南相馬市教育委員会 2006 『浦尻貝塚2』 南相馬市埋蔵文化財調査報告書第1集
南相馬市教育委員会 2007 『浦尻貝塚3』 南相馬市埋蔵文化財調査報告書第2集
三春考古学研究会 1994 『西方前遺跡の縄文土器』
山内清男 1930 「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』1巻3号
山内清男 1979 『日本先史土器の縄文』 先史考古学会

觀 察 表

表 1 土器観察表

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
1・1	SI01	深鉢	平縁。口：隆帯。胴：縄文。	Ⅲ-1類	
1・2	SI01	深鉢	胴：X字状隆帯。	Ⅲ-4類	
1・3	SI01	深鉢	胴：結節縄文。	Ⅳ-2類	
1・4	SI01	深鉢	胴：沈線+縄文。	V-3類	
1・5	SI01	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
1・6	SI02	深鉢	平縁。口-胴：隆線区画+縄文。	Ⅱ-3類	
1・7	SI02	深鉢	胴：沈線区画+縄文。	Ⅱ-3類	
1・8	SK134	深鉢	胴：沈線。	Ⅱ群	
1・9	P389	深鉢	平縁。口：沈線区画+縄文。	Ⅱ-3類	
1・10	P395	深鉢	平縁。口：隆帯区画。	Ⅲ-1類	
1・11	P395	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
2・1	SB01 SK52	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：磨消縄文。	Ⅳ-4類	
2・2	SB01 SK52	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
2・3	SB01 SK52	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
2・4	SB01 SK53	深鉢	平縁。口：B突起+沈線。胴：縄文	Ⅳ-6類	
2・5	SB01 SK53	深鉢	刻目平縁。口：沈線。胴：縄文。	Ⅳ-6類	
2・6	SB01 SK53	深鉢	底部。胴：網目状捺糸文。底：ケズリ。	V-2類	
2・7	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：平行沈線+弧状沈線。胴：縄文。	Ⅳ-4類	
2・8	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：縦位櫛描文。	V-1類	
2・9	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文	V-2類	
2・10	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文	V-2類	
2・11	SB01 SK62	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
2・12	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
2・13	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
2・14	SB01 SK62	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
2・15	SB01 SK66	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線。	Ⅲ-3類	
2・16	SB01 SK66	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文+突起。	Ⅲ-4類	
2・17	SB01 SK66	深鉢	胴：沈線+充填刻目。	Ⅲ-4類	
2・18	SB01 SK66	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	突起剥離
2・19	SB01 SK66	深鉢	胴：結節縄文。	Ⅳ-2類	
2・20	SB01 SK66	浅鉢	底部。胴：平行沈線+縄文。	Ⅳ群	
2・21	SB01 SK66	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
2・22	SB01 SK66	深鉢	胴：平行沈線+縄文。	V-3類	
2・23	SB01 SK83	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
2・24	SB02 SK68	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
2・25	SB02 SK68	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
2・26	SB02 SK82	深鉢	胴：沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
2・27	SB02 SK82	深鉢	胴：蛇行櫛描文	V-1類	
2・28	SB02 SK88	深鉢	胴：非結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維。
2・29	SB02 SK88	深鉢	同一個体。 平縁。口：平行沈線+入組带状文+充填縄文+横割縦長突起。	Ⅲ-4類	
2・30	SB02 SK88				
2・31	SB02 SK88				
2・32	SB02 SK88				
2・33	SB02 SK88	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
3・1	SB03 SK64	深鉢	胴：雲形文。	Ⅳ-4類	
3・2	SB03 SK64	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
3・3	SB03 SK72	深鉢	胴：沈線＋縦位撚糸文。	V-2類	
3・4	SB03 SK81	深鉢	胴：弧状沈線＋充填縄文＋突起。	III-4類	
3・5	SB03 SK81	深鉢	平縁。口：隆帯＋突起＋沈線。	IV-5類	
3・6	SB03 SK84	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
3・7	SB04 SK90	深鉢	平縁。口：横位櫛描文＋刺突。	III-3類	
3・8	SB04 SK90	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
3・9	SB04 SK90	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・10	SB04 SK98	深鉢	波状口縁。口：刻目＋平行沈線＋充填縄文。	III-3類	
3・11	SB04 SK98	深鉢	胴：沈線＋縄文。	V-3類	
3・12	SB04 SK98	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
3・13	SB04 SK98	深鉢	胴：沈線＋縄文。	V-3類	
3・14	SB04 SK91	深鉢	胴：沈線区画＋縄文。	II-2～3類	
3・15	SB04 SK91	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
3・16	SB04 SK91	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
3・17	SB04 SK91	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・18	SB04 SK91	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・19	SB04 SK91	深鉢	胴：RL縄文。	I-1類	胎土に繊維
3・20	SB04 SK101	深鉢	波状口縁。口：縄文。	III-3類	
3・21	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：弧状沈線＋充填縄文。	III-3類	
3・22	SB04 SK101	深鉢	胴：弧状沈線＋充填縄文。	III-4類	
3・23	SB04 SK101	深鉢	胴：隆帯＋刻目＋縄文。	III-3類	
3・24	SB04 SK101	深鉢	山形突起。口：平行沈線＋充填刻目文。	III-4類	
3・25	SB04 SK101	深鉢	胴：平行沈線＋充填縄文＋突起。	III-4類	
3・26	SB04 SK101	注口or壺	胴：2条1対弧状平行沈線。	III-4類	
3・27	SB04 SK101	深鉢	胴：羊歯状文。胴：結節縄文。	IV-2類	
3・28	SB04 SK101	深鉢	胴：磨消縄文。	IV-4類	
3・29	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：横位櫛描文＋縦位櫛描文。	V-1類	
3・30	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
3・31	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：横位櫛描文＋縦位櫛描文。	V-1類	
3・32	SB04 SK101	浅鉢	胴：縦位撚糸文。	V-2類	
3・33	SB04 SK101	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
3・34	SB04 SK101	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
3・35	SB04 SK101	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
4・1	SK05	深鉢	胴：平行沈線＋充填縄文。	III-4類	
4・2	SK05	深鉢	胴：縦位撚糸文。	V-2類	
4・3	SK21	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
4・4	SK21	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
4・5	SK21	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
4・6	SK21	深鉢	胴：無文。	V-4類	
4・7	SK22	深鉢	平縁。口：磨消縄文	IV-4類	
4・8	SK22	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	外面に指頭圧痕
4・9	SK26	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
4・10	P51	深鉢	平縁。口：三叉文。胴：縄文。	IV-1類	
4・11	P51	深鉢	胴：弧状平行沈線区画＋縄文。	II-2～3類	
4・12	SK27	深鉢	胴：刻目＋沈線＋充填縄文。	III-3類	
4・13	SK27	深鉢	胴：横位櫛描文＋縦位櫛描文。	V-1類	
4・14	SK27	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
4・15	SK29	深鉢	平縁。口：縦割突起＋縄文。	Ⅲ－4類	
4・16	SK29	深鉢	胴：縄文＋平行沈線。	V－3類	
4・17	SK30	深鉢	胴：沈線＋充填縄文。	Ⅲ－3類	
4・18	P79	深鉢	刺突平縁。口：沈線＋沈線内刺突。	IV－4類	
4・19	P79	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V－2類	
4・20	P79	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V－2類	
4・21	SK35	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V－1類	
4・22	SK35	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V－2類	
4・23	SK39	深鉢	平縁。口：平行沈線＋弧状沈線。	IV群	
4・24	SK41	壺	平縁。口：沈線。	V－4類	
4・25	SK41	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V－2類	
4・26	SK50	浅鉢	小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV－6類	
4・27	SK58	浅鉢	底部。胴：沈線。	V－4類	
4・28	SK58	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V－2類	
4・29	P155	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V－2類	
4・30	P160	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V－2類	
4・31	SK65	深鉢	胴：縄文。	V－3類	
4・32	P187	浅鉢	底部。胴：平行沈線。	IV群	
4・33	P187	深鉢	底部。胴：縄文。	V－3類	
4・34	SK70	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V－2類	
4・35	P248	深鉢	胴：平行沈線。	Ⅲ－4類	
4・36	P248	深鉢	胴：無文（ミガキ）。	V－4類	
4・37	P210	深鉢	刻目平縁。口：平行沈線。	IV－4類	
4・38	P210	深鉢	平縁。口：A突起＋平行沈線。	IV－4類	
4・39	SK73	深鉢	胴：結節縄文。	IV－2類	
4・40	SK73	深鉢	平縁。口：横位櫛描文＋縦位櫛描文。	V－1類	
4・41	SK73	深鉢	平縁。口：縦割突起＋平行沈線。	Ⅲ－4類	
5・1	SK75	深鉢	縦割突起。口：三叉状沈線。	Ⅲ－4類	
5・2	SK75	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V－1類	
5・3	SK76	深鉢	胴：入組带状文＋充填縄文＋刺突。	Ⅲ－4類	
5・4	SK79	深鉢	胴：平行沈線＋充填刻目文。	Ⅲ－4類	
5・5	SK80	深鉢	胴：入組文。	Ⅲ－4類	
5・6	SK80	深鉢	胴：結節縄文。	IV－2類	
5・7	P236	深鉢	平縁。口：刻目＋沈線＋縄文。	Ⅲ－3類	
5・8	SK89	深鉢	縦割突起。口：平行沈線。	Ⅲ－4類	
5・9	SK89	深鉢	平縁。口：沈線。	Ⅲ－4類	
5・10	SK77	深鉢	胴：沈線＋刻目。	Ⅲ－4類	
5・11	SK77	深鉢	平縁。口：横位櫛描文＋蛇行櫛描文。	V－1類	
5・12	SK77	深鉢	胴：横位櫛描文＋蛇行櫛描文。	V－1類	
5・13	SK77	深鉢	平縁。口－胴：縄文（頸部縄文磨消）。	V－3類	
5・14	SK77	深鉢	胴：交差櫛描文。	V－1類	
5・15	P249	深鉢	胴：平行沈線＋充填刻目文。	Ⅲ－4類	
5・16	SK96	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V－1類	
5・17	P278	深鉢	胴：横位櫛描文＋縦位櫛描文。	V－1類	
5・18	P278	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V－1類	
5・19	SK105	深鉢	平縁。口：平行沈線＋充填縄文＋突起。	Ⅲ－4類	
5・20	SK105	深鉢	平縁。口：A突起＋平行沈線。	IV－5類	

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
5・21	SK105	浅鉢	波状口縁。口：平行沈線。胴：メガネ状付帯文+雲形文。	IV-4類	
5・22	SK107	深鉢	平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
5・23	SK107	深鉢	胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
5・24	SK107	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
5・25	SK107	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
5・26	SK108	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文。	III-4類	
5・27	SK108	深鉢	胴：平行沈線。	III-4類	
5・28	SK108	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
5・29	P297	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
5・30	P297	深鉢	平縁。口：三叉文。	IV-1類	
5・31	P311	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
5・32	SK113	深鉢	胴：平行沈線。	IV-5類	
5・33	SK115	深鉢	胴：羊歯状文+縄文。	IV-2類	
5・34	SK120	深鉢	突起：刺突+沈線。	III-3類	
5・35	SK120	浅鉢	胴：沈線+結節縄文	IV-2類	
5・36	SK120	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
6・1	SK123	深鉢	刻目平縁。口：沈線間刻目。胴：縄文。	IV-6類	
6・2	SK123	深鉢	平縁。口：平行沈線+C字状沈線。	IV-4類	
6・3	SK123	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
6・4	SK123	鉢	胴：結節羽状縄文。	V-3類	
6・5	SK123	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
6・6	SK123	深鉢	胴：平行沈線+C字状沈線。	IV-4類	
6・7	SK123	深鉢	胴：平行沈線+雲形文。	IV-4類	
6・8	SK123	浅鉢	底部。胴：縄文+平行沈線。	IV群	
6・9	SK123	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
6・10	SK123	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
6・11	SK123	深鉢	胴：横位捺糸文+縦位捺糸文。	V-1類	
6・12	SK123	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
6・13	SK125	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
6・14	SK126	深鉢	胴：磨消縄文+平行沈線。	IV群	
6・15	SK126	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
6・16	SK126	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
6・17	SK126	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
6・18	SK126	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
6・19	SK126	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
7・1	SK18	深鉢	胴：短沈線。	I-1類	胎土に繊維
7・2	SK18	深鉢	胴：結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
7・3	SK18	深鉢	胴：原体不明。	I-1類	胎土に繊維
7・4	SK18	深鉢	胴：RL縄文。	I-1類	胎土に繊維
7・5	SK23	深鉢	平縁。口：刻目+山形状平行沈線+縄文。	I-2類	
7・6	SK23	深鉢	胴：縄文。	I群	
7・7	SK46	深鉢	平縁。口：弧状沈線区画+縄文。	II-2~3類	
7・8	SK152	深鉢	胴：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
7・9	SK152	深鉢	胴：縦位沈線+弧状沈線。	II-1類	
7・10	SK152	深鉢	胴：縦位結節縄文。	II-1類	
7・11	SK152	深鉢	胴：弧状沈線区画+縄文。	II-2~3類	
7・12	SK153	深鉢	胴：沈線区画+縄文。	II-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
7・13	SK153	深鉢	胴：弧状隆帯区画+縄文。	Ⅱ-3類	
7・14	SK153	深鉢	胴：縦位沈線+縄文。	Ⅱ群	
7・15	SK153	深鉢	胴：RL縄文。	Ⅰ-1類	胎土に繊維
7・16	SK155	深鉢	平縁。口：刺突+コンパス文。	Ⅱ-1類	
7・17	SK155	深鉢	胴：縄文。	Ⅱ群	
7・18	SK159	深鉢	胴：沈線区画+縄文。	Ⅱ-2~3類	
8・1	SK17	深鉢	平縁。口-胴：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
8・2	SK17	深鉢	胴：横位沈線+弧状沈線。	Ⅳ-4類	
8・3	SK17	深鉢	胴：横位沈線+弧状沈線。	Ⅳ-4類	
8・4	SK17	深鉢	底部。胴：無文（内面ケズリ）。	V-4類	外面に輪積痕
9・1	SK04	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填刻目。胴：入組文+刺突。	Ⅲ-4類	
9・2	SK04	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
9・3	SK04	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
9・4	SK04	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
9・5	SK06	深鉢	胴：非結束羽状縄文。	Ⅰ-1類	胎土に繊維
9・6	SK95	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
9・7	SK102	深鉢	胴：雲形文。	Ⅳ-3類	
9・8	SK102	深鉢	胴：縄文+櫛描文。	V-3類	
9・9	SK103	深鉢	胴：縦位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
9・10	SK103	深鉢	平縁。口：縦割突起+沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
9・11	SK103	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
9・12	SK104	深鉢	胴：弧状平行沈線+縄文。	Ⅳ-4類	
9・13	SK114	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
9・14	SK116	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
9・15	SK118	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
9・16	SK118	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
9・17	SK112	深鉢	胴：三叉文+沈線+縄文。	Ⅳ-1類	
9・18	SK112	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
9・19	SK112	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
9・20	SK117	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
9・21	SK117	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
9・22	SK128	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
9・23	SK128	深鉢	刻目平縁。口：平行沈線。胴：縄文。	Ⅳ-6類	
9・24	SK172	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	補修孔
9・25	SK175	深鉢	底部。胴：無文。	V-4類	
9・26	SK177	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
9・27	SK177	深鉢	胴：沈線+縄文。	V-3類	
9・28	SK176	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文+突起。	Ⅲ-4類	
9・29	SK176	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文+刺突。	Ⅲ-4類	
9・30	SK176	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
9・31	SK176	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
10・1	Ⅳ区ⅢA層	注口	注口部。注口：玉抱三叉文。	Ⅳ-1類	
10・2	Ⅳ区ⅢA層	深鉢	平縁。口：羊歯状文+沈線+縄文。	Ⅳ-2類	
10・3	Ⅳ区ⅢA層	鉢	平縁。口：羊歯状文。胴：縄文。	Ⅳ-2類	
10・4	Ⅳ区ⅢA層	深鉢	胴：羊歯状文+結節縄文。	Ⅳ-2類	
10・5	Ⅳ区ⅢA層	深鉢	沈線裝飾B突起。口：列点文。胴：縄文。	Ⅳ-2類	
10・6	Ⅳ区ⅢA層	深鉢	平縁。口：刻目+沈線間刺突。胴：縄文。	Ⅳ-6類	

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
10・7	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：平行沈線+縄文。	V-3類	
10・8	IV区ⅢA層	浅鉢	浮彫状装飾口縁。口：沈線。胴：雲形文。	IV-3類	補修孔
10・9	IV区ⅢA層	浅鉢	浮彫状装飾口縁。口：沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
10・10	IV区ⅢA層	浅鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
10・11	IV区ⅢA層	浅鉢	底部。胴：磨消縄文。	IV-3類	
10・12	IV区ⅢA層	浅鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
10・13	IV区ⅢA層	壺	胴：雲形文。	IV-3類	
10・14	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
10・15	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
10・16	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
10・17	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
10・18	IV区ⅢA層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
10・19	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
10・20	IV区ⅢA層	深鉢	底部。底：沈線。	V-4類	
10・21	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
10・22	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：刻目+縄文+沈線。	V-3類	
10・23	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：縄文+沈線。	V-3類	
10・24	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
10・25	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
10・26	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	補修孔
10・27	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
11・1	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
11・2	IV区ⅢA層	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
11・3	IV区ⅢA層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
11・4	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
11・5	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
11・6	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
11・7	IV区ⅢA層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
11・8	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
11・9	IV区ⅢA層	深鉢	折返口縁。口：縄文。	V-3類	
11・10	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
11・11	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
11・12	IV区ⅢA層	短頸壺	平縁。口：縄文。	V-3類	
11・13	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	外面に輪積痕
11・14	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	外面に指頭圧痕
11・15	IV区ⅢA層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
11・16	IV区ⅢA層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
11・17	IV区ⅢA層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
11・18	IV区ⅢA層	鉢	平縁。口：無文(内外面ミガキ)。	V-4類	
11・19	IV区ⅢA層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
11・20	IV区ⅢA下層	深鉢	小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
11・21	IV区ⅢA下層	深鉢	刻目平縁。口：沈線間刺突。胴：結節縄文。	IV-6類	
11・22	IV区ⅢA下層	深鉢	小波状口縁。口：沈線間刺突+B突起。胴：羽状縄文。	IV-6類	補修孔
12・1	IV区ⅢA下層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
12・2	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
12・3	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
12・4	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	補修孔

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
12・5	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
12・6	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
12・7	IV区ⅢA下層	深鉢	平縁。口：結節羽状縄文。	V-3類	
12・8	IV区コラムサンプルⅢA層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
12・9	IV区コラムサンプルⅢA層	深鉢	平縁。口：縦位櫛描文。	V-1類	
12・10	IV区コラムサンプルⅢA層	深鉢	平縁。口網目状燃糸文。	V-2類	
12・11	IV区コラムサンプルⅢA層	深鉢	胴：沈線内刺突+縄文。	IV-6類	
12・12	IV区コラムサンプルⅢA層	短頸壺	平縁。口：縄文。	V-3類	
13・1	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：三叉文。胴：縄文。	IV-1類	
13・2	IV区ⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
13・3	IV区ⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：C字状沈線+羊歯状文。胴：羽状縄文。	IV-2類	
13・4	IV区ⅢB層	深鉢	胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
13・5	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：C字状沈線+羊歯状文。胴：縄文。	IV-2類	
13・6	IV区ⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：弧状沈線+縄文。	IV-4類	
13・7	IV区ⅢB層	深鉢	沈線裝飾B突起。口：B突起+羊歯状文。胴：雲形文。	IV-3類	
13・8	IV区ⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
13・9	IV区ⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：刺突+平行沈線。胴：結節縄文。	IV-2類	
13・10	IV区ⅢB層	深鉢	刺突小波状口縁。胴：結節縄文。	IV-2類	
13・11	IV区ⅢB層	鉢	平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
13・12	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
13・13	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
13・14	IV区ⅢB層	深鉢	胴：沈線+結節縄文。	IV-2類	
13・15	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
13・16	IV区ⅢB層	深鉢	小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
13・17	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
13・18	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：C字状沈線+沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
13・19	IV区ⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
14・1	IV区ⅢB層	深鉢	刺突小波状口縁。口：平行沈線。胴：沈線間刺突+縄文。	IV-6類	
14・2	IV区ⅢB層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
14・3	IV区ⅢB層	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
14・4	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
14・5	IV区ⅢB層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
14・6	IV区ⅢB層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
14・7	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：雲形文。	IV-3類	
14・8	IV区ⅢB層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：無文。胴：雲形文。	IV-3類	
14・9	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-4類	
14・10	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：沈線。胴：三角状沈線+C字状沈線。	IV-4類	
14・11	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：楕円状区画。	IV-4類	
14・12	IV区ⅢB層	深鉢	胴：雲形文。	IV-4類	
14・13	IV区ⅢB層	深鉢	胴：弧状沈線。	IV-4類	
14・14	IV区ⅢB層	深鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
14・15	IV区ⅢB層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線+縄文。	IV-6類	
14・16	IV区ⅢB層	深鉢	刺突小波状口縁。口：平行沈線+縄文。	IV-6類	
14・17	IV区ⅢB層	深鉢	刺突小波状口縁。口：平行沈線+縄文。	IV-6類	
14・18	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：平行沈線。	V-4類	
14・19	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：平行沈線。	V-4類	
14・20	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：平行沈線。	V-4類	

図番号	出土地点	器種	主 文 様	分類	備 考
14・21	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
14・22	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
14・23	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
14・24	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	補修孔
15・1	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
15・2	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
15・3	IV区ⅢB層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
15・4	IV区ⅢB層	深鉢	胴：横位櫛描文。	V-1類	
15・5	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
15・6	IV区ⅢB層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
15・7	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
15・8	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
15・9	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
15・10	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文+縄文。	V-2類	
15・11	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
15・12	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
15・13	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
15・14	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
16・1	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
16・2	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
16・3	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
16・4	IV区ⅢB層	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
16・5	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
16・6	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
16・7	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
16・8	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
16・9	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
16・10	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：縄文+沈線。	V-3類	
16・11	IV区ⅢB層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
16・12	IV区ⅢB層	注口?	平縁。口：無文(外面ミガキ)	V-4類	口唇部面取り
16・13	IV区ⅢB層	注口?	平縁。口：無文(外面ケズリ)	V-4類	
16・14	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文(外面ケズリ)	V-4類	
16・15	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文(外面ケズリ)	V-4類	
16・16	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文(外面ケズリ)	V-4類	
16・17	IV区ⅢB層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
16・18	IV区ⅢB層	浅鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
16・19	IV区コラムサンプルⅢB層	浅鉢	浮彫状装飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	補修孔
16・20	IV区コラムサンプルⅢB層	注口?	肩：浮彫状装飾。胴：沈線。	IV群	
16・21	IV区コラムサンプルⅢB層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
16・22	IV区コラムサンプルⅢB層	深鉢	平縁。口：無文。胴：刻目+櫛描文。	V-1類	
16・23	IV区コラムサンプルⅢB層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
16・24	IV区コラムサンプルⅢB層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	補修孔
16・25	IV区コラムサンプルⅢB層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
17・1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：刻目+平行沈線。胴：縄文。	Ⅲ-3類	
17・2	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：弧状沈線。	Ⅲ-4類	
17・3	IV区ⅢC層	深鉢	刺突小波状口縁。口~胴：列点文+縄文。	IV-2類	
17・4	IV区ⅢC層	深鉢	刺突平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	

図番号	出土地点	器種	主 文 様	分類	備 考
17・5	IV区ⅢC層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縦位羽状縄文。	IV-6類	
17・6	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
17・7	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
17・8	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：沈線+結節縄文。	IV-2類	
17・9	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
17・10	IV区ⅢC層	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
17・11	IV区ⅢC層	深鉢	胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
17・12	IV区ⅢC層	浅鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：雲形文。	IV-3類	
17・13	IV区ⅢC層	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
17・14	IV区ⅢC層	鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
17・15	IV区ⅢC層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
17・16	IV区ⅢC層	浅鉢	沈線裝飾B突起。口：沈線間刺突。胴：雲形文。	IV-3類	
17・17	IV区ⅢC層	浅鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
17・18	IV区ⅢC層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
17・19	IV区ⅢC層	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
17・20	IV区ⅢC層	深鉢	沈線裝飾突起。口：沈線間刺突。胴：羽状縄文。	IV-6類	
17・21	IV区ⅢC層	深鉢	刺突平縁。口：平行沈線。胴：網目状撚糸文。	IV-6類	
17・22	IV区ⅢC層	深鉢	胴：メガネ状付帯文。	IV-4類	
18・1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：刻目+沈線+横位櫛描文。	V-1類	
18・2	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
18・3	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
18・4	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
18・5	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
18・6	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
18・7	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
18・8	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
19・1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：不規則な櫛描文。	V-1類	
19・2	IV区ⅢC層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
19・3	IV区ⅢC層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
19・4	IV区ⅢC層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
19・5	IV区ⅢC層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
19・6	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
19・7	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
19・8	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
19・9	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
20・1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
20・2	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
20・3	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
20・4	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
20・5	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
20・6	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
20・7	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
20・8	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
20・9	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
20・10	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
20・11	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
20・12	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
20・13	IV区ⅢC層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
20・14	IV区ⅢC層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
21・1	IV区ⅢC層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
21・2	IV区ⅢC層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
21・3	IV区ⅢC層	皿	底部。底：縄文。	V-3類	
21・4	IV区ⅢC層	鉢	平縁。口：刻目。	V-4類	
21・5	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
21・6	IV区ⅢC層	壺	胴：無文。	V-4類	
21・7	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
21・8	IV区ⅢC層	浅鉢	平縁。口：無文（内面ミガキ）。	V-4類	
21・9	IV区ⅢC層	深鉢	胴：無文（内外面ケズリ・ミガキ）。	V-4類	
21・10	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	内面に指頭圧痕
21・11	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
21・12	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
21・13	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
22・1	IV区ⅢC・D層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文+突起。	Ⅲ-4類	
22・2	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：羊歯状文。	IV-2類	
22・3	IV区ⅢC・D層	深鉢	刺突平縁。口：刺突+列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
22・4	IV区ⅢC・D層	深鉢	刺突小波状口縁。口：平行沈線。胴：羊歯状文+縄文。	IV-2類	
22・5	IV区ⅢC・D層	深鉢	刻目平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
22・6	IV区ⅢC・D層	深鉢	刺突平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
22・7	IV区ⅢC・D層	深鉢	胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
22・8	IV区ⅢC・D層	深鉢	胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
22・9	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
22・10	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：雲形文。	IV-2~3類	
22・11	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
22・12	IV区ⅢC・D層	鉢	沈線裝飾B突起。口：羊歯状文。胴：雲形文。	IV-2類	
22・13	IV区ⅢC・D層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
22・14	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
22・15	IV区ⅢC・D層	鉢	刻目小波状口縁。口一類：無文。胴：沈線間刻目+雲形文。	IV-4類	
22・16	IV区ⅢC・D層	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
22・17	IV区ⅢC・D層	浅鉢	底部。胴：雲形文+平行沈線。	IV-3類	
22・18	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
22・19	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
23・1	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
23・2	IV区ⅢC・D層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
23・3	IV区ⅢC・D層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
23・4	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
23・5	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
23・6	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
23・7	IV区ⅢC・D層	壺	胴：縄文。	V-3類	
23・8	IV区ⅢC・D層	鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
23・9	IV区ⅢC・D層	鉢	平縁。口：無文。	V-4類	外面に輪積痕
23・10	IV区ⅢC・D層	鉢	胴：無文。	V-4類	外面に輪積痕
23・11	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：縦割突起+平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
23・12	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：沈線。胴：平行沈線。	Ⅲ-4類	
23・13	IV区ⅢD層	鉢	刻目小波状口縁。口：羊歯状文。胴：結節縄文。	IV-2類	

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
23・14	IV区ⅢD層	鉢	刺突小波状口縁。口：沈線+羊歯状文。胴：結節縄文。	IV-2類	
23・15	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：沈線+結節縄文。	IV-2類	
23・16	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：沈線+結節縄文。	IV-2類	
23・17	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
23・18	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
23・19	IV区ⅢD層	注口	肩：三叉状沈線+弧状沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
24・1	IV区ⅢD層	深鉢	刺突小波状口縁。口-胴：羊歯状文+結節縄文。	IV-2類	
24・2	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24・3	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24・4	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
24・5	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24・6	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
24・7	IV区ⅢD層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
24・8	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
24・9	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
24・10	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
24・11	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
24・12	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：網目状撚糸文。	V-2類	
24・13	IV区ⅢD層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
24・14	IV区ⅢD層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
24・15	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
24・16	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
24・17	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
24・18	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
25・1	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
25・2	IV区ⅢD層	短頸壺	平縁。口：無文。	V-4類	外面に輪積痕
25・3	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
25・4	IV区ⅢD層	深鉢	平縁。口：無文(ケズリ)。	V-4類	
25・5	IV区コラムサンプルⅢD層	鉢	沈線裝飾B突起。口：刻目+羊歯状文。胴：雲形文+縄文。	IV-2類	
25・6	IV区コラムサンプルⅢD層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
25・7	IV区コラムサンプルⅢD層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
25・8	IV区ⅢD・E層	深鉢	平縁。口：刻目+弧状沈線。	Ⅲ-3類	
25・9	IV区ⅢD・E層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
25・10	IV区ⅢD・E層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
25・11	IV区ⅢD・E層	深鉢	波状口縁。口：無文(内外面ミガキ)。	Ⅲ-3類	
25・12	IV区ⅢD・E層	深鉢	胴：平行沈線+弧状沈線。	Ⅲ-4類	
25・13	IV区ⅢD・E層	浅鉢	底部。底：櫛描文。	V-1類	
25・14	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：山形状突起+沈線+縄文。胴：縄文。	Ⅲ-4類	
25・15	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縦割突起+沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
25・16	IV区ⅢE層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
25・17	IV区ⅢE層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
25・18	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：山形状突起+内外面ミガキ。	Ⅲ-4類	
25・19	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縦割突起+平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
25・20	IV区ⅢE層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文+突起。	Ⅲ-4類	
25・21	IV区ⅢE層	深鉢	胴：平行沈線+弧状沈線+充填刻目文+突起。	Ⅲ-4類	
25・22	IV区ⅢE層	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文+橋状把手+突起。	Ⅲ-4類	
25・23	IV区ⅢE層	深鉢	胴：入組文+充填縄文。	Ⅲ-4類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
25・24	IV区ⅢE層	浅鉢	平縁。口：羊歯縄文。胴：結節縄文。	IV-2類	
25・25	IV区ⅢE層	深鉢	刺突平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
25・26	IV区ⅢE層	深鉢	胴：羊歯状文+結節縄文。	IV-2類	
26・1	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
26・2	IV区ⅢE層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：結節縄文。	IV-6類	
26・3	IV区ⅢE層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
26・4	IV区ⅢE層	浅鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：雲形文。	IV-2～3類	
26・5	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
26・6	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縦位櫛描文。	V-1類	
26・7	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：不規則な櫛描文。	V-1類	
26・8	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
26・9	IV区ⅢE層	深鉢	刺突小波状口縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
26・10	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
26・11	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：不規則な櫛描文。	V-1類	
26・12	IV区ⅢE層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
26・13	IV区ⅢE層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
26・14	IV区ⅢE層	深鉢	胴：横位櫛描文。	V-1類	
26・15	IV区ⅢE層	深鉢	胴：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
26・16	IV区ⅢE層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
26・17	IV区ⅢE層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
26・18	IV区ⅢE層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
27・1	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：縄文。	V-3類	
27・2	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
27・3	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
27・4	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
27・5	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
27・6	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
27・7	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
27・8	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
27・9	IV区ⅢE層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
27・10	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口：無文（内面ミガキ）。	V-4類	
27・11	IV区コラムサンプルⅢE層	鉢	平縁。口：沈線。胴：縄文。	V-3類	
27・12	IV区ⅢF層	深鉢	波状口縁。口：沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
27・13	IV区ⅢF層	深鉢	波状口縁。口：平行沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
27・14	IV区ⅢF層	深鉢	突起：沈線+充填刻目文+突起。	Ⅲ-4類	
27・15	IV区ⅢF層	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文+突起。	Ⅲ-4類	
27・16	IV区ⅢF層	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文+突起。	Ⅲ-4類	
27・17	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口-胴：平行沈線+弧状沈線+充填縄文+突起。	Ⅲ-4類	
27・18	IV区ⅢF層	深鉢	胴：蛇行沈線。	V-1類	
27・19	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+弧状櫛描文。	V-1類	
27・20	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
27・21	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
28・1	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
28・2	IV区ⅢF層	深鉢	突起：縄文。	V-3類	
28・3	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
28・4	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
28・5	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
28・6	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
28・7	IV区ⅢF層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
28・8	IV区ⅢコラムサンプルF層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	Ⅲ-3類	
28・9	IV区ⅢコラムサンプルF層	深鉢	平縁。口：弧状平行沈線。	Ⅲ-3類	
28・10	IV区ⅢコラムサンプルF層	深鉢	平縁。口-胴：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
28・11	IV区ⅢコラムサンプルF層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
28・12	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	刺突平縁。口-胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
28・13	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：沈線+結節縄文。	IV-2類	
28・14	IV区Ⅲ-2a・2b層	注口or壺	胴：雲形文。	IV-3類	
28・15	IV区Ⅲ-2a・2b層	注口	胴：平行沈線+突起列+縄文。	IV群	
28・16	IV区Ⅲ-2a・2b層	鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
28・17	IV区Ⅲ-2a・2b層	皿	底部。底：雲形文。	IV-3類	
28・18	IV区Ⅲ-2a・2b層	浅鉢	平縁。口：B突起+平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
28・19	IV区Ⅲ-2a・2b層	浅鉢	平縁。口：沈線。胴：磨消縄文。	IV群	
28・20	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：結節羽状縄文。	IV-6類	
28・21	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：刻目+沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
29・1	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：羽状縄文。	IV-6類	
29・2	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	小波状口縁。口：平行沈線。胴：縦位櫛描文。	IV-6類	
29・3	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
29・4	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
29・5	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	外面に指頭圧痕
29・6	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
29・7	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	外面に指頭圧痕
29・8	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
29・9	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：ケズリ+網目状捺糸文。	V-2類	
29・10	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
29・11	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
29・12	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
29・13	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
29・14	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
29・15	IV区Ⅲ-2a・2b層	短頸壺	胴：縄文。	V-3類	
29・16	IV区Ⅲ-2a・2b層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
30・1	IV区ⅢA層	壺	平縁。口：B突起。頸：雲形文。	IV-3類	
30・2	IV区ⅢA層	鉢	刻目小波状口縁。口：B突起+羊歯状文。胴：縦位羽状縄文。	IV-2類	
30・3	IV区ⅢA層	深鉢	底部。胴：縦位櫛描文。	V-1類	
30・4	IV区ⅢA層	鉢	胴-底：平行沈線+縄文。	V-3類	
30・5	IV区ⅢA層	短頸壺	平縁。口：無文。胴：縄文	V-3類	
30・6	IV区ⅢA層	浅鉢	平縁。口：B突起。頸：沈線。	IV-2類	
30・7	IV区ⅢA層	深鉢	底部。底：沈線。	V-4類	
30・8	IV区ⅢA下層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
30・9	IV区ⅢA下層	深鉢	底部。胴：無文（外面ケズリ・ミガキ）。	V-4類	
30・10	IV区ⅢA下層	深鉢	底部。胴：無文（外面ミガキ）。	V-4類	
30・11	IV区ⅢA下層	壺	底部。胴：無文（内面ケズリ・外面ミガキ）。	V-4類	
30・12	IV区ⅢB層	深鉢	底部。胴：結節縄文+沈線。	IV-2類	
30・13	IV区ⅢB層	鉢	平縁。口-胴：刺突+列点文+縄文。	IV-2類	
30・14	IV区ⅢB層	小型壺	平縁。口：刻目+沈線間刻目。胴：弧状沈線。	IV-4類	
30・15	IV区ⅢB層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
30・16	IV区ⅢB層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
30・17	IV区ⅢB層	深鉢	底部。胴：沈線+縄文。底：沈線。	V-3類	
30・18	IV区ⅢB層	小型鉢	平縁。口：無文。	V-4類	外面に指頭圧痕
30・19	IV区ⅢB層	鉢	平縁。口-底：無文。	V-4類	外面に指頭圧痕
30・20	IV区ⅢB層	短頸壺	平縁。口：無文。	V-4類	外面に輪積痕
30・21	IV区ⅢB層	台付	胴-台：無文。	V-4類	
30・22	IV区ⅢB層	深鉢	胴-底：無文。	V-4類	
30・23	IV区ⅢB層	深鉢	胴-底：無文。	V-4類	
30・24	IV区ⅢB層	鉢	平縁。口-底：無文（内面ミガキ・外面ケズリ）。	V-4類	
30・25	IV区ⅢB下層	短頸壺	平縁。口：無文+橋状把手。胴：縄文。	V-3類	
30・26	IV区コラムサンプルⅢB層	深鉢	刻目小波状口縁。口：弧状沈線+沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
31・1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口-胴：刻目+列点文+羊歯状文+結節縄文。	IV-2類	
31・2	IV区ⅢC層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
31・3	IV区ⅢC層	浅鉢	平縁。口：平行沈線文。胴：雲形文。	IV-3類	
31・4	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。胴-底：平行沈線+雲形文。	IV-3類	
31・5	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。胴：雲形文+平行沈線。	IV-3類	
31・6	IV区ⅢC層	鉢	刻目小波状口縁。口：羊歯状文。胴：雲形文。	IV-3類	
31・7	IV区ⅢC層	鉢	沈線裝飾B突起。口：刻目+沈線内刺突。胴：雲形文+縄文。	IV-3類	
31・8	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。胴：平行沈線。	V-4類	
31・9	IV区ⅢC層	浅鉢	底部。底：沈線。	V-4類	
31・10	IV区ⅢC層	浅鉢	口-胴：縄文。	V-3類	
31・11	IV区ⅢC層	深鉢	底部。胴：網目状撚糸文。	V-2類	
31・12	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口-胴：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
31・13	IV区ⅢC層	鉢	胴-底：沈線+縄文。	V-3類	
32・1	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口-胴：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
32・2	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口-胴：網目状撚糸文。	V-2類	
32・3	IV区ⅢC層	深鉢	平縁。口-胴：網目状撚糸文。	V-2類	
32・4	IV区ⅢC層	深鉢	胴：網目状撚糸文。	V-2類	
32・5	IV区コラムサンプルⅢC層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文+平行沈線。底：沈線。	IV-3類	
33・1	IV区ⅢC・D層	鉢	刻目小波状口縁。口-胴：列点文+羊歯状文+結節縄文。	IV-2類	
33・2	IV区ⅢC・D層	深鉢	底部。胴：結節縄文。底：平行沈線。	IV-2類	
33・3	IV区ⅢC・D層	浅鉢	刻目小波状口縁。口：沈線間刺突+平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
33・4	IV区ⅢC・D層	鉢	沈線裝飾B突起。口：刻目+沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
33・5	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。底：平行沈線。	IV-3類	
33・6	IV区ⅢC・D層	浅鉢	胴：沈線間刺突+連結C字状文+平行沈線。底：縄文。	IV-3類	
33・7	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
33・8	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口-胴：網目状撚糸文。	V-2類	
33・9	IV区ⅢC・D層	深鉢	平縁。口-胴：網目状撚糸文。	V-2類	
33・10	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口-底：縄文。	V-3類	
33・11	IV区ⅢC・D層	鉢	底部。胴：平行沈線+縄文。底：沈線。	V-3類	
33・12	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口-底：無文。	V-4類	
33・13	IV区ⅢC・D層	浅鉢	平縁。口-底：無文（内外面ケズリ）。	V-4類	
33・14	IV区ⅢC・D層	小型壺	胴：無文。	V-4類	
34・1	IV区ⅢD層	台付浅鉢	B突起。口：羊歯状文。胴：平行沈線+結節縄文。	IV-2類	
34・2	IV区ⅢD層	浅鉢	B突起。口：無文。胴：平行沈線+結節縄文。	IV-2類	補修孔
34・3	IV区ⅢD層	深鉢	刻目平縁。口-胴：B突起+沈線+羊歯状文+縄文。	IV-2類	
34・4	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：沈線。胴：結節縄文。	IV-2類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
34・5	IV区ⅢD層	鉢	底部。胴：結節縄文。	IV-2類	
34・6	IV区ⅢD層	浅鉢	胴：平行沈線+縄文。	IV群	
34・7	IV区ⅢD層	鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
34・8	IV区ⅢD層	注口	浮彫状装飾口縁。口：刻目。胴：雲形文。肩：突起列。	IV-3類	
34・9	IV区ⅢD層	壺	頸：平行沈線+縄文。	V-3類	
34・10	IV区ⅢD層	壺	胴：縄文。	V-3類	
34・11	IV区コラムサンプルⅢD層	鉢	刻目小波状口縁。口-胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
35・1	IV区ⅢE層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文+突起。	Ⅲ-4類	
35・2	IV区ⅢE層	異形台付	胴：弧状沈線+突起+平行沈線。	Ⅲ-4類	
35・3	IV区ⅢE層	鉢	刻目平縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	
35・4	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口-胴：結節縄文。	IV-2類	
35・5	IV区ⅢE層	深鉢	刻目小波状口縁。口-胴：列点文+縄文。	IV-2類	
35・6	IV区ⅢE層	深鉢	底部。胴：結節縄文。	IV-2類	
35・7	IV区ⅢE層	浅鉢	底部。底：平行沈線+縄文。	V-3類	
35・8	IV区ⅢE層	台付浅鉢	浮彫状装飾口縁。口-胴：列点文+結節縄文+弧状沈線。	IV-2類	
35・9	IV区ⅢE層	台付浅鉢	浮彫状装飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
35・10	IV区ⅢE層	台付	台：沈線装飾隆帯+突起。	V-4類	
35・11	IV区ⅢE層	台付	台：平行沈線+縦位弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
36・1	IV区ⅢE層	深鉢	平縁。口-胴：横位櫛描文+蛇行沈線。	V-1類	
36・2	IV区ⅢE層	小型鉢	平縁。口-胴：不規則な櫛描文。	V-1類	
36・3	IV区ⅢE層	深鉢	底部。胴：縦位櫛描文。	V-1類	
36・4	IV区ⅢE層	鉢	平縁。口-底：突起+縄文。	V-3類	
36・5	IV区ⅢE層	鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
36・6	IV区ⅢE層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
36・7	IV区ⅢE層	短頸壺	平縁。口-胴：無文。	V-4類	
36・8	IV区ⅢF層	深鉢	底部。胴：無文。	V-4類	
36・9	IV区ⅢF層	深鉢	底部。胴：無文（外面ケズリ）。	V-4類	
36・10	IV区ⅢF層	深鉢	底部。胴：縦位櫛描文。	V-1類	
36・11	Ⅲ-2a・2b層	壺	胴：雲形文。	IV-3類	
36・12	Ⅲ-2a・2b層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
36・13	Ⅲ-2a・2b層	短頸壺	平縁。口：無文。胴：縄文。	V-3類	
36・14	Ⅲ-2a・2b層	浅鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
36・15	Ⅲ-2a・2b層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
37・1	72TコラムサンプルS1-1B	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
37・2	72TコラムサンプルS1-7B	深鉢	胴：沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
37・3	72TコラムサンプルS2-1A	深鉢	刻目小波状口縁。口：縦割突起+沈線。胴：不規則な櫛描文。	V-1類	
37・4	72TコラムサンプルS2-1A	小型壺	胴：無文（外面ケズリ）。	V-4類	
37・5	72TコラムサンプルS2-1A	浅鉢	沈線装飾突起。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
37・6	72TコラムサンプルS2-1A	短頸壺	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
37・7	72T貝層・土層ブロック①	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
37・8	72T貝層・土層ブロック②	深鉢	胴：沈線+充填縄文+刺突。	Ⅲ-4類	
37・9	72T貝層・土層ブロック②	注口or壺	頸：雲形文。	IV-4類	
37・10	72T貝層・土層ブロック③	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：結節縄文。	IV-2類	
37・11	72T貝層・土層ブロック④	深鉢	胴：沈線+刺突。	Ⅲ-4類	
37・12	72T貝層・土層ブロック⑦	注口or壺	頸：雲形文。	IV-3類	
37・13	72T貝層・土層ブロック⑭	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：結節縄文。	IV-2類	
37・14	72T貝層・土層ブロック⑭	浅鉢	浮彫状装飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-4類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
37・15	72T貝層・土層ブロック㉔	浅鉢	底部。胴：雲形文＋平行沈線。	IV-4類	
37・16	72T貝層・土層ブロック㉔	短頸壺	平縁。口：無文。胴：平行沈線＋縄文。	V-3類	
37・17	72T貝層・土層ブロック㉔	深鉢	刺突平縁。口：沈線＋平行沈線。胴：羽状縄文。	IV-6類	
37・18	72T貝層・土層ブロック㉔	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
37・19	72T貝層・土層ブロック㉔	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
37・20	72T貝層・土層ブロック㉔	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
37・21	72T貝層・土層ブロック㉔	注口	平縁。口：縄文。	V-3類	
37・22	72T貝層・土層ブロック㉔	鉢	平縁。口：無文。	V-4類	外面に輪積痕
37・23	72T貝層・土層ブロック㉔	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	外面に輪積痕
37・24	72T貝層・土層ブロック㉔	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
38・1	72T貝層・土層ブロック㉔	深鉢	平縁。口-胴：網目状燃糸文。	V-2類	
38・2	72T貝層・土層ブロック㉕	深鉢	平縁。口：沈線＋充填縄文。	III-3類	
38・3	72T貝層・土層ブロック㉖	鉢	刻目小波状口縁。口：弧状沈線＋羊歯状文。	IV-2類	
38・4	72T貝層・土層ブロック㉖	鉢	刻目小波状口縁。口：弧状沈線＋沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
38・5	72T貝層・土層ブロック㉗	深鉢	平縁。口-胴：結節羽状縄文。	V-3類	
38・6	72T貝層・土層ブロック㉘	浅鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
38・7	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：弧状沈線。	III群	
38・8	72T III-1・3 a・3 b層	鉢	平縁。口：結節羽状縄文。	V-3類	
38・9	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
38・10	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
38・11	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	浮彫状裝飾口縁。口：列点文。胴：雲形文。	IV-2類	
38・12	72T III-1・3 a・3 b層	鉢?	刻目小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
38・13	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
38・14	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	刺突平縁。口：突起＋沈線＋沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
38・15	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	刺突平縁。口：沈線＋沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
38・16	72T III-1・3 a・3 b層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：磨消縄文。	IV-4類	
38・17	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文＋蛇行櫛描文。	V-1類	
38・18	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文＋縦位櫛描文。	V-1類	
38・19	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文＋蛇行櫛描文。	V-1類	
38・20	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文＋蛇行櫛描文。	V-1類	
38・21	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文＋蛇行櫛描文。	V-1類	
38・22	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
38・23	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
38・24	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
39・1	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
39・2	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
39・3	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
39・4	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
39・5	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：結節羽状縄文。	V-3類	
39・6	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
39・7	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：無文（外面ミガキ）。	V-4類	
39・8	72T III-1・3 a・3 b層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
39・9	72T III-1・3 a・3 b層	壺	胴：無文（外面ミガキ）。	V-4類	
39・10	72T III-1・3 a・3 b層上面	深鉢	波状口縁。口：刻目＋弧状沈線＋充填縄文。	III-3類	
39・11	72T III-1・3 a・3 b層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口：羊歯状文。胴：縄文。	IV-2類	
39・12	72T III-1・3 a・3 b層上面	深鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
39・13	72T III-1・3 a・3 b層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口：列点文。胴：結節縄文。	IV-2類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
39・14	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口-胴：羊歯状文+列点文+結節縄文。	IV-2類	
39・15	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
39・16	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
39・17	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
39・18	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
39・19	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
39・20	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：弧状沈線。	IV-4類	
39・21	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	刻目平縁。口：沈線+沈線内刺突。胴：雲形文。	IV-4類	
39・22	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：雲形文+平行沈線+結節羽状縄文。	IV-4類	
39・23	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：雲形文。	IV-4類	
39・24	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
39・25	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
39・26	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：刻目+沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
39・27	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線+沈線内刺突。胴：縄文。	IV-6類	
40・1	72T貝層・土層ブロック24	浅鉢	刺突平縁。口：A突起+平行沈線。胴：雲形文。	IV-4類	
40・2	72T貝層・土層ブロック24	壺	平縁。口-頸：無文。胴：平行沈線+雲形文。	IV-4類	
40・3	72T貝層・土層ブロック24	短頸壺	平縁。口-頸：無文。胴：縄文。	V-3類	
40・4	72T貝層・土層ブロック24	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
40・5	72T貝層・土層ブロック24	鉢	底部。胴：平行沈線+羽状縄文。	V-3類	
40・6	72T貝層・土層ブロック24	鉢	平縁。口-胴：縄文。	V-3類	
40・7	72T貝層・土層ブロック36	深鉢	刻目小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
40・8	72T貝層・土層ブロック36	深鉢	底部。胴：結節羽状縄文。	V-3類	
40・9	72TⅢ-1・3a・3b層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
40・10	72TⅢ-1・3a・3b層	浅鉢	平縁。口：沈線。底：沈線。	V-4類	
40・11	72TⅢ-1・3a・3b層	台付	台：沈線。	V-4類	
40・12	72TⅢ-1・3a・3b層	小型鉢	平縁。口-底：無文（内面ミガキ）。	V-4類	
41・1	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口：平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
41・2	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
41・3	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
41・4	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
41・5	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
41・6	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
41・7	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
41・8	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
41・9	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
41・10	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
41・11	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
41・12	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
41・13	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
41・14	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
41・15	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
41・16	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
41・17	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
41・18	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	刺突小波状口縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
41・19	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
41・20	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
41・21	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
41・22	72TⅢ-1・3a・3b層上面	短頸壺	平縁。口：突起+縄文。	V-3類	
41・23	72TⅢ-1・3a・3b層上面	短頸壺	平縁。口：突起+縄文。	V-3類	
41・24	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：結節羽状縄文。	V-3類	
41・25	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
41・26	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
41・27	72TⅢ-1・3a・3b層上面	壺	胴：羽状縄文。	V-3類	
42・1	72TⅢ-1・3a・3b層上面	壺	胴：縄文。	V-3類	
42・2	72TⅢ-1・3a・3b層上面	壺	胴：縄文。	V-3類	
42・3	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
42・4	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：結節羽状縄文。	V-3類	
42・5	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
42・6	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：無文(内外面ミガキ)。	V-4類	
42・7	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
42・8	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：縄文+沈線。	V-3類	
42・9	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
42・10	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：無文(内面ミガキ)。	V-4類	
42・11	72TⅢ-1・3a・3b層上面	鉢	刻目小波状口縁。口：羊歯状文+B突起。胴：縄文。	IV-2類	
42・12	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	平縁。口：沈線内刺突+平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	
42・13	72TⅢ-1・3a・3b層上面	深鉢	平縁。口：沈線。胴：縄文。	IV-6類	
42・14	72TⅢ-1・3a・3b層上面	浅鉢	底部。胴：無文(内外面ミガキ)。底：沈線。	V-4類	
42・15	72TⅢ-1・3a・3b層上面	台付	台：無文。	V-4類	
43・1	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	平縁。口：刻目+平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
43・2	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目+突起。	Ⅲ-4類	
43・3	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	胴：平行沈線+充填刻目文。	Ⅲ-4類	
43・4	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	胴：横位櫛描文。	V-1類	
43・5	1GコラムサンプルS1-1B	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
43・6	1GコラムサンプルS1-2A	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
43・7	1GコラムサンプルS1-2A	深鉢	胴：横位櫛描文。	V-1類	
43・8	1GコラムサンプルS1-2A	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
43・9	1GコラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
43・10	1GコラムサンプルS1-3B	深鉢	平縁。口-胴：山形状突起+横位櫛描文+突起。	Ⅲ-4類	
43・11	1GコラムサンプルS1-4B	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
43・12	1GコラムサンプルS1-5A	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
43・13	1GコラムサンプルS1-5B	深鉢	平縁。口：沈線。	V-4類	
43・14	1GコラムサンプルS1-5B	深鉢	波状口縁。口：沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
43・15	1GコラムサンプルS1-6A	深鉢	胴：横位櫛描文。	V-1類	
43・16	1GコラムサンプルS1-6B	深鉢	平縁。口：無文(内外面ミガキ)。	V-4類	
43・17	1GコラムサンプルS2-1B	深鉢	平縁。口-胴：刺突+沈線+結節縄文。	IV-2類	
43・18	1GコラムサンプルS2-3B	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
43・19	1GコラムサンプルS2-3B	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
43・20	1GコラムサンプルS2-4B	深鉢	胴：平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
43・21	1GコラムサンプルS2-5B	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
43・22	1GコラムサンプルS2-9B	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
43・23	1GコラムサンプルS2-一括	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
44・1	1GⅢ-1・3a層	深鉢	胴：入組帯状文+充填刻目文。	Ⅲ-4類	
44・2	1GⅢ-1・3a層	深鉢	刻目波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・3	1GⅢ-1・3a層	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
44・4	1GⅢ-1・3a層	深鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・5	1GⅢ-1・3a層	深鉢	刻目平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・6	1GⅢ-1・3a層	浅鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
44・7	1GⅢ-1・3a層	浅鉢	口：平行沈線。胴：弧状沈線。	IV-4類	
44・8	1GⅢ-1・3a層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
44・9	1GⅢ-1・3a層	壺	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
44・10	1GⅢ-1・3a層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
44・11	1GⅢ-1・3a層	浅鉢	底部。底：沈線。	V-4類	
44・12	1GⅢ-1・3a層上面	鉢	平縁。口：クランク状沈線+橋状把手。	IV-2類	
44・13	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	刻目小波状口縁。口：羊歯状文。胴：結節縄文。	IV-2類	
44・14	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	刺突波状口縁。口-胴：結節縄文。	IV-2類	
44・15	1GⅢ-1・3a層上面	鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：無文。	IV-6類	
44・16	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
44・17	1GⅢ-1・3a層上面	鉢	沈線裝飾突起。口：沈線間刺突。胴：雲形文。	IV-4類	
44・18	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	刺突平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・19	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	刺突小波状口縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
44・20	1GⅢ-1・3a層上面	注口or壺	胴：雲形文。	IV-3類	
44・21	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
44・22	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
44・23	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
44・24	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
44・25	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
44・26	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
44・27	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	胴：沈線+縄文。	V-3類	
44・28	1GⅢ-1・3a層上面	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
44・29	1GⅢ-1・3a層上面	台付	台：沈線+縄文。	V-3類	
44・30	1GⅢ-1・3a層上面	鉢	平縁。口-頸：無文。胴：沈線+縄文。	V-3類	
45・1	3GコラムサンプルS1-2B	浅鉢	B突起。口：沈線+列点文。胴：磨消縄文+平行沈線。	IV-2~3類	
45・2	3GコラムサンプルS1-3A	鉢	平縁。口：平行沈線。胴：結節縄文。	IV-2類	
45・3	3GコラムサンプルS1-3B	小型皿	平縁。口-底：無文。	V-4類	外面に指頭圧痕
45・4	3GⅢ-1・3a層上面	鉢	底部。胴：無文(外面ケズリ)。	V-4類	
45・5	3GコラムサンプルS1-1A	深鉢	胴：結節縄文+沈線。	IV-2類	
45・6	3GコラムサンプルS1-1B	深鉢	平縁。口：無文(内外面ミガキ)。	V-4類	
45・7	3GコラムサンプルS1-2B	深鉢	刻目平縁。口-胴：列点文+結節縄文。	IV-2類	
45・8	3GコラムサンプルS1-2B	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
45・9	3GコラムサンプルS1-3A	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
45・10	3GコラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
45・11	3GコラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
45・12	3GコラムサンプルS1-3B	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
45・13	3GコラムサンプルS1-4A	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
45・14	3GコラムサンプルS1-4A	深鉢	胴：網目状燃糸文。	V-2類	
45・15	3GコラムサンプルS1-7B	深鉢	胴：刻目+平行沈線+充填縄文。	III-3類	
45・16	3GコラムサンプルS1-括	深鉢	平縁。口：網目状燃糸文。	V-2類	
46・1	4GⅢ-3a層	鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
46・2	4GⅢ-3a層	浅鉢?	底部。胴：無文(外面ミガキ)。	V-4類	
46・3	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：結節羽状縄文。	V-3類	
46・4	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：結節羽状縄文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主 な 文 様	分類	備 考
46・5	4GⅢ-3a層	浅鉢	平縁。口：平行沈線。胴：弧状沈線+平行沈線。	IV-4類	
46・6	4GⅢ-3a層	浅鉢	胴：雲形文。	IV-4類	
46・7	4GⅢ-3a層	鉢	波状口縁。口：刺突+橋状把手。胴：雲形文。	IV-4類	
46・8	4GⅢ-3a層	壺	胴：雲形文。	IV-4類	
46・9	4GⅢ-3a層	深鉢	刻目平縁。口：沈線+平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
46・10	4GⅢ-3a層	壺	小波状口縁。口：沈線。	IV-4類	
46・11	4GⅢ-3a層	浅鉢	平縁。口：平行沈線+突起。	IV-5類	
46・12	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：縦位櫛描文。	V-1類	
46・13	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：縦位櫛描文。	V-1類	
46・14	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
46・15	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
46・16	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
46・17	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
46・18	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
46・19	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
46・20	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：横位捺糸文+縦位捺糸文。	V-2類	
46・21	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：横位捺糸文+縦位捺糸文。	V-2類	
46・22	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縦位捺糸文。	V-2類	
47・1	4GⅢ-3a層	深鉢	折返口縁。口：縄文。	V-3類	
47・2	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
47・3	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
47・4	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：刺突+縄文。	V-3類	
47・5	4GⅢ-3a層	深鉢	折返口縁。口：縄文。	V-3類	外面に指頭圧痕
47・6	4GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
47・7	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
47・8	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
47・9	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
47・10	4GⅢ-3a層	深鉢	胴：縦位結節縄文。	V-3類	
47・11	4GⅢ-3a層上面	小型鉢	平縁。口：三角形状沈線+弧状沈線。	IV-4類	
47・12	4GⅢ-3a層上面	浅鉢	胴：雲形文。	IV-4類	
47・13	4GⅢ-3a層上面	深鉢	折返口縁。口：縄文。	V-3類	
47・14	4GⅢ-3a層上面	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+蛇行櫛描文。	V-1類	
47・15	4GⅢ-3a層上面	深鉢	折返口縁。口：沈線。	V-4類	
47・16	4GⅢ-3a層上面	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-3類	
47・17	4GⅢ-3a層上面	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-3類	
48・1	5GⅢ-3a層	鉢	胴：羊歯状文+結節縄文。	IV-2類	
48・2	5GⅢ-3a層	深鉢	胴：結節縄文。	IV-2類	
48・3	5GⅢ-3a層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-3類	補修孔
48・4	5GⅢ-3a層	鉢	胴：雲形文。	IV-3類	
48・5	5GⅢ-3a層	浅鉢	胴：メガネ状付帯文+弧状沈線。	IV-4類	
48・6	5GⅢ-3a層	壺	胴：突起+平行沈線。	IV-5類	
48・7	5GⅢ-3a層	浅鉢	底部。胴：磨消縄文+平行沈線。	IV群	
48・8	5GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：刺突+沈線間刺突。胴：羽状縄文。	IV-6類	
48・9	5GⅢ-3a層	深鉢	胴：平行沈線+縄文。	IV-6類	
48・10	5GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：刺突+平行沈線。胴：縄文。	IV-6類	
48・11	5GⅢ-3a層	鉢	平縁。口：平行沈線。胴：縄文。	V-3類	
48・12	5GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：沈線。胴：縄文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
48・13	5GⅢ-3a層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
48・14	5GⅢ-3a層	深鉢	折返口縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
48・15	5GⅢ-3a層	深鉢	折返口縁。口：縄文+網目状捺糸文+ケズリ。	V-2類	
48・16	5GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文+ケズリ。	V-2類	外面に指頭圧痕
48・17	5GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口-胴：網目状捺糸文。	V-2類	
48・18	5GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
48・19	5GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：A突起+横位捺糸文。	V-2類	
48・20	5GⅢ-3a層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
48・21	5GⅢ-3a層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
48・22	5GⅢ-3a層	鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
48・23	5GⅢ-3a層	深鉢	底部。胴：縦位捺糸文。	V-2類	
48・24	5GⅢ-3a層	深鉢	底部。胴：縦位捺糸文。	V-2類	
48・25	5GⅢ-3a層	浅鉢	平縁。口：沈線。胴：メガネ状付帯文+雲形文。	IV-4類	補修孔
48・26	5GⅢ-3a層上面	浅鉢	胴：平行沈線+山形状沈線。	IV-4類	
48・27	5GⅢ-3a層上面	深鉢	胴：縦位捺糸文。	V-2類	
48・28	5GⅢ-3a層上面	深鉢	平縁。口-胴：網目状捺糸文。	V-2類	
49・1	6GⅢ-3a層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
49・2	6GⅢ-3a層上面	鉢	平縁。口：沈線間刺突。胴：縄文。	IV-6類	
49・3	6GⅢ-3a層上面	深鉢	平縁。口：網目状捺糸文。	V-2類	
49・4	6GⅢ-3a層上面	壺	平縁。口：無文。	V-4類	
50・1	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：非結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
50・2	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：非結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
50・3	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	波状口縁。口-頸：刻目+沈線。	Ⅲ-3類	
50・4	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	波状口縁。口-胴：刻目+平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・5	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	波状口縁。口：刻目+弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・6	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：刻目+沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・7	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+羽状縄文。	Ⅲ-3類	
50・8	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	波状口縁。口：無文(内面ミガキ)。	Ⅲ-3類	
50・9	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・10	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：平行沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
50・11	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：沈線+縄文。	Ⅲ-4類	
50・12	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：刻目+平行沈線+弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・13	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：平行沈線+縦位蛇行沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・14	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：平行沈線+縦位蛇行沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
50・15	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：平行沈線+縦位蛇行沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
50・16	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・17	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
50・18	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
50・19	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：縦割突起+弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
50・20	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	小波状口縁。口：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
50・21	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
50・22	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
50・23	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：縦位櫛描文。	V-1類	
50・24	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
50・25	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
50・26	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
50・27	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
50・28	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：蛇行櫛描文。	V-1類	
50・29	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
50・30	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
50・31	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
51・1	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
51・2	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
51・3	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
51・4	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
51・5	76TテストピットⅢ-3b上層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
51・6	76TテストピットⅢ-3b下層	深鉢	突起：無文（内外面ミガキ）。	Ⅲ-3類	
51・7	76TテストピットⅢ-3b下層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
51・8	76TテストピットⅢ-3b下層	鉢	胴：沈線+刻目+縄文。	Ⅲ-3類	
51・9	76TテストピットⅢ-3b下層	深鉢	胴：結節羽状縄文。	V-3類	
51・10	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：刻目+羽状縄文。	V-3類	
51・11	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
51・12	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線。	Ⅲ-3類	
51・13	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。口：無文（内外面ミガキ）。	Ⅲ-3類	
51・14	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
51・15	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。口：無文（内外面ミガキ）。	Ⅲ-3類	
51・16	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：山形突起+三叉状沈線+平行沈線+突起。	Ⅲ-4類	
51・17	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	胴：刻目+沈線+羽状縄文。	Ⅲ-3類	
51・18	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	胴：隆帯+刻目+平行沈線+弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
51・19	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	胴：平行沈線+縦位弧状沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
51・20	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：弧状櫛描文。	V-1類	
51・21	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：縦割突起+横位櫛描文。	Ⅲ-4類	
51・22	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	胴：横位櫛描文。	V-1類	
51・23	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
51・24	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：網目状櫛描文。	V-2類	
51・25	76TテストピットⅢ-3b層	深鉢	胴：羽状縄文。	V-3類	
51・26	76TテストピットⅢ-3b上層	壺	胴：2条1対弧状沈線。	Ⅲ-4類	突起剥離
51・27	76TテストピットⅢ-3b上層	壺	平縁。口一頸：突起+沈線。胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
51・28	76TテストピットⅢ-3b下層	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
52・1	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：結節第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
52・2	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁：盲孔+沈線。	Ⅲ-1~2類	
52・3	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+沈線。	Ⅲ-3類	
52・4	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+沈線。	Ⅲ-3類	
52・5	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
52・6	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。刻目+平行沈線+縄文。	Ⅲ-3類	
52・7	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：隆帯+刻目+平行沈線+縦位蛇行沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
52・8	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：沈線+弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-3類	
52・9	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	Ⅲ-4類	
52・10	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：弧状沈線+充填櫛描文。	Ⅲ-4類	
52・11	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：平行沈線+突起。	Ⅲ-4類	
52・12	76TⅢ-3b層	鉢	平縁。口：平行沈線+三叉文。胴：縄文。	IV-1類	
52・13	76TⅢ-3b層	鉢	平縁。口：結節縄文。	IV-2類	
52・14	76TⅢ-3b層	浅鉢	浮彫状裝飾口縁。口：平行沈線。胴：雲形文。	IV-4類	
52・15	76TⅢ-3b層	浅鉢	平縁。口：沈線+B突起+刻目+平行沈線。胴：雲形文。	IV-4類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
52・16	76TⅢ-3b層	壺	平縁。口一類：縄文+綾杉状沈線。	Ⅳ-5類	
52・17	76TⅢ-3b層	深鉢	波状口縁。口：沈線。胴：縦位櫛描文。	Ⅲ-3類	
52・18	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：縦位櫛描文。	V-1類	
52・19	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
52・20	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：縦位捺糸文。	V-2類	
52・21	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
52・22	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
52・23	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
52・24	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
52・25	76TⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
52・26	76TⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
52・27	76TⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
52・28	76TⅢ-3b層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
52・29	76TⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
52・30	76TⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
52・31	76TⅢ-3b層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
53・1	78TⅢa層	深鉢	平縁。口：平行沈線。	Ⅲ群	
53・2	78TⅢa層	深鉢	平縁。口：沈線+充填縄文。	Ⅲ群	
53・3	78TⅢa層	深鉢	胴：長方形沈線+充填縄文。	Ⅲ群	
53・4	78TⅢa層	深鉢	胴：弧状平行沈線。	Ⅲ-2類	
53・5	78TⅢa層	深鉢	胴：沈線。	Ⅲ群	
53・6	78TⅢa層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
53・7	78TⅢa層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
53・8	78TⅢa層	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
53・9	78TⅢh層	深鉢	平縁。口：無文。	I-1類	胎土に繊維
53・10	78TⅢh層	深鉢	胴：無文。	I-1類	胎土に繊維
53・11	78TⅢh層上面	深鉢	波状口縁。口：貫通孔+弧状沈線。	Ⅲ-2類	
53・12	78TⅢh層上面	深鉢	胴：多条沈線。	Ⅲ-2類	
53・13	78TⅢh層上面	深鉢	胴：平行沈線。	I-1類	胎土に繊維
53・14	78TⅢ層上面	深鉢	胴：隆帯+刺突。	Ⅲ-1類	
53・15	78TⅢ層上面	深鉢	胴：沈線区画+縄文。	Ⅱ-2~3類	
53・16	78TⅢ層上面	深鉢	胴：楕円沈線区画+縄文。	Ⅱ-2類	
53・17	78TⅢ層上面	深鉢	胴：沈線区画+縄文。	Ⅱ-2~3類	
53・18	78TⅢ層上面	深鉢	胴：縄文。	V-3類	
53・19	78TⅢ層上面	深鉢	底部。胴：縄文。	V-3類	
54・1	81TⅢ上層	深鉢	平縁。口：刻目+円形竹管文+縄圧痕文+短沈線。	I-1類	胎土に繊維
54・2	81TⅢ上層	深鉢	波状口縁。口一胴：刻目+円形竹管文+縄圧痕文+短沈線。	I-1類	胎土に繊維
54・3	81TⅢ上層	深鉢	平縁。口：附加条第1種。	I-1類	胎土に繊維
54・4	81TⅢ上層	深鉢	平縁。口：非結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・5	81TⅢ上層	深鉢	平縁。口：半截竹管によるC字形刺突。	I-1類	胎土に繊維
54・6	81TⅢ上層	深鉢	胴：半截竹管によるC字形刺突。	I-1類	胎土に繊維
54・7	81TⅢ上層	深鉢	胴：半截竹管によるC字形刺突。	I-1類	胎土に繊維
54・8	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束羽状縄文結束部回転文。	I-1類	胎土に繊維
54・9	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束羽状縄文結束部回転文。	I-1類	胎土に繊維
54・10	81TⅢ上層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に繊維
54・11	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・12	81TⅢ上層	深鉢	胴：0段多条。	I-1類	胎土に繊維

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
54・13	81TⅢ上層	深鉢	胴：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・14	81TⅢ上層	深鉢	胴：刻目+結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・15	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：刻目+沈線+ループ文。	I-1類	胎土に繊維
54・16	81TⅢ中層	深鉢	波状口縁。口：円形竹管文+C字形爪形文。補修孔。	I-1類	胎土に繊維
54・17	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：円形竹管文+C字形爪形文。	I-1類	胎土に繊維
54・18	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・19	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・20	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・21	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・22	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：無節縄文。内外面に指頭圧痕。	I-1類	胎土に繊維
54・23	81TⅢ中層	深鉢	胴：半截竹管による刺突。	I-1類	胎土に繊維
54・24	81TⅢ中層	深鉢	胴：刺突+羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・25	81TⅢ中層	深鉢	胴：半截竹管による刺突。	I-1類	胎土に繊維
54・26	81TⅢ中層	深鉢	胴：矢羽状平行沈線。	I-1類	胎土に繊維
54・27	81TⅢ中層	深鉢	胴：隆帯+刺突+結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・28	81TⅢ中層	深鉢	胴：平行沈線+縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・29	81TⅢ中層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に繊維
54・30	81TⅢ中層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に繊維
54・31	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束羽状縄文結束部回転文。	I-1類	胎土に繊維
54・32	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・33	81TⅢ中層	深鉢	図58-8・9と同一個体。	I-1類	胎土に繊維
54・34	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束羽状縄文結束部回転文。	I-1類	胎土に繊維
54・35	81TⅢ中層	深鉢	胴：非結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
54・36	81TⅢ中層	深鉢	胴：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・1	81TⅢ中層	深鉢	胴：非結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・2	81TⅢ中層	深鉢	胴：結節縄文（0段多条）。	I-1類	胎土に繊維
55・3	81TⅢ中層	深鉢	胴：LR縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・4	81TⅢ中層	深鉢	胴：LR縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・5	81TⅢ中層	深鉢	平縁。口：刻目+縄圧痕文+短沈線。胴：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・6	81TⅢ中層	深鉢	胴：LR縄文。	Ⅱ群	
55・7	81TⅢ中層	深鉢	底部。胴-底：羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・8	81TⅢ下層	深鉢	同一個体。波状口縁。口：刻目+円形竹管文+縄圧痕文	I-1類	胎土に繊維
55・9	81TⅢ下層		+短沈線。胴：結束第1種羽状縄文。		
55・10	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：刺突。	I-1類	胎土に繊維
55・11	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：刻目+結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・12	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：刻目+結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・13	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・14	81TⅢ下層	深鉢	胴：縄文+山形沈線文。	I-1類	胎土に繊維
55・15	81TⅢ下層	深鉢	胴：C字形文。	I-1類	胎土に繊維
55・16	81TⅢ下層	深鉢	胴：C字形文+羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・17	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・18	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に繊維
55・19	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に繊維
55・20	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に繊維
55・21	81TⅢ下層	深鉢	胴：ループ文。	I-1類	胎土に繊維
55・22	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・23	81TⅢ下層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
55・24	81 T III 下層	深鉢	平縁。口：結束第1種羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
55・25	81 T III 下層	深鉢	同一個体。底部。胴：縄文。底：指頭圧痕。	I-1類	胎土に繊維
55・26	81 T III 下層				
56・1	81 T III 上層	深鉢	底部。胴一底：羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
56・2	81 T III 上層	深鉢	底部。胴：無文（内面ミガキ）。	I群?	
56・3	81 T III 下層	深鉢	胴：非結束羽状縄文。	I-1類	胎土に繊維
57・1	73 T III a 層	深鉢	波状口縁。口：橋状把手+隆帯+貫通孔+盲孔	III-1類	
57・2	73 T III a 層	深鉢	波状口縁。口：貫通孔+多条沈線。	III-2類	
57・3	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：沈線。	III-2類	
57・4	73 T III a 層	深鉢	胴：隆帯+盲孔+沈線区画+縄文。	III-1類	
57・5	73 T III a 層	深鉢	波状口縁。口：平行沈線+縦位沈線+充填縄文。	III-3類	
57・6	73 T III a 層	深鉢	波状口縁。口：平行沈線+縦位弧状沈線+充填縄文。	III-3類	
57・7	73 T III a 層	深鉢	胴：平行沈線+縦位沈線+充填縄文。	III-3類	
57・8	73 T III a 層	深鉢	波状口縁。口：刻目+沈線+縄文。	III-3類	
57・9	73 T III a 層	深鉢	波状口縁。平行沈線。	III-3類	
57・10	73 T III a 層	深鉢	胴：弧状沈線+充填縄文。	III-3類	
57・11	73 T III a 層	深鉢	胴：平行沈線+弧状沈線+充填縄文。	III-3類	
57・12	73 T III a 層	深鉢	頸一胴：縄文（頸部縄文磨消）。	III-3類	
57・13	73 T III a 層	鉢	平縁。口：無文。	III-3類	
57・14	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：突起+羽状縄文。	III-3類	
57・15	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：縦割突起+沈線。	III-4類	
57・16	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：縦割突起+沈線+縄文。	III-4類	
57・17	73 T III a 層	深鉢	胴：突起+隆帯+横位沈線+三叉状沈線。	III-4類	
57・18	73 T III a 層	深鉢	胴：平行沈線+弧状沈線+充填縄文。	III-4類	
57・19	73 T III a 層	深鉢	胴：三叉文。	IV-1類	
57・20	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：突起+羊歯状文+弧状沈線。	IV-2類	
57・21	73 T III a 層	浅鉢	胴：沈線+雲形文。	IV-4類	
57・22	73 T III a 層	浅鉢	胴：平行沈線。	IV-4類	
57・23	73 T III a 層	浅鉢	胴：沈線+雲形文。	IV-4類	
57・24	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：刺突+平行沈線。	IV-6類	
57・25	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文+縦位櫛描文。	V-1類	
57・26	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：縦位櫛描文。	V-1類	
57・27	73 T III a 層	深鉢	胴：網目状捺糸文。	V-2類	
57・28	73 T III a 層	深鉢	胴：沈線+縄文。	V-3類	
57・29	73 T III a 層	深鉢	頸一胴：縄文（頸部縄文磨消）。	III-3類	
58・1	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
58・2	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
58・3	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
58・4	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V-3類	
58・5	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：無文。	V-4類	
58・6	73 T III a 層	深鉢	平縁。口：無文（内外面ミガキ）。	V-4類	
58・7	73 T III a 層	深鉢	胴：隆帯。	V-4類	
58・8	73 T III a 層	注口	注口部。注口：無文。	V-4類	
58・9	73 T III b 層	深鉢	平縁。口：横位櫛描文。	V-1類	
58・10	73 T III b 層	深鉢	胴：蛇行櫛描文。	V-1類	
58・11	73 T III b 層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	
58・12	73 T III b 層	深鉢	平縁。口：縄文。	V-3類	

図番号	出土地点	器種	主な文様	分類	備考
58・13	73TⅢc層	深鉢	胴：刻目＋縄文。	Ⅲ－3類	
58・14	73TⅢc層	深鉢	平縁。口：羽状縄文。	V－3類	
58・15	73TⅢd層	深鉢	平縁。口：無文。	V－4類	

表2 石器観察表

図版No	出土遺構・層位	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
59・1	IV区サンプルⅢB下層	スクレイパー	頁岩	3.5	1.7	0.6	4.1
59・2	IV区ⅢA層	石鏃	赤色頁岩	2.8	1.6	0.4	1.2
59・3	IV区ⅢA層	石鏃	赤色頁岩	2.6	2.0	0.8	3.7
59・4	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	2.0	1.1	0.4	0.6
59・5	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	1.0	1.0	0.3	0.4
59・6	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	1.0	1.0	0.3	0.3
59・7	IV区サンプルⅢB下層	石鏃	メノウ	1.8	1.4	0.3	0.6
59・8	IV区ⅢC層	石鏃	メノウ	1.7	1.5	0.4	1.0
59・9	IV区ⅢB層	石鏃	頁岩	2.0	1.3	0.4	1.0
59・10	1GⅢ－1・3a層	石鏃	頁岩	1.9	1.4	0.4	0.9
59・11	72TサンプルS2－1	石鏃	赤色頁岩	1.3	1.0	0.4	0.5
59・12	3GサンプルS1－2B	石鏃	凝灰岩	1.0	1.6	0.3	0.5
59・13	76TテストピットⅢ－3b上層	石鏃	凝灰岩	2.5	1.4	0.4	0.6
59・14	76TSK113	石鏃	石英安山岩	2.7	1.7	0.5	1.6
59・15	76TテストピットⅢ－3b上層	石鏃	頁岩	2.3	1.5	0.4	1.3
59・16	76TⅢ－3b層	石鏃	頁岩	2.8	1.2	0.5	1.1
59・17	IV区ⅢB層	石鏃	頁岩	2.0	1.2	0.4	0.8
59・18	IV区サンプルⅢA層	石鏃	珪質頁岩	2.3	0.8	0.5	0.6
59・19	77TSK18	石鏃	頁岩	2.2	0.8	0.6	0.9
59・20	1GサンプルS2－12B	石鏃	頁岩	2.4	1.4	0.8	1.6
59・21	3GサンプルS1－1A	石鏃	珪質頁岩	1.7	1.2	0.4	0.6
59・22	1GⅢ－1・3a層上面	石鏃	凝灰岩	1.7	1.1	0.4	0.5
59・23	IV区サンプルⅢA層	石鏃	頁岩	1.1	0.7	0.3	0.2
59・24	IV区サンプルⅢE層	石鏃	メノウ	1.6	0.9	0.6	0.8
59・25	IV区サンプルⅢB下層	石鏃	メノウ	1.4	0.8	0.5	0.4
59・26	1GⅢ－1・3a層上面	石鏃	赤色頁岩	1.8	0.9	0.3	0.5
59・27	IV区サンプルⅢB下層	石鏃	頁岩	1.3	0.8	0.3	0.2
59・28	IV区サンプルⅢA層	石鏃	メノウ	1.3	0.7	0.3	0.3
60・1	IV区ⅢB層	石鏃未製品	メノウ	1.7	0.7	0.5	0.8
60・2	IV区ⅢB層	石鏃未製品	頁岩	1.6	0.8	0.7	0.8
60・3	IV区サンプルⅢB下層	石鏃未製品	メノウ	2.0	0.7	0.5	0.8
60・4	IV区Ⅲ－2a・2b層上面	石鏃未製品	メノウ	1.7	1.3	0.6	1.1
60・5	IV区ⅢD層	石鏃未製品	珪質頁岩	2.0	1.3	0.5	1.1
60・6	IV区サンプルⅢC層	石鏃未製品	頁岩	2.0	1.4	0.4	1.1
60・7	IV区ⅢD層	石鏃未製品	メノウ	1.9	1.5	0.7	1.7
60・8	76TⅢ－3b層	石鏃未製品	頁岩	2.3	1.8	0.5	1.9
60・9	1GⅢ－1・3a層	石鏃未製品	赤色頁岩	2.7	2.0	0.8	3.5
60・10	IV区ⅢB下層	石鏃未製品	メノウ	2.2	0.9	0.6	1.2
60・11	IV区Ⅲ－2a・2b層	石鏃未製品	頁岩	2.8	1.2	0.8	2.3
60・12	IV区ⅢB層	石鏃未製品	頁岩	3.1	1.2	0.8	2.2
60・13	IV区ⅢE層	石鏃未製品	メノウ	3.0	2.4	0.8	5.9
60・14	76TテストピットⅢ－3b下層	フレーク	頁岩	1.9	3.3	1.0	5.7
60・15	IV区ⅢA層	フレーク	頁岩	5.9	3.1	0.7	17.5
60・16	IV区Ⅲ－2a・2b層	フレーク	頁岩	3.2	2.0	0.8	7.0
60・17	IV区サンプルⅢA層	フレーク	頁岩	1.2	1.5	0.5	0.7
60・18	IV区サンプルⅢB下層	フレーク	頁岩	1.3	0.8	0.3	0.4
60・19	IV区サンプルⅢA層	フレーク	頁岩	1.7	0.7	0.2	0.2
60・20	IV区サンプルⅢB下層	フレーク	頁岩	2.3	2.2	0.9	4.0
61・1	SK62	敲石	花崗閃緑岩	22.4	11.6	11.0	3720.0
61・2	SK101	敲石・磨石	凝灰岩	9.9	5.9	4.0	260.0
61・3	SK120	磨石・敲石	チャート	10.1	7.7	4.2	470.0
61・4	SK141	敲石	花崗斑岩	10.0	7.3	5.3	550.0
61・5	IV区ⅢA下層	石皿	細粒花崗岩	22.8	15.2	7.7	4300.0
61・6	IV区ⅢA層	磨石	閃緑岩	8.3	8.2	2.7	310.0

図版No	出土遺構・層位	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
61・7	IV区ⅢB層	敲石・磨石	アブライト	6.7	5.7	2.2	125.0
61・8	IV区ⅢA下層	敲石・磨石	輝石安山岩	8.4	4.8	4.1	280.0
61・9	IV区ⅢB層	磨石	角閃石玢岩	18.4	11.7	5.4	1850.0
62・1	IV区ⅢB層	敲石	閃緑岩	8.0	6.0	5.7	415.0
62・2	IV区ⅢC・D層	敲石	シルト岩	6.7	10.6	5.9	582.0
62・3	IV区ⅢサンプルB下層	敲石	細粒花崗岩	11.5	5.6	3.9	340.0
62・4	IV区ⅢC・D層	磨石・敲石	アブライト	17.4	8.2	6.2	1367.0
62・5	IV区ⅢC層	敲石	角閃石玢岩	19.4	6.9	4.7	941.0
62・6	IV区ⅢE層	敲石	細粒花崗岩	13.1	16.8	10.7	3080.0
62・7	IV区ⅢE層	敲石	花崗斑岩	9.4	8.4	5.3	601.0
62・8	IV区ⅢE層	磨石・敲石	安山岩	14.4	7.3	2.7	465.0
62・9	IV区ⅢE層	磨石	輝緑岩	11.8	8.6	6.0	938.0
63・1	IV区ⅢF層	磨石・敲石	アブライト	15.3	15.3	3.9	1530.0
63・2	IV区Ⅲ-2 a・2 b層	石皿	花崗斑岩	7.2	7.2	5.5	460.0
63・3	IV区Ⅲ-2 a・2 b層	石皿	花崗斑岩	4.8	11.1	6.1	502.0
63・4	IV区Ⅲ-2 a・2 b層	石皿	花崗斑岩	9.4	11.5	5.2	805.0
63・5	IV区Ⅲ-2 a・2 b層	磨石	安山岩	19.6	9.8	6.5	2280.0
63・6	76TテストピットⅢ-3 b上層	敲石	角閃石片岩	8.2	5.9	3.6	285.0
63・7	76TテストピットⅢ-3 b上層	石皿	細粒閃緑岩	7.1	11.7	7.6	790.0
63・8	76TテストピットⅢ-3 b上層	磨石・敲石	アブライト	12.1	9.0	5.1	815.0
63・9	76TテストピットⅢ-3 b上層	敲石・磨石磨石	角閃石片岩	10.8	6.3	4.3	512.0
64・1	76TテストピットⅢ-3 b上層	磨石・敲石	安山岩	11.2	8.5	5.3	775.0
64・2	76TテストピットⅢ-3 b上層	磨石	角閃石玢岩	9.9	8.7	2.9	398.0
64・3	72TサンプルS 1一括	石皿	花崗斑岩	9.4	8.4	8.1	700.0
64・4	1 GⅢ-1・3 a層	敲石	花崗斑岩	14.6	11.1	5.1	1205.0
64・5	1 GサンプルS 1-3 B	敲石	安山岩	9.3	4.6	4.0	256.0
64・6	1 GサンプルS 2-1 B	磨石	凝灰岩	9.2	3.7	3.3	148.0
64・7	81TⅢ下層	敲石	角閃石玢岩	7.0	9.9	4.4	525.0
64・8	P51	石棒	粘板岩	5.9	2.0	1.7	20.4
64・9	IV区Ⅲ-2 a・2 b層	石刀	粘板岩	8.9	3.9	0.8	37.4
64・10	72TⅢ-1・2 a・2 b層上面	石棒	石墨千枚岩	3.6	1.0	0.5	2.2

表3 土製品観察表

図版No	出土遺構・層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
65・1	1 G大別Ⅲ-3 a層	土偶	6.6	6.0	5.2	142.0
65・2	IV区ⅢA層	土偶	5.2	2.4	1.6	23.4
65・3	76TテストピットⅢ-3 b層	土偶	2.2	3.6	2.4	26.2
65・4	IV区ⅢC層	土偶	7.4	4.2	2.7	63.5
65・5	IV区ⅢC層	土偶	7.8	4.8	2.1	75.0
65・6	IV区ⅢC・D層	土面	7.7	10.5	3.9	179.0
66・1	IV区ⅢA層	皿状土製品	4.4	4.4	0.9	18.8
66・2	76TSK101	土版状土製品	4.0	4.0	0.8	10.8
66・3	76TSK66	土版状土製品	3.7	1.8	1.0	8.2
66・4	3 GⅢ層上面	耳飾り	1.4	1.4	1.4	1.0
66・5	IV区Ⅲ-2 a・2 b層	耳飾り	3.8	3.7	1.4	15.8
66・6	IV区サンプルⅢB層	スタンプ状土製品	2.2	1.3	1.3	3.8
66・7	IV区サンプルⅢA層	スタンプ状土製品	2.1	3.1	3.1	9.3
66・8	IV区サンプルⅢA層	土錘	4.2	3.2	1.8	25.2
66・9	IV区ⅢB層	土錘	4.6	2.5	2.0	22.6
66・10	76TテストピットⅢ-3 b上層	土錘	3.8	2.3	1.6	10.0
66・11	IV区サンプルⅢB下層	土錘	3.6	2.2	1.6	12.2
66・12	76TⅢ-3 b層	土錘	3.2	2.5	2.2	16.2
66・13	IV区サンプルⅢB下層	不明土製品	1.8	1.0	0.7	0.9
66・14	77TSK13	不明土製品	5.7	3.0	2.9	29.2
66・15	IV区ⅢC・D層	棒状土製品	5.2	1.7	1.6	12.2
66・16	76TテストピットⅢ-3 b上層	匙状土製品	7.2	5.6	1.1	62.0
66・17	76TSK123	赤彩土器	-	-	-	-
66・18	IV区ⅢD層	赤彩土器	-	-	-	-
66・19	1 GサンプルS 1-1 B	赤彩土器	-	-	-	-

表 4 製塩土器類口縁部観察表

No.	図番号	区	出土位置	分類	口縁部		口唇		外面		内面		胎土	最大器厚 (mm)	注記	その他
					平面形	断面形	断面形状	調整	使用痕	調整など	外面接合痕	使用痕				
1	67・2	IV区	ⅢA層	I 1B	ウ	尖	未調整	◎	調整など 上端部から2cm未調整、以下縦ケズリ/「目」字状圧痕を伴う指圧/指圧は横位連続し3段	1条:長線(波状:溝状)、上端部に向かって支線延びる	-	ナデ	-	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
2	67・3	IV区	ⅢA層	I 1b	ウ	尖	未調整	-	上端部から5cmまでは指圧、指紋顕著/以下ミガキ	上端部に付加粘土の接合痕/他5条:①~⑤長線(波状:痕跡的)④・⑤破線(同上)	-	全体にナデ→一部ミガキ/ケズリ線痕	7.0	UK4IV区トレ 1D-230	口径 25.0cm	
3	67・4	IV区	ⅢA層	I 1b	ウ	丸(尖気味)	未調整	◎	ナデ	2条:①(波状、痕跡的)②破線(波状:痕跡的)/当て具による接合痕の潰れ	-	刷毛目様ナデ	-	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
4	67・5	IV区	ⅢA層	I 1a	エ	尖	未調整	◎	ナデ/上端部に指圧	無	◎	ナデ	白色針状物質含む	-	UK4IV区トレ 1ⅢA下層	
5	67・6	IV区	ⅢA層	I 1B	ア	尖	未調整?	-	指圧顕著	4条:破線(波状、痕跡的)	-	摩擦?のため不明	7.5	UK4IV区トレ 1S-ⅢA層		
6	67・7	IV区	ⅢA層	I 1X	ウ	尖	未調整	◎	不明	不明	◎	ナデ	-	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
7	67・8	IV区	ⅢA層	I 1X	ア	尖/丸	未調整	◎	不明	不明	-	ナデ→ミガキ(端部から2cm以下)	7.0	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
8	67・9	IV区	ⅢA層	I 1b	イ	丸(尖気味)	未調整	△	上端部から3cmにナデ/横位連続指圧/指紋多	1条長線(直線状:溝状)	-	不明	-	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
9	67・10	IV区	ⅢA層	I 1ia	イ	尖	ナデ	◎	丁寧なナデ	1条:部分線(直線状:痕跡的)	-	ミガキ	4.5	UK4IV区トレ 1ⅢA下層		
10	67・11	IV区	ⅢA層	I 1a	エ	尖/丸	未調整/ナデ(粘土が外面に被る)	◎	軽いケズリ/上端部と中位に横位連続指圧	2条:部分線(波状:痕跡的)	-	上端部から1.5cmにナデ/以下ミガキ	8.0	UK4IV区トレ 1ⅢA下層		
11	67・12	IV区	ⅢA層	I 1B	ア	尖/丸	未調整/ナデ(粘土が内面に被る)	-	指圧による凹凸/上端部に部分ミガキ	2条:①長線(波状:痕跡的)②部分線(同上)	-	ナデ	6.5	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
12	67・13	IV区	ⅢA層	II 1ia	イ	丸(尖気味)	ナデ	-	丁寧なナデ(ミガキに近い)/接合真上に指圧連続	4条:全て破線①(直線状:溝上)②~④(直線状:痕跡的)	△	ケズリか?不明	7.0	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
13	67・14	IV区	ⅢA層	I 1ib	ア	尖	ナデ	-	指圧・指紋多	4条:破線(直線状:痕跡的)	-	粗いナデ	6.0	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
14	67・15	IV区	ⅢA層	II 1ib	イ	丸	ナデ	◎	上端部に横位連続指圧/以下ナデ?/器面に縦方向のキレ	2条:長線(波状:痕跡的)	△	ナデ?	7.0	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
15	67・16	IV区	ⅢA層	II 1ia	ウ	丸	ナデ	◎	ナデ/部分ミガキ/一部ケズリ痕	上端部に付加粘土の接合痕	-	ナデ	6.0	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
16	67・17	IV区	ⅢA層	II 1ia	ウ	丸	ナデ/ナデにより粘土が内面に被る	◎	上端部に指圧/ケズリに近い粗いナデ	3条:①部分線(痕跡的)②・③破線(波状:痕跡的)	-	ナデ	7.0	UK4IV区トレ 1D-131	口径 26.2cm	
17	67・18	IV区	ⅢA層	II 1ia	イ	丸	ナデ	◎	ナデ(ケズリ近い)/指圧多い	1条:部分線(溝状、指圧内)	-	上端部から約1cmまでナデ/以下ミガキ	6.0	UK4IV区トレ 1ⅢA下層		
18	67・19	IV区	ⅢA層	II xa	イ	丸	調整不明	◎	ナデ(器面平滑)	1条:長線(波状:痕跡的)	-	ミガキ	6.0	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
19	67・20	IV区	ⅢA層	IIIxB	イ	外削ぎ状の面取	調整不明	△	浅い指圧 / ナデ	2条:①長線(波状:溝状)②部分線(痕跡的)	-	ナデ	7.0	UK4IV区トレ 1ⅢA層		
20	67・25	IV区	ⅢB層	I 1B	ア	尖	未調整	-	指圧多/ミス腫れ様痕跡	2条:長線(波状:痕跡的)	-	ケズリ→ナデ	7.0	UK4IV区トレ 1S-ⅢB下層		

No.	図番号	区	出土位置	分類	口縁部		口唇		外面		内面		胎土	最大器厚 (mm)	注記	その他
					平面形	断面形	断面形状	調整	使用痕	調整など	外面接合痕	使用痕				
21	67・26	IV区	III B層	I ib	ア	尖/丸	未調整/ナデ	◎	ナデ/指圧/ミズ腫れ様痕跡	2条:①長線(波状;溝状;末端が上端部方向へ延びる)②長線(波状;痕跡的)	-	ナデ→ミガキ(上端部から2.5cm以下)	5.5	UK4IV区トレ I III B層		
22	67・27	IV区	III B層	I ia	イ	尖	未調整	◎	上端部に横位指圧/ケズリ→ミガキ	1条:長線(波状;痕跡的部分と痕跡的部分)	-	ナデ	8.0	UK4IV区トレ I III B層		
23	67・28	IV区	III B層	I ia	ウ	尖	未調整	-	上端部に横位指圧/以下ナデ	1条:部分線(直線状;痕跡的)	-	ミガキ/外面指圧に対応した指圧あり	6.0	UK4IV区トレ I III B層		
24	67・29	IV区	III B層	I ia	エ	尖	未調整	◎	ナデ/上端部と中位に横位連続指圧	2条:破線(直線状;痕跡的)	-	上端部から約2cmにナデ/以下ミガキ	8.0	UK4IV区トレ I III B層		
25	67・30	IV区	III B層	I iib	ア	尖/丸(尖気味)	おそろくナデ	-	ナデまたは指圧/指紋	2条:長線(直線状;溝状)	-	端部から1cmにナデ→ミガキ(主体)	-	UK4IV区トレ I III B層		
26	68・1	IV区	III B層	II iix	イ	丸	ナデ	◎	不明	不明	-	ナデ→ミガキ(上3cm;横方向、以下縦方向)	6.0	UK4IV区トレ I III B層	口径 16.0cm	
27	68・2	IV区	III B層	II iib	イ	丸	ナデ	◎	上端部から6cmまで指圧顕著/ナデ	4条:①②長線(波状;痕跡的)、③④破線(向上)	-	全体にナデ→上端部から約1cm以下にミガキ/クズリ擦痕一部残存	6.0	UK4IV区トレ I III B層	白色針状物質含む	
28	68・3	IV区	III B層	II iib	イ	丸	ナデ(内面に粘土被る)	-	ナデ/上端部に指紋顕著	1条:部分線(波状;痕跡的)	-	ミガキ	-	UK4IV区トレ I III B層		
29	68・4	IV区	III B層	II iia	ア	丸	ナデ	◎	軽いナデ/指圧	2条:破線(波状;痕跡的)	△	ナデ	6.0	UK4IV区トレ I III B層		
30	68・5	IV区	III B層	II iia	エ	丸	ナデ	-	ナデ	未端接合痕	-	上端部から約1cmにナデ/以下ミガキ	9.0	UK4IV区トレ I III B層		
31	68・6	IV区	III B層	II iia	イ	丸	ナデ	◎	ナデ	無	-	ナデ(平滑)	8.0	UK4IV区トレ I III B層		
32	68・7	IV区	III B層	II iia	オ	丸	ナデ	-	ミガキ	3条:破線(直線;痕跡的)	-	ナデ→ミガキ	7.0	UK4IV区トレ I III B層		
33	68・8	IV区	III B層	III iia	エ	丸~垂角	ナデ	◎	上端部から1cmはナデ/以下縦方向の調整単位(あるいは指オサエか?)あり	無	-	ナデ	-	UK4IV区トレ I III B層		
34	68・9	IV区	III B層	III iib	オ	垂角	ナデ(内面に粘土が被る)	-	ナデ(平滑)/ケズリ痕/横位連続指圧(「目」字状圧痕)	未端接合痕/他2条:①長線(波状;溝状)②部分線(痕跡的)	-	ナデ	5.0	UK4IV区トレ I III B層		
35	68・10	IV区	III B層	III iia	エ	丸/角(内削ぎ)	ナデ	◎	横ケズリ(粗い)	無	-	平滑なナデ	6.0	UK4IV区トレ 1S-III B下層		
36	68・11	IV区	III B層	III ka	エ	角	ヘラ切り	◎	指圧/部分ミガキ	1条:部分線(波状;痕跡的)	-	ミガキ	-	UK4IV区トレ I III B層		
37	68・12	IV区	III B層	III iia	ウ	角(外削ぎ状)	ミガキ	◎	ミガキ	無	○	主体ナデ/部分ミガキ	-	UK4IV区トレ I III B層		
38	68・16	IV区	III C層	I iB	ウ	尖	未調整	◎	不明瞭	3条:①破線(直線;痕跡的)②③破線(波状;痕跡的)	-	上端部から約5cmまで指圧(?)により凹凸する/以下ナデ	7.0	UK4IV区トレ I III C層		
39	68・17	IV区	III C層	I ia	ア	尖	未調整	-	上端部から2cmまで指圧/指紋目立つ/以下ケズリ→ナデ	1条:部分線(波状;痕跡的)	-	ナデ	6.5	UK4IV区トレ I III C層		
40	68・18	IV区	III C層	I ix	ア	丸(尖気味)	未調整	◎	不明	不明	-	ミガキ	6.0	UK4IV区トレ I III C層		

No.	図番号	区	出土位置	分類	口縁部		口唇		外面		内面		最大器厚 (mm)	胎土	注記	その他
					平面形	断面形	断面形状	調整	使用痕	調整など	外面接合痕	使用痕				
41	68・19	IV区	III C層	I ia	イ	尖/丸	未調整/ナデ	—	上端部から約2cm以下にナデ/以下ミガキ/上端部に指紋	3条:①②破線(波状:痕跡的)、③長線(波状:痕跡的)	—	ナデ	8.0	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
42	68・20	IV区	III C層	I iia	ウ	尖/丸	ナデ?	—	ミガキ	1条:破線(波状:痕跡的)	—	粗いナデ	—	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
43	68・21	IV区	III C層	II iia	ア	丸	ナデ	◎	指圧による凹凸顕著/ナデ	上端部に付加粘土の接合痕	—	ミガキ	5.0	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
44	68・22	IV区	III C層	II iia	ア	丸	ナデ	—	ナデ主→一部ミガキ	無	◎	ヘラナデ	4.5	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
45	68・23	IV区	III C層	II iia	イ	丸	ナデ(ミガキに近い)/内面に粘土被る	◎	ナデ(ミガキに近い)	無	—	ケズリ→ナデ	7.0	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
46	68・24	IV区	III C層	II iix	オ	丸	ナデ	◎	ミガキ?	無	—	ナデ	6.0	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
47	68・25	IV区	III C層	III ia	カ	亜角/丸	未調整か?不調整	◎	ナデ主/一部ケズリ痕/指圧が痕跡的に残る。	2条:破線(波状:溝状)	—	ナデ	6.0	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
48	68・26	IV区	III C層	III iia	エ	亜角	ナデ	◎	粗いナデ	1条:部分線(波状:痕跡的)	—	ナデ主、一部ケズリ	6.0	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
49	68・27	IV区	III C層	II iia	イ	丸/丸(尖気味)	ナデ?	—	上端部に指圧・指紋/以下ケズリ	無	—	ナデ	7.5	UK4IV区ト レ 1 III C層	—	
50	68・30	IV区	III 2 A層	I ia	エ	丸(尖気味)	未調整	◎	粗いナデ(ケズリに近い)	末端接合痕(溝状)/他1条:破線(波状:痕跡的)	—	上端部から3cmケズリ/以下ナデ(ミガキに近い)	5.5	UK4IV区ト レ 1 D-20	—	
51	68・31	IV区	III 2 A層	I iB	イ	尖	未調整	—	指圧・指紋多	2条:長線(波状:痕跡)	—	上端部に指圧/以下粗いナデ	6.0	UK4IV区ト レ 1 D-89	—	
52	68・32	IV区	III 2 A層	I iia	エ	尖	ナデ	◎	上端部指圧(指紋)/ケズリ	末端接合痕	—	ナデ(平滑)	5.0	UK4IV区ト レ 1 D-195	—	
53	68・33	IV区	III 2 A層	III iib	ウ	亜角	ナデ	○	弱いナデ(または浅い指オサエの連続)	末端接合痕/他3条①長線(波状:痕跡的)②③部分線(水平:痕跡的)	—	上端部ナデ/以下4cmまでケズリ/以下ナデ	7.0	UK4IV区ト レ 1 D-178	—	
54	68・34	IV区	III 2 A層	II iia	エ	丸	ナデ/ミガキ	◎	ミガキ	無	—	ミガキ	—	UK4IV区ト レ 1 D-328	—	
55	69・1	IV区	III 2 A層	II iia	イ	丸	ナデ	◎	上端部から4cmまでナデ(部分指圧痕あり)/以下ミガキ	4条:部分線(直線状:痕跡的)	—	ナデ/上端部付近に指圧	7.0	UK4IV区ト レ 1 D-140 UK4IV区ト レ 1 D-170	—	
56	69・2	IV区	III 2 A層	II iia	ウ	丸	ナデ	—	ミガキ/指圧	2条:破線(直線状:痕跡的)	—	ミガキ	7.5	UK4IV区ト レ 1 D-217	—	
57	69・3	IV区	III 2 A層	II iia	オ	丸	ナデ	◎	擦痕が目立たないケズリ(ナデ様)	無	—	ナデ(丁寧)	5.0	UK4IV区ト レ 1 D-321	—	
58	69・5	IV区	III C・D層	I iB	カ	尖	未調整	—	指圧顕著	2条:①長線(波状:痕跡的)、②部分線(同①)	—	上端部から2.5cmまでナデ/以下ミガキ	5.5	UK4IV区ト レ 1 III C・D層	—	
59	69・6	IV区	III C・D層	I iB	ア	尖	未調整	◎	指紋多い	1条:長線(波状:痕跡的)	—	上端部に指紋/上端部に沈線状ナデ、以下ナデ	6.0	UK4IV区ト レ 1 III C・D層	—	
60	69・7	IV区	III C・D層	I ia	エ	尖	未調整?	—	上端部に指圧・未調整部/以下ナデ(ミガキに近い)	無	—	ナデ	6.0	UK4IV区ト レ 1 III C・D層	—	
61	69・8	IV区	III C・D層	I iia	イ	丸(尖気味)	ナデ	◎	上端部から約3cmにナデ/以下ケズリ	1条:破線(直線状:溝状)	—	ナデ主体/部分ミガキ	8.0	UK4IV区ト レ 1 III C・D層	—	

No.	図番号	区	出土位置	分類	口縁部		口唇		外面			内面		胎土	最大器厚 (mm)	注記	その他
					平面形	断面形	断面形状	調整	使用痕	調整など	外面接合痕	使用痕	調整など				
62	69・9	IV区	III C・D層	I iia	イ	丸 (尖気味)	ナデ	○	上部指圧・指紋/以下ナデ主体に部分ミガキ/縦方向の器面のキレあり	1条: 破線 (波状; 痕跡的)	◎	上部部凹凸する/ナデ	雲母目立	6.5	UK4 IV区トレ 1 III C・D層		
63	69・10	IV区	III C・D層	I ib	イ	尖	未調整	—	指圧/一部ケズリ	1条: 長線 (波状; 痕跡的)	—	ケズリ		7.5	UK4 IV区トレ 1 III C・D層		
64	69・11	IV区	III C・D層	II iia	イ	丸	ナデ	◎	ミガキ	無	—	ナデ→ミガキ (主体)		7.0	UK4 IV区トレ 1 III C・D層	口径 18.0cm	
65	69・12	IV区	III C・D層	II iib	エ	丸	ナデ	—	全面指圧顕著 (接合部を押圧)/ナデ	3条: 破線 (波状; 痕跡的)	—	ナデ	白色針状 物質含む	8.0	UK4 IV区トレ 1 III C・D層	—	
66	69・13	IV区	III C・D層	II iia	ウ	丸	ナデ	△	上部部から2cmナデ/以下肌荒れ	1条: 長線 (波状; 痕跡的)	—	ミガキ		6.5	UK4 IV区トレ 1 III C・D層		
67	69・14	IV区	III C・D層	III iib	ウ	亜角	ナデ	◎	上部部2cmナデ/以下ミガキ/部分指圧	4条: 破線 (波状; 痕跡的)	—	ナデ	白色針状 物質含む	6.0	UK4 IV区トレ 1 III C・D層	口径 17.3cm	
68	69・15	IV区	III C・D層	III iia	オ	亜角	ミガキ	◎	ケズリ→ミガキ主体	無	—	ミガキ		—	UK4 IV区トレ 1 III C・D層		
69	69・16	IV区	III C・D層	III xa	ウ	角 (内削ぎ 状)	不明	○	上部部から3cmナデ/以下ミガキ	無	—	ミガキ		7.0	UK4 IV区トレ 1 III C・D層		
70	69・18	IV区	III D層	I iia	ウ	尖/丸 (尖 気味)	狭小なミガキ	—	指圧顕著/ケズリ→ナデ	無	—	ミガキ	白色針状 物質含む	6.5	UK4 IV区トレ 1 III D層		
71	69・19	IV区	III D層	I ia	イ	丸 (尖気味)	未調整	◎	ナデ (上部部は平滑でミガキに近い)/指圧	無	—	ミガキ		6.0	UK4 IV区トレ 1 III D層		
72	69・20	IV区	III D層	II iia	ウ	丸	ナデ (ミガキ に近い)	—	ミガキ様ナデ、口縁横方向で下方では右下がりに移行	無	—	ミガキ	白色針状 物質含む	5.0	UK4 IV区トレ 1 III D層	口径 14.0cm	
73	69・21	IV区	III E層	II ix	ウ	丸	ナデ	◎	不明	不明	—	ナデ (平滑)		7.0	UK4 IV区トレ 1 III E層		
74	69・22	IV区	III E層	II ia	ア	丸	不整 (未調整?)	—	上部部から2cmまでナデ、以下ケズリ	末端接合痕/他1条: 長線 (波状; 溝状)	—	上部部から約1cmにナデ、以下ミガキ		7.5	UK4 IV区トレ 1 III E層		
75	69・23	IV区	III E層	II xa	イ	丸	荒れのため不明	◎	ケズリ→ナデ/指紋あり	無	—	上部部から約1cmにナデ、以下ミガキ		5.0	UK4 IV区トレ 1 III E層		
76	69・24	IV区	III E層	I iia	エ	丸 (尖気味)	ナデ (内面に 粘土が被る)	◎	上部部ミガキ/以下ケズリ	1条: 部分線 (直線状; 痕跡的)	—	上部部から3cmナデ/以下ミガキ		—	UK4 IV区トレ 1 III E層		
77	69・25	IV区	III E層	III iia	イ	亜角	ナデ (内面に 粘土が被る)	—	ナデ	無	—	ナデ		8.0	UK4 IV区トレ 1 III E層		
78	69・28	72T	III層チヨク上	I ib	ア	尖	未調整	—	ナデまたは指圧	2条: 破線① (直線; 溝状) ② (直線状; 痕跡的)	—	ナデ		—	UK4、72T III 層チヨク上		
79	69・29	72T	III層チヨク上	I ib	ア	丸 (尖気味) /尖	ナデ/未調整	—	ミミズ腫れ状痕跡/指圧	2条: 長線① (波状; 溝状)、 ② (波状; 痕跡的)	—	上部部から約2cmナデ→部分線状ミガキ	白色針状 物質含む	6.0	UK4、72T III 層チヨク上		
80	69・30	72T	III層チヨク上	I ia	ア	尖	未調整	◎	ナデ	2条: 長線 (波状; 痕跡的)	—	ナデ		6.0	UK4、72T III 層チヨク上		
81	69・31	72T	III層チヨク上	I ia	イ	尖	未調整	—	上部部に指圧/ナデ (平滑)	末端接合痕	—	ナデ		5.5	UK4、72T III 層チヨク上		
82	70・1	72T	III層チヨク上	I ia	イ	尖	未調整	—	上部部から約1cmまで指紋 顕著/以下ミガキ	2条: 長線 (波状; 痕跡的)	—	ナデ→部分ミガキ	白色針状物 質含む/緻 密な胎土	6.0	UK4、72T III 層チヨク上	口径 19.6cm	
83	70・2	72T	III層チヨク上	I ix	ウ	尖	未調整	◎	不明	不明	—	縦ナデ (ミガキに 近い)		—	UK4、72T III 層チヨク上		
84	70・3	72T	III層チヨク上	I ia	ア	尖/丸	未調整	◎	ミガキ	末端接合痕	—	ナデ (ミガキに近い)		6.0	UK4、72T III 層チヨク上		
85	70・4	72T	III層チヨク上	I ix	カ	尖/角	未調整	◎	不明	不明	—	ナデ→ミガキ (上 部部から1.0cm 以下)		4.5	UK4、72T III 層チヨク上		

No.	図番号	区	出土位置	分類	口縁部		口唇		外面		内面		胎土	最大器厚 (mm)	注記	その他
					平面形	断面形	断面形状	調整	使用痕	調整など	外面接合痕	使用痕				
86	70・5	72T	皿層 ^㉔ 上	IxB	イ	丸 (尖気味)	?	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
87	70・6	72T	皿層 ^㉔ 上	IiiA	イ	丸 (尖気味)	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
88	70・7	72T	皿層 ^㉔ 上	IiiA	イ	丸 (尖気味)	おそらくナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
89	70・8	72T	皿層 ^㉔ 上	Iiia	イ	丸	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
90	70・9	72T	皿層 ^㉔ 上	Iiia	ウ	丸	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
91	70・10	72T	皿層 ^㉔ 上	Iiix	ウ	丸	ナデ	△	△	△	△	△	△	△	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
92	70・11	72T	皿層 ^㉔ 上	IIIA	イ	丸	不整 (未調整?)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
93	70・12	72T	S2 (III1)	IIIiA	ウ	角	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
94	70・14	72T	S2 (III1)	IIIiA	エ	丸	ミガキ (一部ナデ)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
95	70・15	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	IiA	エ	尖	未調整	-	-	-	-	-	-	-	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	口径 23.8cm
96	70・16	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	IiB	エ	尖/丸 (尖気味)	未調整	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
97	70・17	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	IiX	ウ	丸/丸 (尖気味)	ナデ/未調整	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
98	70・18	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	Iib	エ	尖/丸 (尖気味)	未調整/ナデ	○	○	○	○	○	○	○	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
99	70・19	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	Iiib	ウ	丸	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
100	70・20	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	Iiib	エ	丸	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
101	70・21	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	Iiia	キ	丸	ナデ (内面に粘土が被る)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
102	70・22	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	Iiia	ウ	丸 (尖気味)	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
103	70・23	72T	ブロック ^㉔ (III-1層)	IIIa	ア	角 (内削ぎ状)	へら切り	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
104	70・27	72T	ブロック ^㉔ (III-3A層)	Iiia	イ	丸	ナデ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
105	70・28	72T	III2B層 (III3B)	Iia	ウ	尖	未調整	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	
106	70・29	72T	III2B層 (III3B)	Iia	イ	尖	未調整	-	-	-	-	-	-	-	UK4、72TIII層 ^㉔ 上	

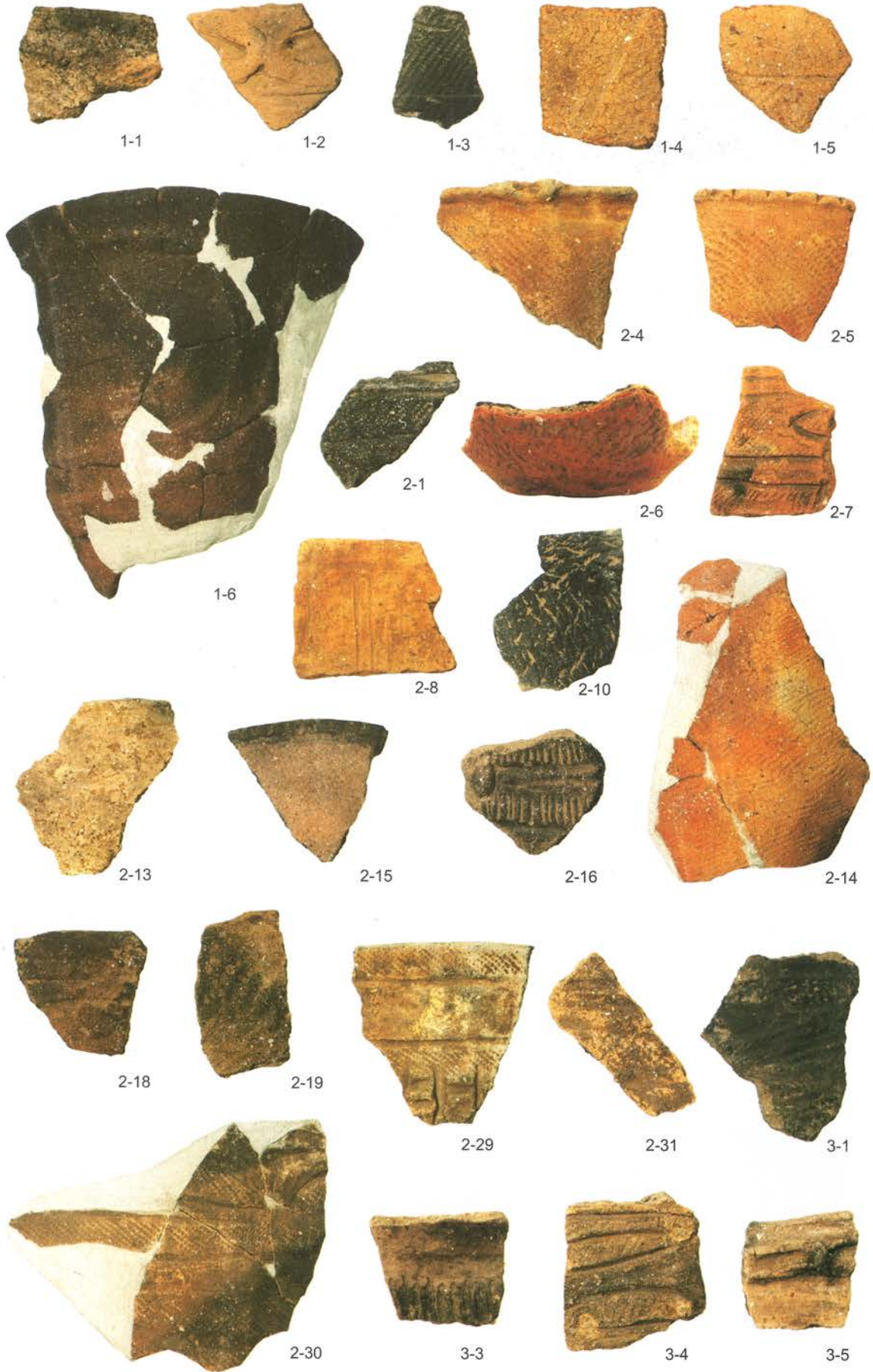
No.	区番号	区	出土位置	分類	口縁部		口唇		外面		内面		胎土	最大器厚 (mm)	注記	その他
					平面形	断面形	断面形状	調整	使用痕	調整など	外面接合痕	使用痕				
107	70-30	72T	Ⅲ2B層 (Ⅲ3B)	Ixx	(一)	エ	丸(尖気味)	あれのため不明	◎	一部ミガキが観察される	不明	ミガキ		UK4, 72TⅢ-2-B層		
108	70-31	72T	Ⅲ2B層 (Ⅲ3B)	IIiA	(一)	エ	丸	ナデ(外面へ粘土破り)	◎	ナデ→ミガキ/一部ケズリ痕残存	無	上端部から約2cmナデ/以下ミガキ	6.5	UK4, 72TⅢ-2-B層		
109	71-1	1G	Ⅲ1A	IiA	(二)	エ	丸(尖気味)	未調整	◎	ケズリ→ミガキ	無	上端部から約2cmナデ/以下ミガキ	6.0	UK4, 1GⅢ-1-A層		
110	71-2	1G	Ⅲ1A	IiX	X	ア	丸/丸(尖気味)	ナデ/未調整	◎	不明	不明	上端部から約2cmナデ/以下ミガキ	4.0	UK4, 1GⅢ-1-A層		
111	71-3	1G	P332	IIiib	(一)	エ	丸	ナデ	-	指圧(接合部押圧)→ナデ	末端接合痕/他2条:①長線(直線状;溝状)②部分線(溝状痕跡的)	ナデ	7.0	UK4, 1GP332		
112	71-4	1G	Ⅲ1A	IIiia	(一)	ウ	丸	ナデ	◎	ナデ/指圧	1条:破線(波状;痕跡的)	上端部ナデ/以下ミガキ		UK4, 1GⅢ-1-A層		
113	71-5	4G	Ⅲ3A層	IiB	(一)	イ	尖	未調整?	◎	指頭押圧(押圧末端が短直線を呈する)	3条:長線(直線状;溝状)	上端部から約2cmナデ/以下ミガキ	6.5	UK4, 4GⅢ層D23		
114	71-6	4G	Ⅲ3A層	IiIB	(三)	ア	丸(尖気味)	おそらくナデ	◎	指圧	4条:①破線(直線状;溝状/線状)、他長線(直線状;溝状)		5.5	UK4, 4GⅢ層		
115	71-7	4G	Ⅲ3A層	IiB	X	エ	丸(尖気味)	未調整	-	指圧	3条:①長線(波状;溝状)、②長線(波状;痕跡的)③部分線(波状;溝状)			UK4, 4GⅢ層D46		
116	71-8	4G	Ⅲ3A層	Iib	(一)	ア	尖	未調整	-	上方ほど指圧目立つ/縦方向の擦痕	3条:①長線(直線状;溝状)②③破線(波状;痕跡的)	ミガキ	7.0	UK4, 4GⅢ層D1		
117	71-9	4G	Ⅲ3A層	IIIkX	(一)	エ	角	へラ切りに近い	◎	不明	不明			UK4, 4GⅢ層D28		
118	71-12	5G	Ⅲ3A層	Iiib	(一)	イ	尖	ナデ	-	ナデ	1条:破線(波状;痕跡的)	ミガキ	7.5	UK4, 5GD-23		
119	71-13	5G	Ⅲ3A層上面	IiIB	(一)	ア	尖/丸	ナデ?	-	不明瞭	2条:①長線(波状;溝状)②破線(波状;痕跡的)	?		UK4, 5GⅢ層チヨク上		
120	71-14	5G	Ⅲ3A層	IIiia	(一)	オ	丸	ナデ	-	上端部指圧/ナデ	2条:破線(直線状;痕跡的)	ミガキ	6.0	UK4, 5GD-21		
121	71-15	5G	Ⅲ3A層	IIIiia	(一)	イ	垂角	ナデ	-	指圧/縦ナデ	1条:破線(直線状;溝状)	ナデ	6.5	UK4, 5GⅢ層		

表5 製塩土器類底部観察表

No.	図番号	区	出土位置	底部形状	外底面(調整; 圧痕等)		外面(調整等; 使用痕等)		内面(調整等; 使用痕等)		胎土	底径	注記
					ケズリ	ケズリ	ケズリ	剥離	ナデ	ナデ			
1	67・1	IV区	SK04	平底	ケズリ		ケズリ	剥離	ナデ			4.4cm	UK4IV区SK04
2	67・21	IV区	III A層	平底	ミガキ		不明	被熱痕明確	ミガキ			8.0cm	UK4IV区トレ1 III A層
3	67・22	IV区	III A層	平底	不明		ミガキ	荒れる	ミガキ		白色針状物質含む	5.0cm	UK4IV区トレ1 III A層
4	67・23	IV区	III A層	丸底	ナデ	剥離	器面器面荒れのため不明	荒れる	ナデ			6.8cm	UK4IV区トレ1 III A下層
5	67・24	IV区	III A層	丸底	ケズリか? 器面荒れており不明確	底縁に網代様圧痕	ミガキ	剥離	ナデ			5.4cm	UK4IV区トレ1 III A層
6	68・13	IV区	III B層	丸底気味	器面荒れ		不明瞭	器面荒れる	ナデ			6.0cm	UK4IV区トレ1 III B層
7	68・14	IV区	III B層	上げ底	不明		ナデ?	被熱顕著/剥離あり	内底面ナデ/内面ミガキ			8.4cm	UK4IV区トレ1 III B層
8	68・15	IV区	III B層	平底	未調整		ナデ		内底面ナデ/内面ミガキ			9.0cm	UK4IV区トレ1 D-315
9	68・28	IV区	III C層	平底	ケズリ		ケズリ	被熱顕著	ナデ			8.0cm	UK4IV区トレ1 III C層
10	68・29	IV区	III C層	丸底気味	不明		指圧		不明			7.0cm	UK4IV区トレ1 III C層
11	69・4	IV区	III 2a層	平底	ケズリ		不明瞭	器面荒れる	内底面ナデ/内面ミガキ			7.0cm	UK4IV区トレ1 D-285
12	69・17	IV区	CD層	平底	ミガキ		ナデ	剥離あり	ナデ			8.6cm	UK4IV区トレ1 III C・D層
13	69・27	IV区	III E層	平底	ケズリ	網代痕か?	不明瞭	剥離、器面荒れる	ナデ			6.0cm	UK4IV区トレ1 III E層
14	70・12	72T	III層直上	平底	ナデ		ナデ		不明			8.4cm	UK4, 72T III層チヨク上
15	70・25	72T	ブロック④(III-3a層)	平底	網代痕? (木葉痕もある?) のナデ消し		ケズリ	一部剥離	ナデ			7.4cm	UK4, 72T III-2-B層D-19
16	70・26	72T	ブロック④(III-3a層)	丸底気味	ミガキ		ナデ	剥離	ミガキ			7.4cm	UK4, 72T III-2-B層D-19
17	71・11	4G	III 3a層	上げ底気味	ミガキ	底縁に網代様圧痕	ナデ//部分ケズリ	剥離	内底面ケズリ/内面粗いナデ			7.8cm	UK4, 4G III層D27
18	71・16	74T	III層直上	平底(僅かに上げ底)	器面荒れにより不明		不明	器面荒れる	不明			8.0cm	UK4, 74T III層チヨク上シユウチユウ

写 真 图 版









写真図版 4
 土坑Ⅰ類出土土器③・土坑Ⅱ類出土土器・埋設土器



6-13



6-14



6-17



7-1



7-5



7-7



7-9



7-2



7-11



7-13



7-10



7-12



7-16



7-18



8-1



8-2



8-3



8-4



9-1



9-3



9-5



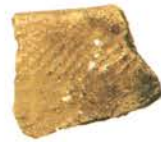
9-7



9-8



9-10



9-11



9-12



9-9



9-14



9-16



9-17



9-18



9-20



9-21



9-26



9-28



9-29



10-1



10-2



10-3



10-4



10-5



10-6



10-7



10-8



10-9



10-10



10-11



10-12



10-13



10-14



10-16



10-15



10-17



10-18



10-19



10-22



10-21



10-23



10-26



11-1



11-2



11-4



11-6



11-8



11-9



11-10



11-12



11-13



11-14



11-16



11-18



11-19



11-20



11-21



11-22



12-1



12-5



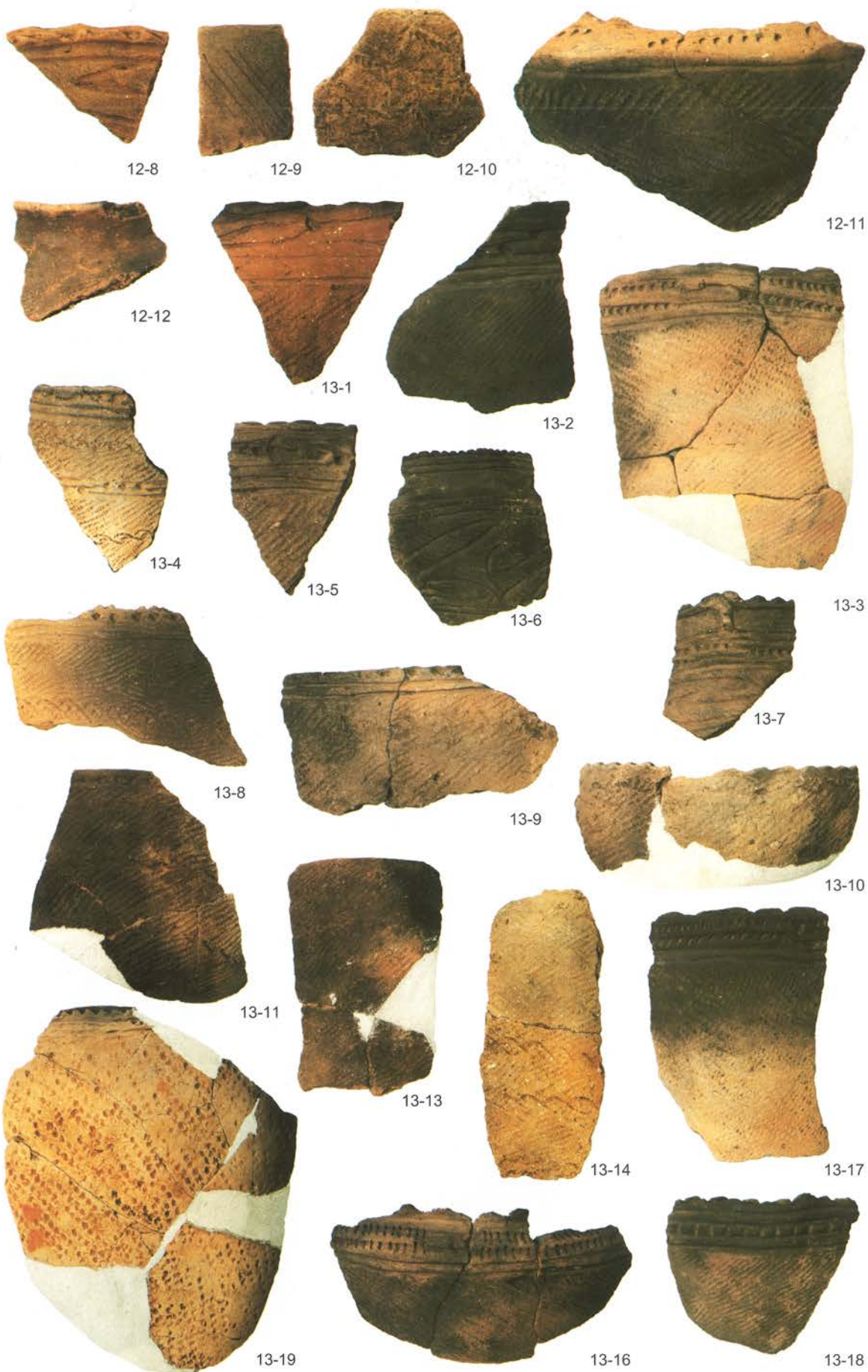
12-4



12-2



12-7





14-1



14-2



14-3



14-4



14-5



14-6



14-7



14-8



14-9



14-10



14-11



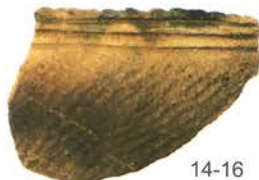
14-12



14-13



14-15



14-16



14-17



14-18



14-19



14-20



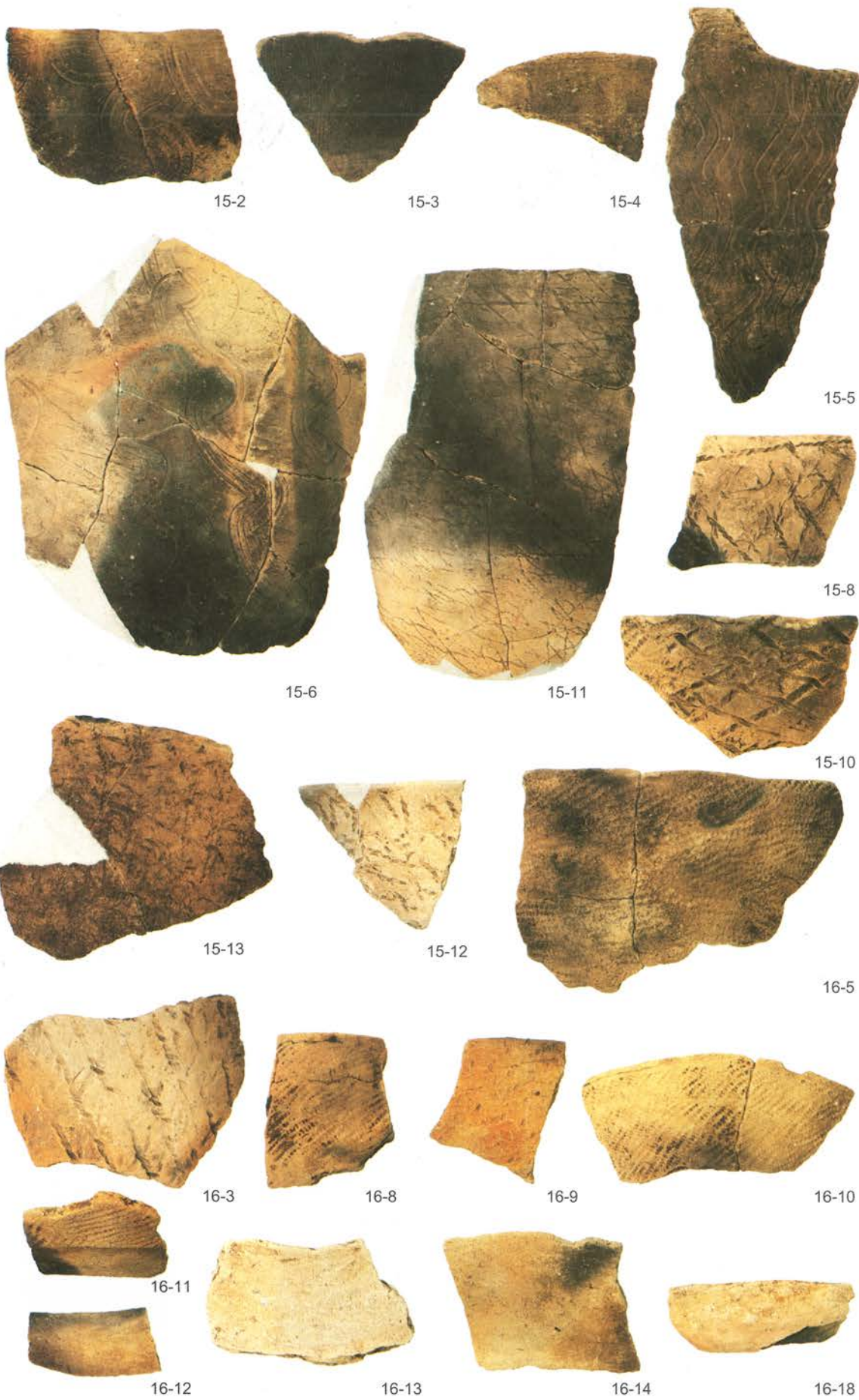
14-21



14-22



14-24





16-15



16-19



16-20



16-21



16-22



16-24



17-1



17-2



17-3



17-4



17-5



17-6



17-7



17-8



17-11



17-12



17-13



17-14



17-15



17-16



17-17



17-18



17-19



17-20



17-21



17-22



18-1



18-4



18-8



18-5



18-6



19-1



19-6



19-8



20-2



20-3



20-10



20-11



20-12



21-4



21-8



21-3



21-7



21-13



21-9



21-10



22-1



22-2



22-3



22-4



22-5



25-6



22-7



22-8



22-9



22-10



22-11



22-12



22-13



22-14



22-15



22-16



22-17



22-19



23-1



23-4



23-5



23-6



23-8



23-7



23-9



23-11



23-12



23-13



23-14



23-15



26-16



23-17



23-19



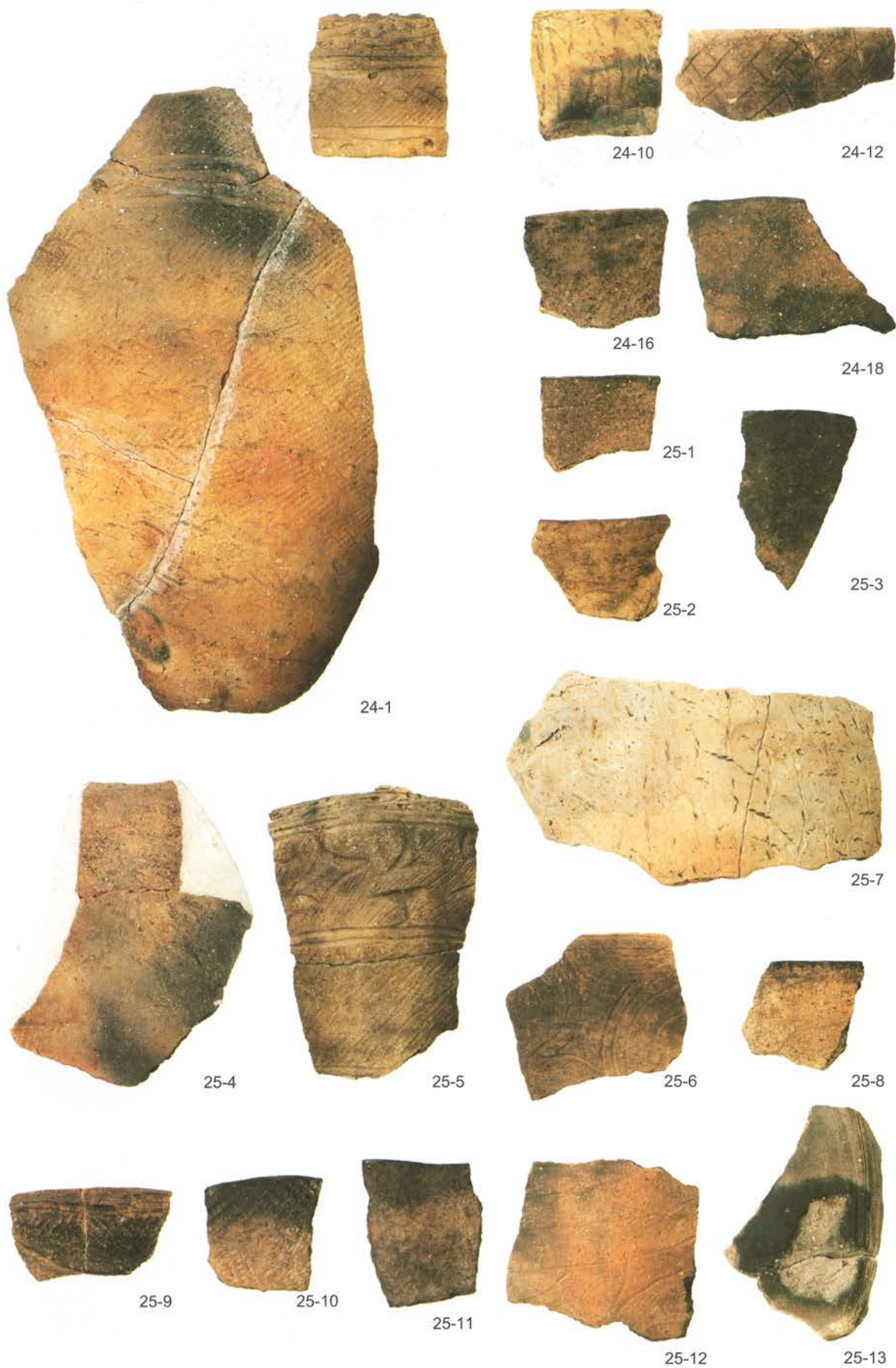
24-2

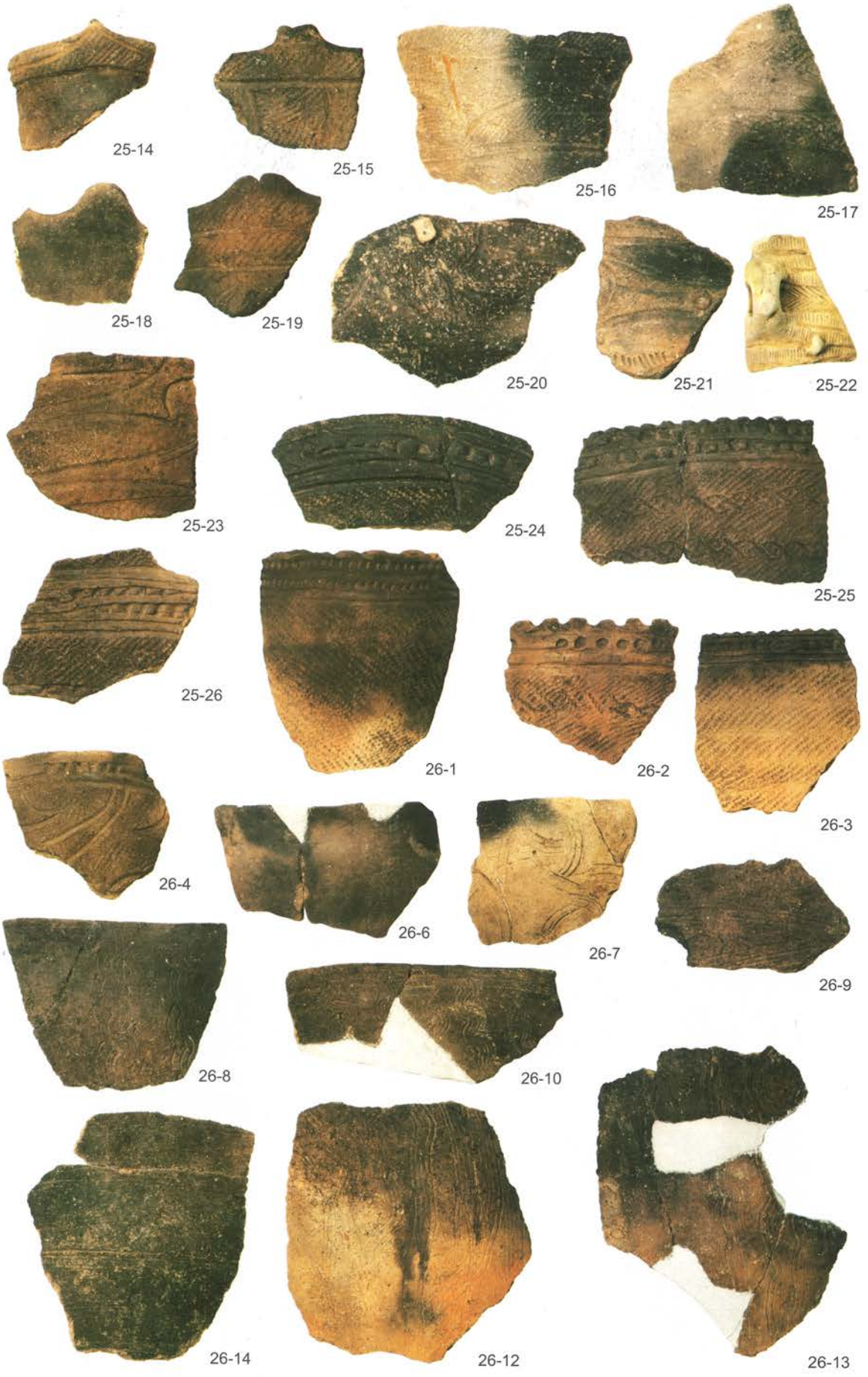


24-3



24-6





25-14

25-15

25-16

25-17

25-18

25-19

25-20

25-21

25-22

25-23

25-24

25-25

25-26

26-1

26-2

26-3

26-4

26-6

26-7

26-9

26-8

26-10

26-14

26-12

26-13







29-6



29-10



29-12



29-9



30-1



30-2



30-4



30-5



30-6



30-12



30-11



30-13



30-14



30-18



30-15



30-19



30-24



30-25



30-20



30-26



30-21



31-1



31-2



31-3



31-4



31-6



31-13



31-10



31-7



31-12



32-1



32-2



32-3



32-4



32-5



33-1



33-3



33-4



33-5



33-6



33-7



33-8



33-9



33-13



33-10



33-12



34-1



34-2



34-8



34-6



34-3



34-4



34-7



34-9



34-10



34-11



35-1



35-2



35-3



35-4



35-5



35-8



35-9



35-10



35-11



36-1



36-4



36-5



36-7



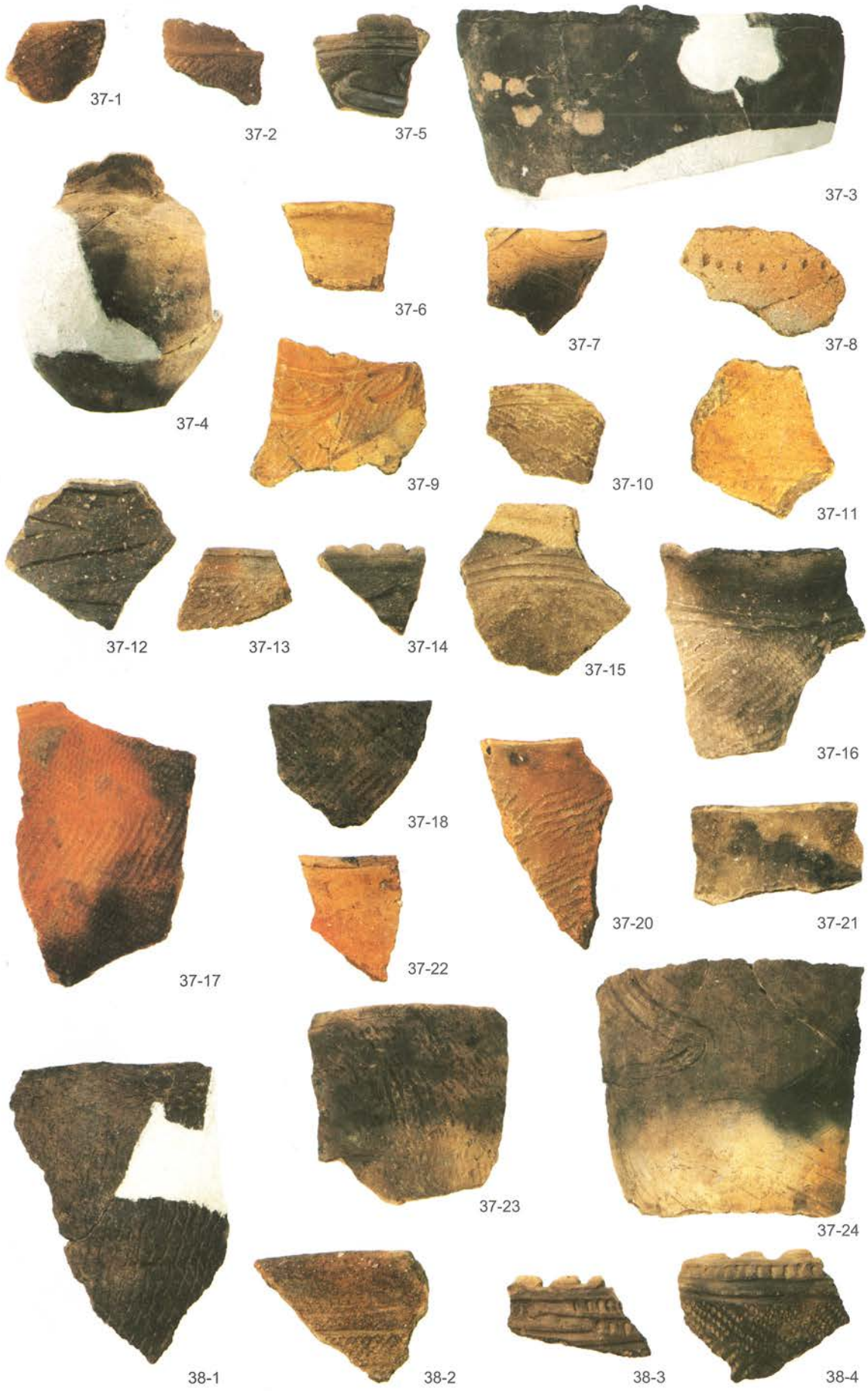
36-2



36-11



36-13





38-5



38-6



38-7



38-8



38-9



38-11



38-13



38-12



38-16



38-14



38-15



38-17



38-19



38-21



38-22



39-5



39-1



39-7



39-4



39-3



39-8



39-9



39-10



39-11



39-12



39-13



39-14



39-17



39-18



39-19



39-20



39-21



39-22



39-23



39-24



39-25



39-26



39-27



40-3



40-6



40-7



40-1



40-2



40-11



40-10



40-12



41-1



41-2



41-3



41-13



41-15



41-16



41-18



41-22



41-24



41-23



41-25



41-26



41-27







44-29



45-1



44-30



45-2



45-3



45-5



45-6



45-4



45-7



45-9



45-8



45-11



45-10



45-13



45-14



45-15



45-12



46-1



46-5



46-6



46-8



46-7



46-2



46-9



46-10



46-11



46-12



46-13



46-15



46-20



46-21



47-1



47-2



47-3



47-4



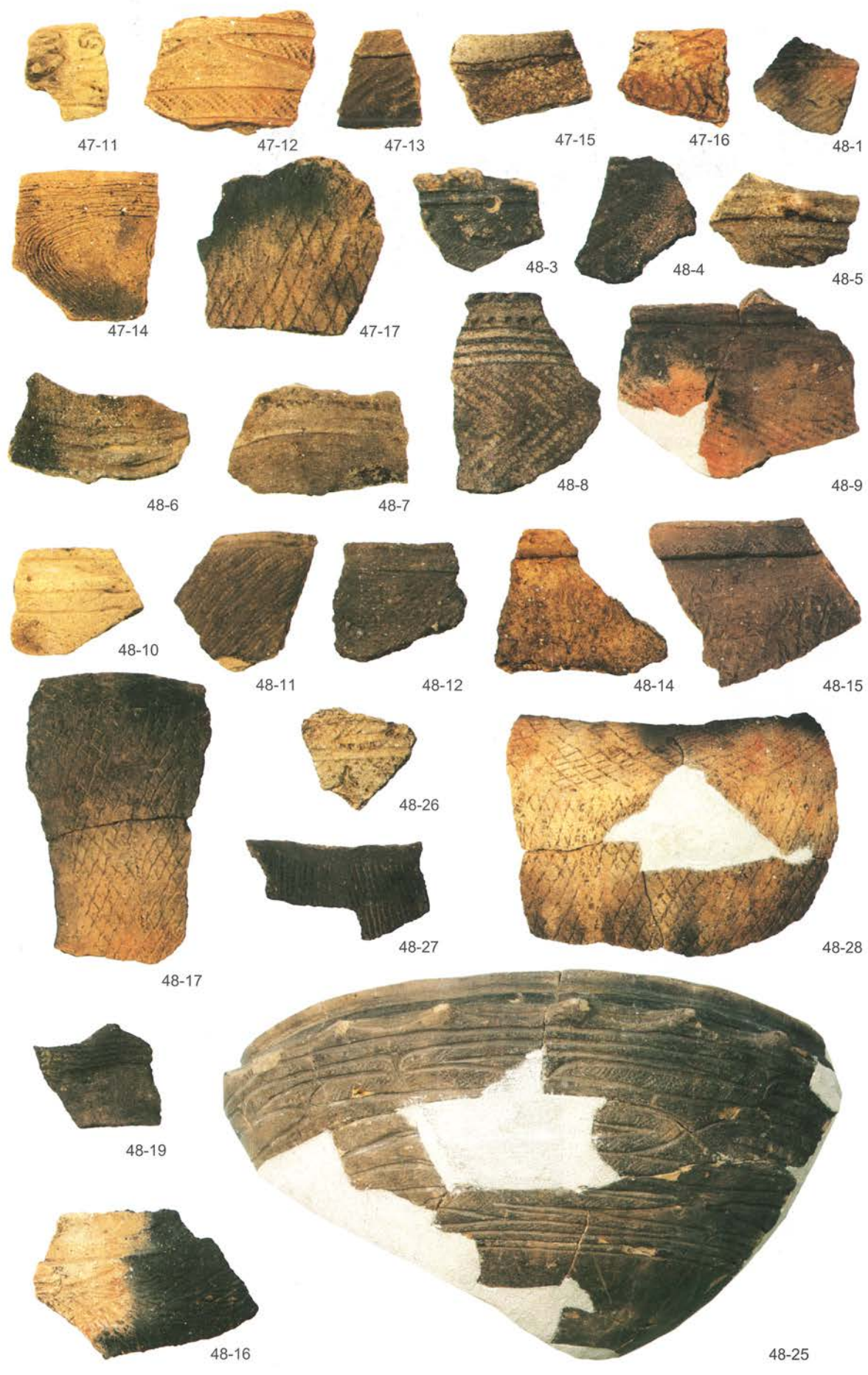
47-5



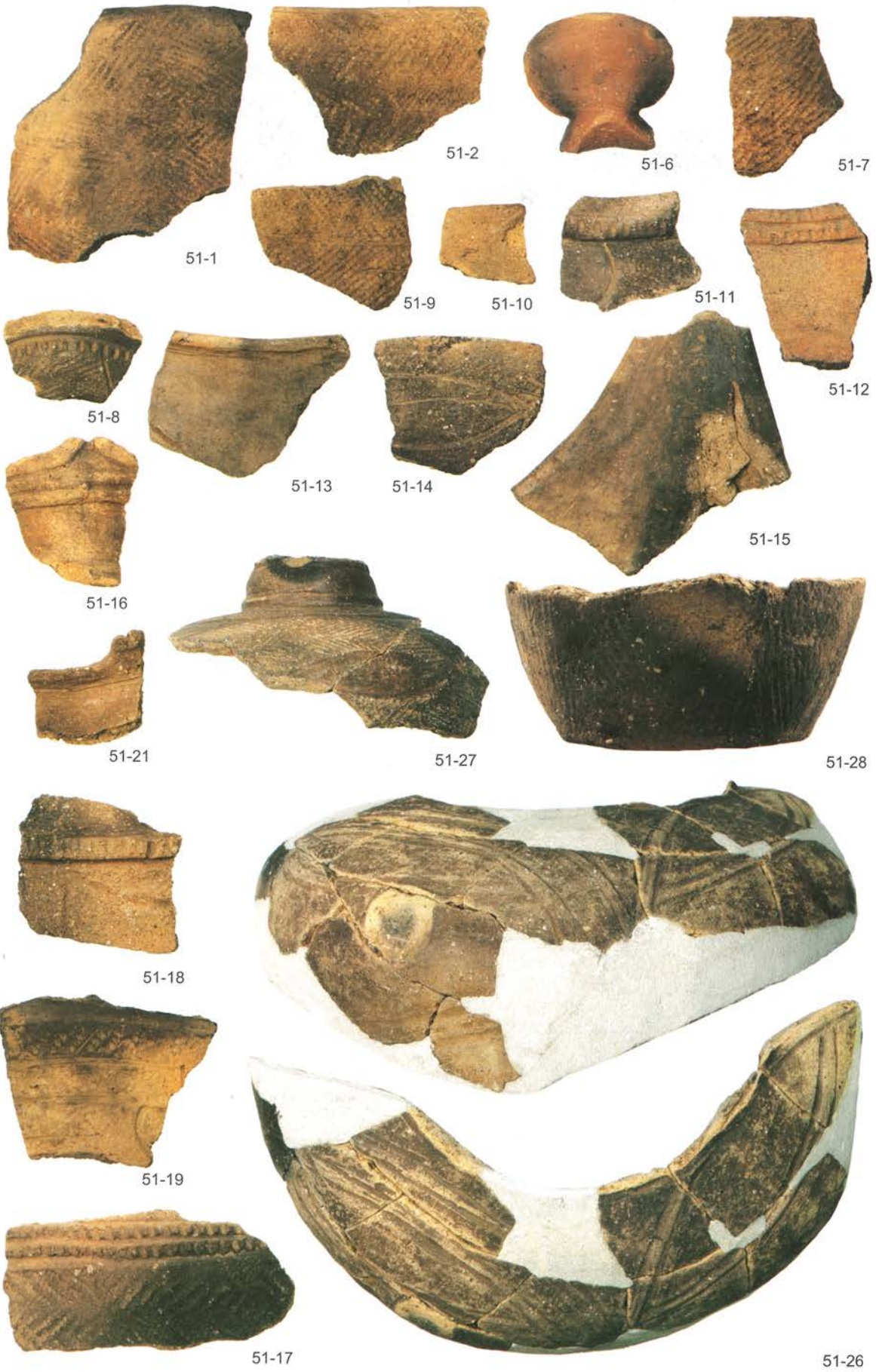
47-6

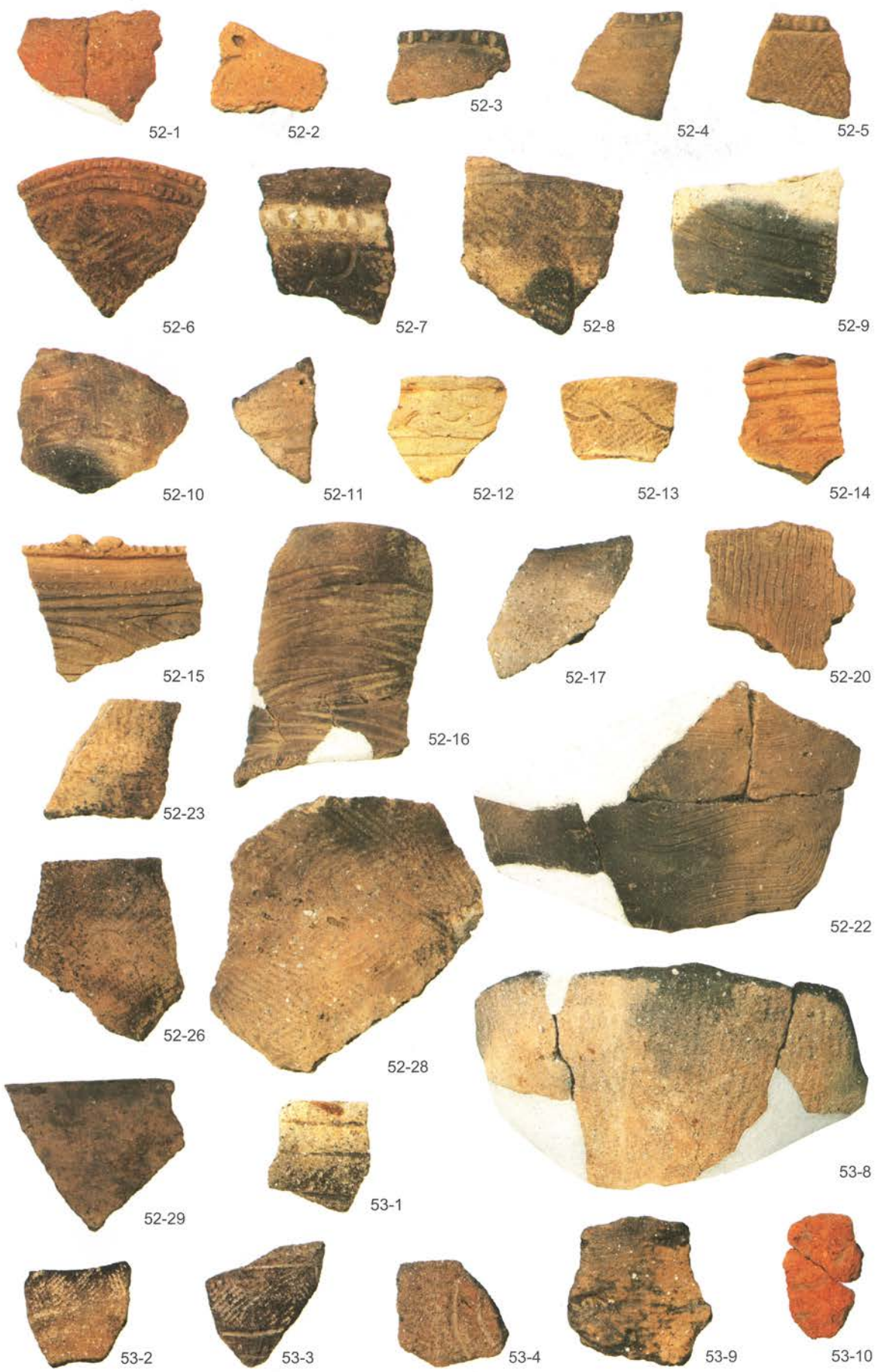


47-10













55-1



55-4



55-5



55-7



55-9



55-8



55-10



55-11



55-12



55-13



55-14



55-16



55-17



55-18



55-19



55-20



55-22



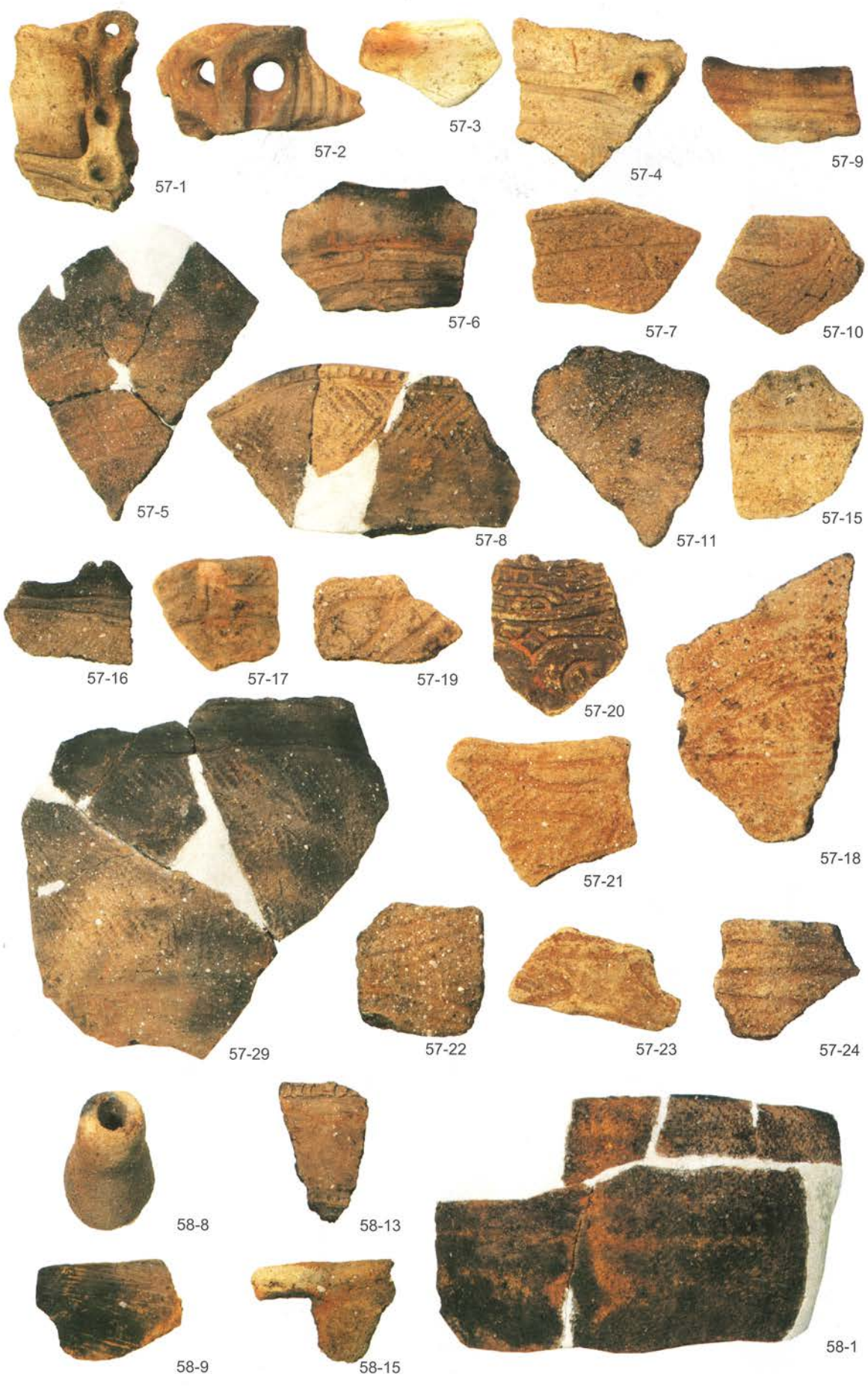
55-23



56-1



56-3





59-1



59-2



59-3



59-4



59-5



59-6



59-11



59-12



59-7



59-8



59-8



59-10



59-13



59-14



59-15



59-16



59-17



59-18



59-19



59-20



59-23



59-24



59-25



59-21



59-22



59-26



59-27



59-28



60-1



60-2



60-3



60-4



60-8



60-7



60-5



60-6



60-9



60-10



60-11



60-12



60-13



60-14



60-16



60-15



61-2



61-3



61-1



61-5



61-4



61-6



61-7



61-8



61-9



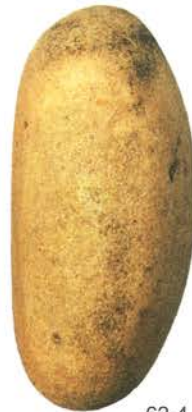
62-1



62-2



62-3



62-4



62-5



62-6



62-8



62-9



62-7



63-4



63-1



63-5



63-8



63-6



63-9



64-1



64-2



64-4



64-5



64-7



64-8



64-9



64-10



65-1



65-2



65-4



65-3



65-5



65-6



66-2

66-3



66-1



66-5



66-6



66-4



66-7



66-8



66-9



66-10



66-11



66-12



66-14



66-15



66-16



66-17

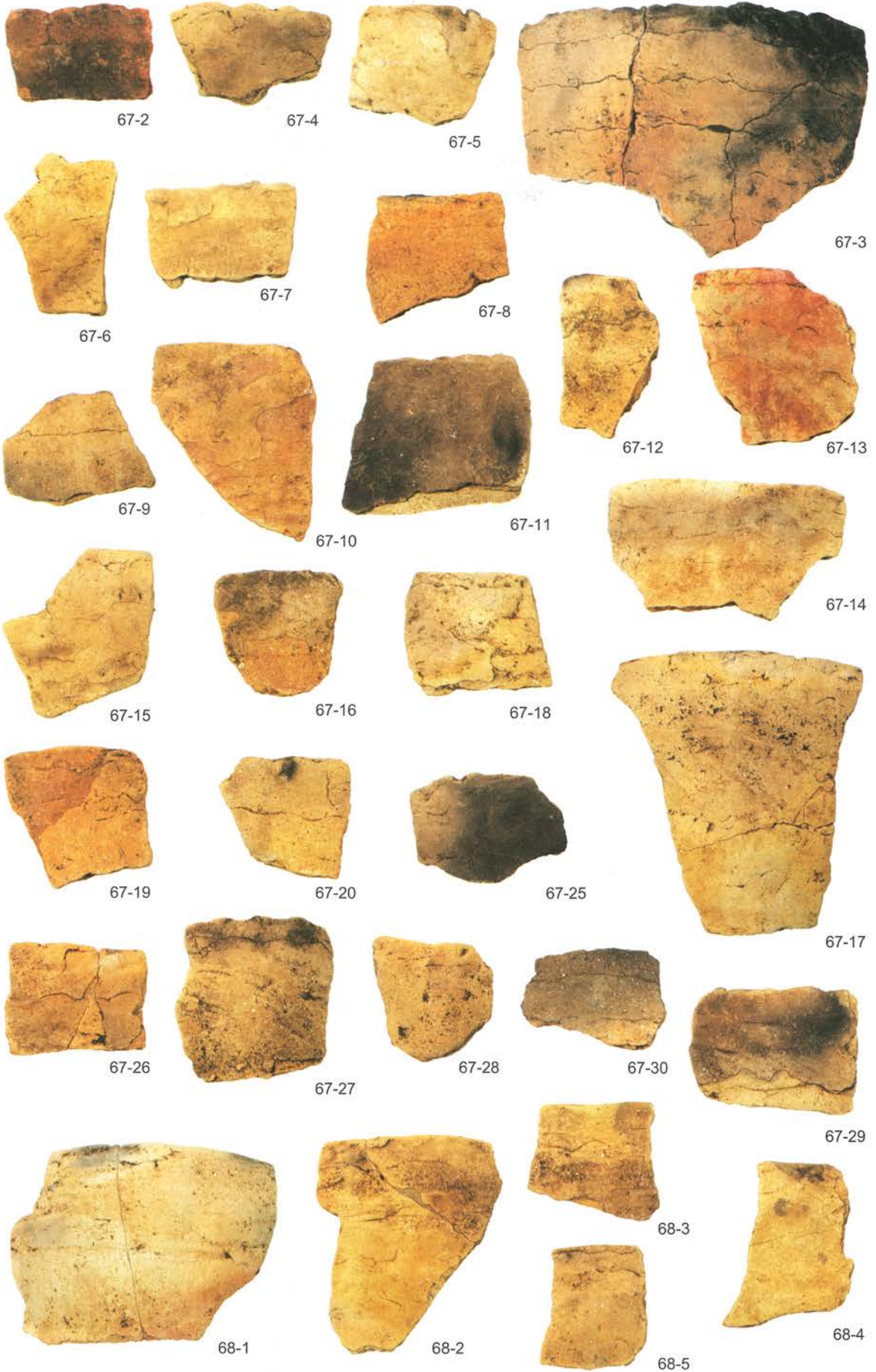


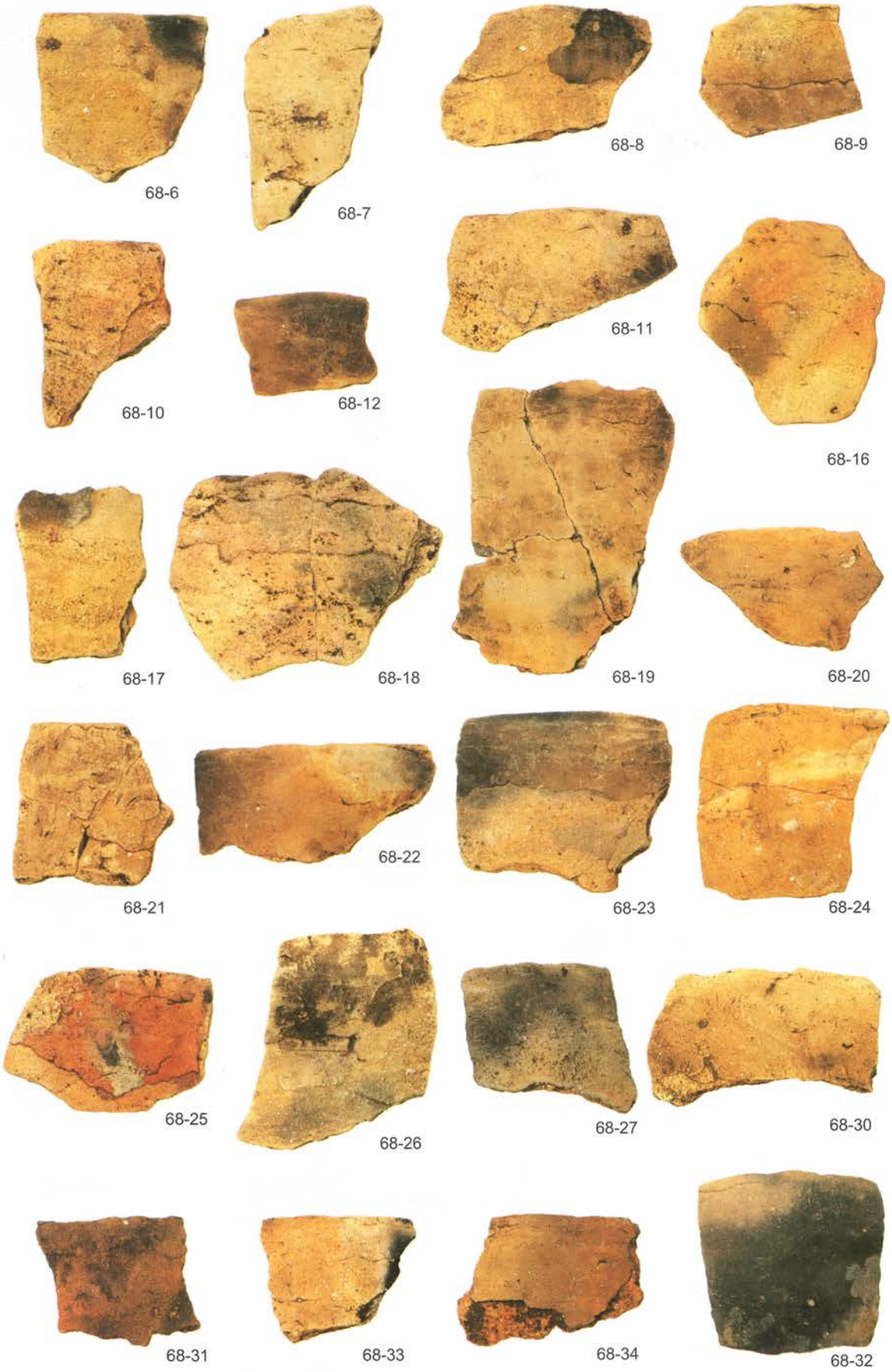
66-18

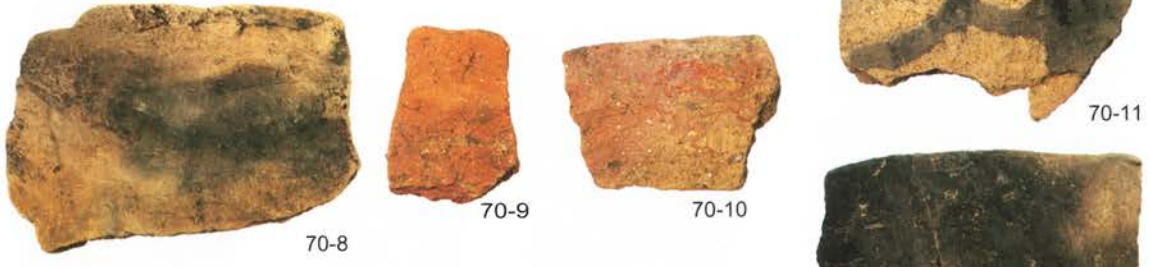


66-19











70-22



70-23



70-24



70-29



70-30



70-27



70-28



70-32



70-31



71-2



71-1



71-3



71-4



71-8



71-5



71-6



71-7



71-9



71-12



71-10



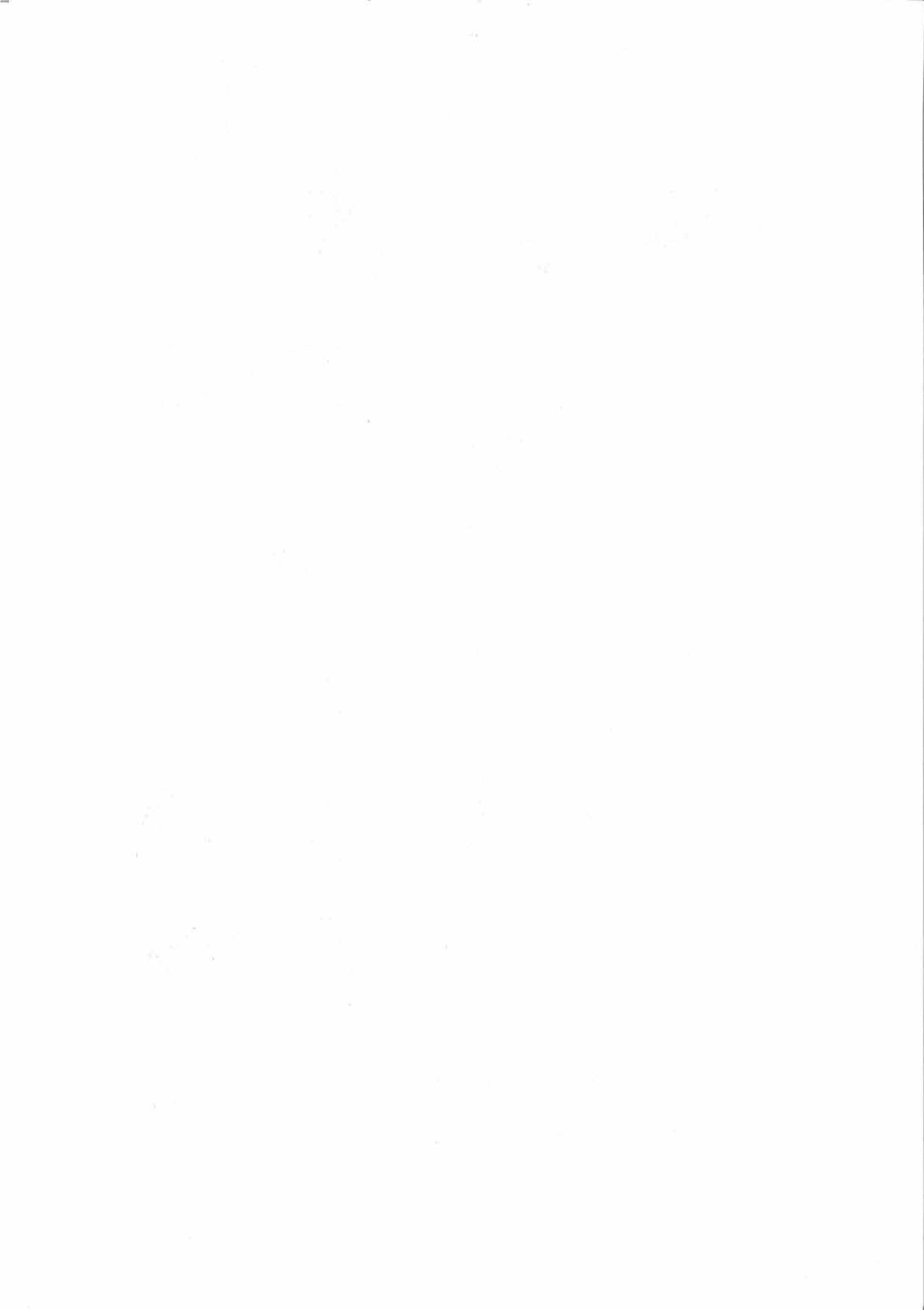
71-13



71-14



71-15



附 編

附編 1 浦尻貝塚周辺低地および砂州帯におけるボーリング調査

藤根 久・米田恭子・小林克也（パレオ・ラボ）

1. 目的

浦尻貝塚が成立した古宮田湾（仮称）の海岸線の復元、河口部砂州発達による潟湖形成期の推定および淡水化の変遷、貝塚形成期の周辺植生および植生変遷を調べるために、平成20年度に続きボーリング調査を実施し、オールコア試料を採取した。

2. ボーリング地点

ボーリング地点は、海岸線の復元（縄文海進最高潮期の海水準の推定：古東京湾において約3 m前後）を調べるために、当時の堆積物が残ると期待される宮田川に面した支谷の標高5 m前後の平坦地について実施した。また、河口部砂州発達による潟湖形成期の推定および淡水化の変遷を調べるために砂州帯について実施した。

実施した地点は、No.3、No.9、No.15、No.16、No.17、No.18、No.19、No.20の8地点である（図1、表1）。なお、地点No.15は、平成20年度ボーリング調査と同じ地点の同じボーリング孔において続きで実施した。

表1 ボーリング調査の目的と詳細

地点No.	調査の目的	採取地点	標高(m)	採取深度(m)	採取日-順番
3	海岸線の復元	小高区蛭沢地区	3.14	0.00-5.00	2009/12/8-1
9	海岸線の復元	小高区上浦地区	6.84	0.00-8.00	2009/12/7-2
15	砂州の発達形成	小高区井田川地区（集落内）	-2.10	3.00-5.55	2009/12/8-3
16	砂州の発達形成	小高区井田川地区（防風林内）	2.05	0.00-2.00	2009/12/9-2
17	砂州の発達形成	小高区井田川地区（防風林内）	1.16	0.00-1.60	2009/12/9-1
18	海岸線の復元	小高区行津地区	4.82	0.00-3.13	2009/12/7-1
19	旧河口の位置	小高区井田川地区（集落内）	-0.89	0.00-3.00	2009/12/8-2
20	砂州の発達形成	小高区浦尻地区（集落内）	1.87	0.00-4.00	2009/12/9-3

3. ボーリング調査の方法と仕様

ボーリング調査は、透明のポリカーボネイト製チューブを装填したパイプを地中に打ち込み、1 m毎に深度8 m程度までの連続的な堆積物を採取するボーリング機械を使用した。

使用機械は、東邦地下工機㈱製の電動ドロップヒッターを用いたオールコアボーリング装置を使用した。堆積物は、直径4 cm、長さ1 mの透明のポリカーボネイト製チューブに採取した。

なお、採取したボーリング試料（ポリカーボネイト製チューブ）は、現地において開封して土層記載および分析用試料を採取した後、透明シーラに3本程度をまとめて減圧パックして保管試料とした。

4. ボーリング調査による成果と概要

図2に地質の総合柱状図を示し、各ボーリング地点で得られた堆積物の特徴について述べる。なお、ボーリング調査によって得られた試料は、今後の自然科学分析に供した後、南相馬市教育委員会に保管する予定である。

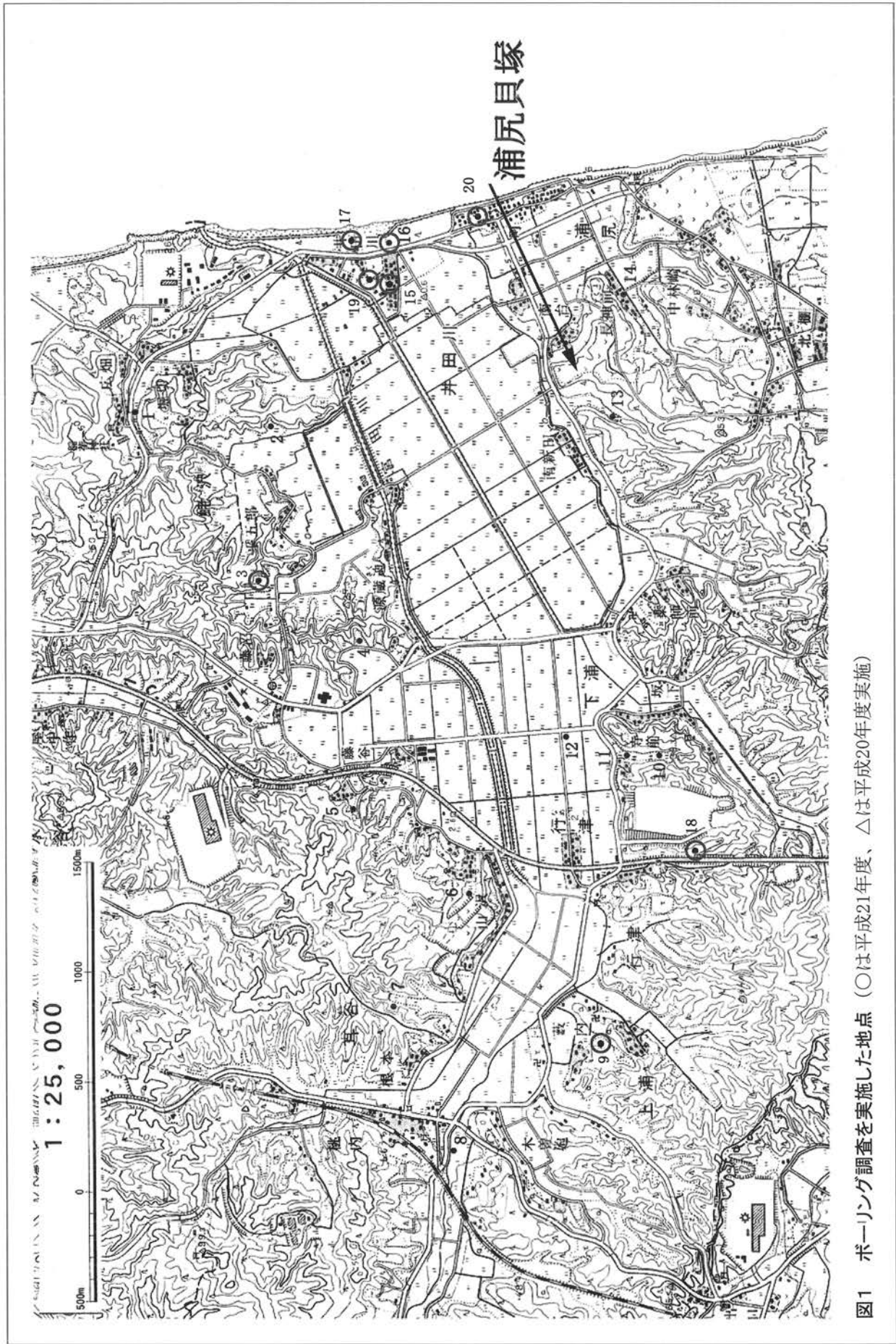


図1 ボーリング調査を実施した地点 (○は平成21年度、△は平成20年度実施)

[No.3 地点：小高区蛭沢地区、畑地、標高3.14m]

深度5.00mまで採取した。深度約51cmまで現耕作土である。また深度約1.25mまで旧耕作土である。全体的に砂質シルトおよびシルトからなる。深度2.21-2.46mでは有機質シルト、深度3.21-3.37mでは植物遺体を含む。また、深度2.52m付近と深度3.6m付近には木材が含まれていた。海進期の堆積物はないものと推定される。

[No.9 地点：小高区上浦地区、畑地、標高6.84m]

深度8.0mまで採取した。深度約1.0mまで客土である。深度1.80mまで粘土および有機質粘土である。深度2.8mまで泥炭である。これより下位は、植物遺体混じりあるいは泥炭質砂から構成され、深度6.0-8.0mでは礫が混じる。海進期の堆積物はないものと推定される。なお、深度3.97-4.00mにガラス質テフラ、深度4.24-4.26mに上位テフラとは異なるガラス質テフラが含まれていた。

[No.15地点：小高区井田川地区（集落内）畑地、標高-2.10m、平成20年度の続き]

深度3.00-5.55mまで採取した。全体的に淘汰の良い砂堆積物である。深度5.10mまで貝片（二枚貝）を含む。深度3.22m、4.17m、4.59mに草本質の植物遺体を含む。

[No.16地点：宮小高区井田川地区、防風林内、標高2.05m]

深度2.0mまで採取した。表面12cm程度は現在の土壌である。全体的砂堆積物である。深度1.07-1.31mは土壌質砂である。深度1.575-2.00mまで礫を含む。

[No.17地点：小高区井田川地区、防風林内、標高1.16m]

深度1.60mまで採取した。表面12cm程度は現在の土壌である。全体的礫混じり砂堆積物である。深度0.47-0.66mと1.24m以深は砂礫である。

[No.18地点：小高区行津地区、水田旧耕作地、標高4.82m]

深度3.13mまで採取した。深度1.66mまで砂質シルトおよび黒色有機質砂質シルトからなる。深度1.79mまで泥炭および泥炭質粘土である。このうち泥炭中には厚さ約7cmのガラス質テフラが挟在する。深度3.13mまで砂質堆積物であり、深度約3.60-3.89mには基盤層に由来する粘土ブロックを含む。

[No.19地点：小高区井田川地区（集落内）、水田地、標高-0.89m]

深度3.0mまで採取した。深度29cmまで現水田耕作土である。深度1.0mまで砂堆積物であり、以下3.9mまで砂礫堆積物である。なお、深度1.0m付近に貝片（二枚貝）を少量含む。

[No.20地点：小高区浦尻地区（集落内）、旧住宅地、標高1.87m]

深度4.0mまで採取した。全体的に砂質堆積物である。深度1.19-1.32mにはラミナ入り黒色粘土、有機質砂がみられた。また、深度2.79-3.06mには黒色土壌質砂がみられた。なお、深度2.16-2.60mには砂礫が含まれていた。

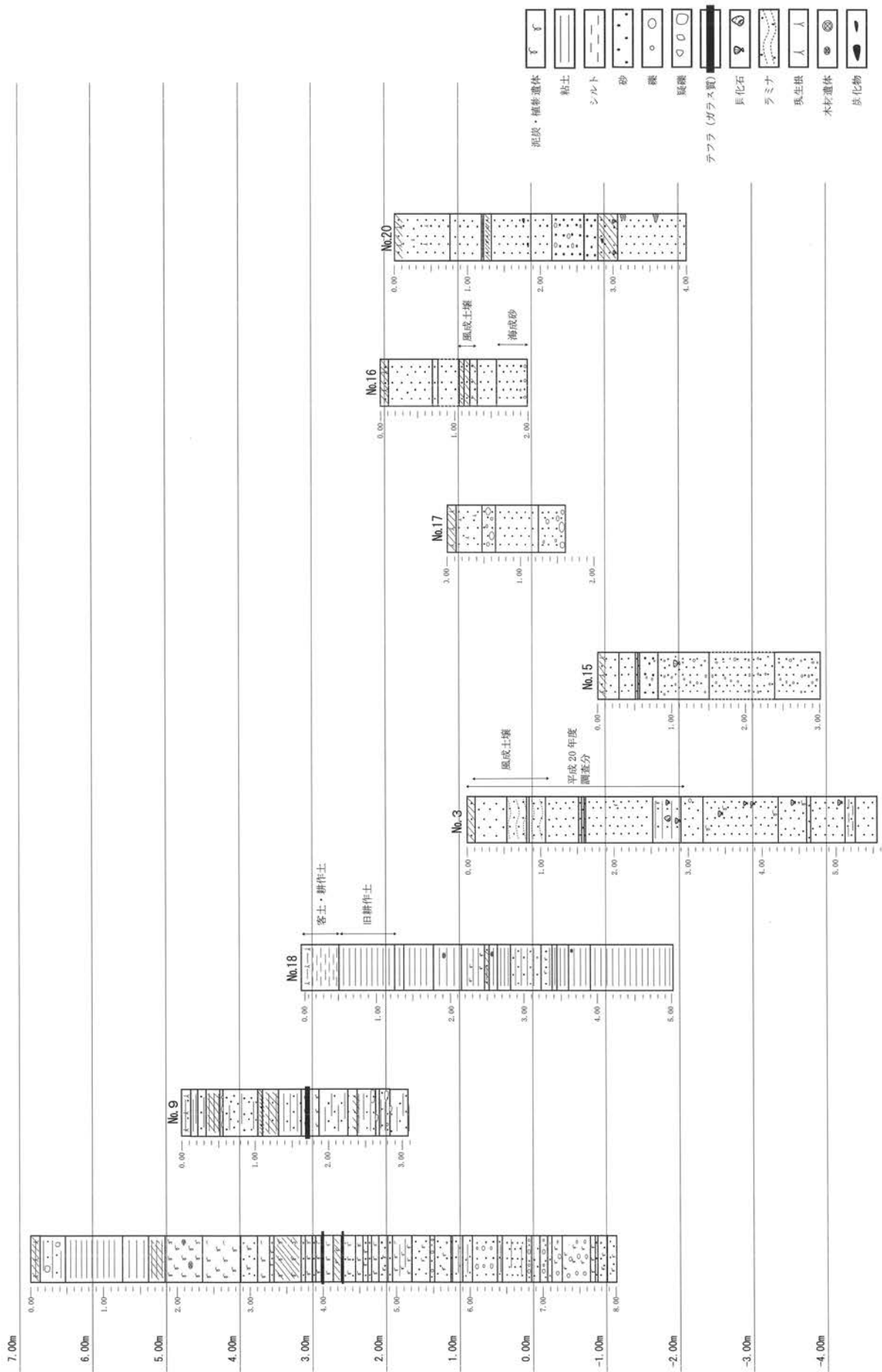


図2 ボーリング資料の総合柱状図

附編 2 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤茂・丹生越子・尾寄大真・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

1. はじめに

浦尻貝塚周辺低地におけるボーリング試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料は、No.14地点ボーリングおよびNo.15地点ボーリングにより得られた試料である（図1）。No.14地点ボーリングの測定試料No.14-D（PLD-13039）は、木材の樹皮である。また、No.15地点ボーリングの測定試料は、No.15-D（PLD-12802）が草本類茎、No.15-E（PLD-12803）が根以外の植物遺体である。

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、図2に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

表1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-13039	位置：No.14ボーリング 試料No.14-D	試料の種類：生試料(材の樹皮) 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12802	位置：No.15ボーリング 試料No.15-D	試料の種類：生試料(草本類茎) 試料の性状：種類不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-12803	位置：No.15ボーリング 試料No.15-E	試料の種類：生試料(根以外の植物遺体) 試料の性状：種類不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス

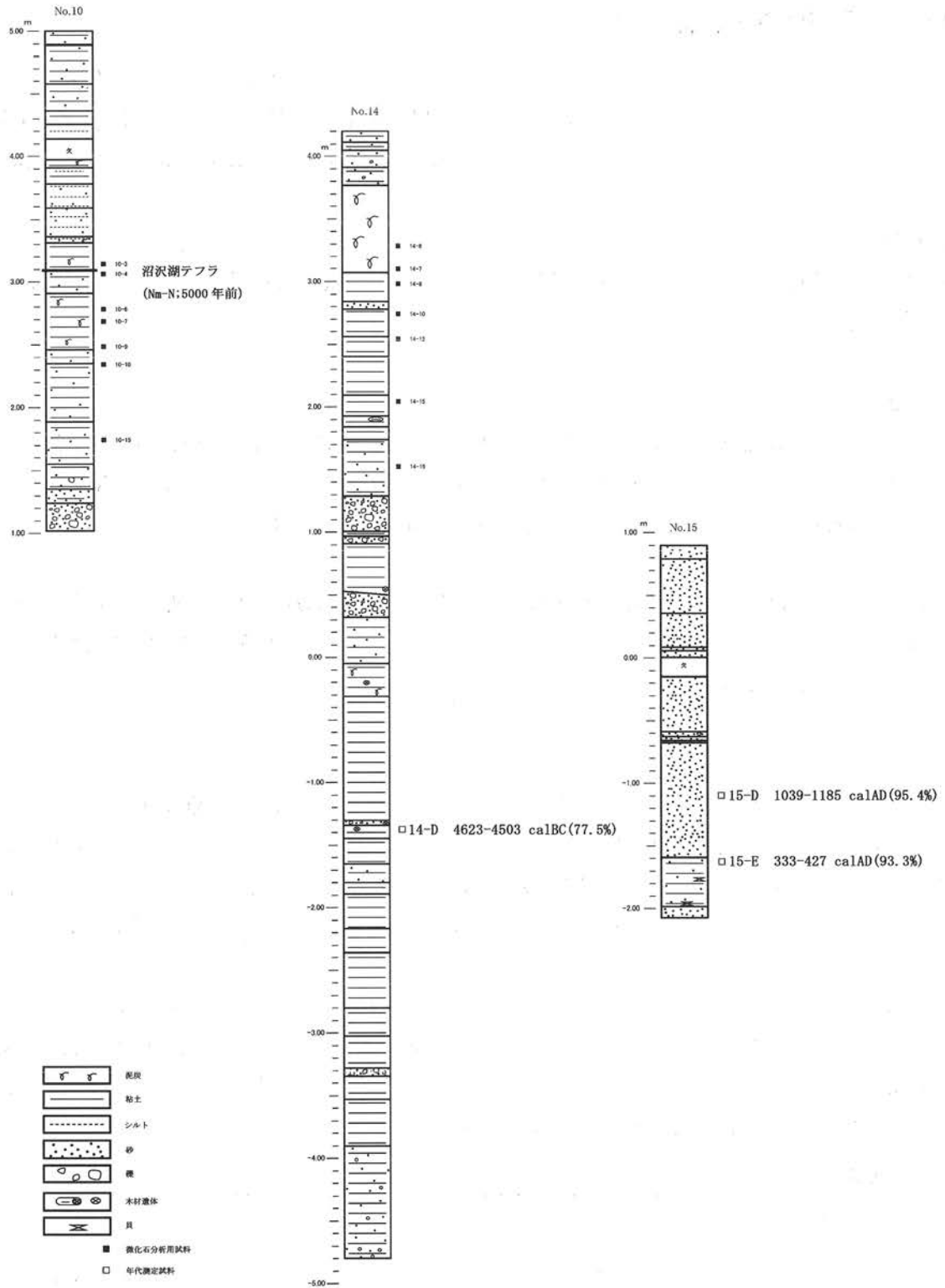


図1 ボーリング柱状図と分析位置 (年代は2σ暦年代範囲を示す。)

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal4.0 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表2 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-13039 試料No. 14-D	-30.17 ± 0.17	5736 ± 25	5735 ± 25	4650BC (3.0%) 4643BC 4616BC (65.2%) 4536BC	4684BC (17.9%) 4632BC 4623BC (77.5%) 4503BC
PLD-12802 試料No. 15-D	-16.99 ± 0.14	907 ± 21	905 ± 20	1046AD (40.2%) 1091AD 1121AD (14.6%) 1140AD 1148AD (13.4%) 1165AD	1039AD (95.4%) 1185AD
PLD-12803 試料No. 15-E	-28.34 ± 0.12	1665 ± 22	1665 ± 20	351AD (16.2%) 368AD 380AD (52.0%) 416AD	265AD (2.1%) 274AD 333AD (93.3%) 427AD

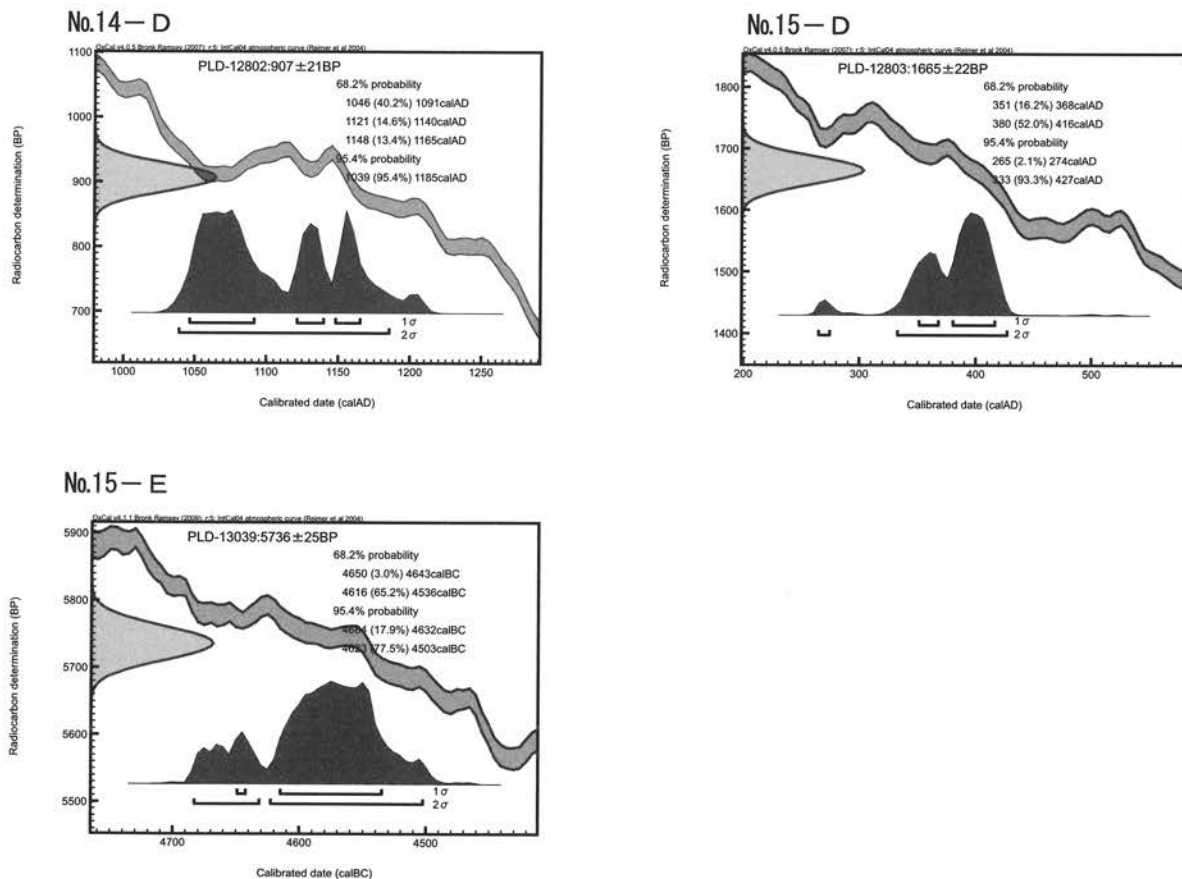


図2 暦年較正の結果

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

No.14地点ボーリングの試料No.14-D(材の樹皮: PLD-13039)は、 1σ 暦年代範囲において4650-4643 calBC(3.0%)、4616-4536 calBC(65.2%)、 2σ 暦年代範囲において4684-4632 calBC(17.9%)、4623-4503 calBC(77.5%)であった。

No.15地点ボーリング、試料No.15-D(草本類茎; PLD-12802)は、 1σ 暦年代範囲において1046-1091 calAD(40.2%)、1121-1140 calAD(14.6%)、1148-1165 calAD(13.4%)、 2σ 暦年代範囲において1039-1185 calAD(95.4%)であった。

No.15地点ボーリング、試料No.15-E(根以外の植物遺体; PLD-12803)は、 1σ 暦年代範囲において351-368 calAD(16.2%)、380-416 calAD(52.0%)、 2σ 暦年代範囲において265-274 calAD(2.1%)、333-427 calAD(93.3%)であった。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. *Radiocarbon*, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon*, 43, 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代. 3-20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. *Radiocarbon*, 46, 1029-1058.

附編 3 浦尻貝塚周辺ボーリング試料中のテフラ分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

平成20年度において浦尻貝塚が成立した古宮田湾（仮称）の海岸線の復元、河口部砂州発達による潟湖形成期の推定および淡水化の変遷、貝塚形成期の周辺植生および植生変遷を調べるために、ボーリング調査を実施しオールコア試料を採取した。このうち、未区画整理地の谷の水田耕作地（標高5.0 m）で実施したNo.10地点ボーリング試料中にガラス質テフラが検出された。ここでは、このガラス質テフラの特徴を調べ、テフラ同定を行った。

2. 試料と分析方法

試料は、未区画整理地の谷の水田耕作地（標高5.0m）で実施したNo.10地点のボーリング試料中のガラス質テフラ 1 試料である。なお、ガラス質テフラの検出された層準は標高約3.1m付近の泥炭質堆積物中である。

分析では、粘土や植物遺体など混じりの少ないガラス質テフラ 1 g 程度を採取し、トールビーカーに入れて超音波洗浄した後、アスピレータを用いてコロイド分を除去した。一部を採取して簡易水浸プレパラートを作製し、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの分類と計数を行った。なお、火山ガラスは、町田・新井(2003)の分類基準に従い分類した。

さらに、一部のガラスを採取して火山ガラスの屈折率測定を行った。屈折率測定は、横山卓雄ほか(1986)に従い、温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率 (n) を測定した。

3. 結果

偏光顕微鏡による観察を行った結果、ガラス質テフラは、主に100 μ m前後以下の火山ガラスから構成される。火山ガラスを分類・計数した結果、軽石型ガラス（繊維状およびスポンジ状）が最も多く、バブル型ガラス（平板状およびY字状）を含む（表1）。なお、石英および長石類も比較的多く含まれていた。また、火山ガラスの屈折率は、範囲1.4999-1.5041、平均1.5024であった（図1）。

表1 No.10ボーリング試料中の火山ガラスの形態分類

試料No.	特徴	石英・長石類	バブル型ガラス		軽石型ガラス		急冷破碎型ガラス		不明
			平板状	Y字状	繊維状	スポンジ状	フレーク状	塊状	
1	ガラス質テフラ	33	21	23	41	79	0	2	1

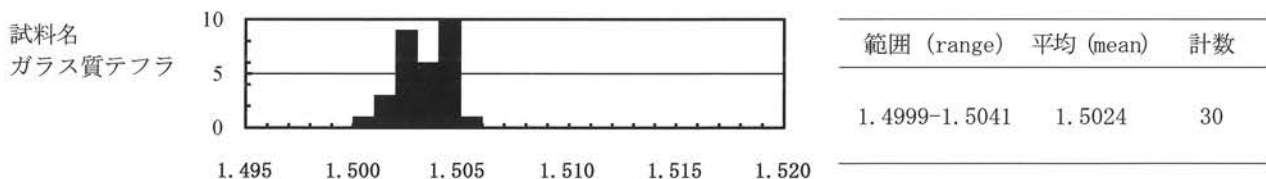


図1 火山ガラスの屈折率測定結果

4. テフラ同定

No.10地点のボーリング試料中のガラス質テフラは、軽石型カラス（繊維状およびスポンジ状）やバブル型ガラス（平板状およびY字状）からなり、火山ガラスの屈折率は、範囲1.4999-1.5041であった。これら火山ガラスの特徴から、沼沢湖テフラ（Nm-N）と同定される。

沼沢湖テフラ（Nm-N）は、沼沢カルデラにおいて約5000年前に噴火し、火砕流堆積物、降下軽石、火砕流堆積物からなり、降下軽石は東側に70kmに及ぶ。主な鉱物は斜方輝石、角閃石および石英である。軽石ガラスの屈折率は、範囲1.500-1.505である（町田・新井，2003）。

5. おわりに

No.10地点のボーリング採取のガラス質テフラは、火山ガラスの形態的特徴および火山ガラスの屈折率から、沼沢カルデラにおいて約5000年前に噴火した沼沢湖テフラ（Nm-N）と同定された。

参考・引用文献

町田 洋・新井房夫(2003)新編 火山灰アトラス. 336p, 東京大学出版会.

横山卓雄・檀原 徹・山下 透(1986) 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定. 第四紀研究, 25, 21-30.

附編 4 浦尻貝塚周辺低地ボーリング試料の珪藻化石群集

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

珪藻は、10～500 μm ほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉，1988；安藤，1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

平成20年度において、浦尻貝塚が成立した古宮田湾（仮称）の海岸線の復元、河口部砂州発達による潟湖形成期および淡水化の変遷、貝塚形成期の周辺植生および植生変遷を調べるために、ボーリング調査を実施しオールコア試料を採取した。

ここでは、海岸線の復元を目的としてNo.10地点とNo.14地点のボーリング試料について珪藻化石群集を調べた。

2. 試料と処理方法

試料は、寺前地区の水田耕作地（標高5.0m）で採取したNo.10地点ボーリング試料と長神前地の貝塚南側の谷内畑地（標高4.2m）で採取したNo.14地点ボーリング試料である。分析試料は、No.10地点ボーリングが7試料、No.14地点ボーリングが7試料である。各試料は、以下に示す処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 湿潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600～1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻殻は、完形と非完形（半分以上残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g中の殻数を計算し、分布図に示した。

3. 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、海水～汽水種は不明種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。

以下に、小杉（1988）が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

[外洋指標種群 (A)] : 塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

[内湾指標種群 (B)] : 塩分濃度が26～35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

[海水藻場指標種群 (C1)] : 塩分濃度が12～35パーミルの水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群である。

[海水砂質干潟指標種群 (D1)] : 塩分濃度が26～35パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミナナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

[海水泥質干潟指標種群 (E1)] : 塩分濃度が12～30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

[汽水藻場指標種群 (C2)] : 塩分濃度が4～12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

[汽水砂質干潟指標種群 (D2)] : 塩分濃度が5～26パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。

[汽水泥質干潟指標種群 (E2)] : 塩分濃度が2～12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

[上流性河川指標種群 (J)] : 上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

[中～下流性河川指標種群 (K)] : 中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

[最下流性河川指標種群 (L)] : 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

[湖沼浮遊生指標種群 (M)] : 水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

[湖沼沼沢湿地指標種群 (N)] : 湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

[沼沢湿地付着生指標種群 (O)] : 水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態に優勢な出現が見られる種群である。

[高層湿原指標種群 (P)] : 尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

[陸域指標種群 (Q)] : 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

4. 珪藻化石の特徴と堆積環境

全試料から検出された珪藻化石は、海水種が33分類群21属23種、汽水種が10分類群7属12種、淡水種が96分類群27属73種4変種であった。これらの珪藻化石は、海水種が5環境指標種群、汽水種が2環境指標種群、淡水種が5環境指標種群に分類された(表1、表2)。珪藻分帯は、No.10地点ボーリングがDI~DIV帯(図1)、No.14地点ボーリングがDI~DIV帯に設定された(図2)。

以下に、環境指標種群の特徴などに基づいて、各ボーリング試料の珪藻化石群集の特徴とその堆積環境について述べる。なお、全体的に外洋指標種群の*Coscinodiscus marginatus*や*Thalassiosinema nitzschoides*あるいは*Denticulopsis*属や*Stephanopyxis*属などが多産するが、これらの珪藻化石は基盤層に由来する珪藻化石と推定される。ここでは、これら外洋種を除いた珪藻化石の特徴について述べる。

[No.10地点ボーリング]

DI帯(試料No.15)

この試料中には、陸域指標種群*Pinnularia subcapitata*など、沼沢湿地付着生指標種群*Navicula elginensis*などが特徴的に出現した。また、汽水泥質干潟指標種群も出現した。

以上のことから、汽水の影響のあるジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

DII帯(試料No.6~10)

これらの試料中には、海水泥質干潟指標種群*Diploneis smithii*など、汽水藻場指標種群または汽水泥質干潟指標種群など、陸域指標種群*Pinnularia subcapitata*などが特徴的に出現した。

以上のことから、干潟環境あるいは塩性湿地環境(ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地)が推定される。

DIII帯(試料No.4)

この試料中には、沼沢湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *minor*など、陸域指標種群*Pinnularia subcapitata*などが特徴的に出現した。

以上のことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

DIV帯(試料No.3)

この試料中には、沼沢湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *minor*など、陸域指標種群*Pinnularia subcapitata*など、中~下流性河川指標種群*Achnanthes lanceolata*などが特徴的に出現した。

以上のことから、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

[No.14地点ボーリング]

DI帯(試料No.19)

この試料中には、陸域指標種群*Hantzschia amphioxys*など、沼沢湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *minor*などが特徴的に出現した。

以上のことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

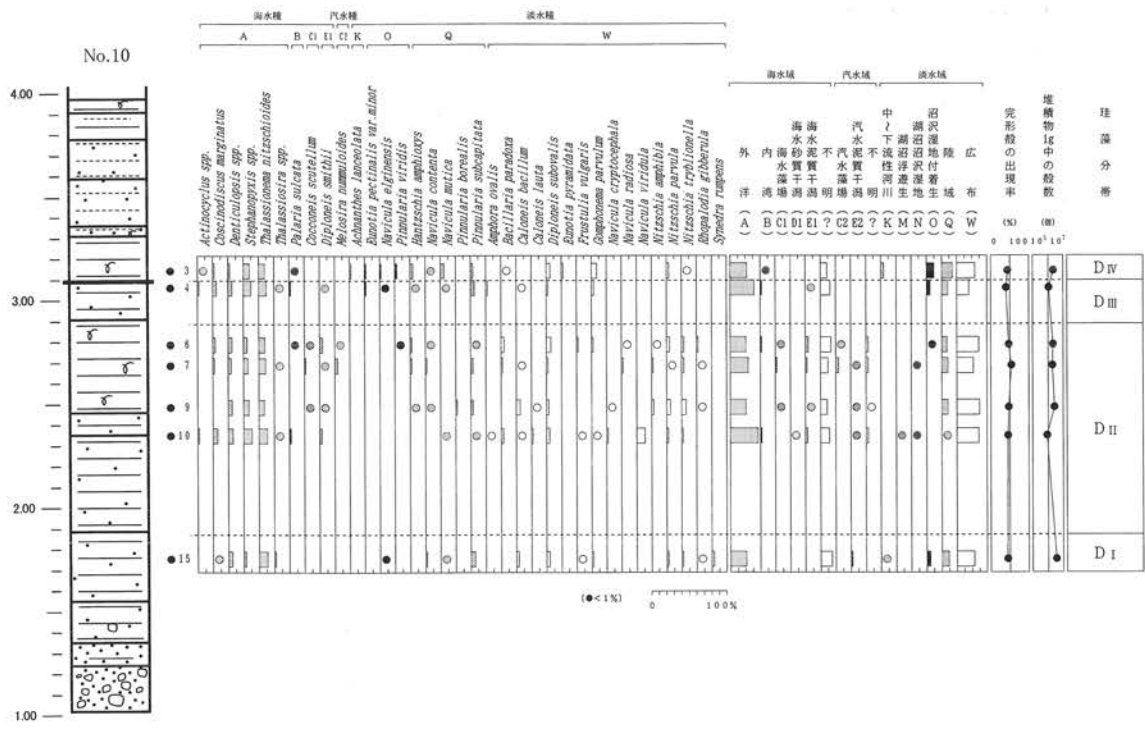


図1 No.10地点ボーリング堆積物中の珪藻化石分布図（2%以上の分類群を表示）

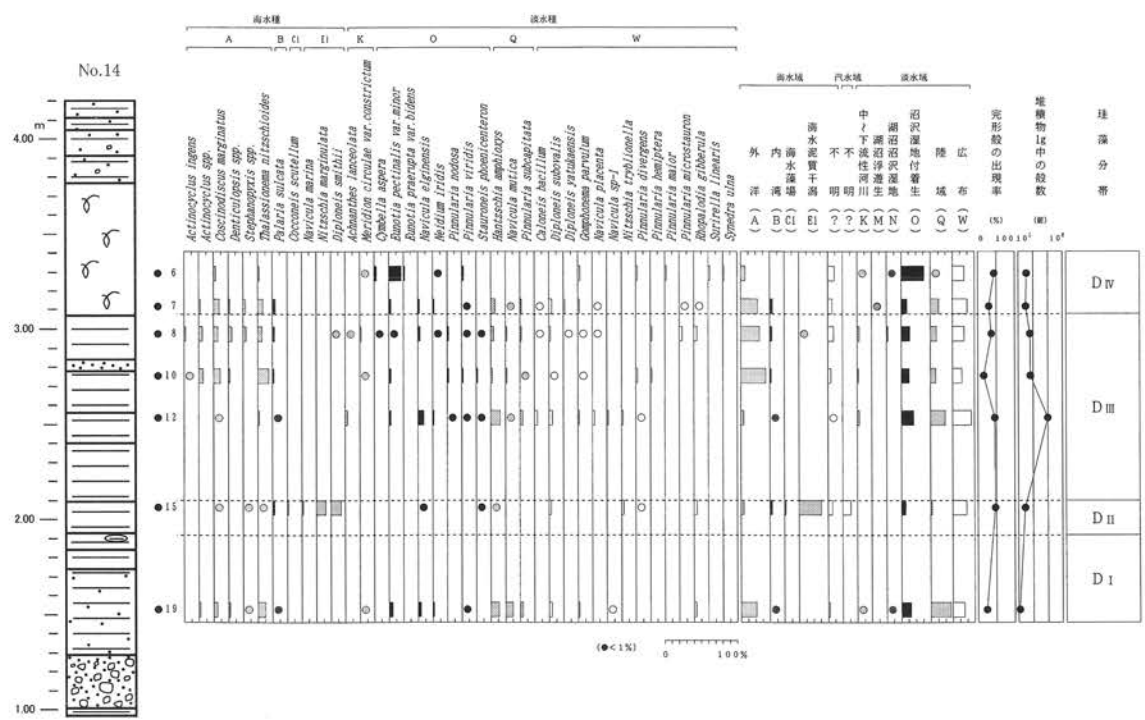


図2 No.14地点ボーリング堆積物中の珪藻化石分布図（2%以上の分類群を表示）

表1 堆積物中の珪藻化石産出表その1 (種群は、小杉(1988)と安藤(1990)に基づく)

分類群	種群	3	4	6	7	9	10	15	6	7	8	10	12	15	19
<i>Actinocyclus ingens</i>	A	1	-	-	1	-	-	-	-	-	4	2	-	-	1
A. spp.	A	2	4	-	1	-	4	-	1	4	9	12	-	1	4
<i>Actinoptychus senarius</i>	?	1	2	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-
A. splendens	A	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Campyloneis</i> spp.	?	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis scutellum</i>	C1	1	-	2	4	2	-	-	-	-	1	1	5	-	-
<i>Coccinodiscus marginatus</i>	A	5	10	6	4	1	11	2	7	17	11	19	2	2	11
C. nodulifer	?	10	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2
C. oculus-iridis	A	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
C. spp.	?	-	9	7	10	12	17	17	4	7	11	3	1	-	-
<i>Denticulopsis</i> spp.	A	5	10	10	9	11	12	11	-	5	9	4	1	-	5
<i>Grammatophora</i> spp.	?	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	1
<i>Hemidiscus cuneiformis</i>	?	-	4	1	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-
<i>Navicula formenterae</i>	?	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
N. lyra	?	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
N. marina	E1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
N. pygnaea	?	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia granulata</i>	E1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
N. marginulata	E1	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	27	-
<i>Palaria sulcata</i>	B	2	5	2	1	1	3	-	1	8	5	4	2	6	3
<i>Stephanopyxis</i> spp.	A	16	20	10	12	15	22	6	1	7	7	1	-	3	2
<i>Thalassionema nitzschioides</i>	A	16	20	17	19	14	22	23	4	14	11	30	5	2	23
<i>Thalassiosira</i> spp.	A	-	2	-	3	-	1	4	-	-	-	1	-	1	-
<i>Tryblioptychus cocconeiformis</i>	?	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes delicatula</i>	D1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora</i> spp.	?	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	8	-
<i>Caloneis</i> spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Cyclotella stylorum</i>	B	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis smithii</i>	E1	-	2	9	3	2	5	-	-	1	-	-	-	29	1
<i>Nitzschia littoralis</i>	?	-	-	-	1	1	-	12	-	-	-	-	1	-	1
N. plana	?	7	10	17	7	2	-	1	14	-	4	4	-	1	-
N. spp.	?	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhaphoneis surirella</i>	D1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes brevipes</i>	?	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>Melosira nummuloides</i>	C2	-	-	3	8	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula crucicula</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-
N. yarrensensis	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-
<i>Nitzschia dubia</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
N. lorenziana	E2	-	-	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
N. pandriformis	E2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
N. punctata	E2	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Psuedopodosira kosugii</i>	E2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhopalodia acuminata</i>	?	-	-	-	3	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
R. musculus	?	-	-	2	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Thalassiosira bramaputrae</i>	?	-	-	4	1	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Actinella brasiliensis</i>	O	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes lanceolata</i>	K	5	-	-	-	1	-	1	-	-	2	1	6	1	-
A. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
<i>Amphora montana</i>	Q	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
A. ovalis	W	-	4	-	-	-	1	-	-	-	2	1	1	-	-
A. spp.	?	-	-	-	1	7	3	1	-	-	-	-	-	2	-
<i>Anomooneis</i> spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
<i>Aulacosira distans</i>	N	-	-	-	2	-	1	-	1	-	1	1	-	-	2
A. granulata	M	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-	-	1
A. spp.	W	-	-	-	-	-	-	1	3	1	3	2	1	2	-
<i>Bacillaria paradoxa</i>	W	3	1	8	4	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis bacillum</i>	W	1	3	-	3	11	1	7	-	3	1	-	8	-	1
C. lauta	W	-	-	1	1	2	4	1	1	3	-	1	2	-	1
<i>Cocconeis disculus</i>	W	-	-	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-
C. placentula	W	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Cyclotella comta</i>	M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
C. spp.	?	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-
<i>Cymbella aspera</i>	O	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	1	-
C. naviculiformis	O	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	1
C. tumida	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
C. spp.	?	-	-	1	2	-	-	-	4	-	-	-	1	5	-
<i>Diploneis finnica</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
D. subovalis	W	10	4	13	5	6	7	8	1	8	3	2	11	6	8
D. yatukaensis	W	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	-	1	-
D. spp.	?	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia arcus</i>	W	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E. biareofera	W	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-
E. flexuosa	O	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
E. lunaris	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
E. monodon	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
E. pectinalis var. minor	O	4	4	-	-	-	-	35	7	2	7	6	1	10	-
E. pectinalis var. undulata	O	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-
E. praerupta var. bidens	O	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	1	-
E. pyramidata	W	4	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2	-
E. spp.	?	9	7	1	3	-	-	2	11	1	1	-	5	3	2

表2 堆積物中の珪藻化石産出表その2 (種群は、小杉(1988)と安藤(1990)に基づく)

分類群	種群	種群																
		3	4	6	7	9	10	15	6	7	8	10	12	15	19			
<i>Fragilaria construens</i>	N	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-		
<i>F.</i> spp.	?	-	-	1	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-		
<i>Frustulia rhomboides</i>	W	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>F. vulgaris</i>	W	-	-	5	1	-	-	2	2	-	-	-	2	1	-	-		
<i>F.</i> spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-		
<i>Gomphonema acuminatum</i>	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-		
<i>G. gracile</i>	O	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
<i>G. parvulum</i>	W	14	6	4	1	1	2	4	6	4	1	2	4	1	4	-		
<i>G.</i> spp.	?	1	-	1	2	7	3	5	15	3	6	5	1	1	6	-		
<i>Cyrosigma</i> spp.	?	-	2	-	-	-	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Hantzschia amphioxys</i>	Q	9	2	5	5	2	-	1	1	13	7	5	27	2	24	-		
<i>Melosira pensacolatae</i>	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
<i>M. roeseana</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3		
<i>Meridion circulae</i> var. <i>constrictum</i>	K	3	-	-	-	-	-	-	2	3	-	3	3	-	-	3		
<i>Navicula contenta</i>	Q	2	1	2	4	3	-	4	-	1	-	-	-	-	-	1		
<i>N. cryptocephala</i>	W	-	-	-	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>N. eiginensis</i>	O	5	2	-	-	-	-	-	2	1	4	6	-	16	3	8		
<i>N. ignota</i>	Q	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>N. mutica</i>	Q	10	2	-	-	1	1	2	1	2	3	5	2	1	23	-		
<i>N. oppugnata</i>	W	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>N. placenta</i>	W	-	2	-	-	-	-	1	-	3	1	-	6	-	1	-		
<i>N. pusilla</i>	W	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>N. radiosa</i>	W	-	-	3	5	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-		
<i>N. viridula</i>	W	-	-	-	-	1	22	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>N. sp-1</i>	W	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-		
<i>N.</i> spp.	?	4	1	3	15	22	-	15	-	5	2	1	2	4	3	-		
<i>Neidium affine</i>	W	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>N. bisulcatum</i>	Q	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	3	-	-	-		
<i>N. iridis</i>	O	2	3	-	-	-	-	2	3	4	2	1	5	1	5	-		
<i>N.</i> spp.	?	3	2	-	-	-	1	2	-	2	3	1	4	2	1	-		
<i>Nitzschia amphibia</i>	W	-	-	2	4	6	-	1	-	1	-	-	2	-	-	-		
<i>N. parvula</i>	W	6	1	9	2	11	3	4	-	3	-	-	2	-	2	-		
<i>N. tryblionella</i>	W	2	-	6	7	13	4	4	-	-	-	-	4	7	-	-		
<i>N.</i> spp.	?	1	6	9	8	1	3	5	1	2	3	-	2	-	-	-		
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	O	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
<i>P. borealis</i>	Q	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-		
<i>P. braunii</i>	W	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>P. cardinalicus</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-		
<i>P. divergens</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	5	2	3	1	-		
<i>P. gibba</i>	O	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	2	1	1	-	-		
<i>P. hemiptera</i>	W	-	1	-	-	-	-	1	-	1	3	4	-	-	-	-		
<i>P. interrupta</i>	W	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>P. maior</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-		
<i>P. microstauron</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7	1	-	-	-	-		
<i>P. nobilis</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-		
<i>P. nodosa</i>	O	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	2	-	-	-		
<i>P. subcapitata</i>	Q	6	10	3	7	6	1	12	-	5	3	2	9	-	8	-		
<i>P. viridis</i>	O	6	-	3	-	-	-	1	7	2	2	4	2	1	3	-		
<i>P.</i> spp.	?	6	16	4	3	5	4	4	33	33	25	37	16	7	20	-		
<i>Rhopalodia gibberula</i>	W	1	1	5	3	2	-	2	1	2	7	1	-	9	6	-		
<i>Stauroneis acuta</i>	W	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>S. phoenicenteron</i>	O	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	4	2	2	-	-		
<i>S. smithii</i>	W	1	2	-	2	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-		
<i>S.</i> spp.	?	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Surirella angusta</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-		
<i>S. linearis</i>	W	1	1	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-		
<i>S. ovata</i>	W	3	1	-	-	-	-	2	-	-	1	2	1	-	-	-		
<i>S.</i> spp.	?	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
<i>Synedra rumpens</i>	W	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>S. ulna</i>	W	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	1	-	-		
<i>S.</i> spp.	?	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Unknown	?	11	9	11	11	4	4	13	4	6	6	6	24	1	5	-		
外洋 (A)		45	66	43	49	42	73	46	13	48	51	69	8	9	46	-		
内湾 (B)		2	5	5	1	1	4	-	1	8	5	4	2	6	3	-		
海水藻場 (C1)		1	-	2	4	2	-	-	-	-	-	1	1	5	-	-		
海水砂質干潟 (D1)		-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
海水泥質干潟 (E1)		-	3	9	4	2	5	1	-	-	1	-	-	63	1	-		
海水不定・不明種 (?)		18	27	28	20	18	23	32	18	12	16	9	2	12	4	-		
汽水藻場 (C2)		-	-	3	8	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
汽水泥質干潟 (E2)		-	-	1	2	2	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-		
汽水不定・不明種 (?)		-	-	7	6	3	5	1	-	-	-	1	-	23	-	-		
中～下流性河川 (K)		8	-	-	-	1	-	3	3	-	5	4	6	1	3	-		
湖沼浮遊生 (M)		-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	1	1	-	1	-		
湖沼沼沢湿地 (N)		-	-	-	2	-	-	1	-	3	-	3	1	-	-	2		
沼沢湿地付着生 (O)		20	10	3	-	-	-	10	62	17	24	23	36	12	28	-		
陸域 (Q)		29	16	14	16	16	2	19	2	22	15	14	42	4	59	-		
広布 (W)		49	33	59	44	61	59	50	33	40	31	26	53	39	35	-		
淡水不定・不明種 (?)		36	44	32	46	54	23	49	68	56	49	51	55	28	38	-		
珪藻殻数		208	204	206	202	204	200	216	203	205	200	204	206	202	220	-		

DII帯 (試料No.15)

この試料中には、海水泥質干潟指標種群*Diploneis smithii*や*Nitzschia marginulata*など、汽水種あるいは沼沢湿地付着生指標種群*Navicula elginensis*などが特徴的に出現した。

以上のことから、主に海水泥質干潟環境が推定される。

DIII帯 (試料No.8~12)

これらの試料中には、沼沢湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *minor*や*Navicula elginensis*など、陸域指標種群*Hantzschia amphioxys*など、中～下流性河川指標種群*Meridion circulae* var. *constrictum*が特徴的に出現した。

以上のことから、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

DIV帯 (試料No.7)

これらの試料中には、沼沢湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *minor*など、陸域指標種群*Hantzschia amphioxys*などが特徴的に出現した。

以上のことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

5. 環境変遷および海進期最高潮期海水準の推定

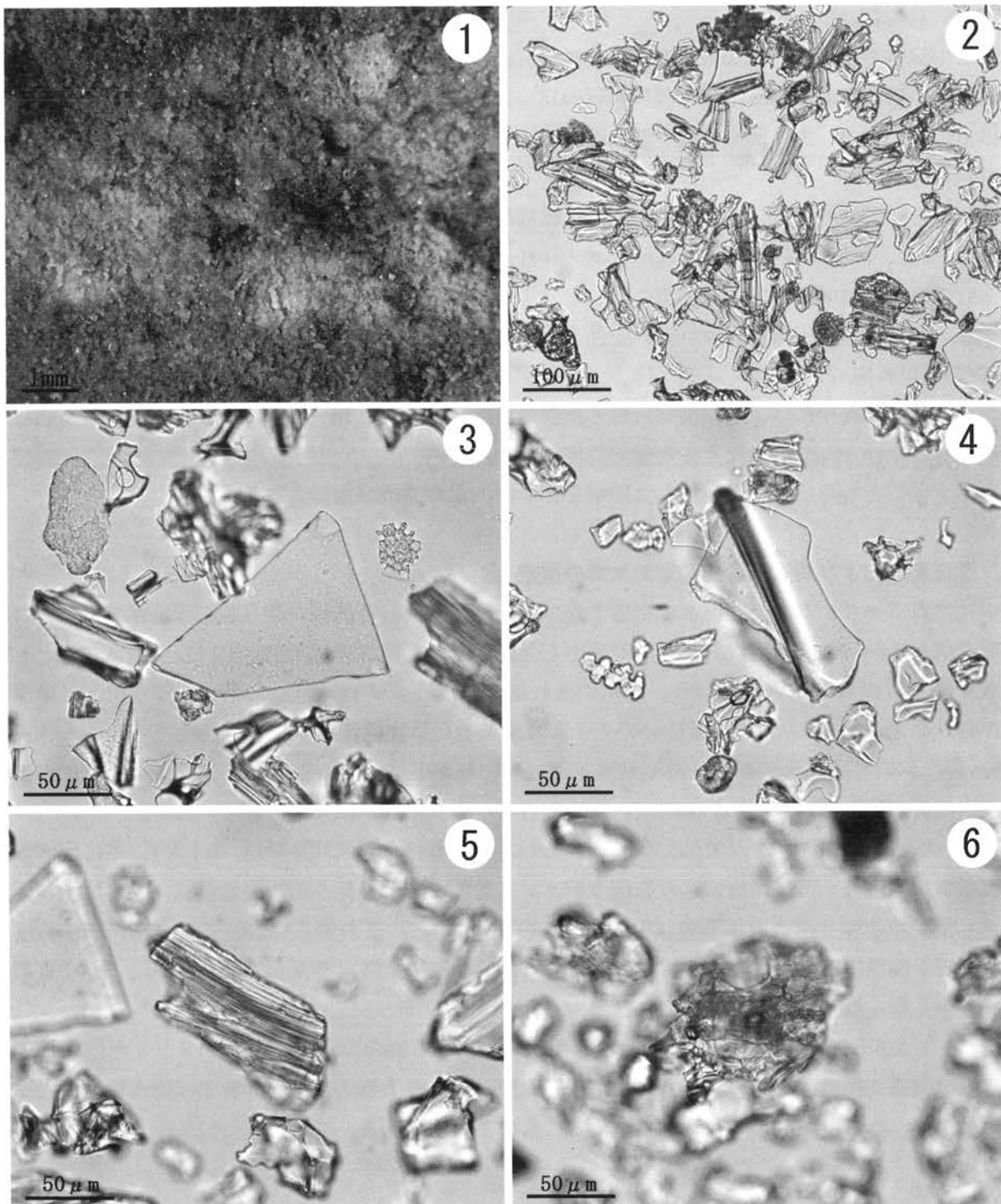
No.10地点ボーリングでは、汽水の影響を受けるジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境 (DI帯)、干潟環境あるいは塩性湿地などのジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境 (DII帯)、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境 (DIII帯)、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境 (DIV帯) に変化していた。DII帯において干潟環境あるいは塩性湿地が推定されたことから、標高約2.9m弱において縄文海進期の最高潮期海水準に近い層準と推定される。ただし、最高潮期を指標する汽水泥質干潟指標種群*Pseudopodosira kosugii* (小杉, 1989) は検出されていない。

一方、No.14地点ボーリングでは、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境 (DI帯)、主に海水泥質干潟環境 (DII帯)、河川の流れ込みを伴うジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境 (DIII帯)、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境 (DIV帯) に変化していた。この地点における海進期の堆積物は、海水泥質干潟環境が推定されたDII帯であるが、このDII帯の上部は標高約2.1mであり、上位DIII帯により大きく削られているものと考えられる。

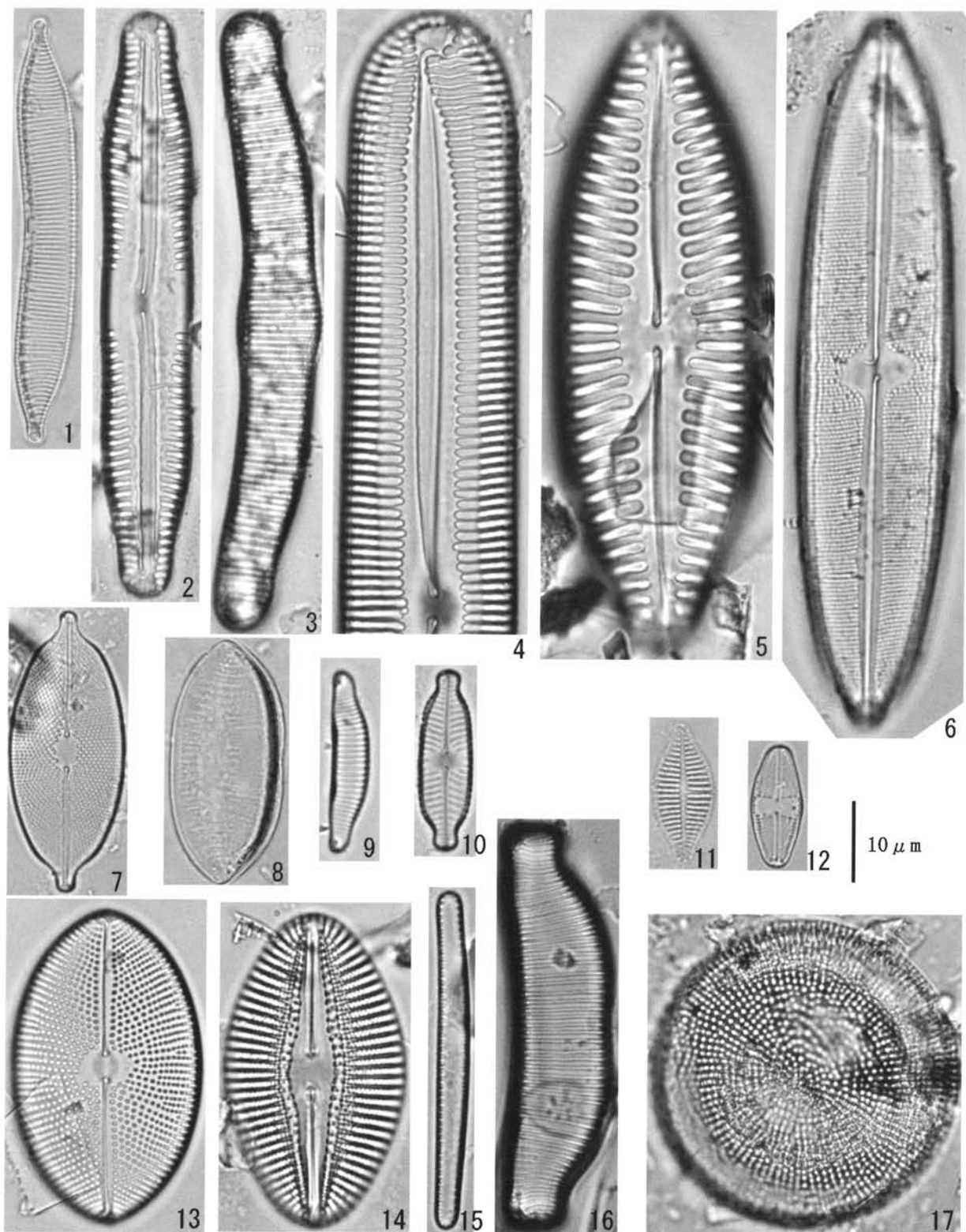
なお、下位DI帯 (試料No.19) は淡水種珪藻化石の占める割合が高く、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境と推定されているが、これより下位層の試料の予察的な珪藻分析では海水種や汽水種が検出されていることから、一時的に淡水化したものと考えられる。この点については今後の検討が必要である。

引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
小杉正人 (1989) 完新世における東京湾の海岸線の変遷. 地理学評論, 62 A-5, 359-374.



図版1 No.10地点ボーリング試料中(標高約3.1m)のガラス質テフラ
 1. テフラの産出状況 2. 偏光顕微鏡写真(全体) 3. バブル型平板状ガラス
 4. バブル型Y字状ガラス 5. 軽石型繊維状ガラス 6. 軽石型スポンジ状ガラス



図版2 ポーリング試料中の珪藻化石

1. *Hantzschia amphioxys*(14-6)
2. *Pinnularia nodosa*(14-12)
3. *Eunotia pectinalis* var. *undulata*(14-8)
4. *Pinnularia viridis*(14-6)
5. *Navicula yarrensii*(14-15)
6. *Neidium iridis*(14-6)
7. *Navicula placenta*(14-6)
8. *Nitzschia littoralis*(10-7)
9. *Eunotia pectinalis* var. *minor*(14-6)
10. *Navicula elginensis*(14-12)
11. *Achnanthes delicatula*(10-10)
12. *Navicula mutica*(14-6)
13. *Navicula marina*(14-15)
14. *Diploneis smithii*(14-15)
15. *Thalassionema nitzschioides*(14-10)
16. *Eunotia praerupta* var. *bidens*(14-6)
17. *Thalassiosira bramaputrae*(10-6)

報 告 書 抄 録

ふりがな	うらじりかいづか4						
書名	浦尻貝塚4						
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第15集						
編著者名	佐川 久・高橋 満						
編集機関	福島県南相馬市教育委員会						
所在地	〒975-0012 福島県南相馬市原町区三島町二丁目45番地						
発行年月日	2010. 3. 31						
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡				
浦尻貝塚	みなみそうましおだかく 南相馬市小高区 うらじりあざみなみだい 浦尻字南台 ほか	72125	52 53 54 114	37° 31' 00"	141° 01' 40"	5,140	道路・保存 目的範囲内 容確認調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
浦尻貝塚	貝塚・集落跡・ 古墳・館	縄文～近世	貝塚 竪穴住居 柱穴 貯蔵穴 埋設土器 土坑 遺物包含層	縄文土器 製塩土器 石器 土製品	縄文時代前期～晩期貝塚・集落跡。 遺構及び貝層等から出土した縄文時代の遺物。		

印刷 2010年3月29日
発行 2010年3月31日

南相馬市埋蔵文化財調査報告書 第15集

浦尻貝塚 4

編集 南相馬市教育委員会事務局 文化財課
発行 南相馬市教育委員会
〒975-0012 福島県南相馬市原町区三島町二丁目45番地
Tel 0244-24-5284
印刷 株式会社 こはた印刷所
〒975-0002 福島県南相馬市原町区東町二丁目99番地
